令和６年第３回吉田町議会定例会

吉 田 町 議 会 会 議 録

令和６年９月２日　開会

～

令和６年９月２４日　閉会

吉　田　町　議　会

令和６年第３回吉田町議会定例会会議録目次

第　１　号　（９月２日）

○町長挨拶……１
○開会の宣告……２
○会議録署名議員の指名……２
○会期の決定……２
○諸報告について……３
○議会閉会中の委員会活動報告……２３
○議案第４０号～議案第５６号の一括上程、説明……２５
○報告第８号～報告第１０号の報告……５８
○散会の宣告……６１

第　２　号　（９月１１日）

○開議の宣告……６２
○議事日程の報告……６２
○議案第４８号の質疑……６２
○議案第４２号の質疑……７６
○議案第４３号の質疑……７７
○議案第４４号の質疑……８０
○議案第４５号の質疑……８１
○議案第４９号の質疑……８４
○議案第５０号の質疑……８４
○議案第５１号の質疑……８４
○議案第４６号の質疑……８４
○議案第４７号の質疑……８５
○議案第５２号の質疑……９４
○散会の宣告……９５

第　３　号　（９月１２日）

○開議の宣告……９６
○議事日程の報告……９６
○一般質問……９６
楠　元　由美子……９６
平　野　　積……１０９
大　石　裕　之……１２２
八　木　　栄……１３４
山　内　　均……１４９
蒔　田　昌　代……１６１
○散会の宣告……１７０

第　４　号　（９月１９日）

○開議の宣告……１７１
○議事日程の報告……１７１
○議案第４１号の質疑……１７１
○散会の宣告……２２０

第　５　号　（９月２０日）

○開議の宣告……２２１
○議案第４１号の質疑……２２１
○散会の宣告……２８３

第　６　号　（９月２４日）

○開議の宣告……２８４
○議事日程の報告……２８４
○議案第４１号の討論、表決……２８４
○議案第４２号の討論、表決……２８４
○議案第４３号の討論、表決……２８５
○議案第４４号の討論、表決……２８５

○議案第４５号の討論、表決……２８６
○議案第４６号の討論、表決……２８６
○議案第４７号の討論、表決……２８７
○議案第４８号の討論、表決……２８９
○議案第４９号の討論、表決……２９０
○議案第５０号の討論、表決……２９０
○議案第５１号の討論、表決……２９０
○議案第５２号の討論、表決……２９１
○議案第４０号の質疑、討論、表決……２９１
○議案第５３号の質疑、討論、表決……２９２
○議案第５４号の質疑、討論、表決……２９４
○議案第５５号の質疑、討論、表決……２９５
○議案第５６号の質疑、討論、表決……３０２
○発議案第４号の上程、説明、質疑、討論、表決……３０７
○発議案第５号の上程、説明、質疑、討論、表決……３０９
○議員派遣について……３１３
○議会閉会中の継続調査について……３１３
○町長挨拶……３１４
○議長挨拶……３１４
○閉会の宣告……３１５

開会　午前　９時００分

○議長（大石　巌君）　改めまして、おはようございます。

本日ここに、令和６年第３回吉田町議会定例会が招集されました。議員各位には御出席をいただき、ありがとうございます。

本定例会に提出されます諸議案につきましては、後刻、町長から説明がありますが、議員各位におかれましては円滑に議事を進められ、適正、妥当な議決に達せられますよう、最後まで慎重なる御審議をお願いいたします。

◎町長挨拶

○議長（大石　巌君）　開会に当たりまして、町長から御挨拶をいただきます。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　おはようございます。本当に議員の皆様、お元気な顔に接して、本当にうれしく思っております。

皆様に何度かお話ししたことございますけれども、この９月議会というのは決算議会、通常決算議会と言われます。３月が予算議会と言われますけれども、議会の真価を問われるのは決算議会と言われますので、ぜひとも議員の皆様の真摯な御質問等をいただければ、うれしく思います。

本当に先月は、まさに災害列島日本という呼称が当てはまるような、本当に月でございました。議員の皆さんも、地域に出向いてそれぞれの皆さんの現況等と把握、本当に東奔西走されたと思いますので、本当にそういうふうにあっていただきたいと私も思っております。

最初は、皆様御承知のとおり、８月８日に宮崎県の日向灘でマグニチュード7.1の地震が発生をいたしました。この日向灘は南海トラフの西の端に当たりますので、ここで起きた情報によって政府のほうで委員会が招集され、基本的に南海トラフ大地震の注意情報が出されました。今までは、文献とまたマスコミ等の報道では、当然のことながら、注意情報、警戒情報については周知をされておりましたけれども、具体的にこれが出されるというのは初めてでございまして、当町においても住民の皆様への周知徹底を自治会の皆様を巻き込んで行いました。さらに、様々な備蓄品の把握であるとか、点検であるとかそういうことについても、防災課を中心にして本当に役場の職員は、あちらこちらと本当に忙しく立ち働いたと思っております。

さらに、その後８月22日にマリアナで発生し、８月29日に鹿児島県薩摩川内市内に上陸しました台風10号は、長期間にわたって九州から本州にかけて迷走を続け、全国の広範囲にわたって大きな被害を引き起こしております。今日も北陸から東北にかけては、そういう範囲がまだまだ大きな影響を与えて、皆さんマスコミ等報道でその辺については御承知のことであると思っております。

この台風の影響で、県内でも数日間大変大雨に見舞われ、各地では甚大な被害が出ている

ところもございます。町内においては、降り続く大雨により気象庁から土砂災害の大雨情報が発令されましたので、皆様の安全を確保するため、８月29日、片岡会館、自彊小学校に避難所を開設いたしました。また、８月31日に住吉小学校、中央小学校に避難所を開設し、延べ23人の方々が避難をされました。８月31日の17時49分には災害対策本部を設置し、職員全員に動員をかけ、要員約223名中、196名が参集をいたしました。町内の被害といたしましては、道路冠水や住吉川、宮裏川などの河川氾濫があり、河川の氾濫はポンプ稼働により対応をした次第でございます。

台風10号は、昨日正午から温帯低気圧に変わっておりますが、湿った空気の影響で今日、明日にかけて引き続き不安定な天気となり、局地的に激しい雨が予想されますので、町民の皆様におかれましては、今後も町から発信する情報で安全で落ち着いた行動を取っていただきたいと思っております。

現時点におきましては、大きな人的被害、物的被害は報告されておりませんが、引き続き被害状況などの情報収集を行うとともに、町民の皆様の相談や罹災証明の発行準備など町民の皆様に寄り添った被害対応に当たってまいりたいと思っております。

このような、先月においては大きな災害等がございました。うちの町も職員は本当に業務に邁進し、今日も何人かの人間は実際に町民の対応に当たっております。そういう状況でございますので、議員の皆さんにおかれましても、そのような状況を御理解の上、町の対応につきまして、今後とも御理解、御支援賜りますようお願い申し上げる次第でございます。

どうぞよろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　ありがとうございました。

◎開会の宣告

○議長（大石　巌君）　ただいまの出席議員数は12名であります。ただいまから、令和６年第３回吉田町議会定例会を開会いたします。

これから本日の会議を開きます。

本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎会議録署名議員の指名

○議長（大石　巌君）　日程第１、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員の指名は、会議規則第120条の規定によりまして、８番、山内　均君、９番、増田剛士君を指名いたします。

◎会期の決定

○議長（大石　巌君）　日程第２、会期の決定を議題といたします。

お諮りします。

今期定例会の会期は、本日９月２日から９月24日までの23日間としたいと思います。

これに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本定例会は、本日９月２日から９月24日までの23日間に決定いたしました。

なお、会期中の会議予定につきましては、お手元に配付の会期及び審議予定表のとおりでありますので、御了承願います。

◎諸報告について

○議長（大石　巌君）　日程第３、諸報告を行います。

初めに、議長報告を行います。

最初に、監査委員から例月出納検査及び財政的援助団体等監査の監査結果報告書が提出されております。写しをお手元に配付をさせていただきましたので、御了承願います。

次に、議員派遣結果についてでありますが、議員派遣結果報告書をお手元に配付させていただきましたので、御了承願います。

次に、議会閉会中の系統議長会関係、その他に関することについてでありますが、６月25日火曜日、静岡県町村議会議長会総会議長会議が静岡市内において開催をされました。７月４日木曜日、富士山静岡空港利用促進協議会総会が静岡市内において開催されました。７月５日金曜日、大井川の清流を守る研究協議会総会が島田市内において、また、吉田町空港対策協議会総会が吉田町内において開催をされました。７月18日木曜日には、静岡県市町議会議員研究会が静岡市内において開催され、経済ジャーナリスト渋谷和宏氏による「激変する2024年の日本経済、コロナ後に輝く地域・リーダーの条件」と題した講演が行われました。７月25日木曜日、富士山静岡空港と地域開発を進める会総会が、吉田町内において開催をされました。８月５日月曜日、志太榛原五市二町議会議長連絡協議会が藤枝市内において開催をされました。

各総会等においては、それぞれ令和５年度事業報告並びに決算報告及び令和６年度事業計画並びに歳入歳出予算案などについて、いずれも承認可決をされました。

会議等への出席に関する報告は以上のとおりであります。

最後に、本定例会へ説明員として委任または嘱託され、出席する者の職・氏名を一覧表としてお手元に配付をしておきましたので、御了承願います。

なお、本日は台風10号での対応で、４課の課長について欠席の申出がありました。これを了承しましたので報告をいたします。

以上で、議長報告を終わります。

続いて、町長の行政報告を行います。

お聞き取りのほどお願いいたします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　令和６年第３回吉田町議会定例会の開会に当たりまして、町政運営の概要等について御報告申し上げます。

８月８日の午後４時43分頃、宮崎県南部の日向灘を震源とし、最大震度６弱を観測するマグニチュード7.1の地震が発生し、宮崎港や土佐清水などで津波も観測され緊張が走りました。程なくして、気象庁から南海トラフ地震の想定震源域において大規模地震が発生する可能性が平時より高まっているとして、関東から沖縄までの29都府県707市町村を対象に、2019年の運用開始以降初めてとなる南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）が発表され、聞きなれない情報に接し戸惑った方も多かったのではないでしょうか。

この臨時情報は、地震発生の可能性が高まっていることについてお知らせするとともに、日頃からの地震への備えの再確認や地震が発生したらすぐに避難するための準備などを促すもので、町では職員が24時間態勢で電話対応や情報収集などの警戒に当たるとともに、この臨時情報によって混乱を招かぬよう、同報無線をはじめ、町ホームページ、公式ＬＩＮＥ、さらには自治会の皆様にも御協力をいただいて臨時の回覧文書を発出するなど、町民の皆様に臨時情報の説明や避難場所・避難経路、家族との安否確認手段、家具の固定、備蓄食料や非常持出し品の確認など、地震への備えについて重ねてお願いをさせていただきました。

この発表から１週間が経過しました８月15日は、想定震源域で異常な活動は観測されなかったとして特別な注意の呼びかけ期間が終了となりましたが、南海トラフではこれまでも過去に大規模地震が繰り返し発生していること、正確な予測が困難なことから、日頃からの備えが極めて重要になるものと考えております。

この特別な注意の呼びかけが終了したとしても、大規模地震発生の可能性がなくなったわけではなく、かねてから南海トラフ沿いの大規模地震は、今後30年以内に70から80％の確率で発生するとされております。今回の臨時情報により、南海トラフ巨大地震が遠い未来の話ではなく現実味を帯びた状況となり、全周防御の整備は待ったなしの急務であることを改めて痛感をした次第でございます。

でき得る限り早急に、この町の確固たる安全を確保することが私の責務でございますので、引き続き、津波防災対策を強力に推し進めるとともに、町民の皆様におかれましては、いつどこで起きてもおかしくない大規模地震に対して心構えをしっかりと持ち、日頃からできる限り備えを心がけていただきたいと思っております。

こうした状況の中、本来であれば、昨日９月１日に大規模地震の発生を想定した総合防災訓練の実施を計画しておりましたが、台風第10号の接近により、町民の皆様の安全確保を最優先として中止することといたしました。各自主防災会をはじめ関係機関の皆様には、これまで訓練実施に向けた計画の作成や準備などに御尽力をいただき感謝申し上げます。

今回の訓練は中止となりましたが、今後12月１日に地域防災訓練、３月９日には津波避難訓練の実施を予定しており、町といたしましては、引き続きスピード感を持ってハード面の整備を進めるとともに、こうした訓練を繰り返し実施していくことによって町民の皆様の防災意識の高揚を図り、町地域防災計画などの検証や改善、防災関係機関との連携強化や地域防災体制を確立してまいります。

それでは、令和６年度に入り、５か月が経過しました本年度の主な事業の進捗状況につきまして、第６次吉田町総合計画の施策体系に沿って御報告申し上げます。

初めに、「災害に強く、安全・安心に暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、防潮

堤整備について御報告申し上げます。

千年に一度のＬ２クラスの大津波から町を守る防潮堤整備につきましては、令和４年３月の川尻工区の完成以降、住吉工区の着手に向け、具体的な整備手法について国や県と協議を重ねているところでございます。こうした協議を踏まえ、盛土工事に着手するための測量設計業務につきまして７月に契約を締結しましたので、早期の完成を目指して事業を進めてまいります。

次に、木造住宅耐震化プロジェクト「ＴＯＵＫＡＩ－０」についてでございます。

県では、令和７年度までを「ＴＯＵＫＡＩ－０」事業の総仕上げと位置づけて取組を強化しており、町もこれに同調し事業を進めているところでございます。この事業のうち、無料耐震診断については本年度をもって終了しますことから、引き続き県や静岡県建築士会との連携を強化しながら、戸別訪問やダイレクトメールの発送により事業の実施を呼びかけているところでございます。こうした取組により、本年度は８月末時点で無料耐震診断に36件、耐震補強計画の策定と工事に14件、ブロック塀等撤去事業に９件の申込みをいただいております。

今後も引き続き、県や静岡県建築士会に御協力をいただきながら、本年度末までに実施する５回の戸別訪問を通して助成制度や耐震の必要性について説明をするなどの啓発に努め、ブロック塀等撤去事業を含む耐震補強事業を推進していまいります。

次に、治水対策推進事業についてでございます。

近年の頻発化・激甚化している集中豪雨による浸水被害の軽減に向け、坂口谷川流域においては、坂口谷川水災害対策プランに基づき、宮裏川河口部に設置している３号ポンプ場を増強するための整備を進めております。第３号ポンプ場整備工事のうち、ポンプ設備等の製作と据付けにつきましては、現在、ポンプ設備の製作に着手しているところでございます。また、周辺の土木工事につきましても発注の準備を進めており、いずれの工事も来年度末の完成に向け進捗を図ってまいります。

湯日川流域におきましては、７月に策定しました吉田町湯日川流域治水対策計画に基づき、町が管理する準用河川や普通河川などの治水対策を進めており、そのうち稲荷川と神戸川における排水計画の策定業務について８月に契約を締結しましたので、今後の河川整備や治水対策について基本設計を実施し、浸水被害の軽減に向けて事業を推進してまいります。

次に、静岡地域消防救急広域化事業についてでございます。

平成28年４月に運営を開始いたしました静岡市、島田市、牧之原市、川根本町、吉田町の３市２町による静岡地域消防救急広域化事業が９年目を迎え、現在、令和８年４月以降の新たな運営計画の策定に向け、３市２町で構成する静岡地域消防運営協議会において費用負担のルールや消防力強化のための見直しなどについて協議を進めております。８月９日に開催されました第１回運営協議会では、新たな費用負担のルールについて各市町の消防費に係る基準財政需要額をベースとすることや、消防救急体制について吉田消防署の管轄を町内に限定するものとし、消防力の強化が見込める適地に吉田消防署を移転することなどが決定をされました。

これにより、令和８年度以降の本町の費用負担率は、これまでの約2.6％から3.7％程度へと増加が見込まれますが、吉田消防署の管轄範囲が町内に限られることにより、災害対策本部の設置時に吉田消防署長などが町長の指揮命令権の下で災害対策に当たることになるほか、

消防署を移転することにより緊急車両の平均到着時間の短縮が見込まれるなど、町民の皆様の生命と財産を守るための消防救急体制が充実し、サービス向上が期待できるものとなります。今後も消防を取り巻く環境の変化に対応するとともに、広域化のメリットを最大限に生かせるよう協議を進めてまいります。

次に、消防団第３分団小型動力ポンプ付積載車の更新についてでございます。

地域の消防防災の中核であります吉田町消防団の整備の充実と防災力の強化を図るため、計画的に更新している各分団の配備車両につきましては、老朽化していた第３分団の小型動力ポンプ付積載車の更新につきまして、８月に購入契約を締結し、年度末までに配備できる予定でございます。これによりまして、全ての分団において配備車両の更新が完了することとなりますので、消防団のさらなる災害対応能力の向上が図られ、地域防災活動の要としての役割を担っていただくことを期待しております。

次に、交通安全対策についてでございます。

「吉田町子供の移動経路に関する交通安全プログラム」に基づき、通学路などにおける交通安全対策として進めております中央幹線の歩道整備につきましては、地権者の皆様に御協力をいただき、昨年度に用地の取得が完了しましたので、６月に契約を締結し、工事を進めているところでございます。一日も早く通学路安全性を確保するため、早期の完成を目指して工事を進めてまいります。

続きまして、「豊かな自然と共生するまちづくり」に関連する事業のうち、上水道事業について御報告申し上げます。

上水道の施設整備につきましては、静岡県生活基盤施設耐震化等補助金を活用し、配水本管の耐震化を進める基幹管路耐震化事業、漏水事故による被害の軽減や有収率の向上を図るために老朽管を耐震管に布設替えする老朽管布設替事業、県の道路改良事業に伴う配水管の布設事業を進めているところでございます。また、水道水の安定的な供給を継続するため、第３水源の予備ポンプを設置するための詳細設計を実施しております。

配水管の布設工事につきましては、本年度に予定をしている全ての工事について予定どおり発注を終え、設計業務につきましても、年度内の完了に向け順調に進捗している状況でございます。

次に、下水道事業についてでございます。

公共下水道事業の施設整備につきましては、社会資本整備総合交付金を活用して事業を進めております。管渠整備につきましては、債務負担行為を活用した２件の工事が順調に進捗をしており、加えて、住吉地区と片岡地区の管路布設工事、地震対策のためのマンホール浮上防止工事についても契約を締結し、既に工事に着手をしております。

浄化センターの整備につきましては、建築改修工事の契約が完了し、着工に向けて準備を開始したところでございます。これにより本年度に予定をしている全ての工事について予定どおり発注を済ませ、年度内の完成に向けて進めてまいります。また、持続可能な下水道事業を実施していくためのストックマネジメントにつきましては、計画策定に向けた点検、調査及び診断業務についてプロポーザル方式を活用し、11月までに委託業者を選定する予定でございます。

公共下水道事業の経営の健全化と効率的な事業運営、経営基盤の強化を図るため、令和２年度に策定をしました公共下水道事業経営戦略につきましては、より質の高い経営戦略とす

るため、本年度から２か年をかけて見直しを実施してまいります。本年度は財務分析や収支予測などを整理し、来年度には有識者等から成る審議会を設置して内容を御審議いただくこととしており、委員の皆様から御意見をいただきながらよりよい経営戦略の策定を努めてまいります。

次に、ごみ減量・リサイクルの推進についてでございます。

清掃センターに搬入される可燃ごみにつきましては、毎年度、吉田町牧之原市広域施設組合においてごみ質を分析しており、この分析結果によりますと、可燃ごみ全体のうち約40％が「紙・布類」を占めている状況でございます。このため、まずはこの「紙・布類」のうち布類を回収して資源化を図るための回収ボックスを各自治会館や公共施設などに設置をし、ごみ減量化に取り組んでまいります。しかしながら、ごみ減量・リサイクルの推進には、町民の皆様の協力が不可欠となります。今後は皆様の御意見を伺いながら、モデル地区を選定して地域の皆様と一緒に先進地を視察するなどして、町の状況に合った形でリサイクルを進めてまいりたいと考えております。

次に、新火葬場の整備についてでございます。

吉田町、牧之原市及び御前崎市の住民の利用に供する新火葬場の整備につきましては、整備主体、経費の負担割合、管理運営など新火葬場の整備等に係る基本的事項を定めた覚書を、牧之原市と吉田町との間におきましては２月20日に、牧之原市と御前崎市との間におきましては２月22日にそれぞれ締結をし、新火葬場の整備に向けて動き始めているところでございます。

現在は、この覚書に基づき、実施設計前までの業務を牧之原市が主体となって進めており、火葬炉の設備工事事業者の選定に向けて10月から火葬炉設備事業者選定委員会を開催するための準備を進めております。この選定委員会では、公平公正な審査が行われるよう、牧之原市の関係者のみならず、御前崎市と吉田町の副市長、副町長とそれぞれの担当課長も委員として選任をされ、来年１月には受託事業者を決定する予定でございます。

現時点におきましては、新火葬場の供用開始を令和11年度以降としておりますことから、２市１町、吉田町牧之原市広域施設組合と調整を図りながら、整備に向け着実に事業を進めてまいります。

続きまして、「活力と魅力あふれる産業振興のまちづくり」に関連する事業のうち、吉田公園南側用地の整備について御報告申し上げます。

吉田公園周辺の用地を活用したにぎわいの創出につきましては、地域企業の参画や雇用の創出などにつなげていくことを目的に、地元の産材や地域の人材を生かすなど地元事業者を核とした官民連携手法ローカルＰＦＩの事業体制を軸としたスキームを構築するための調査業務を実施をしております。

現在は吉田町商工会が立ち上げた地域振興支援委員会においてワークショップを開催し、地元事業者の皆様とともに地域課題の解決や施設整備に向けたアイデア、官民の役割分担などについて検討を進めており、これに加えて事業対象範囲を明確にしていくため、吉田公園周辺の国有地や県有地の取扱いについて国・県との協議を重ねているところでございます。

今後も引き続き業務の進捗を図り、地域の魅力を最大限に生かしたにぎわいの創出へとつなげてまいります。

次に、ふるさと納税の推進についてでございます。

昨年度のふるさと納税の寄附額は11億2,246万3,000円で、令和４年度の寄附額11億8,954万5,000円と比較しますと、6,708万2,000円の減額となっております。この主な要因といたしましては、昨年10月の経費算出の制度改革に伴い一部返礼品の寄附額を増額したため、その影響が出ているものと考えております。

本年度は寄附額の回復を目指し、事業者の皆様に対して、引き続き返礼品の充実に向けた協力を呼びかけているほか、業務を委託する中間業者を一部変更したことにより、効果的なアドバイス等による返礼品の見直しやポータルサイトへの掲載内容、画像等を充実させるなど町の特産品の魅力が寄附者の皆様に十分に伝わるよう努めており、その結果といたしまして、本年度４月から７月までの寄附額は２億798万3,500円と昨年同時期と比べまして119％と伸びている状況でございます。

さらに、これからふるさと納税への関心が高まる年末に向けまして、ウェブ広告への掲載を予定しており、より効果的な広報活動を行うことにより、多くの方々に町の魅力をＰＲするとともに寄附額の増加につなげてまいります。

次に、都市計画マスタープランの策定についてでございます。

「住みやすく活気のある水・緑豊かな協働のまち」の実現に向けた都市計画に関する基本的な方針を定める吉田町都市計画マスタープランにつきましては、現行の計画期間が令和７年度をもって終了しますことから、本年度から２か年をかけて新たなプランの策定を進めております。８月に策定業務の委託契約を締結しましたので、本年度は町民の皆様を対象にアンケート調査などを実施しながら令和８年３月までの策定に向かって事業を進め、地域の実情に即した適正な土地利用の促進を図ってまいります。

次に、吉田漁港多目的広場の整備についてでございます。

吉田漁港多目的広場につきましては、東臨港橋から吉田漁港多目的広場までの進入路の舗装やのり面に芝生を植生する工事につきまして、８月に契約を締結し、12月上旬の完成に向けて工事を進めている状況でございます。今後も引き続き、多目的広場がシーガーデンシティ構想の一角を担う施設として皆様に利用され、にぎわいが図られるよう事業を進めてまいります。

次に、吉田漁港のしゅんせつについてでございます。

水産物供給基盤機能保全事業により実施をしております港内泊地しゅんせつ工事につきましては、令和元年度から着手をし、計画水深であります３メートルを確保するため、吉田漁港入り口部分から港内に向かって段階的に実施をしております。本年度は、湯日川河口東側の水域を中心にしゅんせつを進めるため、８月に契約を締結し、来年２月下旬の完成に向けて工事を進め、吉田漁港の機能保全と航行の安全を確保することにより地域水産業の振興につなげてまいります。

続きまして、「多様な人々が快適に暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、町内道路の整備について御報告申し上げます。

大幡川幹線につきましては、これまで地元の皆様の御意見を伺いながら事業の着手に向け準備を進めてまいりましたが、測量設計業務につきまして７月に契約を締結しましたので、来年度以降の用地取得や工事の発注に向けて事業の進捗を図ってまいります。

問屋堤線につきましては、これまでに地権者の皆様と何度も交渉を重ね、用地取得などについて合意をしていただくことができましたので、現在は契約の手続を進めているところで

ございます。また、道路改良工事につきましては、６月に契約を締結し、本年度中に供用が開始できるよう工事を進めているところでございます。

中瀬北原１号線につきましては、展望台小山城へのアクセス向上を目的に東名片岡辻３号線から西側約180メートルの区間を道路の拡幅を進めておりますが、地権者の皆様に御理解と御協力をいただき、６月に用地取得契約を締結ことができましたので、来年度以降の工事発注に向け事業の進捗を図ってまいります。

谷川東塩谷線につきましては、東名吉田インター周辺の整備における東西の基幹道路として整備をしており、道路線形を検討するための測量設計業務について７月に契約を締結しましたので、今後も引き続き、地元の皆様に御協力をいただきながら事業を進めてまいります。

次に、町内を走る新しい交通についてでございます。

オンデマンド型乗合タクシー「“ぎゅっと”カーよしだ」の実証運行につきましては、会員登録者などを対象に実施しましたアンケート調査の結果や利用者の皆様の声などを踏まえて停留所の追加、電話予約受付時間の変更、バス乗り継ぎ割引の拡充など、より多くの皆様に利用していただけるよう随時変更し、柔軟に対応をして運行している状況でございます。

また、７月には町内事業所が主催するイベント「伝」において「“ぎゅっと”カーよしだ」のＰＲを行ったり、近隣の高校へパンフレットを配布したりするなど幅広い世代の皆様に利用していただけるよう事業の周知に努めております。さらには榛原高校の生徒の皆様を対象に、町の地域公共交通に深く関わっていただいております名古屋大学大学院教授の加藤博和氏による講話をいただき、町の地域公共交通について理解を深めていただいたところでございます。

今後も引き続き、様々な方法により周知を図りながら、より多くの皆様が気軽に気兼ねなく町内を移動できるような仕組みを模索してまいります。

次に、初期日本語教室の開催についてでございます。

本年度は、町内において著しく増加する外国人住民のうち、日本語に不慣れな外国人住民を対象とした初期レベルの日本語教室「吉田町はじめてのにほんご教室」の開催に向け準備を進めており、６月からこの教室に参加する外国人住民とコミュニケーションを図っていただくサポーターや関係者の皆様を対象とした養成講座を実施し、県が進める「対話交流型初期日本語教室」への理解や教室における外国人への心遣いなどを学んでいただいたところでございます。

また、８月に外国人の参加希望者を募集し、今月は教室の全体準備会やオリエンテーションを開催するなどして、10月から教室をスタートさせ、この教室を通して日常生活に必要な最低限の日本語を身につけてもらうことにより意思の疎通が図られ、町内に住む様々な国籍の人たちが交流し理解し合い、快適に暮らせる町を目指してまいります。

続きまして、「誰もが健康でいきいきと暮らせるまちづくり」に関連する事業のうち、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について御報告申し上げます。

高齢者の皆様が住み慣れた地域でできる限り自立した生活を送ることができるよう、本年度から後期高齢者健康診査の未受診などにより健康状態が不確かな高齢者の状態を把握し、必要な介護予防サービスへつなぐなどの支援を行っております。７月に過去２年間における後期高齢者健康診査の未受診者、医療機関の受診や介護サービスの利用のない方々を対象にアンケート調査を実施しましたので、今後はこの結果を基に戸別訪問を実施して対象者の健

康状態などを把握をし、必要な介護予防サービスへとつなげてまいります。
また、７月から順次、町内11か所の高齢者の通いの場を回り、町保健師等によるフレイルや生活習慣病の予防について講話を行うなどの啓発活動も実施をしております。
今後も町と関係機関が一体となり、高齢者の保健事業と介護予防事業を一体的に行うことにより、高齢者お一人お一人のそれぞれの状況に応じたきめ細かな支援を積極的に展開し、健康の増進と介護予防を図ってまいります。
続きまして、「次代を担う心豊かな人を育むまちづくり」に関連する事業のうち、吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランの主な事業について御報告申し上げます。
町教育委員会では、プランの目標として掲げる「子供、教職員、保護者が共に元気になり、三者にとって魅力ある教育を実現する」ことを達成するため、「子供の「確かな学力」を保障する環境づくり」、「教職員が授業等に専念できる環境づくり」、「保護者が安心して子育てできる環境づくり」の三つを柱に、それぞれ具体的な施策を着実に実施していくための取組を進めております。
そのうち、魅力ある授業づくりのための支援につきましては、教職員の資質能力向上のため、町内の全教職員を対象とした研修会を毎年実施しております。本年度は、７月に中央小学校でこの研修会を開催し、町内全教職員に加え、本町の先進的な取組を学ぶため県内外からも多くの教職員に参加していただいたところでございます。今後は10月に住吉小学校、11月に吉田中学校、１月に自彊小学校において開催をし、さらなる授業の充実により子供の確かな学力を保障する環境を整えることとしております。
校務支援のための環境整備につきましては、校務支援システムのクラウド化により成績処理や出欠管理、指導要録などの校務系データと学習記録やテスト結果、活動記録などの学習系データの連携が可能となりますことから、児童・生徒、教職員、保護者の皆様の負担軽減につながるものでございます。
現在は、10月からクラウド化に向けたシステム構築のための準備を進めるところでございます。また、このクラウド化について教職員を対象とした説明会も予定をしており、スムーズに移行できるよう準備をしているところでございます。
「Google for Educationパートナー自治体」につきましては、本年度も引き続きグーグル合同会社と連携をしながら、ＩＣＴの利活用に係る事業を展開しており、６月に自彊小学校において小学４年生以上と中学生を対象とした「ジュニアＩＣＴリーダー育成研修」実施しております。10月には吉田中学校を会場として同様の研修を実施し、ＩＣＴ活用の技術や能力を育成していくこととしております。
次に、中学校における部活動の地域移行についてでございます。
町教育委員会では、吉田中学校の生徒にとって望ましい部活動の環境構築と教職員の働き方改革の両方を実現するため、昨年度から吉田町部活動の在り方協議会を設置し、協議を行っているところでございます。
令和８年度に３年生となる生徒が部活動を引退する時期を境目として、休日の部活動から段階的に地域に移行していくことを目指し、本年度は８月に１回目の協議会を開催し、部活動を地域クラブに移行するための基本的な考え方などについて協議を行いましたので、今後はそれらを踏まえ、具体的な制度の構築などについて協議をしていくこととしております。
次に、吉田町シニアカレッジについてでございます。

シニア世代が新たな知識の習得、仲間づくりなどを通して生き生きと充実した生活を送ることができるよう、平成28年に開講しました吉田町シニアカレッジにつきましては、８月21日に第３期生の22人が２年の受講期間を経て卒業され、現在は第４期生を募集しているところでございます。この募集に当たりましては、より充実した学びの機会を提供するため、昨年度から生涯学習を専門とする大学教授や町社会教育委員、受講者の皆様の10人で構成するシニアカレッジ運営委員会を開催し、入学資格、定員や講座内容などについて協議を行い幅広く学べるようコース別講座の内容を見直しましたので、今後はこれらを取りまとめ11月の第４期生入学に向けて準備を進めてまいります。

次に、吉田町子ども読書活動推進計画についてでございます。

本を読まない子供の割合が増加する中、読解力の強化や子育て支援施策との連携により様々な読書活動を推進するため、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づく吉田町子ども読書活動推進計画の策定を進めております。

６月に開催しました策定委員会におきましては、静岡県立大学短期大学部特任教授の永倉みゆき氏を委員長に選出し、町内外の子ども読書活動の現状を共有したほか、策定方針について合意をいただいているところでございます。今後はアンケート調査を実施するとともに、町独自の視点を盛り込みながら来年３月の完成を目指して策定を進めてまいります。

次に、高齢者のスポーツ振興についてでございます。

高齢者の皆様が住み慣れた地域でいつまでも心身ともに健全で豊かな生活を送ることができるよう、町内の65歳以上を対象としたシニアフィットネス教室を昨年度に引き続き６月に開講いたしました。本年度は教室の開催を月２回に増やし、来年３月までの期間に合計20回を開催する予定で、現在は32人の参加者が楽しみながら日々の運動習慣として定着させることができるよう筋力トレーニングと軽スポーツに取り組んでおります。

教室では、初回と中間、最終回の合計３回、筋力や体脂肪などを測る体組成測定を実施し、参加者はその結果を確認しながらそれぞれの目標に向かって生き生きと励んでいる状況でございます。今後も引き続き、高齢者の皆様の筋力と生活の質の向上を図りながら、健康寿命の延伸を推進してまいります。

以上、本年度の主な事業の進捗状況につきまして御報告させていただきました。

いつ起きてもおかしくない巨大地震から町民の皆様の生命と財産を守るため、今後も引き続き、スピード感を持って防潮堤の整備を中心とした全周防御の構築を進めるとともに、シーガーデンシティ構想を推進することによって、新たな安全と新たなにぎわいを創出し、子育て支援や教育環境の充実など各種施策を着実に進め、多くの皆様から選ばれ、そして選ばれ続ける「豊かで活気にあふれ心を魅了するまち」の実現に向かって全力で取り組んでまいります。

町民の皆様をはじめ議員各位におかれましては、こうした町の姿勢を御理解いただき、町政運営に対するより一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げ、本定例会の行政報告といたします。

○議長（大石　巌君）　町長、御苦労さまでした。

次に、監査委員から決算審査報告をお願いいたします。

監査委員、藁科武夫君。

〔監査委員　藁科武夫君登壇〕

○監査委員（藁科武夫君）　おはようございます。

監査委員の藁科武夫です。よろしくお願いします。

令和５年度決算等審査意見を申し述べます。審査意見を述べる順序につきましては、１、各会計歳入歳出決算及び基金運用状況の審査意見書、２、水道事業会計及び公共下水道事業会計決算審査意見書、３、健全化判断比率及び資金不足比率審査意見書とします。

では、各会計歳入歳出決算及び基金運用状況の審査意見書の１ページをお願いします。

吉田町監査基準に準拠し、地方自治法第233条第２項及び同法第241条第５項の規定により、各会計の決算その他関係書類及び基金の運用状況を示す書類の審査を行ったので、次のとおり意見を付する。

第１、審査の対象。

令和５年度吉田町一般会計歳入決算書、令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算、３、令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算、４、令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算、５、令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算、６、令和５年度各会計歳入歳出事項別明細書、７、令和５年度実質収支に関する調書、８、令和５年度財産に関する調書、９、令和５年度吉田町基金の運用状況。

第２、審査の着眼点。

監査委員による各会計の令和５年度決算その他関係書類及び基金の運用状況を示す書類の審査は、町長から送付された決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であるか、また、基金の運用状況を示す書類の計数が正確であり、基金の運用が確実かつ効率的に行われているかといった観点から検討を行い審査した。

第３、審査の実施内容。

各会計令和５年度決算その他関係書類及び基金の運用状況を示す書類について、町長から送付された吉田町監査基準に準拠し、予算の執行状況、財産の管理状況及び財政状況並びに基金の運用状況について、資料の提出及び関係職員の説明を求めた上で審査を行った。また、その他監査等において得られた知見を利用した。

第４、審査の結果。

各会計の令和５年度決算その他関係書類について上記のとおり審査した限りにおいて、２ページをお願いします、法令に適合し、かつ正確であると認められる。

また、基金の運用状況を示す書類の計数が正確であり、基金の運用が確実かつ効率的に行われていると認められる。

第５、審査の概要。

１、決算の概要（一般会計）。

令和５年度歳入歳出決算の状況は、次表のとおりである。

歳入歳出決算は、前年度から繰越明許費繰越額１億4,750万8,000円（うち繰越財源5,884万9,000円）を含めた予算総額144億4,217万3,000円に対し、歳入総額139億1,881万円、歳出総額132億8,276万1,000円であり、歳入歳出差引額は６億3,604万9,000円である。

歳入決算額は予算現額を５億2,336万3,000円下回り、予算現額に対する収入率は96.4％である。前年度決算額と比較すると、収入率は2.4ポイント減少し、歳入総額では１億15万円の減である。

歳出決算額は予算現額と比べて11億5,941万2,000円（翌年度繰越額を省くと７億6,674万

7,000円）の不用額が生じ、予算現額に対する執行率は92.0％である。前年度決算額と比較すると、執行率は0.9ポイント増加し、歳出総額では３億4,950万2,000円の増である。

２、歳入決算について。

町税においては、地方税法等に基づいた不納欠損処理が行われている。

その内訳は、町民税477万8,000円、固定資産税307万8,000円、軽自動車税17万7,000円、都市計画税23万3,000円である。また、吉田町債権の放棄に関する条例等により放棄した私債権は分担金45万3,000円、使用料81万6,000円、諸収入（雑入）３万5,000円である。

収入済額の款別内容は、次のとおりである。

２ページをお願いします。

歳入全体については、対前年度比１億15万円の減である。

増額の主なものは、町税、繰入金、県支出金、地方交付税、株式等譲渡所得割交付金である。減額の主なものは、法人事業税交付金、国庫支出金、寄附金、財産収入である。

歳入の全体を占める町税の割合は39.9％の55億4,671万円であり、前年度と比較して4,886万7,000円の増である。特に固定資産税では、企業工場等の新築や設備投資による償却資産の伸びから、対前年度比6,150万2,000円の増となった。

株式等譲渡所得割交付金は、対前年度比2,016万6,000円の増である。日経平均が2023年の終値３万3,464円、年間で7,369円高となった状況によるものと思われる。

国庫支出金については、対前年度比４億6,756万8,000円の減である。主な要因は、対前年度比で新型コロナウイルス感染症対策ワクチン接種対策費負担金8,513万5,000円の減、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金１億1,351万8,000円の減のほかです。令和４年度事業であった保育所等整備補助金１億2,441万1,000円、住民税非課税世帯に対する臨時特別給付金事業費補助金２億4,517万5,000円、子育て世帯等臨時特別支援事業費補助金8,306万6,000円がなくなったことによる。一方で、令和５年度事業として物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金１億5,417万5,000円が増となっている。

寄附金は、対前年度比で6,806万5,000円の減である。一般寄附金１億6,004万9,000円の減となったが、指定寄附金は9,296万7,000円の増である。また、申込件数は８万4,513件で431件の増である。これは寄附者の利便性向上、ワンストップ申請の周知を町や関連サイトのホームページで呼びかけたことによるものである。詳細は対前年度比3,277万6,000円の減である。

令和５年度の償還元金は、９億8,815万3,000円で、年度末残高は91億9,865万7,000円である。

歳入の収入未済額は、次のとおりであります。

５ページをお願いします。

収入未済額は、対前年度比430万9,000円の減少である。各担当課において適正かつ公正な対応により徴収に努力されている。近年では納税意識の希薄化に加え、納付がないまま所在不明、海外出国となるほか、資力がないケース等があり対応に苦慮されている。このことは、全ての税、料金に共通する課題であることから、課長会議等にて対応についてさらなる議論、研究をお願いしたい。

令和５年度末収入未済額は１億113万3,000円である。今後も現年度分の収納率の向上を重点としながらも、公平性を保てるように適切に対応をされたい。

３、歳出決算額について。

歳出決算額は、款別内容は次表のとおりである。

歳出決算額は、対前年度比３億4,950万2,000円の増である。

総務費は、対前年度比２億2,106万8,000円の増である。

主な内訳は、対前年度比でホームページデザインリニューアルや吉田町町勢要覧作成の業務委託をした文書広報費が615万円の増、庁舎エレベーター改修工事を行った財産管理費が7,945万4,000円の増、ふるさと納税推進事業、生活交通確保対策費、吉田公園南側用地の整備に関わる検討調査業務や吉田インターチェンジ周辺バスターミナル整備のための基本設計などの企画費は１億4,632万円の増である。

６ページをお願いします。

民生費は、歳出の27.2％を占める支出費目で、対前年度比２億1,514万1,000円の増である。主なものは、社会福祉費と児童福祉費の増である。社会福祉費の要因は、令和３年度、令和４年度の子育て世帯等臨時特別支援事業返還金１億124万6,000円、住民税非課税世帯生活支援特別給付金4,993万2,000円、物価高騰対応生活支援臨時給付金給付事業費１億846万5,000円、低所得世帯重点支援給付金給付事業費498万7,000円などである。一方、食料品等価格高騰緊急支援給付事業費は8,132万7,000円となっている。各給付金給付事業は、通常業務に負担を与えたのではないかと思われる。

また、児童福祉費増の要因は、対前年度比で、補助金返還金1,346万5,000円の増、こども医療費助成事業2,446万6,000円の増、保育園管理費972万1,000円の増と子ども・子育て計画策定に関わるニーズ調査委託231万円、吉田町子育て世帯等特別給付金給付事業4,021万9,000円、わかば保育園園舎用地購入3,877万5,000円である。一方、対前年度比で児童手当は2,186万6,000円の減、子育て世帯臨時特別給付金給付事業１億1,522万5,000円となっている。

衛生費は対前年度比で5,403万2,000円の減となっている。その要因は保健センター施設の工事643万5,000円、環境基本計画策定調査業務委託421万4,000円の増ほか、また、対前年度比で新型コロナウイルスワクチン接種体制事業費１億1,802万7,000円の減、生活排水改善対策事業費2,750万6,000円の増、広域施設組合負担金（ごみ処理費）2,362万円の増などである。

労働費は、対前年度比で５万3,000円の増である。合同企業説明会の開催は、企業と求職者のマッチングの場を提供している。

農林水産業事業費は、対前年度比で2,990万円の増である。農業費は1,135万3,000円の減となった。一方、水産業費は、多目的広場整備により4,086万7,000円の増となっている。

商工費は、生活者や事業支援の第６弾プレミアム商品券発行事業の実施。また、企業立地促進事業費を補助することにより雇用促進と地域の産業の振興につながっている。

土木費は、対前年度比で１億7,472万2,000円の増である。道路新設改良工事は、対前年度比6,534万円の増である。主な事業は、下片岡山通り線道路改修や中瀬北原１号線道路改修事業である。また、橋梁維持補修費は、４号橋外４橋橋梁補修等設計業務委託1,408万円の増である。

河川総務費は、河川台帳作成業務委託1,628万円により河川の維持適正化を図っている。頻発、激甚化する大雨による浸水被害の治水対策推進事業費は、4,862万6,000円である。

中央幹線整備事業費は、4,434万7,000円では、工事着手に先立ち、道路用地の確保ができた。

消防費は、対前年度比で5,684万7,000円の減である。事務委託費の消防救急広域事業費が対前年度比で1,163万7,000円となっている。また、令和４年度は消防団の消防車を購入している。

教育費は、対前年度比１億83万2,000円の減である。主に幼児教育振興事業の幼稚園利用給付費の取扱いを３款保育園管理費に移管したことによるものである。事業内容を見ると、ＩＣＴ環境充実書画カメラ68台を小・中学校に配備、リーディングＤＸスクールに小・中学校が認定され、県内外多数の視察があり教職員の授業力の向上につながった。教職員の研修体制の充実、基礎学習の定着を図る公設学習塾、また、グーグル合同会社連携を図りながらＩＣＴに関わる事業展開、ジュニアＩＣＴリーダー育成研修にも取り組んだほか、令和６年度から令和９年度までの次期吉田町教育大綱を作成した。

諸支出金は、対前年度比1,920万3,000円の減である。主なものは、対前年度比で財政調整基金積立金費１億1,236万2,000円の減であったが、一方、ふるさとよしだ寄附金基金費は、9,295万7,000円の増である。

４、特別会計。

(1)吉田町土地取得事業特別会計。

歳入総額は１万9,000円、歳出総額は１万9,000円、歳入歳出差引残額ゼロ円である。

土地取得事業特別会計の令和５年度末土地残高は、10億880万7,000円となっている。

(2)吉田町国民健康保険事業特別会計。

決算額は、歳入26億9,988万5,000円、歳出26億6,585万5,000円で、歳入歳出差引残高3,402万9,000円を翌年度へ繰り越している。

ア、歳入決算について。

款別歳入決算額を前年度で比較すると、次表のとおりである。

８ページをお願いします。

国民健康保険税は、対前年度比2,315万2,000円の減少となっている。また、被保険者数は5,055人で前年度比238人の減である。

県支出金は、対前年度比399万円の増となっている。これは、普通交付金213万1,000円の増及び特別交付金185万9,000円の増によるものである。

繰入金は、対前年度比2,658万6,000円の増となっている。基金繰入金が3,000万円増である一方、他会計繰入金は341万4,000円の減である。

諸収入は、対前年度比1,215万8,000円の減となっている。これは返納金が101万4,000円の増である一方、保険税延滞金は303万1,000円の減、第三者納付金は881万8,000円の減及び雑入132万4,000円の減によるものである。

歳入の収入未済額は、次表のとおりとなっております。

収入未済額は対前年度比1,094万円の減少である。

令和５年度末の収入未済額は１億1,396万円である。これは、一般会計収入未済額を上回っている。今後も現年度分の収納率の向上を重点としながらも、公平性を保てるよう適切に対応をされたい。

訂正をお願いしたいと思います。

歳入とありますが、歳出と訂正をお願いしたいと思います。すみません、よろしくお願いいます。

イ、歳出決算について。

款別歳出決算額を前年度で比較すると、次表のとおりである。

９ページをお願いします。

保険給付費は、対前年度比108万3,000円増となっている。療養諸費が前年度比で1,417万8,000円の減である。一方、高額療養費は1,691万5,000円の増となっている。

国保事業費納付金は、対前年度比691万2,000円の増となっている。令和５年度末基金残高は４億1,926万2,000円で、前年度に比べ4,805万9,000円の減である。

保健事業費は、対前年度比118万1,000円の減となっている。

(3)吉田町後期高齢者医療事業特別会計。

決算額は、歳入３億4,509万3,000円、歳出３億4,399万8,000円で、歳入歳出差引残高109万5,000円を翌年度へ繰り越している。

ア、歳入決算について。

款別歳入決算額を前年度で比較すると、次表のとおりである。

保険料は、対前年度比2,282万2,000円の増である。賦課の被保険者は4,273人で前年度に比べ142人の増である。

繰入金は、対前年度比216万1,000円の増となる。これは一般会計の繰入金である。

歳入の収入未済額は、次表のとおりであります。

収入未済額は、対前年度比30万8,000円増である。その内訳は、現年度分21万7,000円、滞納繰越分69万6,000円である。来年度は、現年度分の滞納を限りなくゼロに近づけるように対応されたい。

イ、歳出について。

款別歳出決算額を前年度で比較すると、次表のとおりである。

10ページをお願いします。

広域連合納付金は、対前年度比2,442万8,000円の増加となっている。

(4)吉田町介護保険事業特別会計。

決算額は、歳入21億9,056万9,000円、歳出20億9,663万3,000円で、歳入歳出差引残高9,393万6,000円を翌年度へ繰り越している。

ア、歳入決算について。

款別歳入決算額を前年度で比較すると、次表のとおりである。

保険料は、対前年度比562万7,000円増となっている。

被保険者数は、前年度比82人増の１万7,594人となっている。また、高齢化率は26.54％で、前年比0.31ポイント増である。

国庫支出金は、対前年度比780万9,000円減となっている。この主なものは、財政調整交付金714万8,000円減である。

支払基金交付金は、対前年度比556万2,000円減となっている。これは、介護給付費交付金528万4,000円の減及び地域支援事業交付金27万8,000円の減によるものである。

県支出金は、対前年度比1,204万3,000円の減となっている。これは、介護給付費負担金1,265万3,000円減及び地域支援事業補助金61万円増によるものである。

11ページをお願いします。

歳入の収入未済額は、次表のとおりです。

収入未済額は、対前年度比21万4,000円の減である。その内訳は、現年度分172万8,000円、滞納繰越分232万9,000円である。今後も収納率の向上になお一層努められたい。

イ、歳出決算については次表のとおりである。

保険給付費の歳出全体額は87.3％を占めている。保険給付費は対前年度比1,034万減となった。その項の中で高額介護サービス諸費は3,635万7,000円で、対前年度比426万4,000円の増である。なお、要介護認定者数は、年度末で1,054人である。

５、実質収支に関する調書。

各会計の実質収支に関する調書は、その内容を各会計の決算書と照合審査した結果、計数は正確であった。

６、財産に関する調書。

(1)公有財産。

ア、土地及び建物。

（ア）土地。

前年度に比べ、4,621.97平米増加し、65万9,802.35平米である。これは図書館用地とわかば保育園園舎用地の買収によるものである。

（イ）建物。

前年度に比べ、248.05平米減少し、８万6,796.2平米である。

12ページをお願いします。

町営松原団地第９号棟を解体撤去したものである。

イ、有価証券。

前年度に比べ増減はなく、265万8,000円である。

ウ、出資による権利。

前年度に比べ増減はなく、2,601万7,000円である。

エ、物品。

前年度と比べ109減少し、当年度末現在高は３万3,689となっている。

オ、債権。

吉田町奨学金貸与金は、前年度に比べ58万5,000円減少し、608万3,000円である。なお、２名の方が返済計画を守っていないので、返済計画を守らせるよう努められたい。

７、基金の運用状況。

(1)吉田町物品調達基金。

基金運用に係る収入金額は、本年度売上金額794万4,000円等である。支出金額は、今年度仕入金額798万9,000円で、合計で798万9,000円となっている。前年度繰越金384万3,000円を加えた差引現金は382万8,000円で、期末棚卸額は17万2,000円となっており、基金運用残高は条例に定める基金額である400万円で、回転率は2.0％となっている。

第６、まとめ。

以上が令和５年度一般会計及び各特別会計の決算審査結果である。予算の執行については、事業目的及び事業計画に沿って行政運営が行われ、事業の目的に沿った成果が得られるものと認められる。

引き続き、以下１から５などにより、吉田町が災害に強くて安全で安心して健康で生き生きと暮らせる町づくりを推し進めていただきたい。

１、胸壁や陸閘などの海岸保全施設と多目的広場など漁業施設との多重防護によるレベル２の津波対策。

２、川尻海岸防潮堤の完成により、「沿岸地域における新たなにぎわい」の創出として、県営吉田公園周辺の未利用地の整備について、地域の皆様と民間事業者との連携。

３、中止となった地震、津波災害のほか風水害のリスクを踏まえた地域防災訓練。

４、住吉地区の浸水被害の軽減に向けた治水対策推進事業。

５、異常気象に伴う大雨による河川の洪水被害を防ぐための河川改修事業である。

続きまして、令和５年度吉田町水道事業会計及び吉田町公共下水道事業会計決算審査意見書をお願いします。

１ページをお願いします。

吉田町監査基準に準拠し、地方公営企業法第30条第２項の規定により、決算その他関係書類の審査を行ったので、次のとおり意見を付する。

第１、審査の対象。

１、令和５年度吉田町水道事業会計決算。

２、令和５年度吉田町公共下水道事業会計決算。

第２、審査の着眼点。

監査委員による令和５年度決算その他関係書類の審査は、町長から送付された決算その他関係書類が法令に適合し、かつ正確であるかといった観点から検討を行い審査するものである。

第３、審査の実施内容。

令和５年度決算その他関係書類について、町長から送付された吉田町監査基準に準拠し、財産の管理状況、財政状況及び予算の執行状況について、資料及び関係職員の説明を求めた上で審査を行った。また、その他の監査等において得られる知見を利用した。

第４、審査の結果。

令和５年度決算その他関係書類について、上記のとおり審査した限りにおいて、法令に適合し、かつ正確であると認められる。

第５、水道事業会計決算の概要。

１、業務の概要。

今年度の業務量は、総配水量441万8,663立方メートル、有収水量は405万5,141立方メートルで、前年度に比べ１万400立方メートルの減、有収率については、3.7％の増加となった。

次ページをお願いします。

令和５年度末現在給水人口は３万1,747人で、前年度に比べ17人の減、給水普及率も87.9％で、前年度に比べ0.1％減となっている。

２、経営状況について。

次表のとおりであります。

(1)経営成績について。

令和５年度において、前年度に比較した水道事業収益が844万3,000円増加し、水道事業費用も2,615万2,000円増加したが、当年度純利益は9,428万5,000円となっている。

水道事業収益のうち増加した主なものは、受託工事収益318万4,000円、雑収益408万4,000円などである。

水道事業費用のうち増加した主なものは、原水浄水及び配水給水費1,751万3,000円、減価償却費494万7,000円、業務費454万7,000円などである。

経常収支比率は、令和３年度が122.8%、令和４年度が124%、令和５年度119.1%であり、100%を上回り類似団体の全国平均100%を上回っているが、引き続き費用削減や更新投資等に充てる財源の確保に向けた改善を努めていただきたい。

経済性を評定する経営比率は算出すると、次のとおりになる。

３ページをお願いします。

この表から、水道事業の経済性を総合的に表示する経営資本営業利益率は、前年度の1.1%から0.76%悪化している。

経営資本営業利益率は、経営資本回転率と営業収益、営業利益率に分解することができる。これによると、令和５年度において、経営資本営業利益率が悪化した原因は、経営資本回転率が前年度0.07回と同数値で、営業利益率が前年度の15.64%から10.51%に悪化したことが分かる。営業収益、営業収益率の悪化した主たる原因は、営業収益が前年度比の0.7%増加したが、これを上回って営業費用が前年度比6.8%増加したことによるものである。

また、営業収益対営業費用比率は、令和３年度118.08%、令和４年度118.53%、令和５年度111.74%となっている。

（施設の利用状況について）。

水道事業の配水の配水能力は令和３年度１日当たり１万8,200立方メートル、令和４年度、令和５年度も同じであります。

これに対する１日平均配水量は、令和３年度が１万2,626立方メートル、令和４年度は１万2,636立方メートル、令和５年度が１万2,106立方メートルとなっており、この結果、施設の利用状況の利用費を総合的に表示する施設利用率は、令和３年度が69.4%、令和４年度が69.4%、令和５年度66.5%となり、前年度比2.9%低下している。その低下した要因は、賦課率が89.5%から86.9%悪化し、かつ最大稼働率も77.6%が76.5%に低下していることにある。施設利用律が前年度よりも2.9%低下した要因としては、人口の減少や利用者の節水等によって、最大稼働率が前年度よりも1.1%低下したことにあると見ることができる。

３、職員給与費及び労働生産性について。

水道事業の職員給与費は、令和３年度が4,797万3,000円、令和４年度が5,622万8,000円、令和５年度が5,553万2,000円となっている。

令和６年１月より水道料金の徴収等を民間事業者に委託した結果、会計年度任用職員２名がその会社へ転職した。また、その費用に占める割合は、４ページをお願いします、令和３年度が10.2%、令和４年度が12%、令和５年度が11.3%になっている。

職員給与費をさらに分解すると、労働生産性を示す指標を算出すると次表のとおりであります。

職員数は次表のとおりとなっております。

労働生産性及び労働分配率を見ると、次表のとおりである。

以上のとおり、労働生産性及び労働分配率は前年度と比べ改善している。水道事業の財政状態の良否は、１、流動比率、２自己資本構成比率、３、固定資産対長期資本比率の三つの

比率で判断される。
算出すると次のようになっている。
流動比率は１年以内に支払われるべき債務に対して支払うことができる現金等がある状況を示すため、100％以上であることが必要であるが、上記のとおり大きく上回っているので良好である。
なお、現金は令和３年度が６億2,600万2,000円、令和４年度が６億3,110万8,000円、令和５年度が６億1,624万8,000円となっている。
長期健全性を示す自己資本構成比率は年々増加傾向にあり、企業経営の安定化が図られている。固定資産対長期資本比率は、資金が長期的に拘束される固定資産がどの程度長期指標によって調達されているかを示すもので、この比率が、５ページをお願いします、100％以下であることが望ましいが、前年度比で0.2％増加、令和４年度比で0.1％減少した。
以上が令和５年度水道事業会計決算審査の概要である。
まとめ。
経営成績等から健全な経営状態と判断できる。また、毎年度黒字を確保して、企業債残高を減少させており、堅実的な事業運営ができている。
しかし、人口減少や節水型機器の普及により、水需要の減少が懸念される。給水収益の減少を見据えた経営対策をしていただきたい。
さて、老朽化の状況を見ると、有形固定資産減価償却率は令和３年度43.9％、令和４年度45％、令和５年度46.2％であり増加傾向に推移している。これは老朽化が徐々に進行をしていることを示している。このため突発的な故障に備えて、日常的に施設点検やＶＰ管約58キロの対象に漏水調査などに努力し、基幹管路の耐震化や老朽管布設替えなど水道施設の整備を計画的に行っているが、維持管理や危機管理体制のより一層の強化を図られたい。
第６、公共下水道事業概要。
１、事業概要。
処理区域内人口は１万1,619人で前年度に比べ347人、令和３年度と比べても445人増加している。処理区域内面積は33.81ヘクタールで、前年度末と比べ9.14ヘクタール増加した。接続人口は8,843人で、前年度に比べて425人増加し、人口普及率は39.89％である。年度末で比べても1.3ポイント増加している。また、計画処理人口に対する進捗率は79％で、前年度末に比べて2.4ポイント増加している。
２、経営状況について。
(1)経営成績については次表のとおりとなっております。
６ページをお願いします。
令和３年度から令和５年度までの経営成績の推移は上記のとおりである。
令和５年度において前年度と比較して、下水道事業収益が6,465万9,000円増加し、下水道事業費用よりも6,481万3,000円増加したが、当年度純利益は26万9,000円である。
下水道事業収益のうち、増加した主なものは、一般会計からの負担金及び補助金、減価償却費に対応した補助金相当額を収益化した長期前受金戻入である。下水道事業費用のうち、増加した主なものは管渠及び処理場費であり、5,809万5,000円増加している。これは令和５年度が第２期ストックマネジメント計画、令和６年から令和10年の策定年度であったことによる。

経常収支比率は、毎年度100％以上であるが、一般会計から繰入れ依存している状態である。使用料収入増加を図ってもらいたい。

貸借対照表は次表のとおりである。短期的な債務に対する支払い能力を表す指標である流動比率は、令和３年度が32.5％、令和４年度が32.3％、令和５年度は26.7％である。なお、流動負債である企業債償還額は毎年度一般会計からの繰入金で賄われている。

企業債の５年度末残高は46億6,363万9,000円である。

施設利用状況について、７ページをお願いします。

施設利用率は、類似団体平均値より高い状況にあり、処理場の規模が効率的な状況である。令和５年度有収率は、令和３年度と同じ95.3％に回復したが、有収率が高いということは、使用料徴収の対象とすることができない不明水が少ないということであり、効率的であると言える。

水洗化率は76.1％で、前年度に比べ1.4ポイント増加しているが、現在も面整備を進めており、水洗化率は低い状況であることから、使用料収入の増加に向けて、接続率の向上に努めていただきたい。

使用料単価及び汚水処理原価の推移は次表のとおりである。

本年度は汚水処理費が増加したため、経費回収率が38.6％となり、前年度比14.6％減少した。引き続き接続率の向上、業務委託の集約等により汚水処理費の削減に努めていただきたい。

以上が令和５年度下水道事業決算審査の概要である。

３、まとめ。

吉田町処理事業は、生活環境の改善や公共用水域の水質保全を図るために、下水道整備をする集合処理区域と合併処理浄化槽を整備する個別処理区域と区分して汚水処理施設の整備を進めている。

集合処理区域では、令和８年度末までの区域内整備を進めている。令和５年度末までの整備状況は303.81ヘクタールで、80.2％の整備率である。

また、他会計依存の体質を改め、経営基盤を強化するために、下水道使用料が議会承認を得て、令和６年度改定された。これまで事業経営や使用料改定の理解を深めるため、汚水処理事業の広報パンフレットの全戸配布や下水道見学会を実施しているが、引き続き住民の周知と理解に努められたい。

既設の管渠、マンホールポンプ及び浄化センターの経年劣化対策として、今後も安定した汚水処理を行うため、ストックマネジメント計画による改築を確実に実施していただきたい。

続きまして、令和５年度決算に基づく吉田町健全化判断比率及び資金不足比率審査意見書をお願いします。

１ページをお願いします。

吉田町監査基準に準拠し、地方公共団体の財政健全化に関する法律第33条第１項及び同法第22条第１項の規定により、健全化判断比率及び資金不足比率並びにそれらの算定の基礎となる事項を記載した書類の審査を行ったので、次のとおり意見を付す。

第１、審査の対象。

令和５年度一般会計・特別会計歳入歳出決算及び公営企業会計決算に基づき算定された健全化判断比率及び資金不足比率並びにそれらの算定の基礎となる事項を記載した書類。

第２、審査の着眼点。

監査委員による令和５年度一般会計特別会計歳入歳出決算及び公営企業会計決算に基づき、算定された健全化判断比率及び資金不足比率及びにそれらの算定の基礎となる事項を記載した書類が法令に適合しかつ正確であるかといった観点から検討を行い審査した。

第３、審査の実施内容。

令和５年度一般会計・特別会計歳入歳出決算及び公営企業会計決算に基づき算定された健全化判断比率及び資金不足比率並びにそれらの算定の基礎となる事項を記載した書類について、町長から送付された吉田町監査基準に準拠し、資料及び関係職員の説明を求めた上で審査を行った。また、その他監査等において得られた知見を利用した。

第４、審査の結果等について。

(1)健全化判断比率及び資金不足比率の状況。

審査に付された令和５年度決算に基づく健全化判断比率及び資金不足比率は、関係法令等に準拠し算定されており、その算定の基礎となる事項を記載した書類も適正に作成されているものと認められる。

なお、健全化判断比率について、次表のとおりである。

(2)健全化判断比率の状況について。

ア、実質赤字比率について。

実質収支は５億5,657万1,000円の黒字となっており、健全な財政状況下にある。

イ、資金不足比率について。

下表のとおり、２会計とも資金剰余の状態にあるので、資金不足比率は生じていないので、健全な財政状況下にある。

３ページをお願いします。

ウ、連結実質赤字比率について。

連結実質収支は13億7,498万5,000円の黒字となっており、健全な財政状況下にある。

エ、実質公債費比率について。

令和３年度から令和５年度までの３か年平均である実質公債費比率は10.7％になっており、早期健全化基準の25％で比較すると、これを下回っている。

オ、将来負担比率について。

将来負担比率は17.8％になっており、早期健全化基準の350％と比較すると、これを下回っている。

(3)是正に要する事項。

特に指摘すべき事項はない。

以上をもちまして、令和５年度決算等審査意見書とします。よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　監査委員、御苦労さまでした。

ここで暫時休憩とします。

再開は11時としますので、お願いします。

休憩　午前１０時４９分

再開　午前１１時００分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は12名であります。

◎議会閉会中の委員会活動報告

○議長（大石　巌君）　日程第４、議会閉会中の委員会活動報告を総務文教常任委員会委員長からお願いをいたします。

３番、盛　純一郎君。

〔総務文教常任委員会委員長　盛　純一郎君登壇〕

○総務文教常任委員会委員長（盛　純一郎君）　総務文教常任委員会議会閉会中の継続調査について報告いたします。

調査内容は、地域福祉重層的支援体制についてです。

町は第６次吉田町総合計画第５章の地域福祉の分野において、共に支え合い、いつまでも住み慣れた地域で暮らせる町を目指し、施策として地域福祉意識の高揚と活動の推進、福祉ネットワークの強化を掲げており、また、第４期となる地域福祉計画の基本目標として、「誰もが安心して利用できるサービスの充実」を掲げている。

そこで、当委員会では、福祉分野において町民に対する相談支援体制の一層の充実が求められる中で、多様かつ複雑化した支援ニーズに対応するための重層的支援体制の現状と課題を調査研究することを目的としました。

閉会中ですが、７月25日、担当課出席による委員会を開催し、福祉課から重層的支援体制整備事業についての説明を受け、質問に回答をもらいました。

なお、事業概要説明と質問回答については要約したものを作成し、各委員に共有しました。

各委員からの提出された再質問は、９月定例会中に回答をもらうこととし、正副委員長でまとめ、８月18日に福祉課に提出いたしました。

以上で閉会中の委員会報告を終わります。

○議長（大石　巌君）　報告が終わりました。

委員長報告に対して質疑を許しますが、質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

委員長、御苦労さまでした。

続きまして、産業建設常任委員会委員長から報告をお願いします。

８番、山内　均君。

〔産業建設常任委員会委員長　山内　均君登壇〕

○産業建設常任委員会委員長（山内　均君）　産業建設常任委員会より議会閉会中の調査活動について報告します。

所管事務調査は、空き家等対策の推進についてです。

令和６年７月９日、午前９時から委員６名、番外１人、事務局２人で委員会を開会いたしました。

まず、令和６年５月13日に、富士市役所に視察を行い、都市整備部住宅政策課から空き家等対策の推進についての説明をいただきまいた。

委員会では、富士市役所視察についての各委員の意見をまとめてあります。

まず、委員の意見です。

富士市役所では、富士市都市整備部住宅政策課が担当職員10人のうち、５人が空き家対策を担当しており、空き家の問題に対して危機感を持って対応していると感じた。

自分たちで汗をかき、苦労し、試行錯誤を重ねながら取り組んでいる姿に共感を覚えた。

国は、平成26年１月に空家対策の推進に関する特別措置法を制定、富士市では平成26年富士市空き家等対策協議会を設立し、空き家対策の開始時期が平成29年であることから、早いと感じた。

富士市の担当職員の空き家に対する熱意が大きいことが分かった。当町では始まったばかりの空き家対策、空き家が増えていく状況をいち早く察し対策を講じるところや、特定空き家に対しても厳しく対処しているところも今後見習わなければならないと思った。

富士市では、空き家実質調査から、１戸建て空き家2,228戸、管理不全空き家813戸、特定空き家８戸の認定を令和４年の４月にしている。

空き家の調査として、上水道事業等から現時点でも下水道調査等の視点でも実態調査を行っている。空き家の対策は実態の把握を行い、状況を正しく把握しなければ、空き家対策の方向性や施策ができないと考える。

令和６年７月29日月曜日、視察、掛川市役所、担当課を掛川市役所都市整備部住宅政策課、午前９時50分から午前11時30分までを職員６名、番外１人、事務局２人で視察を行いました。

掛川市を訪問し、視察調査を行った。担当課は、掛川市都市整備部都市政策課建築空き家対策係７人、事前の質問に回答をいただいた。

質問と回答です。

空き家対策の全般について。

質問は、空き家対策開始の時期は。

回答は、平成26年４月掛川市空き家等の適正管理に関する条例施行、当時地区で問題となっている空き家があった。

質問は、空き家対策制度制定の背景及び目的です。

回答は、平成30年２月に市とＮＰＯ法人かけがわランド・バンクが空き家対策に関する協定書を締結、同年４月掛川市空き家対策本格始動。その背景には空き家調査による空き家の状況にある。空き家の状況は、住宅総数が４万8,760戸、空き家総数が6,340、戸建て住宅が2,020戸なった背景がある。目的は、今後の空き家対策の方向性や施策展開の在り方を見直すことである。

質問では、空き家の調査と方法について。

回答は、平成29年調査を実施、水道使用量30リットル以下の家屋と、平成20年度以降変遷情報、住民基本台帳とデータ調査等により空き家候補を抽出した結果、候補者は2,730戸となった。また、令和元年度には、戸建て住宅の空き家数は1,490戸となった。

問いとして、空き家見守りサービス等の内容と成果について。

回答は、平成30年２月市とＮＰＯ法人空き家管理サービスかけがわランド・バンクが空き家対策に関する協定書を締結。目的は、空き家、空き地の放置問題を解決、地域の活性化、

空き家の利活用を促進、令和６年度には５件の物件を管理中である。回答をいただいた。

質問です。条例制定及び補助金制度制定等現状の空き家対策の効果と利用状況について。

回答は、令和５年度まで補助金制度はなかった。ＮＰＯ法人かけがわランド・バンクの力により、空き家の除却及び活用が促進されていた。しかし、増え続ける空き家の総数を減らしていくには、所有者自ら空き家の解体等をしてもらう必要があると考え、令和４年４月から補助金制度を創設するに至った。

質問です。今後取り組んでいく必要があると考えている対策は。

回答は、空き家の実態把握が肝要であると認識している。実態を把握した上で、今後は啓発と活動に力を入れていく。

掛川の視察の結果です。

令和６年８月19日、午前９時から９時53分まで委員６人、番外１人、事務局２人の出席で委員会を開催した。

協議事項は、７月29日に実施した掛川市役所視察について、各委員の感想を発表した。

各委員からの感想は、取組の速さと的確な対応、対策を感じた。国よりも早く対応している。

職員の空き家対策に対する熱意を感じた。民間の専門家集団、ＮＰＯ法人かけがわランド・バンクの協力の下、事業がうまく進められている。

補助金制度にも力を入れている。空き家の除去や空き家片づけ等です。

８月19日の皆さんの結果です。

各委員の感想をまとめ、委員会を９月13日に開会し、委員会の中で各委員会に配付し、内容の確認をし、決定をすることを決めました。

以上が産業建設常任委員会の報告であります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　報告が終わりました。

委員長報告に対して質疑を許します。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

委員長、御苦労さまでした。

◎議案第４０号～議案第５６号の一括上程、説明

○議長（大石　巌君）　続きまして、会議規則第35条の規則によりまして、日程第５、第40号議案から日程第21、第56号議案までの17議案を一括議題とします。

町長からの提案理由の説明を求めます。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　令和６年第３回吉田町議会定例会に上程をされました議案の概要につきまして、御説明申し上げます。

今回上程されました議案は、条例の一部改正について１件、決算の認定について７件、補正予算について５件、契約の締結について１件、規約の変更について１件、人事案件２件の合計17件でございます。

それでは、各議案につきまして御説明申し上げます。

第40号議案は、吉田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてでございます。

本議案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の一部が本年12月２日に施行されることにより、現行の被保険者証が廃止されますことから、吉田町国民健康保険条例に所要の改正を行うことにつきまして、お認めいただこうとするものでございます。

第41号議案は、令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

本議案は、令和５年度の一般会計歳入歳出決算につきまして、歳入総額139億1,880万9,672円、歳出総額132億8,276万551円、歳入歳出差引残額６億3,604万9,121円になります内容をお認めいただこうとするものでございます。

第42号議案は、令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

本議案は、令和５年度の土地取得事業特別会計歳入歳出決算につきまして、歳入総額１万9,455円、歳出総額１万9,455円、歳入歳出差引残額ゼロ円となります内容をお認めいただこうとするものでございます。

第43号議案は、令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

本議案は、令和５年度の国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算につきまして、歳入総額26億9,988万4,623円、歳入総額26億6,585万5,365円、歳入歳出差引残額3,402万9,258円となります内容をお認めいただこうとするものでございます。

第44号議案は、令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

本議案は、令和５年度の後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算につきまして、歳入総額３億4,509万3,312円、歳出総額３億4,399万8,126円、歳入歳出差引残額109万5,186円となります内容をお認めいただこうとするものでございます。

第45号議案は、令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

本議案は、令和５年度の介護保険事業特別会計歳入歳出決算につきまして、歳入総額21億9,056万8,539円、歳出総額20億9,663万2,802円、歳入歳出差引残額9,393万5,737円になります対応をお認めいただこうとするものでございます。

第46号議案は、令和５年度吉田町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてでございます。

本議案は、地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、令和５年度吉田町水道事業会計決算に伴う剰余金を剰余金処分計算書（案）のとおり処分することをお認めいただくとともに、あわせて令和５年度の水道事業会計決算につきまして、収益的収入６億3,932万2,428円、収益的支出５億2,325万1,937円、資本的収入8,762万2,000円、資本的支出３億9,881万7,028

円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額３億1,119万5,028円は、減災積立金、建設改良積立金、過年度分消費税資本的収支調整額、過年度分損益勘定留保資金、当年度分損益勘定留保資金で補塡する内容をお認めいただこうとするものでございます。

第47号議案は、令和５年度吉田町公共下水道事業剰余金の処分及び決算の認定についてでございます。

本議案は、地方公営企業法第32条第２項の規定に基づき、令和５年度吉田町公共下水道事業会計決算に伴う剰余金を処分決算書（案）のとおり処分することをお認めいただくとともに、併せて令和５年度の公共下水道事業会計決算につきまして、収益的収入７億3,273万1,304円、収益的支出７億1,574万708円、資本的収入８億5,656万4,452円、資本的支出８億7,189万4,590円となり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,533万138円は、３条企業債の借入額で補塡する内容をお認めいただこうとするものでございます。

第48号議案は、令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）についてでございます。

本議案は、令和６年度の一般会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ６億8,661万8,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ144億5,350万4,000円とするとともに、地方債の補正を行う補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第49号議案は、令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

本議案は、令和６年度の国民健康保険事業特別会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,402万9,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ27億1,349万2,000円とする補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第50号議案は、令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）についてでございます。

本議案は、令和６年度の後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出予算総額に歳入歳出それぞれ109万5,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ４億413万5,000円とする補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第51号議案は、令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）についてでございます。

本議案は、令和６年度の介護保険事業特別会計歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ9,333万5,000円を追加し、歳入歳出の総額をそれぞれ22億9,790万1,000円とする補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第52号議案は、令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）についてでございます。

本議案は、令和６年度の吉田町公共下水道事業会計予算につきまして、第３条に定めた収益的収入の予定額に82万8,000円を追加し、収益的支出の予定額に82万8,000円を追加すること、第９条に定めた経費を82万8,000円増額すること、第10条に定めた一般会計からの補助金の額を改めることとする補正予算をお認めいただこうとするものでございます。

第53号議案は、令和６年度西の宮雨水幹線改修工事請負契約の締結についてでございます。

本議案は、西の宮雨水幹線改修工事につきまして、一般競争入札により契約金額7,128万円でたむら建設株式会社、代表取締役、田村安孝と請負契約を締結することにつきまして、お認めいただこうとするものでございます。

第54号議案は、静岡県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についてでございます。

本議案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の一部が本年12月２日に施行されることにより、現行の被保険者証が廃止されますことから、静岡県後期高齢者医療広域連合規約に所要の変更を行うことにつきましてお認めいただこうとするものでございます。

第55号議案は、吉田町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについてでございます。

本議案は、現在吉田町教育委員会委員であります塚本成男委員が本年９月30日をもって任期満了となりますことから、新たに大石佳彦氏を吉田町教育委員会委員に任命することにつきまして、議会の同意を求めるものでございます。

第56号議案は、吉田町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについてでございます。

本議案は、現在吉田町教育委員会委員であります北澤雅恵委員が本年12月14日をもって任期満了になりますことから、新たに遠藤さとみ氏を吉田町教育委員会委員に任命することにつきまして、議会の同意を求めるものでございます。

以上が上程をされました17議案の概要でございます。詳細につきましては、担当課長から御説明申し上げます。

それでは、御審議のほどよろしくお願いいたします。

○議長（大石　巌君）　それでは、今、町長のほうから説明がありましたが、ここで時間的に会計課長からの説明の時間が長くなりますので、休憩としたいと思います。

再開は午後１時からにしますので、お願いします。

休憩　午前１１時３０分

再開　午後　零時５５分

○議長（大石　巌君）　会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は12名であります。

町長からの提案理由の説明が終わりましたので、続いて各担当課長から詳細なる説明を順次お願いをしたいと思います。

初めに、会計管理者兼会計課長、お願いいたします。

会計管理者兼会計課長、望月祐子君。

〔会計管理者兼会計課長　望月祐子君登壇〕

○会計管理者兼会計課長（望月祐子君）　会計課でございます。

会計課からは、第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

お手元の令和５年度吉田町歳入歳出決算書及び参考資料ナンバー３、令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算参考資料を御用意ください。

初めに、決算書の10ページを御覧ください。

令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の歳入総額は139億1,880万9,672円、歳出総額は132億8,276万551円、歳入歳出差引残額は６億3,604万9,121円でございます。前年度と比較いたしますと、歳入は金額で１億15万441円、率にしまして0.7％の減となっております。歳出は、金額で３億4,950万1,633円、率にしまして2.7％の増となっております。

それでは、内容について御説明させていただきます。

決算書の12ページから15ページと決算参考資料の１ページ、２ページ、右側の令和５年度の列を併せて御覧ください。

初めに、歳入でございます。

１款町税は、収入済額55億4,671万440円で、前年度に比べ金額で4,886万7,107円、率にして0.9％の増となっております。

１項町民税は、21億4,148万7,488円で、前年度に比べ0.8％の減となっております。個人町民税につきましては、前年度よりも所得金額及び納税義務者数ともに増加し、増額となりましたが、法人町民税につきましては、コロナ禍が長期化したことで、法人の事業にも影響を及ぼし、前年度に比べ6.7％減となったことが要因でございます。

２項固定資産税は、28億2,799万518円で、前年度に比べ2.2％の増となっております。土地につきましては、地価の下落により課税標準額が減少したことに伴い、税額も減少しましたが、家屋につきましては、新規の大型家屋の完成等により増額となっております。償却資産につきましても新型コロナウイルス感染症の位置づけが５類感染症となる見通しがついたことから、主要企業による既存設備の更新が積極的に行われたことにより、増額となっております。

３項軽自動車税は１億1,596万4,242円で、前年度に比べ1.9％の増となっております。増額の要因は課税台数の増加によるものでございます。

４項町たばこ税は２億2,291万3,762円で、前年度に比べ0.3％の増となっております。

５項都市計画税は２億3,835万4,430円で、前年度に比べ1.0％の増となっております。

以上が、町税の収入状況でございます。

なお、本年度の不納欠損額は町税全体で826万6,828円、収入未済額は9,697万7,981円でございました。

不納欠損に係る主な事由といたしましては、滞納処分を行う財産がないもの、滞納処分を行うことによりその生活を著しく困窮させるもの、外国人などは出国して徴収見込みのないものなどでございます。

14ページを御覧ください。

次に、２款地方譲与税は、収入済額１億94万1,000円で、前年度に比べ0.7％の増となっております。内訳としましては、１項地方揮発油譲与税が2,438万5,000円、２項自動車重量譲与税は7,351万6,000円、16ページに移りまして、３項森林環境譲与税は304万円でございます。

３款利子割交付金は、収入済額172万4,000円で、前年度に比べ14.8％の減となっております。

４款配当割交付金は、収入済額2,669万6,000円で、前年度に比べ18.0％の増となっております。

続いて、５款株式等譲渡所得割交付金は、収入済額4,317万3,000円で、前年度に比べ

87.7％の増となっております。

18ページを御覧ください。

６款法人事業税交付金は、収入済額9,486万9,000円で、前年度に比べ14.1％の減となっております。

７款地方消費税交付金は、収入済額７億7,653万円で、前年度に比べ0.3％の増となっております。

８款環境性能割交付金は、収入済額1,678万5,388円で、前年度に比べ24.2％の増となっております。

20ページを御覧ください。

９款地方特例交付金は、収入済額4,404万7,000円で、前年度に比べ8.8％の増となっております。

10款地方交付税は、普通交付税と特別交付税を合わせまして、収入済額８億2,176万9,000円で、前年度に比べ4.8％の増となっております。令和５年度におきましても当町は、基準財政需要額が基準財政収入額を超えておりますことから、普通交付税が交付される団体となっております。

22ページに移りまして、普通交付税は６億6,458万7,000円、特別交付税は１億5,718万2,000円でございました。なお、令和５年度における吉田町の財政力指数は、単年度で0.88、３か年平均で0.87でございました。

続いて、11款交通安全対策特別交付金は、収入済額380万5,000円で、前年度に比べ8.6％の減となっております。

12款分担金及び負担金は、収入済額5,981万1,071円で、前年度に比べ10.2％の減となっております。不納欠損額45万3,000円は保育所保護者負担金でございます。

内訳でございますが、１項分担金は266万2,000円で、漁港施設の改修に伴う水産業費分担金でございます。

２項負担金は5,714万9,071円で、社会福祉費の老人施設入所者負担金や児童福祉費の保育所保護者負担金、こども発達支援所利用者負担金、一時預かり利用者負担金などでございます。

24ページから29ページを御覧ください。

13款使用料及び手数料は、収入済額7,344万648円で、前年度に比べ4.7％の増となっております。不納欠損額81万5,900円は、住宅使用料でございます。

内訳でございますが、１項使用料は5,995万5,898円で、健康福祉センター使用料、漁港施設の占用料や使用料、道路河川の占用料、町営住宅使用料、体育館等の教育施設使用料などでございます。

２項手数料は1,348万4,750円で、税務関係の各種証明等手数料、戸籍窓口手数料、狂犬病注射済票交付手数料などでございます。

28ページから37ページを御覧ください。

14款国庫支出金は、収入済額14億4,027万7,442円で、前年度に比べ24.5％の減となっております。

内訳でございますが、１項国庫負担金は８億3,709万6,629円で、民生費では、障害者自立支援給付費負担金や児童手当費負担金、子どものための教育・保育給付費負担金など、衛生

費では、新型コロナウイルスワクチン接種対策費負担金などが主なものでございます。

２項国庫補助金は５億9,511万1,009円で、総務費は地域公共交通確保維持改善事業費補助金、官民連携基盤調査費補助金、個人番号カード交付事務費補助金など、民生費は、地域子ども・子育て支援事業費交付金、地域生活支援事業費補助金など、衛生費は、新型コロナウイルスワクチン接種体制確保事業費、循環型社会形成推進交付金など、農林水産業費は、農業経営所得安定対策推進事業費補助金、土木費は、社会資本整備総合交付金、道路メンテナンス事業費補助金など、教育費は、特別支援学級児童生徒就学奨励費補助金など、そのほかに地方創生推進交付金、子育て世帯生活支援特別給付金事業費補助金、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金、物価高騰対応重点支援地方創生臨時交付金などが主なものでございます。

３項国庫委託金は806万9,804円で、国民年金事務費委託金などでございます。

36ページから45ページを御覧ください。

15款県支出金は、収入済額７億8,027万3,000円で、前年度に比べ4.7％の増となっております。

内訳でございますが、１項県負担金は４億２万6,978円で、民生費は障害者自立支援給付費や児童手当費、子ども・子育て支援給付費、衛生費は、後期高齢者医療事業費などの負担金でございます。

２項県補助金は、３億1,893万4,265円で、総務費は、静岡空港隣接地域にぎわい空間創生事業費、民生費は、重度障害者医療費助成事業費やこども医療費、放課後児童健全育成事業費、衛生費は、生活排水改善対策推進事業費、農林水産業費は、漁業基盤整備事業費、商工費は、地域産業立地事業費、土木費は、木造住宅耐震補強助成事業費、消防費は、地震・津波対策等減災交付金、教育費は、学校、家庭、地域連携協力推進事業費補助金などが主なものでございます。

３項県委託金は6,131万1,757円で、徴税費、住宅土地統計調査等の統計調査費、水門管理事務費などの委託金でございます。

44ページから47ページを御覧ください。

16款財産収入は、収入済額2,402万6,783円で、前年度に比べ33.6％の減となっております。

内訳でございますが、１項財産運用収入は970万3,666円で、財産貸付収入、基金の利子及び配当金収入でございます。

２項財産売払収入は1,432万3,117円で、町有地の売払いなどによる不動産売払収入、消防団旧ポンプ車などの売払いによる物品売払収入でございます。

17款寄附金は、収入済額11億2,948万7,942円で、前年度に比べ5.7％の減となっております。一般寄附金が182万4,942円、ふるさとよしだ寄附金は一般寄附金が６億2,642万500円、指定寄附金が４億9,604万2,500円、企業版ふるさと納税が520万円でございます。

46ページから49ページを御覧ください。

18款繰入金は、収入済額14億1,640万6,958円で、前年度に比べ48.5％の増となっております。

内訳でございますが、１項特別会計繰入金は1,121万7,896円で、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計からの繰入金でございます。

２項基金繰入金は14億518万9,062円で、財政調整基金繰入金９億6,995万4,000円、教育振

興基金繰入金567万9,660円、地域福祉基金繰入金379万4,402円、ふるさとよしだ寄附金基金繰入金４億2,576万1,000円でございます。

19款繰越金は、前年度繰越金でございますが、収入済額は10億8,570万1,195円で、前年度に比べ9.4％の減となっております。

48ページから57ページを御覧ください。

20款諸収入は、収入済額１億7,873万1,805円で、前年度に比べ0.2％の減となっております。

不納欠損額３万5,000円は、放課後児童クラブ徴収金でございます。

内訳でございますが、１項延滞金、加算金及び過料は651万6,838円で、町税の延滞金でございます。

２項町預金利子は４万1,908円で、運用定期や普通預金などの利子でございます。

３項貸付金元利収入は58万5,000円で、高等学校等奨学金返還金でございます。

４項受託事業収入は11万4,300円で、農業者年金基金受託事業収入でございます。

５項雑入は１億7,147万3,759円で、納付金といたしまして、日本スポーツ振興センター納付金、総務費雑入は市町村振興協会市町交付金や５市２町連携中枢都市圏構想事業負担金など、民生費雑入は、放課後児童クラブ徴収金、児童発達支援事業収入、保育園児童給食代など、衛生費雑入は、後期高齢者医療広域連合健康診査委託金など、商工費雑入は、小山城御城印販売代金など、消防費雑入は、退職手当基金交付金など、教育費雑入は、講座、教室受講料、リーディングＤＸスクール事業委託金などでございます。

56ページから59ページを御覧ください。

21款町債は、収入済額２億5,360万3,000円で、前年度に比べ11.4％の減となっており、償還元金より少ない借入額となっております。

内訳といたしましては、総務債は庁舎エレベーター整備事業、農林水産業債は、漁港環境整備事業、大幡川水門設備改修事業、土木債は、町内橋梁維持補修事業など、教育債は、小・中学校防火扉整備事業でございます。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出でございます。

款項及びその中での主な事業について御説明いたします。

決算書の62ページからと決算参考資料の３ページ右側の令和５年度の列を併せて御覧ください。

１款議会費は、支出済額9,583万6,748円で、前年度に比べ5.6％の増となっております。議会運営費、議会調査活動費などでございます。

64ページを御覧ください。

２款総務費は、支出済額20億2,189万9,721円で、前年度に比べ12.3％の増となっております。

６年度繰越額は1,985万5,000円で、個人情報安全管理措置制度等対応支援業務委託料、戸籍法の改正に伴うシステム改修委託料でございます。

主な支出でございますが、１項総務管理費は17億7,856万9,314円で、前年度に比べ16.7％の増となっております。

１目一般管理費は、職員人件費をはじめ、一般行政事務費、吉田町牧之原市広域施設組合

負担金等の主に経常経費でございます。
なお、人件費につきましては、後ほど説明させていただきます。
70ページから73ページを御覧ください。
２目文書広報費では、町の施策や取組をより魅力的に分かりやすく発信できるよう町ホームページのデザインをリニューアルいたしました。また、町の情勢や取組を広く発信するため、町勢要覧を作成いたしました。
74ページから79ページを御覧ください。
５目財産管理費では、庁舎エレベーターの改修工事を行いました。また、エレベーターホール窓ガラスに遮熱フィルムを施工したほか、２階上下水道課にお客様センターを設置することに伴い、カウンター部分などの改修を行いました。
78ページから87ページを御覧ください。
６目企画費では、令和６年度から令和13年度までの８年間における町づくりの基本的な方向性を示す第６次吉田町総合計画及び土地利用に関する指針となる第４次吉田町国土利用計画を策定しました。また、誰もが気兼ねなくおでかけできる町を目指し、町内における移動手段を確保するため、オンデマンド型乗合タクシー、“ぎゅっと”カーよしだの実証実験を令和５年10月から開始いたしました。加えて、シーガーデンシティ構想を推進する取組といたしまして、吉田インターチェンジ周辺におけるバスターミナル整備に向けた基本設計業務を実施したほか、シーガーデンのレジャーとスポーツゾーンの整備に向けた基本計画を策定しました。
88ページから101ページを御覧ください。
７目自治振興費は、自治会や町内会への補助金でございます。
８目防犯対策費では、犯罪のない健全で明るい町を形成するため、防犯灯の維持管理や防犯カメラの設置などにより、犯罪の起こりにくい環境を整備しております。
９目交通安全対策費では、地元からの要望や吉田町子供の移動経路に関する交通安全プログラムに基づく合同点検などの結果により、道路の区画線工事や転落防止柵設置工事などを実施しました。
10目人事管理費では、職員や会計年度任用職員の福利厚生などの人事管理を行うとともに、人材育成を図るための職員研修を実施しました。
11目事務改善対策費では、吉田町ＤＸ推進計画に基づくデジタル政策を着実に推進するため、昨年度に引き続き専門知識を持った外部人材から定期的に支援が得られる環境を整備しました。また、端末の更新に合わせ、職員が使用するパソコンを無線化したことにより、自席以外の場所でも利用することが可能となり、ペーパーレス化や作業効率の恒常化が図られました。
12目空港対策費は、富士山静岡空港関連の団体への負担金などでございます。
100ページを御覧ください。
２項徴税費は１億6,399万5,181円で、前年度に比べ11.6％の減でございます。
104ページを御覧ください。
３項戸籍住民基本台帳費は、5,896万7,959円で、前年度に比べ15.0％の減でございます。戸籍住民基本台帳に関することや、マイナンバーカードの申請・交付に関することに伴う経費などでございます。

108ページを御覧ください。

４項選挙費は1,774万3,475円で、前年度に比べ14.8％の減でございます。町長、町議会議員選挙費、静岡県議会議員選挙費が主な支出でございます。

114ページを御覧ください。

５項統計調査費は147万9,802円で、前年度に比べ173.7％の増でございます。令和５年度は漁業センサス、住宅土地統計調査などを実施しました。

116ページを御覧ください。

６項監査委員費は114万3,990円で、前年度に比べて23.0％の増、主な支出は監査委員の報酬などでございます。

118ページを御覧ください。

次に、３款民生費は、支出済額36億671万5,815円で前年度に比べ6.3％の増となっております。翌年度繰越額は7,909万6,600円で、低所得世帯重点支援給付金給付事業費でございます。

主な支出でございますが、１項社会福祉費は、支出済額17億6,490万7,921円で、前年度に比べ10.4％の増となっております。

１目社会福祉総務費では、令和５年度から成年後見制度中核機関業務を社会福祉協議会に委託し、中核機関の周知を行うとともに、相談対応及びケース会議を随時行いました。また、食料品などの価格高騰に伴う支援として、住民税非課税世帯等に対する臨時特別給付金を1,502世帯へ１世帯当たり３万円給付しました。加えて物価高騰対応生活支援臨時給付金として、住民税非課税等1,497世帯へ１世帯当たり７万円を給付しました。

124ページを御覧ください。

２目国民年金事務費は、国民年金事務に係る事務でございます。

126ページを御覧ください。

３目国民健康保険費は、国民健康保険事業会計繰出金などでございます。

128ページを御覧ください。

４目老人福祉費は、健康福祉センター、老人福祉センター、北区いきいきセンターなどの指定管理委託料、シルバー人材センター、町老人クラブ活動に対する補助金などでございます。令和５年度は、令和６年度から令和８年度までの３年間を計画期間とする第10次高齢者保健福祉計画、第９期介護保険事業計画を策定しました。

132ページを御覧ください。

５目心身障害者福祉費は、重度障害者医療費や心身障害者施設等への負担金、心身障害者自立支援事業費、障害者自立支援施設管理事業費などでございます。

令和５年度は、令和６年度から令和11年度までの６年間を計画期間とする第４期障害者計画、第７期障害福祉計画、第３期障害児福祉計画を策定しました。

138ページを御覧ください。

６目人権・地域改善費は、神戸西会館運営費などでございます。

140ページを御覧ください。

７目介護保険費は、介護保険事業会計繰出金などでございます。

142ページを御覧ください。

２項児童福祉費は、支出済額18億4,180万584円で、前年度に比べ2.8％の増となっており

ます。
主な支出でございますが、１目児童福祉総務費は、子ども医療費や低所得の子育て世帯を支援するための子育て世帯生活支援特例交付金などでございます。令和５年度は、物価高騰の影響を受ける低所得の子育て世帯を支援するため、該当となる児童手当等受給者に対し、児童１人当たり５万円を支給しました。また、エネルギー・食料品価格等の物価高騰の影響を受けた子育て世帯への生活を支援する取組として、当町に住所を有する中学３年生から令和５年12月31日までに生まれた児童の保護者等に対し、町単独事業として、児童１人当たり１万円の特別給付金を3,581人に支給しました。
152ページを御覧ください。
２目児童措置費は、児童手当に係る事務費などでございます。
３目保育所費は、保育園４園の運営費などでございます。令和４年度からの繰越事業として、地権者より売買の意向を受けたわかば保育園の施設用地を取得いたしました。
164ページを御覧ください。
４目児童館費は、児童館や放課後児童クラブ、地域子育て支援センターの運営費などでございます。
168ページを御覧ください。
５目児童厚生施設整備費は、町内８か所の児童遊園地の維持管理費でございます。
170ページを御覧ください。
３項生活保護費は、住所不定者の宿泊費を負担いたしました。
４項災害救助費の支出はございませんでした。
172ページを御覧ください。
次に、４款衛生費は、支出済額19億7,457万7,637円で、前年度に比べ2.7％の減でございます。翌年度繰越額は5,118万2,000円で、診療所等開設補助金、新型コロナウイルスワクチン接種体制事業に係る廃棄物処理委託金などでございます。
１項保健衛生費の支出済額は、４款衛生費と同額でございます。
１目保健衛生総務費は、保健センター管理費のほか、志太榛原地域救急医療センター、榛原総合病院、吉田町牧之原広域施設組合火葬場などの負担金でございます。令和５年度は、保健センターと学習ホールの間の玄関、屋上部分の防水改修工事を実施しました。また、保健センター内講習室の空調機が故障したため、予備費から充用し空調機の取替え工事を実施しました。
176ページを御覧ください。
２目予防費では、新たに帯状疱疹予防接種に対する助成を開始し、141人の方に助成を行いました。新型コロナウイルスワクチンの接種につきましては、春に65歳以上の高齢者と５歳以上の基礎疾患を有する方など、秋には、初回接種を終了した全ての方を対象に、延べ１万1,230回実施いたしました。接種体制としましては、総合体育館及び保健センターでの集団接種と町内３か所の医療機関及び榛原総合病院等による個別接種に加え、町内高齢者施設への巡回摂取も行いました。令和５年５月８日からは、感染症法上の５類へ移行となりましたが、移行前の５月７日まで自宅療養者に対する食糧支援や医療機関に対する抗体検査キットの配布なども行いました。
182ページを御覧ください。

３目環境衛生費では、令和５年度及び令和６年度の２か年にかけて環境基本法に基づく環境基本計画、地球温暖化防止法に基づく地球温暖化防止実行計画、生物多様性基本法に基づく生物多様性地域戦略の策定に取り組んでおり、令和５年度は、町の環境に関する文献調査や住民アンケートなどを実施しました。

188ページを御覧ください。

４目公害対策費は、環境調査及び分析調査に対する委託料などでございます。

５目母子保険衛生費では、安心して出産・子育てができるよう乳幼児、妊婦健診などを実施したほか、国の出産・子育て応援交付金や町独自の妊娠・出産等応援助成金の豊富、子育て包括支援センターにおける相談業務などを行いました。

190ページを御覧ください。

６目健康づくり事業費では、健康マイレージ事業や食育推進事業などを実施しました。

192ページを御覧ください。

７目老人保健事業費は、後期高齢者医療事業事務費や療養給付費負担金、保険基盤安定繰出金などでございます。

194ページを御覧ください。

８目健康増進事業費では、各種がん検診や禁煙に関する講習会、骨髄等移植ドナーへの助成などを行いました。

196ページを御覧ください。

次に、５款労働費は、支出済額300万6,731円で、前年度に比べ1.8％の増でございます。

198ページを御覧ください。

次に、６款農林水産業費は、支出済額３億435万7,615円で、前年度に比べ10.9％の増となっております。

翌年度繰越額は１億5,618万8,000円で、山崎頭首工改修工事費、多目的広場整備工事費でございます。

主な支出でございますが、１項農業費は9,874万1,852円で、前年度に比べ10.3％の減となっております。

１目農業委員会費は、農業委員会運営費、農業者年金事務費でございます。

202ページを御覧ください。

３目農業振興費では、農地の有効利用や利用権の設定を通じて、認定農業者等への農地流動化を促進するため、12人の農業者に対し、農地利用集積奨励金を交付しました。また、地域農業の担い手となる新規就農者１人に対し、経営開始資金を交付しました。

206ページを御覧ください。

５目農地費では、用水路補修維持事業として、山崎頭首工改修工事に伴う河川協議資料の作成や、山崎頭首工損傷による代替措置として、神戸川取水施設仮設置工事などを実施しました。

208ページを御覧ください。

２項林業費は、933万5,992円で、前年度に比べ4.3％の増、松くい虫防除事業費、保安林等保護環境整備事業費でございます。

210ページを御覧ください。

３項水産業費は１億9,627万9,771円で、前年度に比べ26.3％の増でございます。

１目水産振興費は、水産業振興事業費補助金や、地域栽培推進事業負担金などでございます。

212ページを御覧ください。

２目漁港管理費では、吉田漁港港内泊地しゅんせつ工事や多目的広場天端部分の駐車場お呼び周辺の舗装、トイレ、浄化槽、照明灯の設置などを行いました。

214ページを御覧ください。

次に、７款商工費は、支出済額１億6,036万1,135円で、前年度に比べ5.9％の増となっております。

216ページを御覧ください。

２目商工業振興費では、原材料・食料品価格等の物価高騰対策の一環として、吉田町商工会が事業主体となり、プレミアム付商品券発行事業を実施したことに対しまして、商工業振興事業費として補助金を交付しました。商品券の使用期間は令和５年11月18日から令和６年２月29日まで、発行総額は１億8,000万円、加盟店は196事業所でございました。

218ページを御覧ください。

３目観光費は、観光施設の運営維持管理費や観光協会へのイベント開催委託料、観光関係団体への負担金などでございます。令和５年度も凧揚げまつり、港まつり・花火大会、小山城まつりの３大イベントを全て開催することができました。

222ページを御覧ください。

次に、８款土木費は、支出済額13億7,512万9,867円で、前年度に比べ14.6％の増となっております。翌年度繰越額は8,634万3,000円で、大幡大井川線舗装修繕工事費、問屋南橋補修工事費、大窪川河川改修に向けた地質調査業務委託料及び工事請負費でございます。

主な支出でございますが、１項土木管理費は１億69万4,662円で、前年度に比べ6.8％の増となっております。

１目土木総務費は、土木事業を行うための総務的な経費が主なものであり、町道の認定廃止に伴う道路台帳の更新作業や、道路河川占用システムの保守業務などを実施しました。

226ページを御覧ください。

２項道路橋梁費は２億9,498万3,844円で、前年度に比べ36.1％の増となっております。

２目道路新設改良費では、問屋堤線の道路改良に向けた附帯工事及び用地買収、大幡川幹線の道路整備に向けた検討業務、三軒屋西の宮線の道路改良工事、下片岡山通り線の歩道改良工事、中瀬北原１号線の測量設計業務などを実施しました。

228ページを御覧ください。

３目橋梁維持費では、橋梁の点検業務や補修設計業務を実施したほか、３橋の補修工事を実施しました。

230ページを御覧ください。

３項河川費は１億4,616万5,323円で、前年度に比べ76.5％の増となっております。

１目河川総務費では、河川水路の維持管理、占用申請業務、洪水時の河川施設の操作等に活用することを目的とし、河川の一般平面図等を整理した河川管理台帳を作成しました。

また、治水対策推進事業として、坂口谷川流域の治水対策、測量設計、湯日川流域の治水対策に関する検討を行うとともに、河川の流下能力を確保するため、町内河川のしゅんせつ工事を実施しました。

232ページを御覧ください。

２目河川維持費は、堤防除草の委託料などでございます。

３目河川新設改良費では、令和４年度に引き続き大窪川の改修工事を実施しました。

234ページを御覧ください。

４項都市計画費は８億740万814円で、前年度に比べ2.3％の増となっております。

１目都市計画総務費では、吉田インターチェンジ周辺のバスターミナル化整備に合わせ、周辺の利活用や都市計画決定した用途地域の見直しを検討するための土地利用構想変更資料を作成したほか、ＴＯＵＫＡＩ－０を促進する取組として、我が家の専門家診断事業、木造住宅耐震補強助成事業、ブロック塀等耐震化促進事業などを実施しました。

238ページを御覧ください。

２目土地区画整理事業費では、浜田土地区画整理組合及び富士見土地区画整理組合への補助金交付のほか、浜田土地区画整理区域内を流れる西の宮雨水幹線の用排水路改修工事を実施しました。

240ページを御覧ください。

３目街路事業費では、町の主要道路である中央幹線の未整備区間の整備を進めるため、用地買収や物件移転補償を行いました。

４目公共下水道費は、公共下水道事業繰出金でございます。

５目公園費は、小藤路公園、西の宮公園、湯日川親水公園などの公園維持管理委託料などでございます。

242ページを御覧ください。

６目緑化推進費は、緑化審議会運営費、緑のオアシスまつり委託料、花のまち推進事業費などでございます。

244ページを御覧ください。

５項住宅費は2,588万5,224円、前年度に比べ47.1％の増で、町営住宅の維持管理、令和４年度に火災のあった松原団地９号棟の解体工事などを実施しました。

次に、９款消防費は、支出済額４億2,428万1,705円で、前年度に比べ11.8％の減でございます。

246ページを御覧ください。

１目常備消防費は、吉田町牧之原市広域施設組合消防費負担金、消防救急広域事業費委託料などでございます。

２目非常備消防費は、消防団運営費、消防団員福利厚生費でございます。

248ページを御覧ください。

３目消防施設費では、消火栓ホース格納箱や、消防ホースの修繕を実施したほか、老朽化のため使用していなかった消防団第２分団川尻倉庫の解体工事を実施しました。

250ページを御覧ください。

４目水防費では、浸水被害の軽減を図るため、水防活動に使用する消耗品の購入、機械の借上げなどを行いました。

５目災害対策費では、全周防御の構築に向けたＬ２レベルの津波における河川への遡上シミュレーションを実施したほか、組立て式トイレや非常食、毛布などの防災備品の購入、吉田中学校１年生を対象としたジュニア防災士養成講座の開催、防災行政無線の保守点検業務

などを実施しました。
256ページを御覧ください。
次に、10款教育費は、支出済額９億3,435万2,922円で、前年度に比べ9.7％の減となっております。
１項教育総務費は２億3,428万7,161円で、前年度に比べ28.0％の減となっております。
260ページを御覧ください。
３目教育諸費では、国が進めるＧＩＧＡスクール構想の実現に向けたＩＣＴ環境の充実を図るため、書画カメラ68台、電子黒板３台を各小・中学校に配備しました。
また、学習用ソフトウエアの導入や、ＩＣＴ支援員の派遣などにより、ＩＣＴ器機を活用した授業の円滑な進行に取り組みました。加えて施設整備といたしまして、住吉小学校、中央小学校、吉田中学校の屋外トイレの洋式化などに係る改修工事を実施しました。
266ページを御覧ください。
２項小学校費は１億3,587万2,912円で、前年度に比べ6.1％の増となっております。町内３小学校の維持管理などでございます。
280ページを御覧ください。
３項中学校費は7,672万6,107円で、前年度に比べ12.5％の減となっております。
286ページを御覧ください。
４項社会教育費は２億7,429万3,179円で、前年度に比べ1.2％の減となっております。
主な支出でございますが、１目社会教育総務費では、各小学校において平日４時間授業日に対応した放課後子ども教室を実施したほか、吉田町文化祭やスプリングジャズライブ、小山城お花見茶会などのイベントの開催、文化財保護に係る維持管理業務などを行いました。
290ページを御覧ください。
２目公民館費は、中央公民館の運営費や活動費などでございます。
294ページを御覧ください。
３目学習ホール費は、学習ホールの維持管理運営費でございます。
296ページを御覧ください。
４目図書館費は、図書館の管理運営費でございます。
300ページを御覧ください。
５目ちいさな理科館費は、ちいさな理科館の管理運営費でございます。
302ページを御覧ください。
５項保健体育費は２億1,317万3,563円で、前年度に比べ1.6％の減となっております。
１目保健体育総務費では、子供から高齢者までの幅広い世代がスポーツに親しめるよう、健康体力づくり教室を開催したほか、体育施設・広場の維持管理などを行いました。
306ページを御覧ください。
２目給食施設費は、吉田町牧之原市広域施設組合共同調理場費の負担金でございます。
308ページを御覧ください。
３目体育館運営費は、総合体育館及び体育センターの運営費でございます。総合体育館につきましては、令和５年度も新型コロナウイルスワクチン接種の集団接種会場として使用しました。また、町民の皆様が快適な環境で安心してスポーツに取り組めるよう適正に維持管理を行いました。

312ページを御覧ください。

11款災害復旧費の支出はございませんでした。

314ページを御覧ください。

12款公債費は、支出済額10億3,184万2,138円で、前年度に比べ6.4％の減となっております。

内訳でございますが、１目元金は９億8,815万2,062円、２目利子は4,369円76円でございます。

316ページを御覧ください。

13款諸支出金は、支出済額13億5,039万8,517円で、前年度に比べ1.4％の減となっております。

２項基金費は13億5,039万8,517円で、財政調整基金に８億5,371万4,718円、減債基金に144円、環境保全基金に298円、小・中学校建設基金に8,626円、教育振興基金に58万6,262円、ふるさとよしだ寄附金基金に４億9,608万8,469円の積立てをいたしました。

320ページを御覧ください。

14款予備費は、当初予算で2,000万円を措置し、そのうち1,038万6,000円を充用いたしました。

充用の内訳といたしましては、能登半島地震の被災地派遣に伴う旅費等が２件、金額で95万8,000円、その他施設修繕費等が６件、金額で942万8,000円でございます。充用件数は、合計で８件、予算現額の961万4,000円は不用額となっております。

次に、職員人件費について申し上げます。

328ページからの節別支出額明細書を御覧ください。

人件費に関わる節は、１節報酬、２節給料、３節職員手当等、４節共済費、８節旅費でございます。

初めに、正規職員について申し上げます。

令和５年度決算時の職員数は233人、令和４年度は231人でしたので、２人増となり、給料、職員手当等共済費の合計支出額は16億4,421万2,737円で、前年度対比0.7％の増となりました。

次に、会計年度任用職員について申し上げます。

令和５年度決算時の職員数は、フルタイム会計年度任用職員が67人、パートタイム会計年度任用職員が170人の合計237人で、会計年度任用職員全体の支出額は５億7,587万7,980円となりました。

最後に、参考資料ナンバー３、決算参考資料の５ページを御覧ください。

一般会計の性質別歳出公債費でございます。主なものを申し上げますと、人件費の構成比は17.4％、物件費の構成比は15.0％、扶助費の構成比は11.7％、補助費の構成比は22.9％で、これらが全体の約７割を占めております。

なお、公債費の構成比は7.8％でございました。

以上が、令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についての説明でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、総務課長、お願いします。

総務課長、太田順子君。

〔総務課長　太田順子君登壇〕

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

総務課からは、第55号議案及び第56議案の吉田町教育委員会委員の任命につき同意を求めることについて御説明申し上げます。

本議案は、吉田町教育委員会の委員を任命するに当たり、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項の規定により、それぞれ議会の同意を求めるものでございます。

初めに、第55号議案でございます。

議案書26ページを御覧ください。

現在吉田町教育委員会委員であります塚本成男委員が本年９月30日をもって任期満了となりますことから、新たに大石佳彦氏を教育委員会の委員として任命したいので、議会の同意を求めるものでございます。

住所、吉田町片岡2220番地の５、氏名、大石佳彦、生年月日、昭和48年７月16日、現在51歳でございます。

大石氏は、平成29年度に吉田町立中央小学校ＰＴＡ副会長を、平成30年度には、同校のＰＴＡ会長、榛原地区ＰＴＡ連行会長を務められるなど、保護者の代表として以前から町の学校教育に深い関わりを持たれております。

現在も地域住民代表として、中央小学校と吉田中学校の学校運営協議会委員に就任され、学校と地域が力を合わせて、地域とともにある学校への転換を図るために取り組んでいるコミュニティ・スクールに積極的に関わっていただいております。

また、大石氏は、平成21年度から23年度まで静岡県商工会青年部連合会理事を、平成24年度には、榛南青年会議所理事長を歴任されていることから、地域の実情に精通しており、人望も厚い方でございます。

このように、大石氏は保護者としての立場と地域住民としての立場の両面から学校に携わっておられるとともに、地域の実情に精通していることから、現在町が取り組んでいる教育改革、吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランを推進していく上で適任であると確信しております。

次に、第56号議案でございます。

議案書27ページを御覧ください。

現在吉田町教育委員会委員であります北澤雅恵委員が本年12月14日をもって任期満了となりますことから、新たに遠藤さとみ氏を教育委員会の委員として任命したいので、議会の同意を求めるものでございます。

住所、吉田町川尻270番地の19、氏名、遠藤さとみ、生年月日、昭和40年１月31日、現在59歳でございます。

遠藤氏は、現在中央小学校のコミュニティ・スクールディレクターとして、学校と地域をつなぐ橋渡し役を担っていただいております。明るく誠実な性格で、家庭や地域の実情に深い関心を持たれている遠藤氏は、地域からの信望が厚く、平成27年度から３年間は保健協力員を、平成28年度から６年間は主任児童委員を、令和３年度から３年間は母子・父子・福祉協力員を、令和４年度から現在まで吉田中学校の学校運営協議会委員を務めていただいております。

また、教育行政の推進に当たっては、女性や子育てをした人の視点が今後ますます必要と

なることから、これらの経験や見識を持つ遠藤氏の役割は大いに期待するところであり、現在町が取り組んでいる教育改革吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランを推進していく上で適任であると確信しております。

総務課からの説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、財政管理課長、お願いします。

財政管理課長、八木邦広君。

〔財政管理課長　八木邦広君登壇〕

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

財政管理課からは、第42号議案及び第48号議案について御説明申し上げます。

それではまず、第42号議案　令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定について御説明申し上げます。

令和５年度吉田町歳入歳出決算書の一般会計の次につづられております令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算書の６ページを御覧ください。

歳入総額１万9,455円、歳出総額１万9,455円、歳入歳出差引残額ゼロ円となる決算をお認めいただこうとするものでございます。

それでは、まず初めに、歳入から御説明いたします。

８ページ、９ページの歳入事項別明細書を御覧ください。

１款１項財産運用収入の収入済額は１万7,347円でございます。これは土地開発基金の利子収入でございます。

次に、１款２項財産売払収入、そして、２款１項繰入金につきましては、実績なしのため収入はございませんでした。

次に、３款１項繰越金につきましては、前年度からの繰越金がありましたので、2,108円でございます。

次に、10ページ、11ページにかけての４款１項預金利子につきましては、収入はございませんでした。

以上が歳入でございます。

続きまして、歳出について御説明申し上げます。

12ページ、13ページの歳出事項別明細書を御覧ください。

１款１項総務管理費の１目一般管理費の支出済額は１万9,455円でございます。これは土地開発基金への積立金でございます。

次に、２目財産取得費及び３目繰出金につきましては、支出がございませんでした。

以上が歳出でございます。

次に、16ページを御覧ください。

実質収支に関する調書でございます。

歳入総額１万9,000円、歳出総額１万9,000円、歳入歳出差引額はゼロ円でございます。翌年度へ繰り越すべき財源はありませんでしたので、実質収支額はゼロ円でございます。

次に、23ページには、令和５年度末土地残高を記載させていただいております。また、この附属資料といたしまして、参考資料ナンバー４の２の令和５年度末土地取得事業特別会計所有地一覧図を提出させていただいております。

以上が、第42号議案　令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定につい

ての内容でございます。
続きまして、第48号議案　令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）について御説明申し上げます。
別冊の補正予算書、令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）の１ページを御覧ください。
まず、第１条でございます。
歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ６億8,661万8,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ144億5,350万4,000円とするものでございます。また、第２項にございますとおり、款項区分ごとの補正額、補正後の歳入歳出予算額につきましては、２ページから４ページまでの第１表、歳入歳出予算補正のとおりお認めいただこうとするものでございます。
次に、第２条でございます。
こちらは地方債の補正をお認めいただこうとするものでございます。
その内容につきましては、５ページにございます第２表、地方債補正を御覧ください。
１の変更でございます。
臨時財政対策債につきましては、2,273万5,000円を減額し、補正後の限度額を2,726万5,000円とするものでございます。
以上が今回の補正予算の内容でございます。引き続き、その詳細につきまして別冊の説明書に沿って御説明いたします。
令和６年度吉田一般会計補正予算（第４号）に関する説明書の３ページを御覧ください。
まず初めに、歳入から御説明いたします。
９款地方特例交付金につきましては、473万4,000円の増額でございます。これは、住宅借入金等特別税額控除減収補塡特例交付金及び定額減税減収補塡特例交付金の交付決定に伴いまして、当初予算措置額を上回る額につきまして473万4,000円増額するものでございます。
続きまして、10款地方交付金交付税でございます。こちらは３億3,223万円増額でございます。これは令和６年７月23日に、令和６年度普通交付税大綱が閣議に報告、了解され、本年度の当町に対する普通交付税の額が６億9,423万円と決定されましたことから、当初予算計上額を上回る額につきまして増額するものでございます。
４ページを御覧ください。
続きまして、14款国庫支出金でございます。こちらは49万6,000円の増額でございます。これは１項１目民生費国庫負担金におきまして、49万6,000円増額でございます。介護保険事業に係る低所得者保険料軽減負担金過年度分につきまして、令和５年度決算に係る精算に伴い、49万6,000円を計上するものでございます。
続きまして、15款県支出金でございます。こちらは2,000円の増額でございます。これは１項１目民生費県負担金におきまして、2,000円の増額でございます。介護保険事業に係る低所得者保険料軽減県負担金過年度分につきまして、令和５年度決算に係る精算に伴い、2,000円を計上するものでございます。
５ページを御覧ください。
続きまして、18款繰入金でございます。こちらは1,529万6,000円の増額でございます。これは１項１目の特別会計繰入金におきまして、令和５年度決算に伴い、介護保険事業特別会

計及び後期高齢者医療事業特別会計から一般会計に繰り入れる額をそれぞれ増額するものでございます。

続きまして、19款繰越金でございます。こちらにつきましては、令和５年度の一般会計決算がまとまったことに伴いまして、令和５年度一般会計の歳入歳出差引額から令和５年度からの繰越明許費の一般財源の額を差し引いた額が５億5,657万円となり、当初予算計上額を上回りましたので、上回る額の３億5,657万円を増額するものでございます。

６ページを御覧ください。

続きまして、20款諸収入でございます。こちらは２万5,000円の増額でございます。これは５項２目雑入におきまして、３節衛生費雑入について、ごみ減量リサイクル推進事業に伴う回収衣類等の資源物売却代２万5,000円を計上するものでございます。

続きまして、21款町債でございます。こちらは2,273万5,000円を減額するものでございます。これは１項８目臨時財政対策債につきまして、普通交付税交付額の決定に伴い、臨時財政対策債の発行可能額も決定いたしましたので、その発行可能額に合わせるよう、2,273万5,000円を減額するものでございます。

以上が歳入でございます。

次に、歳出について御説明申し上げます。

７ページを御覧ください。

１款議会費は110万8,000円の減額でございます。これは１項１目議会費におきまして、人事異動等に伴い、職員人件費110万8,000円を減額するものでございます。

８ページを御覧ください。

２款総務費は1,188万円の減額でございます。

まず、１項１目一般管理費におきましては、人事異動等に伴いまして、職員人件費1,921万4,000円を減額するものでございます。

次に、８ページから９ページにかけての２項１目税務総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費741万1,000円を増額するものでございます。

９ページを御覧ください。

９ページから10ページにかけての３項１目戸籍住民基本台帳費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費７万7,000円を減額するものでございます。

10ページを御覧ください。

３款民生費につきましては、61万1,000円の減額でございます。

10ページから11ページにかけての１項１目社会福祉総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費895万5,000円を減額するものでございます。

11ページを御覧ください。

次に、２目国民年金事務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費593万4,000円を減額するものでございます。

次に、11ページから12ページにかけての３目国民健康保険費において、こちらも人事異動等に伴い、職員人件費161万7,000円を減額するものでございます。

12ページを御覧ください。

４目老人福祉費におきましては、社会福祉施設管理事業費につきまして、3,821万9,000円を増額するものでございます。これは北区いきいきセンターの施設用地購入に係る経費

3,821万9,000円を計上するものでございます。

次に、12ページから13ページにかけての７目介護保険費におきましては、90万5,000円を増額するものでございます。その内訳でございますが、人事異動等に伴い、職員人件費を77万円増額、また、介護保険事業会計繰出金につきましては、令和５年度決算に係る精算に伴い、低所得者保険料軽減繰出金過年度分を13万5,000円増額するものでございます。

14ページを御覧ください。

２項１目児童福祉総務費におきましては、375万円の減額でございます。その内訳でございますが、人事異動等に伴い、職員人件費を432万7,000円減額、また、児童福祉費につきましては、旧ＪＡ神戸支店用地等購入のための不動産鑑定評価手数料を57万7,000円増額するものでございます。

次に、14ページから15ページにかけての３目保育所費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費1,947万9,000円を減額するものでございます。

15ページを御覧ください。

続きまして、４款衛生費につきましては、36万2,000円の増額でございます。

15ページから16ページにかけての１項１目保健衛生総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費312万3,000円を減額するものでございます。

次に、16ページから17ページにかけての３目環境衛生費におきましては、348万5,000円を増額するものでございます。その内訳でございますが、衣類回収ボックスの購入等に係る経費や、生ごみ処理機器等設置費補助金の増額に伴い、ごみ減量リサイクル推進事業費を276万7,000円増額、また、草刈り機の修繕のため、環境保全費を71万8,000円増額するものでございます。

17ページを御覧ください。

続きまして、６款農林水産業費でございます。こちらは51万1,000円の減額でございます。その内訳でございますが、17ページから19ページにかけて、いずれも人事異動等に伴う職員人件費の補正で、１項１目農業委員会費におきましては、143万3,000円の減額、２目農業総務費におきましては、７万6,000円の減額、３項２目の旅行管理費におきましては、99万8,000円の増額をするものでございます。

続きまして、７款商工費は95万1,000円の減額でございます。これは19ページから20ページにかけての１項１目商工総務費におきまして、人事異動等に伴い、職員人件費95万1,000円を減額するものでございます。

20ページを御覧ください。

続きまして、８款土木費でございます。こちらは452万円の増額でございます。まず、20ページから21ページにかけての１項１目土木総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費を419万1,000円減額するものでございます。

次に、21ページの４項１目都市計画総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費208万9,000円を減額するものでございます。

22ページを御覧ください。

２目土地区画整理事業費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費997万2,000円を増額するものでございます。

次に、４目公共下水道費におきましては、公共下水道事業会計の補正予算第１号に伴いま

して、公共下水道事業繰出金を82万8,000円増額するものでございます。

23ページを御覧ください。

続きまして、９款消防費は283万8,000円の増額でございます。これは１項５目災害対策費におきまして、人事異動等に伴い、職員人件費283万8,000円を増額するものでございます。

24ページを御覧ください。

続きまして、10款教育費は1,758万8,000円の増額でございます。まず、１項２目事務局におきましては、人事異動等に伴いまして、職員人件費を1,052万1,000円増額するものでございます。

次に、２項小学校費の１目学校管理費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費を２万2,000円増額するものでございます。

次に、25ページ、３項中学校費の１目学校管理費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費552万7,000円を増額するものでございます。

次に、25ページから26ページにかけての４項１目社会教育総務費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費58万8,000円を増額するものでございます。

26ページを御覧ください。

次に、４目図書館費におきましては、人事異動等に伴い、職員人件費27万5,000円を増額するものでございます。

次に、５項１目保健体育総務費におきましては、人事異動等に伴いまして、職員人件費65万5,000円を増額するものでございます。

27ページを御覧ください。

続きまして、12款公債費につきましては、610万円の減額でございます。これは、平成25年度に借入れを行いました臨時財政対策債の利率の見直しがあり、利率が下がるとともに、令和５年度借入分の借入れ利息が当初の見込みを下回って確定され、利息の支払いが減ることとなりましたので、１項１目元金につきましては10万5,000円を増額し、28ページ、２目利子につきましては、620万5,000円を減額するものでございます。

29ページを御覧ください。

13款諸支出金でございます。６億8,247万1,000円の増額でございます。これは２項１目基金費におきまして、今回の補正に際し、すぐに事業の財源とすることのない収入を積み立てるための支出でございます。その内容といたしましては、財政調整基金に６億8,247万1,000円を積み立てるものでございます。

以上が、第48号議案　令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）についての内容でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（大石　巌君）　ここで、暫時休憩とします。

再開は２時30分としますので、お願いします。

休憩　午後　２時２０分

再開　午後　２時３０分

○議長（大石　巌君）　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は12名であります。

続きまして、町民課長、お願いします。

〔町民課長　伊藤美絵君登壇〕

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

町民課からは、第40号議案、第43号議案、第44号議案、第49号議案、第50号議案、第54号議案の６議案につきまして御説明申し上げます。

初めに、第40号議案　吉田町国民健康保険条例の一部を改正する条例につきまして、御説明申し上げます。

議案書の１ページ、２ページ及び参考資料ナンバー１の新旧対照表を御覧ください。

本議案は、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律、令和５年法律第48号の一部が令和６年12月２日から施行されることに伴い、現行の国民健康保険被保険者証が廃止されますことから、国民健康保険の被保険者証について規定する吉田町国民健康保険条例の一部を改正するものでございます。

改正の内容につきましては、議案書の２ページと参考資料ナンバー１の新旧対照表を御覧ください。

第12条中「第９項」を「第５項」に、「若しくは虚偽の届出をした場合又は同条第３項若しくは第４項の規定により被保険者証の返還を求められてこれに応じない」を「又は虚偽の届出をした」に改めるものでございます。

なお、この条例の施行期日は令和６年12月２日から施行することとし、経過措置として、この条例の施行の日前にした行為及び改正令第９条の規定により、なお従前の例によることとされる場合におけるこの条例の施行の日以後にした行為に対する罰則の適用については、なお従前の例によることとするものでございます。

以上が、吉田町国民健康保険条例の一部を改正する条例でございます。

続きまして、議案書７ページの第43号議案　令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定につきまして、御説明申し上げます。

別冊の吉田町歳入歳出決算書内の吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算書の６ページを御覧ください。

令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計の歳入総額26億9,988万4,623円、歳出総額26億6,585万5,365円、歳入歳出差引残額3,402万9,258円という決算内容をお認めいただこうとするものでございます。

それでは、詳細につきまして、歳入から御説明申し上げます。

８ページからの歳入事項別明細書を御覧ください。

１款国民健康保険税は、調定額７億1,022万8,208円に対し、収入済額は５億9,142万6,324円で、現年度分の収納率は94.19％、滞納繰越金の収納率は30.2％でございます。また、不納欠損額は593万441円でございます。

次に、10ページの２款使用料及び手数料は、収入済額27万7,515円で、保険税に係る督促手数料でございます。

次に、３款国庫支出金は、出産育児一時金臨時補助金で、収入済額１万9,000円、令和５年度４月からの出産育児一時金の引上げにより、令和５年度限りの国費による支援措置でございます。

次に、12ページの４款県支出金は、収入済額18億4,377万7,239円で、保険給付費のうち療養諸費、高額療養費及び移送費分が県から交付される普通交付金と、保険者努力支援分などの特別交付金でございます。

次に、５款財産収入は、収入済額３万5,358円で、基金利子でございます。

次に、12ページからの６款繰入金は、収入済額１億9,957万7,686円で、保険税の軽減措置分である保険基盤安定繰入金などの一般会計繰入金と、基金からの繰入金でございます。

次に、14ページからの７款繰越金は、収入済額4,499万9,884円で、前年度からの繰越金でございます。

次に、16ページからの８款諸収入は、収入済額1,977万1,617円で、保険税に係る延滞金や精算に伴う返納金などでございます。

続きまして、歳出でございます。

初めに、20ページを御覧ください。

１款総務費は、支出済額1,293万4,575円で、事務経費である一般管理費と国民健康保険団体連合会への負担金でございます。

また、22ページの２項徴収費は、国民健康保険税の賦課徴収に係る事務経費、３項運営協議会費は委員報酬等で、年２回開催いたしました。

次に、24ページからの２款保険給付費は、支出済額17億9,363万9,063円でございます。主なものは、１項１目一般被保険者療養給付費の15億3,090万8,654円で、疾病や負傷に係る療養給付費等でございます。

また、26ページの２項１目一般被保険者高額療養費は２億4,498万7,190円で、一部負担金が自己負担限度額を超えた場合に支給したものでございます。

次に、32ページからの３款国民健康保険事業費納付金は、支出済額７億8,770万1,448円で、県へ納付したものでございます。

次に、36ページからの４款共同事業拠出金は、支出済額39円で、退職医療制度に係る事務費でございます。

次に、38ページの５款財政安定化基金拠出金の支出はございません。

次に、６款保健事業費は、支出済額2,557万2,947円でございます。１項１目の保健衛生普及費は、人間ドック委託料が主なものでございます。また、２項１目の特定健康診査等事業費は、生活習慣病に特化した特定健康診査及び特定保健指導を実施いたしました。

次に、42ページの７款基金積立金は、支出済額2,394万1,000円で、令和４年度よりの繰越金から償還分を除いた残りを国民健康保険事業基金に積み立てたものでございます。

次に、８款諸支出金は、支出済額2,206万6,293円で、保険税還付金及び前年度の精算に伴う償還金でございます。

次に、46ページからの９款予備費の充用はございません。

次に、52ページの実質収支に関する調書を御覧ください。

歳入総額26億9,988万4,000円、歳出総額26億6,585万5,000円により、歳入歳出差引額は3,402万9,000円で、翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額は3,402万9,000円でございます。

最後に、54ページの財産に関する調書を御覧ください。

吉田町国民健康保険事業基金でございますが、令和５年度末の現在高は４億1,926万1,643

円となっております。
以上が、第43号議案　令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。
続きまして、議案書９ページの第44号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定につきまして、御説明申し上げます。
先ほどの国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算書の次にございます吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算書の６ページを御覧ください。
令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計の歳入総額３億4,509万3,312円、歳出総額３億4,399万8,126円、歳入歳出差引残額109万5,186円という決算内容をお認めいただこうとするものでございます。
それでは、詳細につきまして、歳入から御説明申し上げます。
８ページからの歳入事項別明細書を御覧ください。
１款後期高齢者医療保険料は、調定額２億9,260万7,600円に対し、収入済額は２億9,155万6,500円で、現年度分の収納率は99.51％、滞納繰越分の収納率は58.44％でございます。また、不納欠損額は13万7,900円でございます。
次に、２款使用料及び手数料は、収入済額１万8,700円で、保険料に係る督促手数料でございます。
次に、３款繰入金は、収入済額5,143万7,309円で、低所得者と被用者保険等の被扶養者であった方の均等割額の減額分を一般会計から繰り入れたものでございます。
次に、４款繰越金は、収入済額66万7,317円で、前年度からの繰越金でございます。
次に、10ページからの５款諸収入は、収入済額141万3,486円で、保険料に係る延滞金でございます。
続きまして、歳出でございます。
初めに、14ページを御覧ください。
１款後期高齢者医療広域連合納付金は、支出済額３億4,265万3,709円でございます。被保険者に納付していただいた保険料と一般会計から繰り入れた減額分を、後期高齢者医療広域連合へ納付したものでございます。
次に、２款諸支出金は、支出済額134万4,417円で、保険料の還付金のほか、督促手数料及び預金利子を一般会計へ繰り出したものでございます。
次に、16ページ、３款予備費の充用はございません。
次に、22ページの実質収支に関する調書を御覧ください。
歳入総額３億4,509万3,000円、歳出総額３億4,399万8,000円により、歳入歳出差引額は109万5,000円で、翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額は109万5,000円でございます。
以上が、第44号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。
続きまして、議案書の18ページ、第49号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）につきまして、御説明申し上げます。
別冊となっております、令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）の１ページを御覧ください。

第１条でございますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ2,402万9,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ27億1,349万2,000円とするものでございます。

また、第２項にありますとおり、款項の区分、当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額につきましては、２ページの第１表、歳入歳出予算補正のとおり、お認めいただこうとするものでございます。引き続き、その詳細につきまして、御説明させていただきます。

別冊の令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）に関する説明書の２ページを御覧ください。

初めに、歳入でございます。

７款繰越金につきましては、2,402万9,000円の増額でございます。令和５年度の決算がまとまりましたことから、歳入歳出差引額と当初予算で計上いたしました繰越金の差額を増額するものでございます。

次に、３ページの歳出でございます。

７款基金積立金につきましては、2,204万7,000円の増額でございます。令和５年度決算及び補正予算（第２号）がまとまり、国民健康保険事業基金に積み立てる額が確定したことから、措置するものでございます。

次に、４ページの８款諸支出金につきましては、198万2,000円の増額でございます。令和５年度決算に伴う精算のため、保険給付費等交付金の普通交付金償還金を152万4,000円、特別交付金償還金を45万8,000円、それぞれ措置するものでございます。

以上が、第49号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）についてでございます。

続きまして、議案書19ページ、第50号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）につきまして、御説明申し上げます。

別冊となっております、令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）の１ページを御覧ください。

第１条でございますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ109万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ４億413万5,000円とするものでございます。また、第２項にありますとおり、款項の区分、当該区分ごとの金額、補正後の歳入歳出予算の金額につきましては、２ページの第１表、歳入歳出予算補正のとおり、お認めいただこうとするものでございます。引き続きその詳細につきまして、御説明させていただきます。

別冊の令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）に関する説明書の２ページを御覧ください。

初めに、歳入でございます。

４款繰越金につきましては、109万5,000円の増額でございます。令和５年度の決算がまとまりましたことから、歳入歳出差引額と当初予算で計上いたしました繰越金の差額を増額するものでございます。

次に、３ページの歳出でございます。

１款後期高齢者医療広域連合納付金につきましては、109万5,000円の増額でございます。令和５年度に収納いたしました保険料のうち、未精算となっている保険料を後期高齢者医療広域連合へ納付するため、増額するものでございます。

次に、４ページの２款諸支出金につきましては、１万8,000円の増額でございます。令和５年度の決算がまとまりましたことから、保険料に係る督促手数料と預金利子を一般会計へ繰り出すため、増額するものでございます。

以上が、第50号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）についてでございます。

続きまして、議案書24ページ、第54号議案　静岡県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約につきまして、御説明申し上げます。

議案書の24ページ及び参考資料ナンバー12を御覧ください。

本議案は、先ほど御説明申し上げました第40号議案と同様に、行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律等の一部を改正する法律の一部が令和６年12月２日に施行され、現行の被保険者証が廃止されることに伴い、静岡県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更するものでございます。

改正の内容につきましては、参考資料ナンバー12の新旧対照表を御覧ください。

別表第１中、被保険者証及び資格証明書を資格確認書等に改めるものでございます。

附則は、この規約は令和６年12月２日から施行すると規定しております。

以上が、町民課から提出いたしました６議案についての説明でございます。御審議のほど、よろしくお願い申し上げます。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、福祉課長、お願いします。

〔福祉課長　増田稔生子君登壇〕

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

福祉課からは、第45号議案及び第51号議案の２議案につきまして、御説明申し上げます。

初めに、議案書11ページの第45号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定について、御説明申し上げます。

別冊の吉田町歳入歳出決算書の最後につづられております、吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算書の６ページを御覧ください。

令和５年度吉田町介護保険事業特別会計の歳入総額21億9,056万8,539円、歳出総額20億9,663万2,802円、歳入歳出差引残額9,393万5,737円という決算内容をお認めいただこうとするものでございます。

それでは、詳細につきまして、歳入から御説明申し上げます。

８ページからの歳入事項別明細書を御覧ください。

１款保険料は、第１号被保険者保険料で、収入済額４億9,442万1,040円でございます。現年度分の収納率は99.35％、過年度分を含めた収納率は98.53％でございます。また、不納欠損額は178万8,240円でございます。

次に、２款使用料及び手数料は、収入済額２万7,300円で、介護保険料の督促手数料でございます。

次に、３款国庫支出金は、収入済額４億1,368万9,646円で、介護給付費に対しての国庫負担金、国庫補助金は財政調整交付金及び地域支援事業費に対しての国庫補助金、事務費交付金、保険者機能強化推進交付金、介護保険保険者努力支援交付金でございます。

次に、12ページからの４款支払基金交付金は、収入済額５億2,709万4,000円で、第２号被保険者保険料でございます。

次に、５款県支出金は、収入済額２億8,934万2,795円で、介護給付費に対しての県負担金及び地域支援事業費に対しての県補助金でございます。

次に、14ページからの６款財産収入は、収入済額２万3,299円で、介護給付費準備基金の利子でございます。

次に、７款繰入金は、収入済額３億7,208万4,000円で、一般会計繰入金及び介護給付費準備基金繰入金でございます。

次に、16ページからの８款繰越金は、収入済額9,092万2,015円で、前年度からの繰越金でございます。

次に、18ページからの９款諸収入は、収入済額296万4,444円で、雑入、預金利子、延滞金でございます。

続きまして、歳出でございます。

22ページからの歳出事項別明細書を御覧ください。

１款総務費は、支出済額4,093万5,874円で、介護保険事業の執行に必要な事務費でございます。主な支出は、１項の総務管理費のほかに、24ページ、25ページの３項介護認定審査会費でございます。

次に、26ページからの２款保険給付費は、支出済額18億3,007万3,937円で、主な支出は、１項の介護サービス等に係る介護給付費でございます。

次に、30ページからの３款基金積立金は、支出済額4,127万6,000円で、前年度決算による介護給付費準備基金への積立金でございます。

次に、４款地域支援事業費は、支出済額１億2,489万5,762円でございます。

32ページからの１項介護予防生活支援サービス事業費は、要介護状態になることをできる限り防ぐことを目的に実施する介護予防サービス等に係る費用でございます。

34ページからの２項包括的支援任意事業費は、地域包括支援センター運営事業や認知症施策推進事業などの包括的支援事業、及び36ページからの配食サービス事業などの任意事業を行ったものでございます。

38ページからの３項一般介護予防事業費は、一般高齢者への運動器の機能向上事業、認知症予防事業、栄養改善事業などの費用でございます。

次に、40ページからの５款保健福祉事業費は、支出済額194万5,441円で、高齢者の自立支援重度化防止対策の事業として、独り暮らし高齢者等緊急通報システム事業などを行ったものでございます。

次に、42ページからの６款諸支出金は、支出済額5,750万5,788円でございます。

１項償還金及び還付加算金は、保険料の還付金及び前年度補助金の精算に伴う国・県等への返還金でございます。

２項の繰出金は、実績による一般会計への繰出金でございます。

次に、44ページ、７款予備費からの充用はございません。

次に、48ページの実質収支に関する調書を御覧ください。

歳入総額21億9,056万8,000円、歳出総額20億9,663万2,000円により、歳入歳出差引額は9,393万5,000円で、翌年度へ繰り越すべき財源はございませんので、実質収支額は9,393万5,000円でございます。

最後に、50ページの財産に関する調書を御覧ください。

吉田町介護給付費準備基金でございますが、令和５年度末の現在高は３億1,793万9,296円となっております。

以上が、第45号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてでございます。

続きまして、議案書の20ページ、第51号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）について御説明申し上げます。

別冊の令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）の１ページを御覧ください。

第１条第１項でございますが、歳入歳出予算の総額に歳入歳出それぞれ9,333万5,000円を追加し、歳入歳出予算の総額を歳入歳出それぞれ22億9,790万1,000円とするものでございます。

また、第２項にありますとおり、款項の区分及び当該区分ごとの金額並びに補正後の歳入歳出予算の金額につきましては、２ページの第１表歳入歳出予算補正のとおり、お認めいただこうとするものでございます。

引き続きその詳細を御説明申し上げます。別冊の令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）に関する説明書の２ページ及び３ページを御覧ください。

初めに、歳入でございます。

５款県支出金につきましては、26万5,000円の増額でございます。令和５年度決算に基づく介護給付費県負担金の精算額と当初予算額との差額を増額するものでございます。

７款繰入金につきましては、13万5,000円の増額でございます。令和５年度決算に基づく精算分として、低所得者保険料軽減繰入金の所要額と繰入済額との差額を増額するものでございます。

次に、８款繰越金につきましては、9,293万5,000円の増額でございます。令和５年度の決算に基づく歳入歳出差引額と当初予算額との差額を増額するものでございます。

次に、歳出でございます。

説明書の４ページ及び５ページを御覧ください。

３款基金積立金につきましては、3,839万7,000円の増額でございます。令和５年度決算及び補正予算（第１号）がまとまり、介護給付費準備基金に積み立てる額が確定したことから、措置するものでございます。

次に、６款諸支出金につきましては、5,493万8,000円の増額でございます。令和５年度の実績に基づく国・県等への補助金返還金と、一般会計からの繰入金に係る精算として、一般会計繰出金を増額するものでございます。

以上が、第51号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）についての説明でございます。

福祉課から提出いたしました２議案についての説明は以上でございます。御審議のほどよろしくお願い申し上げます。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、都市環境課長、お願いします。

〔都市環境課長　鈴木　久君登壇〕

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

都市環境課からは、第53号議案の１議案につきまして、御説明申し上げます。

第53号議案　令和６年度西の宮雨水幹線改修工事請負契約の締結について、御説明申し上げます。

議案書の22ページ、23ページ及び参考資料ナンバー11を御覧ください。

本議案は、地方自治法第234条の規定に基づき、一般競争入札に付した令和６年度西の宮雨水幹線改修工事につきまして、契約の金額を7,128万円、契約の相手方を静岡県榛原郡吉田町住吉1964番地の１、たむら建設株式会社、代表取締役田村安孝とする請負契約を締結するため、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第２条の規定により、議会の議決をお認めいただこうとするものでございます。

参考資料ナンバー11の１ページを御覧ください。

入札結果表でございます。令和６年８月６日午前10時から、吉田町役場２階町民ホールにおきまして、４社による制限付き一般競争入札が執行されました。入札の結果、たむら建設株式会社が6,480万円で落札し、８月９日、落札額に消費税及び消費税相当額である10％を加えた金額の7,128万で仮契約を締結しております。

続いて、参考資料の２ページ、工事等概要書を御覧ください。

工事名は、令和６年度西の宮雨水幹線改修工事、工事箇所は吉田町川尻地先浜田土地区画整理事業区域内で、東名川尻幹線と榛南幹線の交差点付近、大型ホームセンターの北側でございます。工事内容につきましては、参考資料３ページの図面も併せて御覧ください。

今回の工事は、浜田土地区画整理区域内を流れる西の宮雨水幹線の改修工事に当たり、プレキャストカルバートを54メートル設置し、行うものでございます。なお、本工事の工期につきましては、令和６年９月27日から令和７年３月21日までと設定しております。

以上が、都市環境課からの１議案の説明でございます。御審議のほうよろしくお願いいたします。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、上下水道課長、お願いします。

上下水道課長、内田宏一君。

〔上下水道課長　内田宏一君登壇〕

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

上下水道課からは、第46号議案、第47号議案、第52号議案の３議案につきまして、説明申し上げます。

初めに、議案書の13ページ、第46号議案　令和５年度吉田町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について、説明申し上げます。

別冊、令和５年度吉田町水道事業会計決算書の１ページを御覧ください。

１ページから４ページまでが決算報告書でございまして、この金額は消費税を含んでおります。初めに、収益的収入及び支出の収入につきましては、第１款の水道事業収益の決算額は６億3,932万2,428円でございます。その内訳としまして、第１項営業収益の決算額５億6,439万6,267円で、主な項目は、給水収益でございます。

第２項営業外収益の決算額は7,492万6,161円で、主な項目は、長期前受金戻入及び雑収益でございます。

続きまして、支出につきましては、第１款水道事業費用の決算額は５億2,325万1,937円でございます。その内訳としまして、第１項営業費用の決算額は４億7,395万8,746円で、主な項目は、原水、浄水及び配水給水費、減価償却費などでございます。

第２項営業外費用の決算額4,929万3,191円で、主な項目は支払利息及び企業債取扱諸費でございます。

第３項特別損失からの支出及び第４項予備費からの充用はございません。

３ページ、４ページを御覧ください。

資本的収入及び支出の収入につきましては、第１款資本的収入の決算額は8,762万2,000円でございます。その内訳としまして、第１項企業債の決算額は5,700万円でございます。

第２項他会計出資金の決算額は183万4,800円でございます。

第３項国庫県支出金の決算額は1,797万2,000円で、基幹管路耐震化事業に係る補助金でございます。

第４項その他資本的収入の決算額は1,081万5,200円で、工事負担金及び加入分担金でございます。

続きまして、支出につきましては、第１款資本的支出の決算額は３億9,881万7,028円でございます。その内訳としまして、第１項建設改良費の決算額は２億4,881万2,570円で、主な内容は、配水管布設替え工事、水道施設の設備更新工事等でございます。

第２項企業債償還金の決算額は、１億4,949万4,824円でございます。

第３項国庫県支出金返還金の決算額は、50万9,634円でございます。

この結果、欄外に記載しましたとおり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額３億1,119万5,028円は、減災積立金1,900万円、建設改良積立金9,500万円、過年度分消費税資本的収支調整額2,008万7,611円、過年度分損益勘定留保資金１億2,604万7,318円、当年度分損益勘定留保資金5,106万99円で補塡するものでございます。

次に、５ページ、６ページを御覧ください。

令和５年度吉田町水道事業損益計算書でございます。損益計算書の金額は、消費税を含んでおりません。損益計算の結果、当年度純利益は６ページの下から４行目にありますとおり、9,428万4,758円でございます。また、その他未処分利益剰余金変動額の１億1,400万円は、減災積立金取り崩し金額1,900万円と、建設改良積立金取り崩し金額9,500万円の合計金額でございます。以上により、当年度未処分利益剰余金は２億1,161万5,371円でございます。

次に、７ページ、８ページを御覧ください。

令和５年度吉田町水道事業剰余金計算書でございます。最終行にあります当年度末残高は、資本金が32億1,176万9,181円、資本剰余金合計が１億350万4,896円、利益剰余金合計が５億8,361万5,371円でありまして、資本合計38億9,888万9,448円でございます。

次に、９ページを御覧ください。

令和５年度吉田町水道事業剰余金処分計算書の案でございます。当年度末残高の未処分利益剰余金は、２億1,161万5,371円でございまして、議会の議決による処分額1,940万円のうち、資本金への組入れ１億1,400万円は、令和５年度の減災積立金の取り崩し金額1,900万円と、建設改良積立金の取り崩し金額9,500万円の合計金額です。また、減災積立金への積立ては1,000万円、建設改良積立金への積立ては7,000万円とすることを本議会においてお認めいただこうとするものでございまして、この結果、処分後の繰越利益剰余金を1,761万5,371円とするものでございます。

次に、決算書10ページから12ページを御覧ください。

吉田町水道事業貸借対照表でございます。

10ページの資産状況でございますが、固定資産合計66億945万3,267円と、流動資産合計６億3,884万4,017円を加えた72億4,829万7,278円が資産の合計となっております。

11ページの負債状況でございますが、３の固定負債の企業債については、17億5,384万2,156円で、４の流動負債は企業債未払金、引当金、預かり金合わせて１億5,929万7,049円でございます。さらに、５の繰延収益と合わせて負債合計33億4,940万7,830円でございます。

12ページには、資本状況を示しておりまして、資本合計38億9,888万9,448円で、負債資本合計72億4,829万7,278円となり、これが資産合計と一致するものでございます。

以上が、第46号議案　令和５年度吉田町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての内容でございます。

次に、議案書の15ページ、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について、説明申し上げます。

別冊、令和５年度吉田町公共下水道事業会計決算書の１ページを御覧ください。

１ページから４ページまでが決算報告書でございまして、この金額は消費税を含んでおります。

初めに、収益的収入及び支出の収入につきましては、第１款の下水道事業収益の決算額は７億3,273万1,304円でございます。その内訳としまして、第１項営業収益の決算額9,204万9,453円で、主な項目は下水道使用料でございます。

第２項営業外収益の決算額は６億4,068万91円で、主な項目は長期前受金戻入などでございます。

続きまして、支出につきましては、第１款下水道事業費用の決算額は７億1,574万708円でございます。その内訳としまして、第１項営業費用の決算額は６億5,020万5,763円で、主な項目は管渠及び処理場費、減価償却費でございます。

第２項営業外費用の決算額は6,548万859円で、主な項目は支払利息及び企業債取扱諸費でございます。

第３項特別損失の決算額は、５万4,086円でございます。内容は、過年度損益修正損を計上したものでございます。

第４項予備費からの充用はございません。

３ページ、４ページを御覧ください。

資本的収入及び支出の収入につきましては、第１款資本的収入の決算額は８億5,656万4,452円でございます。その内訳としまして、第１項企業債の決算額は２億8,220万円でございます。

第２項負担金の決算額は982万5,730円で、主な項目は受益者負担金でございます。

第３項他会計負担金の決算額は３億5,936万7,722円で、企業債の元金償還に充てるものでございます。

第４項国庫県支出金の決算額は、２億103万4,950円で、管渠の整備や浄化センターの設備更新等に係る社会資本整備総合交付金でございます。

続きまして、支出につきましては、第１款資本的支出の決算額は８億7,189万4,590円でございます。その内訳としまして、第１項建設改良費の決算額５億839万818円で、管渠及び浄化センターの建設改良費でございます。

第２項企業債償還金の決算額は、３億5,936万7,722円でございます。

第３項国庫県支出金返還金の決算額は、413万6,050円でございます。この結果、欄外に記載しましたとおり、資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,533万138円は、３条企業債の借入額1,533万138円で補塡するものでございます。

次に、５ページを御覧ください。

令和５年度吉田町公共下水道事業損益計算書でございます。損益計算書の金額は、消費税を含んでおりません。損益計算の結果、下から３行目にあります当年度純利益は、26万9,416円でございます。また、一番下の行、当年度未処分利益剰余金は154万9,807円でございます。

次に、６ページを御覧ください。

剰余金計算書でございます。最終行にあります当年度末残高は、資本金が2,107万5,223円、資本剰余金合計が４億9,495万304円、利益剰余金合計が154万9,807円でありまして、資本合計５億1,757万5,334円でございます。

７ページを御覧ください。

剰余金処分計算書の案でございます。

議会の議決による処分額はなく、繰越利益剰余金を154万9,807円とするものでございます。

次に、８ページ、９ページを御覧ください。

貸借対照表でございます。

８ページの資産状況でございますが、固定資産合計124億5,749万3,233円と、流動資産合計9,251万3,350円を加えた125億5,000万、6,583円が資産の合計となっております。

また、負債状況でございますが、３の固定負債の企業債については43億5,040万4,352円で、４の流動負債は企業債未払金引当金等合わせて３億4,633万6,734円でございます。

さらに、９ページ、５の繰延収益と合わせて負債合計120億3,243万1,249円でございます。

資本状況でございますが、資本合計５億1,757万5,334円で、負債資本合計125億5,000万6,583円となり、これが資産合計と一致するものでございます。

以上が、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての内容でございます。

続きまして、議案書の21ページ、第52号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）について、説明申し上げます。

別冊の令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）を御覧ください。

第２条でございますが、令和６年度吉田町公共下水道事業会計予算（第３条）に定めた収益的収入及び支出の予定額のうち、収入の第１款下水道事業収益を82万8,000円追加して、補正後の額を７億4,393万6,000円とし、支出の第１款下水道事業費用を82万8,000円追加して、補正後の額を７億2,412万円とすることをお認めいただこうとするものでございます。収入における内訳は、第２項の営業外収益、支出における内訳は、第１項の営業費用でございます。

次に、第３条でございます。議会の議決を経なければ流用することのできない経費として、予算第９条に定めた職員給与費の予定額に82万8,000円を追加し、補正後の額を5,036万円とすることをお認めいただこうとするものでございます。

次に、第４条でございます。他会計からの補助金として、予算第10条に定めた額を5,794万1,000円に改めることをお認めいただこうとするものでございます。引き続きその詳細を、

別冊の参考資料に沿って説明申し上げます。

参考資料ナンバー10の１、吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）、附属書類の６ページを御覧ください。

収益的収入及び支出の収入でございます。営業外収益のうち、他会計補助金の額を82万8,000円増額するものでございます。

７ページを御覧ください。

支出でございます。

営業費用のうち、総係費において、人事異動等に伴って給与に係る費目をそれぞれ御覧のとおり増額するものでございます。

以上が、第52号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）についての説明でございます。

上下水道課から提出した３議案につきまして、説明申し上げました。

○議長（大石　巌君）　以上で、説明が終わりました。

◎報告第８号～報告第１０号の報告

○議長（大石　巌君）　日程第22、法令に基づく報告を行います。

第８号報告　令和５年度決算に基づく吉田町健全化判断比率の報告について、第９号報告令和５年度決算に基づく吉田町水道事業会計資金不足比率の報告について、及び第10号報告令和５年度決算に基づく吉田町公共下水道事業会計資金不足比率の報告についての３件について、各担当課長から順次報告をお願いします。

初めに、財政管理課長、お願いします。

〔財政管理課長　八木邦広君登壇〕

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

第８号報告といたしまして、令和５年度決算に基づく吉田町健全化判断比率について御報告申し上げます。

議案書の28ページ、29ページ及び参考資料ナンバー13を御覧ください。

この報告は、令和５年度決算に基づく健全化判断比率につきまして、地方公共団体の財政の健全化に関する法律第３条第１項の規定に基づき、監査委員の意見を付して御報告させていただくものでございます。

健全化判断比率には、実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率、将来負担比率の四つの比率があり、それらを指標にして財政の健全性を客観的に判断するものとなっております。

当町の令和５年度決算に基づく四つの健全化判断比率は、議案書の28ページの表のとおりでございます。実質赤字比率及び連結実質赤字比率につきましては、対象となる全ての会計において、実質収支が赤字ではないため、いずれも比率は表されておりません。また、実質公債費比率につきましては10.7％、将来負担比率につきましては18.7％となりました。

なお、括弧内に表示いたしました数値は、早期健全化基準を示したものでございますが、いずれの比率もこの早期健全化基準よりも大幅に過少な数値か、数値が表示されない結果と

なり、いずれの指標から見ましても健全な状況であることを表しています。

それでは、別冊の参考資料ナンバー13、令和５年度決算に基づく吉田町健全化判断比率を御覧ください。

最初に、１ページの総括表①健全化判断比率の状況でございます。

上段には、先ほどの四つの健全化判断比率が示されております。財政健全化法では、この四つの指標の値によりまして、財政が比較的健全な自治体、早期の財政健全化が必要な自治体、財政の再生が必要な自治体の三つに区分されます。その結果、早期健全化団体、財政再生団体においては、財政健全化計画、財政再生計画の策定や起債制限など、県や国の指導が行われることとなります。

それでは、個々の比率について御説明いたします。

まず初めに、実質赤字比率でございます。対象となる会計は、２ページの一般会計等の欄にありますとおり、当町では一般会計と土地取得事業特別会計になります。この二つの会計の実質赤字額が、標準財政規模に対してどの程度の割合を占めるかを比率で表すこととなっておりますが、いずれの会計においても赤字が出ていない実質収支となっているため、１ページの総括表には数値が表示されておりません。

次に、連結実質赤字比率でございます。この対象となる会計は、２ページに示されております一般会計、土地取得事業特別会計、国民健康保険事業特別会計、介護保険事業特別会計、後期高齢者医療事業特別会計、水道事業会計、公共下水道事業会計の全ての会計となります。連結実質赤字比率は、対象となる全ての会計の実質赤字額及び資金不足額等の総額が標準財政規模に対してどの程度の割合を占めるかを比率で表すものでございますが、いずれの会計も赤字ではないため、実質赤字比率と同様に、１ページの総括表には数値が表示されておりません。

次に、実質公債費比率でございます。この比率の対象となる会計は、地方公共団体の全ての会計に加えまして、その地方公共団体が関係する一部事務組合及び広域連合の全ての会計が含まれております。この実質公債比率は、標準財政規模に対する公債費等の負担の程度を示す表となるものでございますが、実務上では地方債の借入れを行う場合、協議の対象とするか、許可の対象とするかの判断の基準などに用いられます。具体的には、一般会計等が負担する元利償還金と一部事務組合の負担金や公営企業への繰出金のうち、地方債の償還の財源に充てたと認められる額がどの程度標準財政規模を圧迫しているかを表したものになります。

令和５年度決算に基づく実質公債比率は10.7％となりまして、前年度の10.5％から0.2ポイント上がっております。この要因につきましては、３ページの総括表③実質公債費比率の状況を活用しながら御説明いたします。

比率が上がった要因といたしましては、前年度は令和２年度10.5％、令和３年度10.2％、令和４年度11％の３か年平均で10.5％であったのに対し、令和５年度決算は令和３年度10.2％、令和４年度11％、令和５年度11％の３か年平均で10.7％となり、その結果、前年度の３か年平均よりも高い利率となっております。

また、令和５年度単年度につきましては、算定上、分子、分母ともに増加し、分子、分母それぞれの増加率が同等なため、比率も同等となっております。なお、実質公債費比率は、決算の数値、決められた計算方法により求めた数値、交付税算定資料からの数値をそれぞれ

用いて計算いたしました単年度実質公債費比率の３か年平均で判断することとなっております。こうしたルールに基づいて算出いたしました令和５年度決算に基づく実質公債比率が10.7％となるものでございます。

１ページを御覧ください。

続きまして、将来負担比率について御説明いたします。

将来負担比率は、地方公共団体の一般会計等の地方債残高や将来支払っていく可能性のある負担など、今後予定される財政負担の割合を指標化したものでございます。また、当町におけるこの比率の対象となる会計は、実質公債費比率と同様に、地方公共団体の全ての会計に加え、その地方公共団体が関係する一部事務組合及び広域連合の全ての会計となります。

当町の令和５年度決算に基づく将来負担比率は18.7％となり、前年度の26.8％から8.1ポイント下がっております。この要因につきましては、４ページの総括表④将来負担比率の状況を活用しながら御説明いたします。

算定上、分子に計上される将来負担額は、地方債の現在高が減少し、公営企業債等繰入見込額、組合負担等見込額、退職手当負担見込額、退職手当負担見込額もそれぞれ減少しましたことから、分子全体で前年度より減少となりました。

また、算定上、分母から差し引かれる算入公債費等の額が減少しましたことから、分母全体で前年度より増加となっております。分子が減少し、分母が増加しましたことにより、前年度より比率が下がっております。

ここまで四つの比率について御説明いたしましたが、各比率から見た当町の財政状況はいずれも健全であることが示されております。

以上が、第８号報告　令和５年度決算に基づく吉田町健全化判断比率についての内容でございます。これをもちまして、報告を終わります。

○議長（大石　巌君）　それでは、続きまして、上下水道課長、お願いします。

〔上下水道課長　内田宏一君登壇〕

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

上下水道課からは、第９号報告と第10号報告について説明申し上げます。

初めに、第９号報告　令和５年度決算に基づく吉田町水道事業会計資金不足比率の報告について、説明申し上げます。

議案書の30ページ、31ページ及び参考資料ナンバー14を御覧ください。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第２項の規定により、令和５年度決算に基づく吉田町水道事業会計資金不足比率を算定した結果、吉田町水道事業会計の決算は黒字となっておりますので、資金不足は生じておりません。したがいまして、報告書の資金不足比率の欄は、数字での表示はございません。

続きまして、第10号報告　令和５年度決算に基づく吉田町公共下水道事業会計資金不足比率の報告について、説明申し上げます。

議案書の32ページ、33ページ及び参考資料ナンバー15を御覧ください。

地方公共団体の財政の健全化に関する法律第22条第２項により、令和５年度決算に基づく吉田町公共下水道事業会計資金不足比率を算定した結果、吉田町公共下水道事業会計の決算は黒字となっておりますので、資金不足は生じておりません。したがいまして、報告書の資金不足比率の欄は数字での表示はございません。

以上が、第９号、第10号の報告でございます。

○議長（大石　巌君）　以上で、報告が終わりました。

◎散会の宣告

○議長（大石　巌君）　本日の日程は全て終了いたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。御苦労さまでした。

散会　午後　３時４１分

開議　午前　９時００分

◎開議の宣告

○議長（大石　巌君）　改めまして、おはようございます。

本日は定例会10日目であります。

ただいまの出席議員は12名です。

これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（大石　巌君）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

それでは、議事に入ります。

本日は、初めに第48号議案　令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）の質疑を行い、続いて、特別会計及び企業会計の決算及び補正予算に関する議案の質疑を行います。

なお、特別会計及び企業会計の決算及び補正予算に関する議案の質疑につきましては、総務文教常任委員会の所管課に係る議案の質疑を先に行いまして、続いて、産業建設常任委員会の所管課に係る議案の質疑を、それぞれ議案番号順に行います。

途中、説明員の入替えを行い進めてまいりますので、御了承願います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて、確認の質問とならないようお願いをします。

また、簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑にまで至らないよう御協力をお願いいたします。

また、質疑については、議案の何ページかについて明示をしていただければありがたいと思います。

◎議案第４８号の質疑

○議長（大石　巌君）　それでは、日程第１、第48号議案　令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）についてを議題とします。

これから、第48号議案についての質疑を行います。

最初に、歳入全体についての質疑を行います。

引き続き、歳出については款別に区切って質疑を行いたいと思います。

初めに、歳入全体について質疑を行います。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて確認の質問とならないよう、発言は簡潔明瞭に、審議する議題に関すること以外の質疑まで至らないよう御協力お願いをいたします。

質疑はありませんか。

歳入について質疑はよろしいですか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　それでは、質疑なしと認めます。

次に、歳出に入ります。

１款議会費についての質疑を行いますが、質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、２款総務費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、３款民生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

説明書の14ページ、児童福祉費の中の11の事業、不動産鑑定評価手数料なんですが、場所は説明の中で聞いております。そうした中で、目的のほうも担当課からは聞いてはいるんですが、これ、そもそもこの鑑定に至る経緯というか、その目的があって、目的のためにこの土地がちょうどあったから土地、建物があったというところでこういう話になってきたのか、それとも相手側が、こういう物件があるんだけれどもという申出があったのか。そうした中で鑑定をしていくのか、その点について、まず一点お伺いします。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

まず、議員御質問のありました目的のところに入りたいと思います。

今回、この土地につきましては自彊小学校のすぐ近くということですので、今、自彊小学校の第３児童クラブというのが神戸集落センターをお借りして実施しております。こらちの神戸集落センターは、御存じのように小学校から若干遠いところになりますので、できるだけ近くのところで実施したいとかねがね考えておりました。なかなか距離がありますので、高学年の方しか利用ができない状況でしたので、近くになれば高学年の方も、低学年の方たちも人数が増えてきておりますので、そちらも利用できるかと考えております。

もう一点質問のありました、あと児童クラブ以外にも、子供の居場所も考えております。

子供の居場所としましては、児童館のような機能であったりですとか、子育ての支援センターを行っておりますが、そちらの機能ですとか、子ども食堂や、あと子供が相談できる場所としても考えております。

今回、相手方から売買の意向が示されましたので、このタイミングとうちが必要と考えていたタイミングが合致しましたので、この土地を鑑定させていただいて、予算のほうで、また来年の予算のほうに組み込めればと考えているところです。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

ちょうど合致したというところで、こちらの目的と相手と場所が合致したということで理

解しました。

そうした中で今後、今、課長が言われたように、鑑定額が釣り合ってくれば購入に至る、次年度か分からないけれども、そうしたときに、かつて吉田町としては恒久財産というか、そういった土地を買うというのは非常に慎重にやるよという議論が、何年前かちょっとあれですが、元理事がよくそういうことを言われていました。そうした中で、今、利用目的が児童クラブであったり、子供の居場所というのは理解します。それを、では将来的に見たときに、今、北区非常に人口が増えているというのもあります。子供も増えている。小学校別に見ても、住小なんか本当にもう目も当てられないくらい減っている中で、北区は増えている。自彊は増えている。でも、これがずっと続くのか。

吉田町、面積はある程度決まっている中で、将来を見たときに、ここを買って、今の目的はこれでいいんでしょうが、もうじきピークがもし来たときに、あとどのようにこの土地を使っていくのか、そこまでいろいろ考えながら買っていくという考え方を持ったのか、その点についてお伺いします。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　理事、谷澤です。

今、議員から公有財産の取得については慎重ということで、確かにそうした、当然、町の財産ということになりますので、慎重を期して土地取得なりしていく必要があるかというふうに思っております。ただこれが、やはり今回は子供の安全とか、そうした中で以前から自彊小学校近くに児童クラブ等の設置をしたいということをかねがね言っていたところでして、今回、先ほどこども未来課長が申し上げましたとおり、合致したということで、今回取得に向けた取組をするということで、今回、鑑定評価の手数料のほうを上げさせていただいております。

先ほど恒久財産の慎重ということがありますが、これはちょっといろいろな考え方もあるんですけれども、まず一つは、今回、他のところになりますけれども、保育園であったり、また図書館であったりということで、一部借地でやっていたところもあります。この借地は非常に、私たちはできれば、やはり公の施設ですので、取得をして安定的な事業を展開するということが必要というふうに思っております。

確かに、今、議員がおっしゃられたように、短期的なものであれば取得する必要はないというふうに思っております。やはり中長期的には町として必要だということ、また今回の土地のところにつきましては、自彊小学校、いわゆる学区、それから保育園ということで、今、近くに固まっているという言い方はおかしいですが、そうした子ども・子育てのところの拠点にもなってくると。これはほかのところの地区にも言えまして、例えば住吉であれば住吉小学校が起点となって、その近くに児童クラブがあり、また保健センター、保健のほうになりますが、そうしたいわゆる子育て等のエリアがそれぞれのところにあるということの考え方から、今回取得をさせていただくと。

確かに子供の数が今後減っていくということが推計されるということはありますが、町としましては極力移住、定住を進めながら、大幅な減少といいますか、そうしたことはなくいければというふうに他の政策も打っていくものですから、そこはいわゆる子育ても含めた児童等のエリアというふうな考え方で取得をさせていただくということになります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質問。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

今、増田議員が言ったところですけれども、不動産鑑定手数料についてですけれども、鑑定の結果を見なければ分からないと思いますが、しっかりした建物がついた土地ということで、今、目的もお伺いして分かったわけですけれども、これを実際購入するとき、建物がそのままついているものとしたら、売る側にしたら、建物を解体すると解体費用がかかるということで、それを勘定するとその分安く買えるではないか。

それから、買って今度、利用するに当たっても、建物があって、ああいう建物で中も広いと思いますので、今、目的があって、目的に適するようなら内部の改装というんですか、リフォームというんですか、そういう目的に合った改造をするだけでお金のことも、町からの出費がかなり抑えられると思いますが、その辺はどのようなお考えでおりますか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

議員おっしゃるように使える建物は使わせていただきますので、活用できるものはうまく活用し、建物が実はあそこには二つありますので、一つの建物はそのまま活用できて、中を改装してというような構想ではおります。もう一つの建物については倉庫になっておりまして、耐震性も低いということで、相手方も潰してというような意向を示しておりますので、そこは使えるところを確認して活用していきたいと考えております。

○議長（大石　巌君）　それでは、ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今と同じところです。

今、お話して、今回鑑定すると。これの供用開始はいつ頃になるのか。どういうスケジュールでそこに結びつけるのかというのをお願いします。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課です。

予算が確保されればという形にはなりますが、利用開始は令和９年を考えております。というのも、来年度土地を購入させていただいて、併せて建物の改修の設計をさせていただきます。設計はなぜ必要かと申しますと、国の補助金をいただいてこの事業を行おうと思っておりますので、改修費用に一体どれぐらいかかるのか、どんな建物にするのかといったところの内示を受けましてから、令和８年に入って内示を受けましてから工事を開始して、工事が１年ぐらいということで考えておりまして、開始は令和９年というような予定でおります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　令和８年ぐらいだなと思って、要するに設計、工事開始と。これ１年縮められないものなんですかね。令和７年に建設して、令和８年からもう開始と。要するに地域は望んでいるわけですよね。できるだけ早くそれを達成するという工夫というものはないものなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課です。

議員おっしゃられるように、内部でももうちょっとでも早められないかという意見がございまして、いろいろ私自身も建設は素人なので、専門の方たちにもちょっとアドバイスをいただきながらスケジュールを落しまして、あと県と国にも相談させていただいたところなんですが、どうしても建設、改修工事には１年かかるということを聞きまして、補助金をいただくには年度繰越しはなく、単年度でやれるようにということの指示もございましたので、できるだけ補助金をもらっての事業を行いたいということもございまして、最短でこの時期というような形になりました。

○議長（大石　巖君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　同じところで聞かせてください。

あの建物に関して、地域の人たちのよりどころとなっているＡＴＭがあるんですけれども、今、子供たちのためのそういう国の予算をもらってということになりますと、多分その使い方が非常に複雑になってくると思うので、川尻のような形で壊されるのは、北区の人たち、民間の人たちにとって非常に大打撃を受けますので、その辺の計画というのは盛り込むこととか、そういうのは計画はしていますか。それとも何かの形で残るような形を持っていますか。

○議長（大石　巖君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

今、ＡＴＭのお話ありましたけれども、農協さんともこれまでいろいろな協議を進めている中で、今、建物がありますけれども、あの前に駐車場があるかと思います。あの部分はまだ農協さんがそのまま持つ形になるものですから、そこにＡＴＭであるとか、あとお米等の精米、今ありますけれども、そうしたものはそこに設置をして、道路から入りやすくするという計画は農協さんのほうではあるというふうには伺っておりますので、今、御利用されている方々の利便性というのはそのまま維持されるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の説明でよく分かりました。

駐車場の部分が農協の持ち物ということになれば、あとはＡＴＭとかそういう利便性の問題に関しては農協さんとの折衝ということの形で我々は持っていけばいいわけですね。そういうことになりますね。

○議長（大石　巖君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

今、山内議員がおっしゃられたとおり、農協さんが残る部分については農協さんのほうでそこはしっかりやられるということですので、特に町のほうとの事業調整というのは出てこないというふうには思っております。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　ほかに質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（大石　巖君）　なければこれで質疑を終結します。

次に、４款衛生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

説明書16ページ、３目環境衛生費４の事業、ごみ減量・リサイクル推進事業費の増額補正について幾つか伺います。

８節の特別旅費、費用弁償なんですが、これは自治会の方と一緒に鹿児島県の大崎町というところへ視察研修をされるとのことでした。この町のどういうところを見て、それを、どういう部分を吉田町にどのようにフィードバックしていくかということについて、今想定されていらっしゃることをお聞かせいただければと思います。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

先日から御説明させていただいています鹿児島県大崎町につきましては、リサイクル率が80％を超えていると。家庭から出されるごみの80％はリサイクルをされるというところの中で、様々な分別が行われいるというところでございます。今の時点で、その中で、すみません。私もこれから行かなければいけないという部分もありまして、吉田町としてこうしていくという、今の時点ではちょっと確実なものは持っているわけではございませんが、その視察の中で得た情報につきまして、一緒に行っていただいた住民の皆さんと対話をしながら、一方通行にならないような形で、どういったものなら参考にして吉田町に還元できるかといったことを考えながら進めていきたいというふうに考えています。

実際、今後町の状況というか、そういったものが同じな状況ではないものですから、吉田町として落とし込めるものにつきまして、まずモデル地区を選定させていただく中で、そこでまず実施をさせていただいて、それがうまくいくようなものであるとするなら、それを全町的に広げるというふうな形で進めてまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

今の話ですと、そこで得た情報でまずは、どこかはまだ決めていらっしゃらないかもしれないですけれども、町の中にモデル地区をつくって、そこで実践して、うまくいくようであれば、町内の全自治体に適用していこうという考えかなと認識しました。

そもそものごみの減量、そしてリサイクルの一環として、今回17節で一般備品の購入をすると。これ、衣類回収ボックスということで、内容については協議会でお伺いいたしましたが、これまだ買うと決まったわけではないではないですか。これを購入して、これをどういうふうに使っていくかというところの自治会さんとのルールづくりとか、あるいは実施時期、この辺を含めた運用イメージを少し御説明、聞きたいです。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今回、補正予算のほうにつけさせていただきました衣類回収ボックス等につきましては、まずは自治会、あるいは公共施設に設置をさせていただきます。そこで、ふだん住民の方がそちらに持ってきていただくと。その持ってきていただくに当たって、やはりそれなりのルールが必要であると考えています。というのは、今回、衣類の回収ということで、衣類につ

きましてはリユースを考えています。その服をまた、基本的にはリユースのために回収するということなので、例えば油の染みがあったりですとか、ちょっと使用に堪えないような破れ方をしているとか、そういったものについては持ち込まないようなルールづくりですとか、かばんだったり、靴であったりということも、今後協議して回収業者さんと決定してから協議をさせていただきますが、そういったルールをまずつくって、しっかりそういったのを周知してから回収を始めたいと。

その回収時期につきましては、今後予算をお認めいただいてからすぐに回収ボックスの購入を進めますけれども、併せて事業者、回収業者の選定と各設置施設との協議を進めてまいりたいと。それが、見通しが立ったところで広報を始めて、ある程度一斉にできればというふうには考えていますが、そんな形で進めたいと考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

今のお話だと、僕らそもそも、私はまとめて衣類を町民から供出というか、要らなくなったものを出して、それをリサイクルに回すのがほとんどかなと思ったら、リユースの要素、つまりそのまま別の方に使ってもらうというか、業者が買い取るケースが多いですかね。そのときの選定、要はこれは使えるものだとか、これはこのぐらいの価格というか、引取りの価格になるんですかね。そうしたものが意外と煩雑化してしまうのではないか。例えばそれを自治体に持ち込まれても、自治体の方、そこにおられる担当さんなんかが判断がつくものかどうかというのがちょっと、これ、運用してみて分かることかもしれないんですが、そのあたり、これは業者さんが、一律にもう基準か何かがあって判定するようなものと考えてよろしいのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

実際の近隣市町で進められている衣類回収につきましては、やはりそういった、ある程度職員の選定というか、そういったものもかかっているというふうに伺っています。ですので、当町で行うに当たりましても、そういった対応はしていかなければいけないというふうにはありますが、今後回収業者さんと協議を進めながら、どういったものを持ち込んでいいとかというのも含めて協議をした中で、それと併せた形でルールをしっかりつくった上で、住民の皆さんに周知していきたいと考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　これについてもう一つ、とても潜在的ニーズがあるのではないかと思っています。自宅でもう特に着なくなった服ですとか、本当にずっと置いてあるような衣類、これを、この制度ができたら自治会に持っていけば引き取ってもらえるんだなと思っていらっしゃる方は潜在的にはすごく多いと思うんですが、このルールづくりとか立ち上げに並行して、町民への周知ですね。こういうものを行いますので、この時期から持ってきてもらっていいですよと、ルールはこうですよというようなものを、ぜひ広報というか、そういうものは併用でやっていただきたいと思うんですが、そこについてはどのように考えていらっしゃいますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

そちらの事業の周知につきましては、その準備ができる段階がいつの時点かというのもございますけれども、その広報に間に合えば広報も活用させていただきますし、ＬＩＮＥ等で一斉に周知をさせていただければというふうに考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　分かりました。

では、最後もう一つ、18節の生ごみ処理機の設置費補助金の増額についても伺います。

毎年ある中で、今年は申請件数が少し例年より多いということで、これは増額しておかないと、要は順番とか時間切れとかというのがあるといけないのかなということで、10件程度の増加をしたということですが、生ごみ処理機自体が、もちろん今使っていらっしゃったり、必要性があると感じる方は早めに情報をキャッチして、もう自分で入れている方もいらっしゃると思うんですが、かなり生ごみ処理機って言葉では分かるけれども、そもそも何だというところで、単純に生ごみの総量を減らすだけではなくて、いわゆる家庭ですとか、あるいは自治会のごみ捨て場の悪臭を防ぐ効果ですとか、あるいは処理する物によっては堆肥として家庭菜園で使えるよとか、そのようなメリットを、これをどれだけ分かっている方がいらっしゃって、それを踏まえた上で申請している方がどれだけいるのかというところは、まだまだ件数としては少ないのかなと感じております。

今後このリサイクル、それからごみ減量を進めていく上では、こういうせっかくの補助金、金額の多寡はありますけれども、件数が今後増やしていかれることが望ましいと思われるんですが、そのあたりの生ごみ処理機そのものの紹介というか、こういう機能があるよとか、それを、先ほどの広報とか周知もそうなんですけれども、そこのあたりを頑張って件数を増やしていけば、結果、補正でも増額するというか、来年度はもうちょっと増やそうかとか、そういう形になっていくと思うんですが、そのあたりはどのようなお考えでおられますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

実は今年度、広報をやはり周知をかけさせていただいているというのがあります。チラシを作って町内にある電気屋さんにそのチラシを配って補助金の活用も周知を図ったり、５月30日がごみゼロの日ということの中で、それに併せて広報したりとかということで、いつも以上にちょっと周知をかけさせていただいた結果もあります。

そういった中で、今の盛議員がおっしゃった、こういったものだよという観点がちょっと今までなかった感じがします。ですので、また今後補正をお認めいただいて、周知をかける際にはこういったものというのも含めて周知をかけた中で、皆さんに１台でも多くの生ごみ処理機を使っていただくことで、ごみの削減であったり、その水分量が削減されることでいろいろなメリットがございますので、そういったものだよということも含めて周知をかけさせていただければと思います。ありがとうございます。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　そうですね、生ごみ処理機の効能をよく分かっている方は買う、買わないというか、これ、補助金があるから使いたいということですが、その前の段階で、生

ごみ処理機をうちは入れたほうがいいんだろうかどうなのかというところを考えてもらうために、ぜひホームページですとか、あるいは広報よしだのページで生ごみ処理機ってこういうものです、価格帯はこうです。この価格帯だとこういうことができるけれどもみたいなところから、ぜひ周知していただきたいと思います。終わります。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

今の衣類の回収ボックスということの中で、今お話あったように、まだ使えるようなものはその持ち主がリサイクルショップへ持っていったりできる。それから、本当に使えないものは、広域のほうでも布とかぼろとかというような形で回収しているもので、そういうところへ出すか、あるいは本当にちゃんとした捨てるということもできると思うんです。

それで、今回これをやるに当たって必要性というんですか、そのリサイクルをするためのボックスを置いて、その集めた衣類をリサイクルに回すという必要性、これがちょっと自分には分からないんです。ましてや補正予算でこれを出してきて、当初とか次年度とかということもできると思うんですけれども、なぜ、これを今それが必要なのか。それでわざわざ地域の人を視察に連れていく。そこまでしてこれをやらなければいけない理由というのは何か、目的というんですか、その必要性ですね。それをちょっと伺いたいんですけれども。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今回載せさせていただいたのは、これまで議会の中でも一般質問でいただきましたごみ減量リサイクルということの中で、衣類回収の要請があったりですとか、今回第６次総合計画を策定するに当たりまして、都市環境課としてごみ減量リサイクルに大変ちょっとチャレンジングな目標を設定したという状況がございます。

今回、ごみ減量をするに当たってまずどういったものができるかというところの中で、前にも話をさせていただいておりますが、布、紙類等のごみの成分が多いというところの結果が出ていますので、今回その衣類、紙類とかの中で衣類を回収することによって、まず焼却場に持ち込むごみの減量ができるということがございます。ごみの減量が削減できることによって広域に支払う負担金の量も減らすことができるということの中で、今回衣類回収をまずは行っていこうということで、今回備品の計上をさせていただきました。

あと、それ以外のごみの分別につきましても、行政だけが取り組んでできるものではないということの中で、やはり住民の皆様にもそれを見ていただきながら、どういった分別ができるかというところをやはり進めていく必要があるということの中で、今回補正を組ませていただいて視察をしていった中で、この第６次総合計画のごみ減量リサイクルの目標達成に向けた取組を進めていきたいということの中で計上させていただいております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

ごみ減量リサイクルということで、今、広域のほうでぼろとか布、これも一応引き取ってもらって幾らかの収入を得ているということでありますね。だとしたら特別にこういうことをしなくても衣類の回収のとき、衣類もリサイクルのときの回収で一緒にしてもらえば、別

に問題ないかなと自分は思うんです。そういうことをしないで、あくまでもこういうことをするというのは、また、もう少し違った目的というか、そういう感じもするんですけれども、ただごみの減量リサイクルというと、そういう形で広域のほうの回収のほうにしてもらえればということですけれどもね。

それで、この回収ボックスもどういう形で置くか分かりませんが、きちんとリサイクルするならちゃんとしたものを置かなければいけないし、誰でも手がつけられるところだといたずらされるかもしれないということもありますし、そういうこともあって、なので自分はあくまでもただ減量のリサイクルなら、ぬれてもいい、そういうような入れ物で結局広域のほうで処理すればいいかなというふうに思うんですけれども、もう一回その辺をお聞かせください。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今、広域のほうで取り組んでいただいている衣類回収につきましては、それぞれの町からごみとして持ち込んだものが対象になっているので、吉田町の重量として加算をされてしまいます。その以前に町として衣類を回収することによって持ち込む量を減らすごみ減量が可能になります。ですので、イコールその分負担金が減るということがありますので、今回衣類回収をやらせていただくというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

今の衣類回収ボックスの件なんですが、これは、私は原料として回収していくようなイメージを持っていたので、リユースということで考えていらっしゃるということなので、ちょっと一つお聞きしたいんですけれども、これ制服とか、中学、これからまた制服が新しくなるということでありますけれども、制服等の扱いというのはどのように考えていらっしゃるでしょうか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今、正直そこまで、制服とかというところまでの内容についてはちょっと実際ないというのが現状です。ただ、例えばですが、バザーとかそういったところなのかなと、ちょっと違うところの話になるのかなというふうに思いますが、実際に制服とかというところまでについては検討していない状況です。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

そうですね、これからルールを決めるということなので、そういった中でまたしっかり決めていただく必要があろうかと思いますが、ある意味のリユースということ自体はすごくいいことでありますし、一方で民業圧迫にもなってしまうというようなところの中でのやり方、もしくはルール決めというのが重要かなと思いますので、そこら辺をまたしっかりとやっていただきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

今と同じところなんですが、先ほど八木議員の質問の中で、何で当初のほうでもう先にこういった事業を上げなかったという質問があったと思います。それにはお答えがない。ただ６次計画云々は言われたんだけれども、その６次計画を立てるというのは、昨日、今日立てたわけではないですね。そうした中で、そういったことをやっていこうという考えがある中で、何で当初で上げてこなかったのかというところの答弁をお願いしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

そこにつきましては、以前にもちょっと話をさせていただいた経緯がございますが、当初、衣類回収を、例えば役場周辺の１か所で業者の、例えば大きな回収ボックスを置いた形で、担当課として費用をかけずにやるという目的で進めておりました。しかしながら、いろいろな各市町の取組状況であったりとか、いろいろなことを考えた中で、やはり１か所というよりも一番住民の近い自治会であったりとか、そういうところでやったほうがいいのではないかということの中で、置く場所を分散をした形でやっていくのが妥当ではないかということの中で、今回、すみません、補正をさせていただいた経緯がございます。

あと、すみません、もう一つ答えていなかったのが管理の関係ですけれども、実際、やはり八木議員のおっしゃったとおり管理の面で心配な部分がございますので、そこはやはり施錠がかかるということを前提に施設のほうをお願いをしていきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　計画段階では１か所でやろうというのがもともとあった。で、いろいろ考えた結果、各自治会に置かなければいけないねという話になった。でもその話って、もっと前にその辺は検討できる話ではなかったのかな。すごく不信というか、では最初の計画、まるきりずさんではないのと思ってしまいます。では６次計画をつくるときにそこまで考えていなかったの。その前に調べればわかることでしょう。この頃調べなくても、当時、計画を立てた当時だってそういうことをやっている自治体はあったと思う。そういう中で、そういう１か所では無理だね、無料でやるのは無理だね。これはお金かかるね。その辺の読みというのは十分できたと思うんですよ。

だからそこのところがすごく、今の答弁だとなかなか理解できない。本当に６次計画、あれを見ても、ほかにもそういうところがいっぱいあるのという話になってしまう。計画を立てる段階でもっとちゃんとやっていたのって、今すごく思うところがありますので、もう一度答弁をお願いします。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

実際、業者との協議の中でこういった形ができるというお話を伺いながら進めておりました。当初、大きな外にある鉄製のコンテナみたいなものを業者が置いて、外に設置をしてい

くということの中では、業者のほうで無料で対応できるという話で最初進めておりました。しかしながら、実際住民の皆さんがその利便性を考えたときに、わざわざ中まで持ってこられるかどうかというところも考えた中で、やはりそこは住民の皆さんの目線に立ったところで置いたほうがいいのではないかという考え方で自治会の皆さんの協力を得ながら進めていこうということの中で、今回補正に載せたような形で進めさせていただいたというところでございます。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　その話はもう聞いて理解しています。だから、何か答弁になっていないと思うんですが。議長、どうでしょう。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

今、議員のほうからプランということで、しっかりその辺はしていたのかというところでございますが、今回のまだ第６次につきましては方向性が出ていて、通常ですと、やはり当初予算等踏まえた中で、実施計画を翌年度立てやっていくというのがまず一つ、サイクルとしてはございます。そうした中でもやれるところから始めるということもございますし、予算も踏まえて、以降考えた中で今回始期を定めて、やれるところからまず始めるという中で今回スタートしているのが事実あります。これは、あくまでも目的はやはり資源の再生もありますし、またごみの減量という大きな目標の中で、議員の皆さんからも御指摘もいただいた中で検討して、今回予算のほうも一応計上させていただいたというものがございます。

それからもう一つ、地域の関係のほうが、多分そちらの視察の関係ということもありますけれども、これにつきましては次年度に向けて、一つはモデル地区ということで、方針のほうが一般質問の中でも答弁をさせていただいている中で、次年度進める中で、その事前準備としてまずは状況を確認しなければいけない。そうしなければどんどんスタートするものが遅くなるということの考えの中から、今回予算のほうを計上させていただいているというところがありますので、確かに一番スタートは１年の当初予算というのが一番、確かにそのとおりだとは思いますが、その間にまた見直しをしながら補正を上げさせていただくということもございますので、今回そうしたことで事業のほう、進めさせていただいているというものでございます。ですので、やれるところからまずは始めたいということで今回予算を計上させていただいたということでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

今、ボックスに鍵をつけるというふうなお話で伺ったんですけれども、よその地域なんかだと、月に１回だか週に１回だか、公会堂というか、公民館というか、あそこへまとめてアルミの缶とかそういうものを分別して、その中に衣類もありますけれども、そうして集めてやっているところもあります。それが、やり方が遅れている、古いかどうかというのはちょっと分かりませんが、そういうふうにやっている中で、今こうして鍵をつけると、では鍵の管理は誰がするのか。それでは誰もそのとき、思い立ったときそこへ持っていっても、一々鍵を開けなければいけないというと、では皆さん、町民全員が鍵を持って、そこの地区の人は全部が鍵を持っているかというような話になってしまうんですけれども、鍵の管理とかと

いうと、鍵をしてしまうと、今度使い勝手が悪いということはありますけれども。

それで、自分は今よそのことを言ったのは、そういう形でやっているところもあるものですから、やり方がよく自分では、これから考えていくんだと思うんですけれども、よく分からないものであれですけれども、今、鍵をつけるということ自体については誰が管理するのかというのをひとつお伺いしますけれども。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

鍵の管理につきましては、実際の自治会さんのほう、ですから公共施設であれば管理人がいるところを今考えておりますが、自治会さんのほうで実際御協力いただけるという話を伺っておりますけれども、鍵の管理もそこでやっていただくというふうに考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　同じところです。

説明書16ページの生ごみ処理機等の設置、今度限度額に近づいたので補正で増額します。答えはこちらに求めているんですけれども、例えば浄化槽は上限に達すれば終わり。片や上限に達しそうなので増額します。この事業の違いは何でしょう。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

議員のおっしゃった浄化槽のほうの補助金については補助金の関係がございまして、年度当初に予算立てするときにその計画を併せてやっているわけで、結局年の途中でそこを変えて補正してということがなかなかできないという中で、そちらについては、それ以上やるのであれば一般財源を投入しなければならないというところがございますので、そちらについては一応期日を決めた中で対応させていただいています。

今回の生ごみ処理機については全てもともと一般財源の中で、町としても、先ほどから話が出ていますが、あの環境政策についても今後力を入れていかなければならないという中で、今回非常にＰＲをした中で、今回補助金の申請をされている方が多く、今後まだ見込めているという中で、一応そこについてこの機を逃さずに、やはり出せるものは出していこうということで、今回は生ごみ処理機については増額の補正をしたというところでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　具体的には思いついていないんですけれども、町単で補助金を出すものに関してはオーバーしても補正で対応可能であるという理解でよろしいでしょうか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

町単でやっているものもいろいろあるものですから、その補助金の性質であるとか、そういったものを当然検討させていただいた中で、やはり必要であるというものについては今回みたいに増額をするということはあり得るということで、ただ全てがもう無条件で増額するというものではないので、そこについてはちょっとまた物によって検討させていただきながらということになると思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　確認ですが、なぜ今回、まあ６次という話ですけれども、要するに町がその必要性を感じたという、増額して減らさなければいかんと強く感じた理由は何でしょう。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今回、先ほど申し上げました第６次総合計画につきましては、ごみ減量リサイクル運営につきましては目標設定を掲げた中でやはり進めると。もう一つ言いますと、実際、今取り組んでいる、計画中ですが、環境基本計画を策定していまして、そういった中で、今後町としてもやはり環境について取り組んでいかなければいけないということの中で、ごみ減量リサイクルをできる限り進めるというところで今回補正をお願いしているものでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　６次の目標値というものがあって、全然進んでいない。目標値を達成するために今回補助を出しますと。で、６次の総合計画を見ると、もう達成しそうにないものがいっぱいあるわけです。たまたまこれは声をかけた分がありますが、ほかの補助金でも６次の目標を達成するためにはどんどん補助金を出していきますという考えでよろしいんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

目標値を達成するためにどんどんつけていくという話ですと、当然途中で年数がたってきた中で足りなくなったときに、ではそこまで全部やりますかという形になりますので、必ずしも目標値に達していないから全額をそうしてやるかということではないということで考えております。

ただ、今の段階で町として政策的に本当に進めなければいけない中で、環境面ということについては今非常に世界的にもやはり考えていかなければならないという命題がある中で、ちょっともうそこに取り組むという姿勢で今回は補正をさせていただいたというものになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　それでは、次に、６款農林水産業費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、７款商工費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、８款土木費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、９款消防費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、10款教育費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、12款公債費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、13款諸支出金についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

以上で本議案の質疑を終結したいと思いますが、まだ疑義のある方がいましたら特に質疑を許しますが、いかがでしょう。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　それでは質疑なしと認めます。

これをもって、第48号議案についての質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前　９時５４分

再開　午前　９時５６分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は12名であります。

◎議案第４２号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第２、第42号議案　令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから、第42号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　まずこの162平方メートルの位置というのが、学校の東側であるとは思うんですけれども、どの辺の位置なんですか。45坪。162平方メートル。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

今、議員のおっしゃっているのは参考資料のほうの土地取得事業会計の持っている土地の部分についての御質問でよろしいですね。

○８番（山内　均君）　今、今度買った部分です。162平方メートル。

○財政管理課長（八木邦広君）　土地取得事業で持っている中央小学校のところの162平米でございますが、これについては今の体育館がある部分の下に介在している土地でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　実はこの調書の中でちょっと質問したいことがありまして、実際にはこの中に決算として出ているのは162平方メートルだけですけれども、実際に全協で聞いたときに、中央小学校の建て替える時期、要するに今のこの162平方メートルを含めたどういう構想の中で162平方メートルが位置を占めているんですか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　すみません。議員のおっしゃっているその162平方メートルを含めた場所というのは、道路を挟んだ東側にある一団の土地のことでよろしいでしょうか。

〔「全体ですね」の声あり〕

○財政管理課長（八木邦広君）　まず、土地取得事業の中で所有している財産といたしましては今の162平米のみでして、それについては体育館の下に介在している土地になりますので、多分議員の想像されている一団の土地とは別のものになりまして、そちらについてはもともと一般会計のほうで取得する土地でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　分かりました。

一般会計で踏み込んでいきます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければこれで質疑を終結します。

◎議案第４３号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第３、第43号議案　令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから、第43号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　決算書の８ページ、９ページです。

ちょっと数値があるので読みます。

現在の国民健康保険事業のお金の収支については、県に納める納付金をどう確保するかというところがポイントになるというふうに考えています。納付金の財源としては、保険税、一般会計からの繰入金及び基金からの繰入金、加えて県支出金の特別交付金が主なものです。その中で、保険税そのものを見ますと、一番額としては大きいわけですけれども、その収納率というのは年々上がっているというふうに思います。しかし、一般被保険者の保険税の収納率は83.3％であって、一般会計の町民税の個人の96.6％に比べるとはるかに低い値です。

保険税の収納率を細分化すると、現年分の収納率は94.2％でまあ上がっていっていると。一方滞納繰越分というのを見ますと、その額は年々減ってはいるんですけれども、保険税全体の滞納分が17％を占めていると。それに対して町民税の個人に関しては滞納分というのは３％しかないと。要は滞納分がいっぱい残っていますよということになります。その収納率が30.4％なので、現年分の94％と合わせてその比率が高い分、全体的に収納率が下がって83.3％になっているということです。

収納率を今以上に上げるために現年分の収納率を上げれば、翌年は滞納分が減っていくわけですから、一つは現年分をしっかり集めようという話なんですが、今残っている、その17％ぐらい残っているこの滞納分をいかに減らすかということが、一つの収納率を上げるポイントだと思うんですけれども、それについて、今以上に上げていくためにはどうすればいいかという、そのアイデアというのはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

全協のときにも少し御説明させていただきましたが、収納率向上のために、町民課では税務課と連携し、納付忘れのない、まずは口座振替を推奨しまして、収納率の増加に努めておるところでございます。

町民税個人に比べまして、収納率が低いとのことでございますが、対象者が国民健康保険の被保険者とはまた対象が異なるため、相対的な比較は難しいところであると考えております。収納率は高い状況ではないと認識もしております。現年度分の収納率は議員のおっしゃいますように95％弱と、100％に近い数字にはなっておりますが、滞納繰越分の収納率は議員のおっしゃいますように低い状況でございます。

国民健康保険税の滞納者の傾向といたしましては、被保険者のうち滞納者の割合は約10％程度でございます。その滞納者のうち税の軽減を受けている方、税の軽減には７割、５割、２割軽減がありますが、７割軽減の方の未納が多い状況でございます。

この点につきましては税務課と連携をしまして、納付相談の機会の確保を行いまして、相談時に生活困窮のおそれなどがある場合は、ほかの制度へつなぐなどの支援を行い、きめ細やかな対応を継続しているところでございます。今後の現年度はもちろん、滞納繰越分も含めて税負担の公平性の確保のために、収納率の向上を上げるための広報活動を継続していくとともに、機会を捉えて個別の納付相談を行っていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今の答弁、気になったのが、町民税個人と一般被保険者、国民健康保険の被保険者というのは何が違うとおっしゃったんですか。だから、何か低いのは当たり前みたいなように聞こえたんですが、何が違って、なぜ低くて当たり前なのか、その辺。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

先ほどお答えさせていただきました、町民税のほうと対象者が異なるというのは、国民健康保険のほうは会社を辞めて国民健康保険に加入している方とか、あと自営業の方が対象となります。一方、町民税の個人のほうは、それも含めてですけれども、全体の方たちが対象になりますので、そこで対象が違うということでお答えさせていただきました。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今の説明は理解して、いや、国民健康保険の納付額で、１人当たりの各市町に１人当たり幾らというのが出ますね。それの算定基準が要するに年齢補正した医療指数と、その地区の所得、被保険者の所得の掛け合わせみたいな形で決まってくるという中において、吉田町は静岡県で常に上位なわけです。それは吉田町の高齢化率が低いというのは分かります。もう一点低いのは、吉田町の被保険者の所得が高いという中で、一般的に県下では吉田町の被保険者って金を持っていますよと言われている人が多い。にもかかわらず納めない、低い、その理由は何なんでしょう。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

県に納付する納付金の算出方法につきましては、過去３年間のものを、例えば被保険者数、世帯数、所得、あと医療費水準等を用いて、県が各市町の納付金を決めております。実際その係数、令和５年度におきましては、そこの納付金の係数の指標については、令和元年、令和２年、３年の数値を基に計算されたものになります。実際、そちらの指数での順位につきましては、医療費係数については県下で23番目、所得水準については26番目の順位となっております。それを基に令和５年度の納付金のほうの算出をしております。

ですので、今、議員がおっしゃいました、単年度については所得が県内では高いほうかもしれないんですけれども、納付金のここの算定については、今、過去３年の数値を見て決定しておりますので、所得については26番目となっております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　７番、平野です。

そこは分かりましたけれども、そうすると、昔に比べて吉田町の被保険者の所得はだんだん減ってきているという理解、そうすると１人当たりというのを今後は下がるとは言わないけれども、上がりが少なくなると推定していいと。６年見ればそうなるんですけれども。

別件です。保険税の収納率を上げるということは、一般会計及び基金からの繰入れを減らすという効果があるというふうに思いますが、そのほかに町の努力によって、その収入を上げるというものに関しては、その県支出金の保険者努力支援というのがございます。令和元年度はその金額が578万9,000円でしたが、令和５年度は1,285万3,000円と上がってきています。その順位も令和元年は県下で最下位だったのが、令和５年度は11位まで上がってきていると。だから、その努力というのは大いに買うわけでありますけれども、さらに高みを目指す。上にはまだ10いるわけですから。そのためには吉田町の評価の低い点数は特定健診、特定保健指導、メタボと収納率、この二つがいつも低い状況です。

収納率は先ほどの質問において、もうしっかり努力していただくというふうにして、特定健診や特定保健指導というのを強化すれば、より、なお高い水準に持っていく。そうすると点数だけではなくて、今後の保健医療費というのを抑制することができるというふうに考えますけれども、今のところ特定健診の受診率が40.8％で、特定保健指導の終了率が30.9％。これをよく上げていくということに関しては、何か策はございますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

初めに、特定健診は高血圧、糖尿病、脳卒中などの生活習慣病の要因となりますメタボリックシンドロームに着目をした健診となります。生活習慣病の発症のリスクを早期発見し、予防、改善につなげることを目的として実施をしております。受診率向上のためには、特定健診につきましては、土日も含めた集団健診、町内の開業医等での個別健診及びがん検診との同時開催など、被保険者の方が健診を受けやすい環境の整備に努めて実施をしております。また、特定保健指導につきましても、勧奨通知や電話勧奨を行いまして、管理栄養士による保健指導に努めております。

また、今年度からになりますけれども、新たな取組といたしましては、町民課に保健師を配置しております。専門職の強みを生かしまして、特定健診の受診率の向上、特定保健指導による生活習慣病の予防、改善につなげられますように、健康づくり課と連携、強化を図りながら、効果的な事業を展開していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　ちょっと聞き落としたのかもしれません。人間ドックって行っている人、結構いますね。これは特定健診にはカウントされないんですか、されるんですか。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

人間ドックも受診率のほうには反映されます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（大石　巌君）　なければこれで質疑を終結します。

◎議案第４４号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第４、第44号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

第44号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

これで質疑を終結します。

◎議案第４５号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第５、第45号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから、第45号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書の18ページと33ページで、そのページには介護予防生活支援サービス事業費と一般介護予防事業に、いろいろなサービスに参加してくださった方々の人数というのが表記されています。それは全体像として年々どう変わっていくかというのはトレースできるんですけれども、当局においては男女比というのを把握されているのかということと、把握されているのであれば、それも説明書に表記できないものかというのはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

今、事業に参加した方の男女比ということでございますが、事業ごとの男女別の人数は把握はしております。この説明書の記載方法についてでございますが、事業によっては実人数の記載であったり、延べ人数の記載であったり、それぞれ実績においてどういった記載がよいかというところで、記載によっては異なっている部分がございます。実人員の内訳のみなら可能と考えますが、記載方法全体を含めて検討してまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そこはよろしくお願いします。

なぜ男女比かという話なんですけれども、静岡県がやっているお達者度という――後でちょっとひっくり返すんですが、21年からお達者度をやっていて、令和２年度が最新だと思っていた部分がありまして、令和２年度を見ますと、吉田町の女性は県内順位が９位に下がっています。しかし、数値は過去最高で21.99で、今までより一番健康な、65歳以上より長い期間が21.99だと。それに対して男性は平成29年の18.35をピークとしてどんどん下がっているわけです。令和２年度は17.80と下がってきて、順位も県内で31位になったと。

最初ちょっと口籠もったのは、これが最新だと思ったんだけれども、どうも９月に入ってから全国共通のお達者年齢というのが発表されたという話で、それを比べると順位という点では男女あまり変わらないよという話を聞いたんですけれども、その数値的にはやはり女性のほうが高いというのは変わらないと。要するに男性というのをいかに元気で過ごしていただくためには、やはりある面男性に特化したといってはまた差別だと言われるかもしれませんけれども、やはり男性がどんどん参加しやすくなるような企画とか、そういうアイデアというのはないものなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

今、議員がおっしゃるとおり、今年度、令和６年度から県では、今までお達者度ということで65歳を起点とした健康な期間という数値を県独自で出してまいりました。それが令和６年度、今年度からゼロ歳からの平均余命を使った中での平均自立期間をお達者年齢として、県は公表をしております。

その中で何がどう変わったかと申しますと、やはりゼロ歳からの平均自立期間ということになっておりますので、そこに用いられるデータというものが65歳未満の死亡であったりだとか、そちらのものも加味されての算出になっているということの参考資料から読み取ったものになります。このお達者度とお達者年齢がどう違って、当町のこの新しいお達者年齢、平均自立期間を見たときにどこに課題があるかというものは、もう少し関係課で確認をし合い分析をする必要があるというふうに考えておりますが、男性と女性の差というところで見ますと、なかなか男性のいろいろな事業への参加率というものは、この介護予防事業だけではなくて、いろいろなその前の事業への参加率等を見ましても、差があるという状況は以前からございます。

今回のお達者年齢につきましても、もともとの平均余命、ゼロ歳からの平均余命をいわゆる平均寿命と申しますが、平均寿命がもう女性と男性で６歳くらい差があるということで、そういう男女差による研究によると差があるというものは見られているんですけれども、介護予防への取組への個別というのは、参加しやすい事業というものを町が検討して提供する必要も十分あるというふうに考えておりますし、あとは予防事業に参加するだけではなくて、地域での活動であったりだとか、そういった趣味の活動であったりだとか、これからの65歳以上の方を見たときに、今までの65歳以上の高齢者とは、ライフスタイルであるだとか個人の価値観であるだとか、いろいろが変化してくるのではないかというふうにも考えられますので、そういったところを捉えて、町として何をしていけばいいのか。

それから一番重要だと思われることは、フレイル予防といって虚弱にならないように、それぞれが皆さん取り組んでいただくといったところは、個別の支援プラスポピュレーションアプローチといいますか、地域の中でそういった意識を持っていただく、そういったことにも取り組んでいく必要があるというふうに考えておりますので、どういった事業を立ち上げるかといったところは、今、具体的にこういう事業をやればいいのではないかというところまでは至っておりませんが、地域全体としての介護予防に取り組むといった観点におきましては、もう少し取り組む必要があるというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　弁解するわけではないんですが、吉田町の男性ってシャイなんだと思っているんです。「お父さん、何とか体操に行かない」と言われても「おまえ行ってこいよ」と。結局、女房が行くのは近所の奥さん同士で行くというような、何かちょっと恥ずかしいというふうな。そこを押してやってくれというのも気が引けますけれども、ぜひそこは頑張っていただきたいというふうに思います。

もう一点、お達者度の話は今年の予算審議のときにもお話をして、そのときに答弁として、高齢者の健康づくりは大切であると。生活習慣病予防から介護予防へと連続して対策を打っていく必要がある。そのために、健康づくり課や生涯学習課も活動しているというお話があって、高齢者の健康づくり、介護予防という観点で、その健康づくり課や生涯学習課との連

携というのは進めて、そこの情報交換とか今やっていることの実効性のチェックをするとか、では今度こういう新しいことをやったらどうかと、そういう、もう福祉課だけではなくて連携して、町全体としてそういうことを考えていくというようなシステムはあるのか、ないのか、ないとすれば今後やろうとしているのか、その辺をお願いします。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

福祉課だけではなくて関係課で連携をして、事業の実施なり町のそういった対策について検討し合うというか、そういうことは必要だというふうに考えております。本定例会の町長の行政報告の中でも、高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施について、その取組について報告させていただいておりますけれども、そこの事業につきましては、町民課と健康づくり課と福祉課が連携をして今年度取り組んでおります。

内容につきましては、まずその連絡調整会議というところで担当課長、担当者が定期的に集まり、事業の企画ですね。事業の企画につきましては国保連合会のデータを用いましたＫＤＢシステムというものを活用した地域の健康課題を分析、抽出、そういったものを町民課に、先ほど町民課長から答弁がありましたように保健師が配置されましたので、町民課の保健師がそちらを担当して、それから、健康づくり課ではそこから導き出された必要な対象者への個別への支援、個別訪問等ですね。

それに加えまして、福祉課では通いの場等へ、こちらも専門職、保健師、それから業務委託をしております健康運動指導士が伺いまして、町の健康課題、それからフレイル予防ですね、それについての講話、健康運動指導士による今のお体の状態、体組成測定をして、家庭でも、自宅でも自分で取り組める体操ですね。そういったものを指導というか、アドバイスをして、そういった取組をしております。そこではやはりその三つの課が連携して、協力して、それぞれの役割の下、高齢者の健康度を上げるということで取り組んでおります。

先ほどのお達者年齢についても言えることですけれども、若い世代からのそういった生活習慣であるだとか健康度が、要はゼロ歳からの平均自立期間になりますので、関係しているということで、やはり生涯学習課はスポーツを通してのそういった対象をターゲットにした健康づくり、健康づくり課では重症化予防、そういった疾病の面からの重症化予防、そして福祉課ではもうそのターゲットとしては、先ほど説明しましたフレイル予防、要介護になる手前の方を特に対象にして、その状態、要介護にならないようにといったターゲットを絞ったり、ライフステージに応じた取組が必要であるということで、そちらについては健康づくり課のほうで持っております健康増進計画等でもうたっておりますが、連携して取り組んでまいりたいと思っています。

今年度につきましてはその高齢者の保健事業と介護予防の一体的事業がスタートした１年目ということになりますので、一つ前進したかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

◎議案第４９号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第６、第49号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

第49号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

◎議案第５０号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第７、第50号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

第50号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

◎議案第５１号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第８、第51号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

第51号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

ここで暫時休憩とします。休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時３０分

再開　午前１０時４０分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は12名であります。

◎議案第４６号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第９、第46号議案　令和５年度吉田町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを議題とします。

これから、第46号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

全協でも伺いましたが、有収率が令和４年より3.7％向上。その金額が1,769万円というふうに伺いました。以前、漏水による損失金額の大きさを私が指摘いたしまして、それに対して担当課が漏水を未然に防ぐことにつなげるための配水管の布設替え、こういう工事を行っていただいた結果であるとありがたく思っております。今後も命の水といわれる大井川の伏流水、これを無駄にしないため、またお金を捨てることのないように、有収率を上げていかなければならないというふうに考えておりますが、担当課としてどのように考え実施していくか、お伺いいたします。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

議員がおっしゃいますとおり、漏水をなくして有収水率を向上させ、損失の少ない効率的な水道事業経営を行うには二つの方法があると考えてきました。

一つは調査によって漏水箇所を発見し、これを修繕して、現に起きている漏水を手当てすること。もう一つは古くなった老朽管を、布設替え工事によって現在の最新の材質と最新の耐震性能を有した水道管に変えていくことで、近い将来起きたかもしれない漏水を未然に防ぐという方法です。令和５年度に有収水率が向上しましたのは、これまでの対策が効果をもたらしたからとも考えておりますので、今後も布設替えにつきましても可能な範囲で、最大限必要な予算を措置して対策を進めてまいりたいと、このように考えております。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

要望になるかもしれませんが、来年も予算をこれまで以上にというか、ある程度つけていただいて、この水の損失というものを抑えて、少しでもお金が無駄にならないようにということでお願いしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければこれで質疑を終結します。

◎議案第４７号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第10、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを議題とします。

これから、第47号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　山内です。

今回、剰余金の話が出ました。剰余金、まず資料の47号、令和５年度の決算書、その中での３ページのところにありますね。

まず一つお聞きしたいのは、支出の中で――ちょっと耳をあれしようよ、それなりにやってよ。何回。いい。支出の中で国庫支出金の返還金というのがありますね。これ、突然こういうのが出てきて、ちょっと公会計というのは、我々、その内容を知ることができないものですから、ちょっと教えてもらいたいのは、この返還金というのはどういう類いのものなんですか。

それと同時に、返還金と同時に利益剰余金が出てきていますけれども、その関係というのは何かあるんでしょうか。ちょっと内容を聞かせてください。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

まず先に関連性について申し上げますと、関連性はございません。

先の御質問、返還金はどういうものかということでございます。

国庫、県支出金の返還金につきましては、令和４年度の管渠工事にかかる国からの社会資本整備総合交付金、これを令和５年度に一部をお返ししたというものでございます。

令和４年度の管渠工事につきましては、令和４年度予定してた箇所全てを発注し、工事も完成しておりますが、契約差金によって内示額、交付決定額よりも少ない額で整備することができまして、不用額を生じることとなりましたのでこれを返還いたしました。交付金の仕組み上、内示額は年度末までに一旦全額を受け入れなければなりません。その後、決算をもって不用額が確定し、イコール返還金が確定し、それを翌年度の年度末にお返しするということでございますので、令和５年度の決算の中にこれが登場したということでございます。

続いて、剰余金について説明いたします。剰余金についてでございます。

下水道事業会計におきまして剰余金が発生しておりますけれども、これは一般会計から繰入れをいただいているからであります。この繰入金なしでは26万9,416円の当年度純利益、いわゆる剰余金を生み出すことはできませんでした。かといって赤字の事業とすることはできませんことから、予算において一般会計の繰入れをあらかじめお認めをいただいております。

この繰入金について総額で申し上げますと、令和５年度予算では５億8,052万1,000円繰り入れることをお認めいただいております。ただし１年間事業を執行してまいりまして、決算の見込みを立てる段で、差金等によりまして繰入金の予算額全額をいただかなくとも赤字にならずに済むことが見えたため、令和５年度は繰入金全体では予算のうち4,342万1,000円を受け取っておりません。これは、下水道事業会計の書類を御覧いただくよりも、一般会計決算のほうの８款土木費の中、公共下水道費のページ、この不用額の欄を御覧いただきますと、私が先ほど申し上げました金額が不用額として載っておりますので、御確認いただけると思います。

この4,300万円余りの不用額のうち、ただいま御質問のございました剰余金、これに直接影響するのは、３条の収益的収支に係る予算となります。この３条予算の中では4,008万円余りを受け取っておりません。もし、これを我々が予算で認められているんだからということで全額受け取りますと、当年度純利益、御質問の剰余金ですね、当年度純利益は4,035万

円余りという決算を打つことになります。しかしそれはしておりません。繰入金に不用額が生じたならば、受け取らずに一般会計に不用額としてお返しすべきというふうに考えました。

また、一般会計から繰入金をいただきながら4,000万円を超える純利益、剰余金を生じる決算を打てば、一般の方は、そんなに黒字があるんだったら料金改定しなくていいではないかという誤解を持たれる方もいらっしゃるかもしれません。このような考えから赤字とならないライン、黒字を確保できるラインとしまして、当年度純利益を26万円余りとしまして、翌年度事業費に回す剰余金をここで多少なりとも確保させていただいて、残り4,000万円余りは受け取らない、こういう内容の決算案としたものです。

以上です。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、途中で本音を言ってもらいましたけれども、実際、この下水の予算の決め方というのは、ある程度の予算の金額、純利益をまず出して、それから逆算をしていって、そうしていくと思うんです。そうしていったときに、本来なら我々の中での企業の企業会計、一般企業のときには、剰余金というのは基本的には内部留保金になるわけですね。全てがもうけとして。

その次に補充をして準備をしておくんですけれども、下水の場合には、今言った純利益が基準中の基準であって、その基準を崩すと公共下水道事業の会計の資金不足比率に影響するわけです。ここのところに赤字を出すことはもうあらかじめ分かっていることなんですけれども、そのためにこのものを動かさないで、そうしてそのほかで剰余金が出てきたやつを、まず剰余金を元へ返しましょうと、そういう下水のシステム自体が私はやはり気に入らなくて。

実際にはこれ、ここで決めたわけではなくて国がやっているんですけれども、そういう中で、本当はもう逆算で決めていった中で、我々はその――経営戦略会議というのがこれからやってきますけれども、どういうものか分からないですけれども、そのために税金を、下水道事業を無理して進ませるために税金の中から、町の人たちから負担させろと、そういう意味を戦略会議は持っていると思うんです。

そうすると、その中でこういう剰余金が出てきたとか、いろいろな中で我々にとって、一般町民にとってそれがいいものかどうかというやつを判断をしなくてはいかんと思うんですけれども、私はその、ちょっとオーバーになりましたけれども、そういう意味で今回の予算を見ていくと、剰余金、予算の、これインターネットでちょっと調べていくと、ある中クラスの何とか市、幾つかあるんですけれども、そこには剰余金を戻しなさいと、そういう条例を持っているんですけれども、吉田町にはそういうのはないんですね。

○議長（大石　巖君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

ただいまの御質問の中で幾つかポイントがあったかと思いますが、最後の剰余金を戻しなさいというルールを持っている市町村があるということでございましたが、先ほど言ったのがまさしく、私それに当たると思っています。一般会計からの繰入れをそのまま受け取っていたら4,000万円の剰余金になったものを、それを受け取らずに一般会計に4,000万円返した。要は受け取らなかったということは同じルールだと思っています。同じルールでやっていると思います。

赤字とすることはできませんので、赤字にならない分だけはやむを得ずいただきますが、それ以上の分については受け取っておりませんので、そこはその市町村と同じようなルールでやっていると思っております。

それから最初の中で、下水道につきましては純利益がまず先だということをおっしゃいましたけれども、細かいことを言うとそうではありませんで、まずは来年度の費用が幾らかかるかということを推定します。これが１番です。その次に使用料収入でどれだけ入ってくるんだという収入を見込むのが２番目です。このときに、今は使用料収入のほうが少ないので不足額が出ます。この不足額を繰入金で補って、純利益がちょうどとんとんくらいになるように、辛うじて黒字を保つくらいにやっているということでございます。

そういうことをしていますので、おっしゃるとおり資金不足比率に赤字は生じないということが起きています。一般会計からの繰入金をいただかなければ、あのような資金不足比率の結果も出てまいりません。それはおっしゃるとおりだと思っています。

それから、戦略会議ということをおっしゃいました。恐らく経営戦略のことだと思います。経営戦略の中で税金を投入して無理に進めるということは、そういうことを考える会議、場ではありません。今、一般会計から繰入金がつぎ込まれていますが、これを減らす手だてというのをこの中で考えさせられます。例えば、今我々がやっていることでは、電力の契約先を考えることで電力費を削減する、経費を削減する手だて、こういうものを考えさせられますし、それから使用料の増加策というようなことも考えさせられます。一般会計からの繰入金、税金の投入を減らすことを考えるのが経営戦略の場でございます。

純利益、剰余金が内部留保になるということは御認識のとおりですけれども、4,000万円受け取っていれば我々の内部留保とできたものを、そうはしていないということを繰り返しお答えさせていただきます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、課長が言っていただいて、比率のそれを保つために最初の出した金額、純利益となるものをまず基本において、周りを分かるように移動していくわけですね。それが、そういうシステムが、今言われたけれども、町の人たちにとって、これから下水と確実に決まった以上、そういうものに関して非常に疑問を持つものですから、ここでこういう形で言わせていただくんですが、私としては、本当はやめてほしいと。これからどこまで行くか。

そういう意味で、いつもいつも私の気持ちを出すというのは、そういう、誰にとって、誰のためにというものが非常に欠けていると。それと公平さに欠けている。これからの課題になると思うんですけれども、その辺をこういうような、お金の配分の中で、先ほど言ったできるだけ少なくする。最終的には独立採算制がいいんでしょうけれども、それが無理、恐らく無理ですよね。そうすると、その独立採算制に向けてどこまでやっていけるかというやつをこれから下水の中で、もう事業を縮小しながら健全化に向けていってほしいなというのが、いろいろ勉強していくとそういう形が出るものですから、ここでちょっと無理をしてやらせてもらったわけです。

それともう一つ懸念するのが、この場で恐らく剰余金とか出ると思うんですけれども、債務負担行為、やるではないですか。債務負担行為をやっていくと、我々は自分で仕事をしていると、こういう人件費の高騰、物価の高騰、それを来年度に向けてあらかじめ債務負担行

為に向けて契約の金額を出していくと、恐らく今回のようなこんな上下の中にどんどん上がっていく中で、もっと安全な部分で工事というのは出てくるはずなんです。何を言いたいかというと、債務負担行為にそういう危険性というか、そういうのを私としては含まれていると。安全性のために物価の上昇とか、それ以上のものに関して困らないように業者は出しますからね。

そういうのを含めて下水道事業の会計の中で、できたら先ほど言われた独立採算に近いもの、下水道料金が上がっていると言いますけれども、それはもう完全に分断された中での話ですから、そのやつに関しては、もっと何かそれに代わるものを本当は欲しいんですけれどもね。それは、これから私としては要求していますけれども、そういう意味で今回の下水の決算書ですね。決算に対していろいろ話を聞かせてもらいました。

とにかく剰余金が出てくる。なぜ出てくるのか。本来なら出なくてもいいはずなんだけれども、出てくるのがというところを、できるだけ出ないような形でやっていただけるような形を持っていただきたいと思っています。

質問にはちょっと長いかもしれないけれども、金額の、お金のかかることによって、やはり町の人たちに、誰のためにっていうやつを全面に出てきたものが企業としては欲しいものですから、一応この中でいろいろ聞こうと思ったことがあったんですけれども、ちょっと難しい話なものですから、ちょっとまた改めてやるようにします。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今、同僚議員のほうから下水道事業の独立採算制という話が出ましたので、ちょっと話をしたいと思います。

この一般会計からの繰入金、ここを見ますと令和５年度は5,516万円で、令和２年度からもう３年間で約30％それを削減していると。その基準外を削減しているという状況なんですが、この基準外を下げていけている状況というのは、どういう状況の中でこれが達成できているのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

ただいま御質問のありました令和２年度からの３年間で30％削減できているということの理由でございますけれども、この大きな削減には実は特殊な要因がございます。まず令和２年度当時は浄化槽担当を除いた下水道の職員全員分の人件費を当時は３条予算、収益的収支のほうの予算に計上いたしまして、つまり使用料対象経費としておりました。以後、建設に携わる職員の人件費は４条の資本的収支に移して、使用料対象経費から除いております。これも削減できたという大きな要因の一つです。

また令和５年度ですけれども、ここにも特殊な要因がございまして、令和５年度は４条のほうの資本的収支に係る基準内の繰入金を、４条のほうでは償還に使うわけですけれども、余剰分が出ますので、これを３条の収益的収支に回すことができます。そういうことで、３条の中では基準外繰入金を減らすことができたと。４条のほうからお金が回ってくるものですから、３条のほうで基準外の繰入金を減らすことができていると、そういう仕組みがございまして、令和２年度と令和５年度間の３年間を見ますと30％の削減ができているというのは、ここには実は特殊な要因があったということでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうすると今後はそれほど期待できないということだということの理解でいいですね。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

経費節減とか電力の削減とかで行っております。それからもう一つ、料金の改定によって令和６年度から使用料収入も増えてまいりますので、そういった要因によって基準外の繰入金を減らすことにはつながっていくと思いますけれども、同様に30％ということはちょっと約束できないということです。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　では、ちょっと本題のほうへ行きます。

監査委員の決算審査意見書を見て驚いたわけでありまして、経費回収率38.6％で、令和４年度は53.2％だったわけですね。それを前提として令和６年度は料金改定して、要するに目指すは経費回収率100％だという名目の下、まず33％、約30％、令和６年から増額した。ところが、令和５年度の内容を見ると経費回収率は大幅に下がったわけです。それの原因は何でしょう。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

令和５年度に経費回収率が大幅に下がった要因というのは、ストックマネジメント計画の業務委託費が約5,000万円と大きな額になったことで、費用全体を押し上げて下水道使用料に対する経費回収率がうんと下がったということでございます。

ただ、ちょっと補足をさせていただきたいですが、一般的に経費回収率ということを言いますと、その使用料収入で見れていない分、反対側の分についてはいかにも一般会計からのこの基準外の繰入金が突っ込まれているように思われるかもしれません。今回では三十何パーセントということは、その裏側の六十何パーセントがいかにも一般会計からの繰入れで賄えているように思われると思いますけれども、実はこの六十何パーセントの内訳には、ストックマネジメント計画がそもそも国庫補助の対象ですので、国庫補助金も入っております。

それから、先ほど申し上げました４条からの基準内の繰入金も入ってきておりまして、基準外繰入金がどれだけ負担しているかというので見ますと、去年よりもうんと減っています。24％台まで減っています。ですので、基準外繰入金は減っています。ただ、経費回収率が落ちた理由がストックマネジメント計画の大きな業務委託費であったということは御指摘のとおりです。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　ちょっとそれますけれども、今の答弁で38％以外の六十数パーセントが基準外だと思っているだろうというお話ですが、実はそうは思っていなくて、ところが町から示される資料を見ても、経費回収率が何パーセントかであるということは計算できない。これ去年も言ったと思うんだけれども、要するにその表を出してくれませんか。その経費回収率を当日、朝見て、監査結果を見て、そこで初めて知るわけです。それよりも前に実際に資料として、附属資料あるわけですから、そこにつけていただければ、言ったら令和２年度、

３年度、４年度、５年度とどう変わっていっているのかということを示していただきたいと思うんですが、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

それについては、どの部分が御必要かというようなこともお聞きした上でちょっと考えさせていただきたいと思います。経費回収率という率だけの推移でよいのか、内訳も必要なのかということもちょっと御相談させていただきながら、こちらで出せるものかどうかということを考えさせていただきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　まあ当たり前だと思いますが、数値だけではなくて、何が違うのかというのが分からないと何が起こっているか分かりませんからね。今回だって38％と、ここで初めて聞くしかないわけです。それはちょっと考えてやっていただきたいと思います。

このストックマネジメント、監査委員の報告にもありましたけれども、ストックマネジメント計画、令和６年から10年の策定年度に当たったことなどによって、新たなストックマネジメント計画の策定年度に管渠や処理場費が上がるという話があったわけです。要するに５年置きに計画を立てる前の年にストックマネジメント計画を立てる経費が高くなるので、当然経費回収率は下がりますというふうに考えるわけですけれども、では、この経費回収率後を考えると、次の計画というのは令和10年になるんですね。令和５年に立てて５年後ですから令和10年。令和10年にまた経費回収率が下がることが予想されるわけです。

今の吉田町の料金改定のスケジュールからすると、最終的には令和12年、３回目の値上げをやります。値上げとは言ってない、料金改定をやりますと。そうしたときに、令和11年度にそれを議論するわけです。令和11年度に10年度のがたんと下がった経費回収率を前提として100％にしなければならない。大幅に上げなければならないということにはなりませんよねという、そこをちょっと確認しておきたい。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

今後２度目の使用料改定を議論する中では、実績としての各年の経費回収率を単に並べて議論の前提材料としていただくのではなくて、その原因、例えばこの年はストックマネジメントがあったためだというような原因もお示しして、議論をいただくことになろうかと思っております。議員がおっしゃるとおり、現在のストックマネジメント計画は５年間の債務負担行為でやっているわけですけれども、初年度から２年目、３年目、４年目というのは、調査、調査、調査ということで、保有している資産の調査を行いますので、その年度の業務委託費というのは比較的安くなります。５年目にはその調査結果を踏まえて計画を策定する年になりますので、５年目の年は業務委託費が多くなります。

これは５年目になって初めて分かったということではなくて、もう最初の年に契約する時点で各年度の支出額というのは、もう計画をしておりますのでそれは分かっていることですが、５年目に高くなるというのは事実としてあります。次回のストックマネジメント、ちょうど今回、令和６年度を初年度としまして第２期をやっているわけですが、それについても同じようなことは言えるということになります。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　ということはたまたま令和10年度に下がったものを前提にはしませんということで。で、そのストックマネジメント計画で結局管渠費、処理場、結局これ資産になるわけですよね。結果的には資産になるための計画を使用料対象経費として残しておいていいのか。で、５年ごとにすとん、５年ごとにすとんと、これを繰り返す。今の流れで行くと。そんなものを本当に使用料経費に入れておいていいのかという思いもある。そこはどうですか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

これにつきましては、私も今後の方向について検討していきたいと考えております。ストックマネジメント計画は、議員おっしゃいましたとおり、これまでに建設して、以後資産として保有しております、この下水道の処理場、管渠等の更新を効果的、効率的に行うための計画でございまして、この策定費用自体にも国庫補助を受けられますし、それからこの計画を策定することで、今後行う処理場、管渠の更新に国庫補助が受けられるということから、長い目で見て費用の削減につながりますので、必要な計画だと思っております。

ただ、御指摘のように５年置きの決算のたびに、ちょうど取りまとめの計画策定の年に当たったときには、経費回収率が下がるということを私も経験で、今回実経験として得ました。これから考えますと議員おっしゃったとおりです。この施設更新のための計画策定費用が利用者に負担いただくべきものかどうか。つまり使用料対象経費に含めるべきものかどうかというのは、この事業を進めた中で私も議員と同感に思うところがございますので、今後この方向性を検討してまいりたいと考えております。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　一つだけ、またちょっと聞かせてください。

今いろいろ議論を聞いていて、収入の中の第１項企業債負担金、３項他会計負担金、４項国庫支出金、第５類の他会計補助金。要するにこの中で見ていくと、私が多分、いつもと違った目で見ているのは、繰入金の全部が税金から投入されるわけですね。税金から。そうすると、その税金があたかももう決められて、法定、法定外という中で、あたかもこの３億5,900万円、約３億6,000万円が入ってくるのが当たり前の前提ですね。前提ですね。それは吉田町全域に将来的に行きますよと。町民の皆さんに全部期待をかけて行くならそれでいいんですね。でも、途中でもう令和７年と決めましたよね。そうするとその後はどうなるんですか。その考え方は。

例えば、全てが下水道を使う人たちのために使わない人たちも含めて全部税金を投入していくわけですね。それと確実に決まったその向こう側の意識、改革は、意識はどうなるんですか。ちょっと教えてください。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

議員おっしゃいますとおり、基準内であれ、基準外であれ、税金を原資とした繰入金であることに変わりはないということはおっしゃるとおりだと思います。これ、全域に行くならいいということでございましたけれども、全域に行くということをしますと、これはもっともっと増えていきます。吉田町の財政事業、圧迫どころかというくらいの大きな額になると

思いますので、ここでやめたということです。これ以上増やさないという選択をしたということでございますので、御理解いただきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　私で言うと、本当は平成12年にやる、遅きに失したということです。もう347億円使ってしまって、そうして、それで、それ以上使わないために全体を止めますよと。その原資って誰が払うんですか。そこが一番の自分の公共下水道に対しての異論のあるところです。

要するに、いろいろな理由をつけて、エンドウ先生も来てくれたけれども。でも結局はみんなに税を投入させるための、そのいろいろずっと議員のオーケーを出していますけれども、そのための単なる方策というか――ですよね。そうすると私自身は、この下水道の、毎年ですよ、６億円、７億円、８億円使っていって、少子高齢化になっていって、どこまでもつかという話です。あなたが全部やったら潰れちゃうものすごい金がかかっている。そのために止めたんだよと言うけれども、今後、町としてどういうふうに考えているんですか。

こう決めた、要するに法的に決めたものに関しては、法律が決め、みんなが承認したからいいんだと。逆に言うと北区が外れたらどうなるんですか。その確認を、その確認というか、そういう意識が中にあるのかどうかを、頭の中にあるのかどうかをちょっと聞きたい。吉田町でそういうのを持っていますから。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

ただいま議員の御質問の中に、下水道を止めたことは下水道の区域の中に税金を投入させるため決めたというお考えがございましたけれども、そうではありませんで、区域の外も含めて、これ以上投入を増やさないために決めたということでございます。

それから、どこまでもつかということでございますけれども、これを下水道事業全域に広げていったらとてももたないので、もうここで止めたということです。狭めたということです。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　これを最後にします。

そういう詭弁なんて聞きたくないです。全く詭弁ですね。詭弁そのものです。ということは我々、あなたも外にいますよね。何のために税金を払っているんですか。都市計画税の72％を何のために返済に充てるんですか。これ、町の人たち、よく怒らないと思って。こんな回答をしていたら、国だったら暴動ですよ。そこが私の中での一番のネック。幾ら5,900万円が下がったところで知れてますよね。１割ですよ。まして一番最初に言った、一番困っているのは吉田町の税の収入が55億円。そこへ10億円近い金を毎年出すわけですね。それが本当に今の世の中、議論でいいのかという話です。本当に基本的な議論をしてほしいです。それはやめろということではないです。

以前、副町長が公営企業に関しては不満もあるだろうけども、公平性をという話をいただきました。僕はその公平性という中に、町の人たちが、区域以外の人たちですよ。そういう人たちもやはり恩恵を受けるようなシステム、例えば合併浄化槽を個人の家に入れると。今度、後でやりますけれども、能登半島の地震では建設省が全部入れています。知っています

よね。個人の家にね。知らないですか。そうですか。では今度資料を出しますよ。そういう中で考えているものですから、どうしてもちぐはぐな話になって、だんだん声が大きくなるんですけれども、ぜひ、その辺を町ってどうするんだいという話です。

極論を言うと、北区が外れたらどうなりますか。そんなことはないでしょうけれども。それを視野に入れた大改革、大、何て言うんですか――をやっていかないと、これから先どうなんですか。もしそれができなかったら、課長が言う　1,000億円かかろうが、2,000億円かかろうが全員やることが必要ではないですか。それが公平というものですよね。

ぜひその辺も、私はそういう意味でいつもやっているものですから、あまり他のことに関して聞いていませんので、もう私の中ではそれが一点でやっていますので、不満があるかもしれないけれども、そういう形で、ぜひその辺も考えてください。その辺は、もしありましたら。ぜひ、執行部にお願いしたいですね。どういうふうにこれから先を、吉田町を運営していくのか。ぜひお願いします。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

議員の御意見は受け止めながらも、私は所管する下水道事業において基準外繰入金を、予算においても決算においても減らすことに尽力をしてまいります。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　最後にだけ、私としては、町の人たちみんな、下水道課全部みんな一生懸命やっていますので、それを否定しているものではありません。吉田町の30年後、50年後、あと20年たって、浄化センターをやって50億円ですよね。私はどこでやめるかだけだと思うんですよ。そういうものを含めて考えていただけたらなと。その中で一般会計から入るのが当たり前ではなくて、町民のために何ができるかを考えていただきたいという思いでやっていますので、よろしくお願いします。ぜひ、答えありましたら、何かありましたよ、話ないですか。

○議長（大石　巌君）　答弁はよろしいですか。なければ。

〔「考え方を聞きたいです」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　特に答弁はないようですが。

ほかに質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（大石　巌君）　質疑がなければこれで終結をします。

◎議案第５２号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第11、第52号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

これから、第52号議案についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

◎散会の宣告

○議長（大石　巌君）　以上で本日の日程は終了しました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午前１１時２４分

開議　午前　９時００分

◎開議の宣告

○議長（大石　巌君）　改めましておはようございます。

本日は定例会11日目でございます。

ただいまの出席議員数は12名であります。これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（大石　巌君）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎一般質問

○議長（大石　巌君）　日程第１、一般質問を行います。

会議規則第57条第１項及び第２項の規定によりまして、期日までに通告を受け、質問を許可しております。また、同条第３項の規定によりまして、質問の順序は通告順といたします。

１人の質問及び答弁に要する時間は60分以内です。関連質問はございません。

それでは、順番に発言を許します。

◇　楠　元　由美子　君

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

〔４番　楠元由美子君登壇〕

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元由美子です。

私は、令和６年第３回吉田町議会定例会の一般質問におきまして、事前に通告してありますとおり、能満寺山公園周辺の整備についてお尋ねします。

能満寺山公園周辺は、イベントがないときでも、特産品のウナギを取り扱う飲食店に長蛇の列が見られ、小山城前広場や展望台小山城へと足を運ぶことも予想され、常に県内外の人が集まりにぎわう、町が誇る観光スポットと実感しております。

トレーラーハウス型カフェとともに展開しているアンテナショップは、お店を持たない町内の事業者の魅惑のスポットとして展示販売が始まり、３年がたった現在、さらなる展開を期待される町民もいるのではと予想しております。

能満寺山公園内の環境整備は以前より整備されつつあり、観光スポットを紹介する案内看板が新たに設置され、インバウンドで訪れる外国人や町内で活躍される外国人にも優しい公園になってきました。今後も様々な世代へ親しまれる公園への取組を期待しております。

今年度、高台部分の駐車場整備計画では、西側から入場が可能になり、展望台小山城へのアクセスと来訪者の利便性向上が図られると期待しております。あわせて、この西側入り口

に設置されている吉田町郷土資料館の充実も今後必要と考えられます。現在は、日曜日・祝日のみの開館となっており、夏休みやお正月に帰省される方々に入館できる機会が限られているのがとても残念です。また、この資料館内の空調設備は不十分であり、猛暑が続いた今年の夏は、訪れた方々への配慮が行き届かなかったのではと心配しております。

以上を踏まえ、以下を質問します。

(1) ３年経過したアンテナショップによる経済効果など、町はどのように感じているか。また、今後の展開についての町の考えは。

(2)能満寺山公園内にて新たな憩いや安全（ベンチ増設、階段の照明など）への取組計画はあるか。また、小さなお子様からお年寄りはもちろん、20代、30代など若者にもっと親しまれる公園への新たな取組はあるか。

(3)展望台小山城、また吉田町郷土資料館にさらなるにぎわいをもたらすための施設整備など、新たな取組はあるか。

以上が私の質問の要旨であります。明確なる御答弁をよろしくお願いいたします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　能満寺山公園周辺の整備についての御質問のうち、１点目の３年経過したアンテナショップによる経済効果など、町はどのように感じているか、また、今後の展開についての町の考えはについてお答えをいたします。

小山城前アンテナショップにつきましては、令和３年５月に新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、新型コロナウイルス感染症の影響によりイベント出店の機会が減るなどの影響を受けた、店舗を持たない事業者の商品の販売、ＰＲの場の提供や起業を目指す人のチャレンジの場の提供など、事業者支援の目的のほか、小山城周辺のにぎわいづくりの拠点を創出することを目的として、販売スペースと調理設備を兼ね備えたトレーラーハウス型のアンテナショップを開設いたしました。

この小山城前アンテナショップの運営につきましては、公募型プロポーザル方式により事業者を選定し、その事業者に運営を委託しており、現時点においては出品商品の販売等の管理運営、併設しているカフェの営業と併せて、小山城周辺のにぎわいづくりにも取り組んでおります。

このように、小山城前アンテナショップの開設から３年が経過した中で、議員御質問の経済効果につきましては、まず事業者支援については、現在町内で店舗を持たない五つの事業者の商品を販売しており、商品の販売やＰＲの場として提供をしております。

これまで、開設当初から出店されていた事業者が、小山城前アンテナショップを通じて知名度を向上させ、販路を拡大し、現在はインターネット販売やイベント等に出店するなど、小山城前アンテナショップが事業拡大の契機となって昨年度に独立をしており、チャレンジの場の提供という面でも効果が出始めております。

さらに、現在の小山城前アンテナショップの運営事業者は、もともと町の地域おこし協力隊として活動をしており、その活動で得た人脈や企画力を生かし、令和５年度には音楽イベントやミニ縁日をはじめ、15回のイベントなどを開催するなど、小山城周辺におけるにぎわいづくりにも取り組んでおります。また、町といたしましては、こうしたイベントの様子を

広報よしだや、町公式インスタグラムにも掲載をし、町のにぎわいについて町内外に広く情報を発信しております。

小山城前アンテナショップにつきましては、新型コロナウイルス感染症を契機として始まった事業ではございますが、今では事業者の販路拡大や起業などの場として活用されております。また、小山城周辺のにぎわいづくりにも貢献しているものとなっておりますので、町といたしましても、小山城周辺のにぎわい創出の拠点として事業を継続してまいりたいと考えております。

次、２点目の能満寺山公園内にて新たな憩いや安全（ベンチ増設、階段の照明など）への取組計画はあるか、また、小さなお子様からお年寄りはもちろん、20代、30代など若者にもっとして親しまれる公園への新たな取組はあるかについてお答えをいたします。

能満寺山公園は、昭和56年４月３日付県告示第376号において、面積5.9ヘクタールとして都市計画決定された特殊公園であり、そのうち現在までに２ヘクタールが供用開始されている、吉田町のほぼ中央に位置している公園でございます。

議員の御質問にあります、能満寺山公園内において新たな憩いや安全への取組計画はにつきましては、現在、当該公園内にはあずまや１軒とベンチを２基設置しております。展望台小山城周辺の散策に訪れた方などは、このあずまややベンチを利用するほか、芝生広場にレジャーシートを敷くなどしてくつろいでおり、現時点における利用状況を考えますと、充足しているものと判断しておりますことから、増設することは考えてはおりません。

また例年、憩いの取組といたしまして、能満寺山公園の夜桜、展望台小山城のライトアップを実施しております。この際、来場される方に転倒などの危険がないよう、女坂の階段部分に設置している既存のフットライトを点灯させ、さらには階段周辺に臨時的に投光器を設置することで、周辺の明るさも確保し、加えて警備員を配置して対応しております。

このような安全対策を図ることにより、夜間に実施する各種のイベントや展望台小山城の夜間開館にも対応ができておりますことから、新たに階段照明を設置する計画はございません。

なお、その他の安全対策といたしましては、令和元年第４回議会定例会において議員から御質問がありました女坂の手すりについて、現在、設置に向けた発注準備を進めているところでございます。

小さなお子様からお年寄りはもちろん、20代、30代など若者にもっと親しまれる公園への新たな取組につきましては、令和２年度から小山城売店しらすのまどぐちリニューアルオープン１周年を記念して、御城印の販売を開始し、来場者の拡大を図っております。

さらに、令和５年度には、ＮＨＫ大河ドラマ「どうする家康」の放送に合わせて、徳川の葵の家紋が入った御城印を数量限定で販売したところ、大変好評であり、展望台小山城や能満寺山公園のＰＲ効果として成果を得られているものと捉えております。

また、その他の取組といたしましては、小山城まつりにおける会場や展望台小山城までを周遊いただくためのスタンプラリー、静岡県観光協会と連携して小山城を経由する吉田町内周遊ツアー、するが企画観光局と連携して小山城や能満寺を散策しながら歴史を学んでいただくＭＡＮＡＶＩＶＡの実施など、様々な世代の方に興味を持っていただけるような事業を展開しているところでございます。まずは、こうした既存の取組を充実させていきたいと考えております。

最後に、３点目の展望台小山城、また吉田町郷土資料館にさらなるにぎわいをもたらすための施設整備など、新たな取組はあるかについてお答えいたします。

現在、吉田町郷土資料館西側の高台部分の駐車場整備を進めており、この駐車場の整備に合わせて、駐車場から展望台小山城や吉田町郷土資料館に直接アクセスできる動線を確保してまいります。こうした整備を実施することで、お年寄りや車椅子を利用されている方も来場が容易になり、集客にもつながっていくものと考えております。

さらには、令和元年第４回議会定例会において、樹木管理について議員から御質問がございましたが、施設周辺の環境整備といたしましては、例年実施しております樹木の伐採や園路上部にかかる樹木下枝の剪定に加え、大規模に展望台小山城周辺の樹木の剪定を実施する予定であり、これにより施設への採光の確保を図ってまいります。

このように、今後も様々な世代の方々が利用しやすく、にぎわいをもたらす施設となるよう取り組んでまいります。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

町長から御答弁をいただきました。いろいろな取組を町のほうも行っていることがいろいろ分かったわけではありますが、少し再質問をしていきたいと思います。

まず、１の再質問をいたします。

先ほど答弁の中で、アンテナショップの運営の詳細のほうをお聞きしたところではあります。事業者のカフェの営業も順調ににぎわっているということと、そちらに出店されている事業者さん、町内で店舗を持たない五つの事業者さんの商品の販売ＰＲのほうも、よいにぎわいにつながっているということでお聞きしました。

また、販路のほうの拡大も進み、インターネットの販売、またイベントなどで出店するなどと、事業の拡大の契機になって、こちらのほうがよい影響を受けているということを聞きました。

また、令和５年度、音楽イベント、またミニ縁日などと、15回のイベントがもう開催されているということで、すごく貢献されていると思うんですが、さらなるにぎわいを求めて、ちょっとお聞きしたいと思います。

このトレーラーハウス型のカフェの中で、アンテナショップを紹介されているスペースがございますが、かなり限られているような現状であります。どうしても、やはり小物など、そういったものを取り扱うような事業者の方の利用が多いかと思います。町内でお店を持たない事業者は様々であります。今後、幅広い事業者に利用されるようなスペースを用意した展開などの考えはありますか、お願いします。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

それこそ、この事業者、今答弁にありましたとおり、五つの事業者が今中で展示販売しているわけでございますけれども、やはり限られたスペースの中でやっておりますので、スペースを大きく取るということはなかなか難しいんでございますけれども、販売している方もやはりインターネットであるとか、ほかのところにこういうものを、インターネットである

とか、そういうもので販売する方がやっぱり多数おりまして、なるべくそこにもいろんなことで紹介させたいというところもございまして、イベントの中にはその出店者がじきじきにというか、あそこの店舗のトレーラーハウスの前で展示販売をするような企画もこのアンテナショップの中ではやっておりますので、そういうところでもっと自分の事業を広げていくとか、こういうものがありますよというような紹介もさせていただいております。

あとは、なかなか中に常時置くというのも、これからいろんな方が、希望があれば少し検討はしていくわけですけれども、ただこういうイベントを通じて、そういう方もマルシェみたいな形でそこに来ていただいて、そこで販売をしていきながら、にぎわいづくりにも貢献していくというようなイベントも開催しておりますので、今のところはそういうもので、にぎわいづくりも含めて販路拡大にも貢献していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　ありがとうございます。

そのアンテナショップのところのスペースで展開されている事業者さんが、さらに販路が広がるような形で、イベントなどでトレーラーハウス前のところで出店されることもあるというような今答弁をいただいたところでありますけれども、ちょっと教えていただきたいのが、そのトレーラーハウスの前で出店される出店者さん、それはそのアンテナショップのところで関わっている店舗さんだけを限定されているのか、それともう少し公募されて、ほかの事業者さんも取り入れているのか、その辺はどうなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今やっている一つのイベントとして、中で今販売をしている五つの事業者さんが前でやるというのも一つの企画としてございます。マルシェにつきましては、今実際委託を受けている業者が、答弁の中にありましたとおり、自分のつてであるとか、そういうものも含めて広くお声がけをさせていただいて、そういう方もこういうイベントには参加していただいてやっておりますので、イベントイベントごとに、販路の拡大というイベントとしてその前でやるという場合もございますし、ほかの方にも声がけをさせていただいて、広い大きなイベントとしてそこで開くということもございますので、そこの方だけに限定して常にやっているというわけではございません。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　はい、分かりました。

幅広くいろいろな事業者さんへのお声かけもしているということで、広がっているなということを今認識しました。

結構、コロナになってから、公園でのマルシェ、そういったイベントとかが目立ってきている現状であるんですけれども、北オアシス館で本当にいつもにぎわっているイメージが強いわけなんですが、出店者さんも、例えば野外で出店される場合はテントを張って出店される方がいますけれども、例えば北オアシス館とかですと、建物の中で出店をされるとかして、もうちょっといろいろな方が参加できるようなイベントで盛り上がっているような状況であります。

この小山城前の広場のところもいつもいろんな方がみえるので、そういった屋根つきのところでちょっと出店されたいよとか、またワークショップみたいなものですか、そういったものとかも展開していきたいよとかといった方向けの屋根つきの建物を設置して、その中の一画を１日から貸出しが可能なレンタルスペースなどを展開するような、そういった、町が先頭に立って建物を造って展開していくような、そういった考えとかは町はお持ちではないでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

そのイベントのやり方だと思います。例えば、建物の中でそういうものをやりたいという方もいらっしゃいますし、例えば小山城広場であれば、芝生広場の開放的なところでやはりやりたいという方もおります。町内でやはりイベントを開くにしても、北オアシスパークでやる場合もございますし、小山城でやる場合もあります。あとは、吉田公園とかも利用してやる場合もございますので、多分そのやり方次第では、そういう建物の中でやれるものがあれば、そういうものを利用してやるというイベントを組むのは、この場所以外のところでも町内であればできますし、吉田公園であれば、吉田公園のやはりそういう特色といいますか、利点を生かした中で、そういうイベントを開くというものもございますので、それはあそこに物を建てるというよりは、町内のあらゆる施設を使いながらイベントを組んでいくということのほうが大事ではないかなというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　町の考えが分かりました。

では、小山城前広場には、あと、しらすのまどぐち、こちらのほうも展開されております。こちらのほうは、本当に定期的なレイアウトの変更ですとか、商品の種類も大分増えてきまして、店内の商品の充実がとても図られているなと思っております。

ただ、通路がすごい狭いので、お客様がゆっくり店内を回れないのではないかと感じております。町の特産品を取り扱う唯一の店舗だと思っております。もっと充実した建物へと期待しますが、町はどのように考えていますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま、しらすのまどぐちの内部のレイアウトといいますか、そちらの御質問だと思います。今、しらすのまどぐちにつきましては様々な商品を扱っておりまして、特にシラスを重点とした商品の扱いというところで進めているところでございます。

店舗内、確かに狭いということで、ちょっと通りづらいというようなお話がありましたけれども、そちらにつきまして、大規模にそちらの中のほうを改修して通路を確保するとかというところがなかなか困難だと思われますので、そういったところにつきましては、やはりレイアウトとか、そういったものを工夫しながら、通路が滞留しないような形で考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　楠元です。

そうですね、こちらのしらすのまどぐちの職員さんたちが本当にいろいろ試行錯誤されて、町のほうもアドバイスをしているのだと思うんですけれども、本当に見やすいレイアウトと、また通路のほうもある程度回りやすいようにはなってはいるところではありますけれども、町の特産品を本当に取り扱っている、ここしかないんじゃないかと思うお店だと思うんですね。なので、もうちょっと建物自体も充実させてもいいのではないかなと私は考えるんですけれども、例えば近隣市町ですと、公園内に官民連携の事業を展開している施設とかも見受けられます。また吉田町でも、吉田公園南側で今後そのような展開に向けた動きがあります。この小山城前広場でそのような事業ができたらと期待しますけれども、町はどのように考えますか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、吉田公園南側整備というところでお話がありましたのでお話しさせていただきますが、官民連携事業の中でやっていく中では、やっぱりシーガーデンシティ構想という一つの構想の中で考えていく中では、小山城単体で考えるわけでもありませんし、南側整備の中の単体で考えるわけでございません。あくまでもシーガーデンシティ構想というのは、町全体をどういうふうな動線を導き、連動させてにぎわいをつくっていくかということになりますので、そういう中で、全ての施設をどういうふうに連携していく中で、そういう小山城の今後の整備についても検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　明るい未来がちょっと見えた気がしましたので、次の質問をさせていただきます。

次に、２の再質問をいたします。

先ほど、能満寺山公園の憩い、また安全への取組の計画のほうを答弁いただいています。ただ、能満寺山公園の中のベンチ、こちらはもう大分経年劣化が進んでおります。安全性、景観も損なわれていると思うので、新しくするべきと私は考えます。

また、今後高台の駐車場が利用可能となれば、先ほど答弁でもありましたけれども、高齢者、障害者、またベビーカーを利用したファミリーなどへの利用も期待ができます。公園内の園路の舗装、また、そのような方が休憩できるようなテーブル設置なども今後は考える必要があると思いますが、町はどのように計画をされていますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまの議員からの御質問でございますけれども、駐車場が今後整備されていく中で、当然今おっしゃっていただいたような様々な状況が変わってくると思います。そういった中で、当然利用状況を見ながら、今おっしゃっていただいたような施設の設置や、今例えばベンチなどのお話もありますけれども、ベンチなどの更新とか、あと、あずまやの設置を今されていますけれども、そういったものがどれぐらい来場される方のニーズとか、その辺が今後想定されるものがあるかというところを勘案しながら、そういったものについては、数とかそういったものを考えていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

いろいろと利用者さんが限定されない、幅広い方に利用されるように町も考えているように今受け取りました。

では、駐車場の整備、今進めてくれているかと思われるんですけれども、そこがまず一番最初に行う、取り組んでいるところではありますが、こちらのほうが大体どれくらいの目安で整備される予定でいるのか、町は考えていますか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

駐車場の整備ということで、建設課のほうでお答えさせていただきます。

まず、今年度、用地の確保ということで、用地取得につきまして、地元の方と今用地取得に向けて説明のほうさせていただいているところでございます。来年度に向けて、そちらの駐車場の設計で、令和８年度に工事着手という流れで進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　ごめんなさい、もう一度確認したいんですけれども、令和８年度にそこが開放されるような今答弁でしたでしょうか。もう一度お願いします。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

議員のおっしゃるとおり、令和８年度に工事のほうに着手していきたいということで、今計画のほう進めているところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　では、令和８年度からそこの駐車場が開設されるような予定ということで今お聞きしたんですけれども、そうなりますと、先ほど産業課の課長から答弁いただいていますが、こういった設置のほうとかは、いつ頃から計画をされるような御予定でいらっしゃるんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、駐車場が令和８年に整備されるということで、その他の整備についてどういうふうに考えているかというところでございますが、先ほど議員からお話ありましたとおり、例えばベンチとかが補修が必要だとか、当然もう使用に耐えられないというようなところで取り替えるというようなこと、現状の維持というか、維持管理というところ、そちらにつきましては、整備より当然前に使用に耐えられないものについては、更新等は考えていきたいと思っておりますが、全体、令和８年に駐車場が整備されることに伴いまして、環境も大分変わりますので、当然そういったところを踏まえていかないと、全体的なものが見えてこないというところもございますので、そういった大規模なものにつきましては、そういった整備に合わせたところで考えていくというような形で、現状維持、使っていくようなものにつきましては、当然更新等につきましては、それまでにも行っていくというような考えでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

じゃ、ベンチ、テーブル等、そういった休憩設備ですか、その辺はまた担当される課と連携を取りながら、ぜひ使用時期がずれるというか、同じような時期に皆さんが使いやすいような形で進めていただきたいと思います。

もう少し能満寺山公園の中のことで再質問したいと思います。

現在、藤棚の下のところですか、そこには何もない空間がございます。日陰のスペースの確保とともに、テーブルや椅子などを設置することで休憩所が確保できると思われるのですが、先ほどの答弁で特には増設するような予定はないというお話ではありましたが、ぜひそこのところは、訪れた方の癒やしの場、また高齢者、障害者、ベビーカーを利用したファミリーなどがゆっくりできるような場の空間づくりにつなげていただきたいと思うので、前向きに考えていただきたいと思いますが、それについて何かお話がありましたらお願いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま御質問のありました空間づくりというところでございます。先ほど議員のほうが、町のほうで設置する計画がないとおっしゃっていただいたんですが、そちらにつきましては、あくまでもフットライトを、階段設備を新たに設置するものではないというところでの答弁となっております。

今、空間づくりのお話をいただきましたけれども、そちらにつきましても、先ほど町長のほうの答弁からもございましたが、昨今、暑いというところでありますので、日陰が必要というところのお話もありますけれども、以前に御質問にありました、なかなか反対に暗いというようなお話がありましたけれども、それを今年度につきましては、大規模に木を伐採させていただいたりとか、そういった形で環境整備というものを今年度図ってまいりますので、ちょっと日陰をつくり出すというのがなかなか難しい部分はありますけれども、そういった剪定なんかでも、切っていく中で、ちょっとそういった対応する場につきましては日陰になるような工夫をしたりとか、そういったものも考えながら、あとは、ちょっとまた繰り返しになってしまいますけれども、駐車場整備に合わせて全体的に考えていく中で、そういったものにつきましても、工夫できるというようなところがありましたら考えてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　ありがとうございます。

すごく環境整備は大分行き届いてきていると思います。特に西側の資料館の周辺のところは、本当にいっぱい伐採してくれたものですから、とても日差しがたくさん入るようになって、明るくなってトイレに行くにも行きやすくなったなと思っております。引き続き、日陰、涼等も楽しめるようなところの空間を気にしながら、環境整備に取り組んでいただきたいと思います。

続いての再質問をします。

能満寺山公園ですけれども、春になるとソメイヨシノやしだれ桜など、約30本の桜が公園

を囲み、美しく咲き誇る風景は絶景で、写真や動画を多くの人たちが撮影され、楽しんでおります。

そこで、20代、30代の方への新たな取組のさらにという提案でございますが、このような季節を限定して、１組だけその場で結婚式ができるような企画もとてもすてきだと思いますけれども、町はそういった企画などは持ち合わせておりますか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

先ほど、20代、30代ということで御質問でございますが、先ほど言ったアンテナショップにつきましては、小山町周辺のにぎわいづくりにも一つの事業としてございます。その中で、今議員おっしゃるとおり、結婚式であるとか、そういうものも含めて、今後そういうことに発展していけば、それはそれでオーケー、いいことでございますけれども、今取り組んでいる中では、先ほど答弁でもありましたとおり、音楽イベントというものがございまして、そういう音楽イベントにつきましても、やはりそこに来る方が20代、30代をターゲットにした方を呼んで、そこで音楽イベントを開いているという実績もございます。

先ほど言った、あとは五つの事業者がアンテナショップの中でやっているものについても、アクセサリーであるとか、そういうもの、それこそ20代、30代の方が来ていただいて、そういう方に、先ほど言ったイベント等で店前でイベントを組んだときに、その出店者の方いろんな、こういうアクセサリーがいいですよというような指導をしてみたりだとか、そういうことも含めまして、20代、30代の若い方にも小山城に足を運んでいただけるようなイベントづくりには今でも取り組んでおりますし、今後もそういうことで継続していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　答弁でもいただきました。確かに20代、30代、若者向けの取組として、そういった音楽イベントはすごくいいと思います。今後もこのイベントが継続されるようにさらに取り組んでいただきたいと思っておりますが、やっぱり時期限定で、先ほどのＭＡＮＡＶＩＶＡの実施ですか、歴史を学んでいただくＭＡＮＡＶＩＶＡの実施などの取組の中で、歴史好きの若い方々がこういった場所でそういったことを行いたいというような御意見とかがあれば、またぜひ前向きに考えていただきたいと思います。

次の再質問をします。

都会では、ビルの屋上などを庭園とした憩いの場が設けられ、若者たちが多く集まり、写真や動画を撮影し、スマホを活用した情報発信をされているのが見受けられます。桜の時期以外も、若者が好むインスタグラム映えする空間をつくり、若い人たちにもっと情報発信をされるような取組をこの公園内でと望みますが、町はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、20代、30代というところの関連で、インスタグラムの発信等の御質問だと思います。こちらの公園内につきましては、先ほど答弁にもありましたとおり、毎年桜のライトアップを行っております。そちらにつきましては、大分、桜をバックに小山城の映っているのを町のほうでも情報発信させていただいておりますけれども、そういった中でいろんな方々に来

ていただいて、そういったものを発信等していただいているところがありますが、今そちらの場所が公園というところもありますので、そういった公園といいますと、誰でも来られるような形とか、そういったところで特別な取組というものが現状ちょっと難しいのかなというところがありますので、現状今お話しいただいたような、インスタグラムに特化したようなものというのは、ちょっとなかなか難しいのかなというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　ありがとうございます。

ちょっと誰でも利用できるような、もちろん公園であってほしいのも重々理解しておるところではありますが、全体ではなくても、一部だけでも、写真で若い人たちが、あ、この空間いいねというようなところが何かあるとすてきだなと思いますので、今は考えていないみたいですけれども、また今後できたらよい方向性に取り組んでいただけたらと思います。

じゃ、次の再質問にいきます。

この20代、30代への新たな取組として自分的に考えるんですけれども、この年代だからできる体験みたいなものを、町の取組、先ほど音楽イベントを話されておりましたが、それ以外に、例えば町の三大行事である花火大会ですとか、また初日の出のとき、こちらのときに展望台小山城を一部の方に開放して観覧ができるような、そういった企画などもすごく画期的だと思うんですけれども、そういった企画、町のほうで何かお考えとかがあったらお願いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、具体的に、花火大会のときに小山城、ここから観覧できたらいいなというようなお話だったと思います。そちらにつきましては、今観光協会のほうで花火のほうにつきましては運用させていただいております。当然、マンパワー的なところもございますので、今、産業課のほうで花火大会を運営していく中で、小山城をちょっと開放するというようなところにつきましては、マンパワー的なところとか、あと夜間での開放というのも、先ほどお話しさせていただいたように、やはり暗いところを登っていくというところで、明るさを確保しながらというところもありますけれども、そういった安全対策をしながらも開放していくというようなところでもございます。

そういった中で、今花火に合わせてちょっと新たなものをやるというところにつきましては、そういったものができれば、当然すごくいろいろ広まっていくというところもございますけれども、まずは産業課としましては花火大会をしっかり運営していくというところがありまして、そういった中で、今後もう少しそういったものが、広げていけるようなものがありましたら検討してまいりたいと思いますけれども、ちょっと現状の状態では、そういったものを今すぐに行うというようなところは、ちょっと難しいのかなというところでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　ありがとうございました。

そうですね、花火大会のほうがメインでありますから、なかなかそちらのほうまで手が回

らないような現状も想像はするところではありますけれども、何かそういった形で若者たちにしかできないような取組というものを、例えば花火大会のとき、私は話ししましたけれども、今度は若い人たち、今大体事業者さん向けに花火大会の花火を上げるための寄附金というんですか、そういったのをお願いしているかと思うんですけれども、個人的に上げられるような、そういった広がりというんですか、それもまた近隣の市町ではそういった取組も聞いておりますので、吉田町のほうでもまたそういった個人の方が上げたいとかというようなお話があれば、ぜひ何かそういったのも入れていただきたいなと思います。

先ほどの答弁の中でちょっと教えていただきたいのが、企画観光局と連携したＭＡＮＡＶＩＶＡ、こちらのほうを実施されているということですけれども、こちら、どれぐらいの人数の方が参加されているのか、参加人数を教えてください。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、ＭＡＮＡＶＩＶＡの実績というところでございますが、残念ながら今年につきましては、３回こちらのほうは予定しておったんですが、大分夏暑い時期になりますので、今年度につきましては３回計画しておりますが、実績はございませんでした。

こちらのものにつきましては、少し御紹介させていただきますと、ターゲットとしましては、郷土の歴史を学ぶ小学生とその親、吉田町を含む５市２町の小学生が対象となっております。こちらの内容といたしましては、歴史ガイドであります吉田町文化財保護審議会の会長さんが御案内いただきまして、小山城や能満寺を散策しながら歴史を学ぶというものになっております。

今年度、小山城につきましては、馬出しとかそういったものが非常に今注目をされておりまして、ＮＨＫのＢＳやケーブルテレビ、そういったところでも取材になったりとか、そういったものがかなり今来ているところでございますので、周知等はしておるんですけれども、さらに周知を図っていくことで、ぜひこういったものに御参加いただきたいというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　はい、了解しました。

では、次に３の再質問をさせていただきます。

こちらのところ、新たな取組のほうを先ほど答弁いただいておりますが、まず郷土資料館のほう、こちらのほうが今年の夏、要旨でも書きましたけれども、かなり猛暑で暑かったわけなんですが、空調設備、実際はどういうふうな空調設備でやっていらっしゃるのか、お願いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、郷土資料館の空調の話だと思います。こちらにつきましては、現在空調等が整備されておりませんので、扇風機とかで回しているような状況でございます。今年、特に異常な気象でございまして、猛暑日も続いたというところでございますので、今後こういった猛暑が続くような状況があったりとか、そういったときにつきましては、スポットクーラー等を設置しながら対応してまいりたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　スポットクーラーを今後は考えているというふうに明るい回答をいただいたわけでありますが、現状、この資料館ですけれども、町の個別施設計画個表の中では、令和９年に設計、令和10年に大規模改修と示されております。その辺の計画、町はどのような改修を想定しているか、お答えください。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、郷土資料館の改修のお話がありますけれども、ただいま、先ほどからもございます駐車場の整備がありまして、そこで大きくそういった環境の状況というものも変化してくると考えられます。そういった中で、郷土資料館の今後のどういった活用をしていくのかというところも、そちらのほう変わってくると思いますので、今計画が令和９年度で10年度開始というようなお話がありましたけれども、その辺につきましてもフレキシブルに考えていくというところで、駐車場ができることによって、どういった状況の変化があって、どういった利用の状況なのかというところも踏まえまして、その時期や、あと内容につきましても、そういったものも新たな環境の変化も起こりますので、その辺踏まえまして考えてまいりたいと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

ぜひ、いいタイミングでよい方向性にできるような計画を立てて改修していただきたいと思います。

あと、こちらの郷土資料館の中のことで少し質問させていただきたいんですが、昔の家屋ですとか、道具、おもちゃなどがすごくきれいに飾られておりました。郷土資料館です。現在、町が取り組んでいますシーガーデン構想の、例えばイメージポスターですとかジオラマ、そういったものもさらにそこに設置していただければ、訪れた方々への町の将来像をもっとお示しできるんじゃないかと考えるんですけれども、その辺はどう考えますか、町のほうは。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまシーガーデン構想等のジオラマを郷土資料館のほうにという御質問だと思います。こちらにつきましては、シーガーデン構想というものにつきましては、広くもう住民の方や内外にお知らせさせていただいております。ジオラマというところで予想されているのが、完成したような、完成後の分かるような模型というんでしょうか、そういったものだということを御想像させていただきますけれども、なかなかそういったものを作る費用等も、どれぐらいかかるかというのもありますし、あとはそこに、郷土資料館にそういったものを配置しなきゃいけないかというところもございますので、そういったところではなくて、そちらにシーガーデンのポスター等を貼るというのは当然できるというようなところでございますけれども、ジオラマをちょっと設置するというのは、現時点では難しいのかなと考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

いろいろと費用の関係もあると思うので、考えるところではあると思うんですけれども、やはり今吉田町が一番取り組んでいる事業であるシーガーデン構想、こちらのほうのイメージが、もっと皆さんに定着し、さらに広がるようなものにつながるように、やっぱりいろいろなところにポスターがもしあれば、貼っていただいたほうがよりよい方向性にいくんじゃないかと自分は考えるので、ぜひこういったポスターがあれば、この資料館、また小山城、あと、しらすのまどぐち、アンテナショップですか、そちらのほうとかにも貼っていただいて、もっといろんな人たち、吉田町外の人たちにも目に入るような場所に貼っていただくほうがよりよい吉田町につながると思うので、ぜひ前向きに考えていただきたいと思います。

能満寺山公園周辺の整備について、町の考えを幾つか聞きました。今後もこの場所でのにぎわいがもっと広がるように、官民連携を取り入れながら、若者が集まるような取組を目指した町の発展を祈ります。

2025年の大阪万博での目玉と言われている空飛ぶ車があります。2030年頃の実用化と予想されております。そのようなものを活用した展望台小山城とシーガーデンを結ぶ新たな体験などを期待して、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（大石　巌君）　以上で、４番、楠元由美子君の一般質問が終わりました。

◇　平　野　　積　君

○議長（大石　巌君）　続きまして、７番、平野　積君。

〔７番　平野　積君登壇〕

○７番（平野　積君）　７番、平野です。

一般質問を始める前に一言申し上げます。

８月８日に発表された南海トラフ地震臨時情報に対して、当局は情報収集など24時間体制で対応を図ってくださいました。また、台風10号による大雨の際にも、避難所を開設し対応をしてくださいました。職員の皆様に感謝いたします。御苦労さまでした。

では、質問を始めたいと思いますが、その前に通告書に間違いがございましたので、修正いたします。

質問(4)の避難場所の数について、川尻地区「６か所」と記載しましたが、正しくは「３か所」です。申し訳ありませんでした。

では、本当に質問を始めます。

私は、通告のとおり、Ｌ２地震に向けての液状化対策及び避難場所・避難所運営についてと題して質問します。

本年元日に発生した令和６年能登半島地震では、液状化が発生し、地割れや地盤沈下だけではなく、家屋の倒壊や側溝、マンホールの浮き上がりなど、甚大な被害が発生しました。

吉田町に目を向けますと、津波ハザードマップには液状化マップが示されています。参考資料の２枚目、カラーの資料の右側の図です。その説明といたしまして、液状化マップとは、揺れやすさマップで示した震度になった場合に、水を十分に含んだ緩い砂地盤が強い地震で

激しく揺すられたときに起こる地域の液状化の可能性を表したものです。震源の位置や地震の規模が異なれば、液状化が発生しない場合もありますと記載しています。そのマップを見れば、吉田町の平地はほぼＰＬ値15以上で、「液状化危険度極めて高い」となっています。

一方、Ｌ２の千年に一度程度の大きな地震が発生した場合、迅速に避難場所指定及び避難所開設を行い、円滑に運営をする必要があります。

そこで、以下の点について質問します。

(1)吉田町地域防災計画地震対策編には、吉田町の液状化被害は、Ｌ１、Ｌ２地震ともに最大全壊30棟、半壊100棟と記載されています。おのおのの数の根拠は。

(2)吉田町の液状化対策の進捗度は。

(3)液状化に対する知識の普及と液状化対策の必要性の周知の現状は。

(4)吉田町地域防災計画には、地震発生時の避難場所として、住吉区３か所、川尻区３か所、片岡区７か所、北区７か所、津波避難施設として、津波避難タワーなど19か所、避難所として、住吉区７か所、川尻区３か所、片岡区５か所、北区５か所が掲載されています。各地区の避難場所指定及び避難所開設について、各地区での順番は決められているのでしょうか。

(5)番、Ｌ２地震発生時の避難所開設及びその後の運営の担い手はどのような方が行うのでしょうか。

回答よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　Ｌ２地震に向けての液状化対策及び避難場所・避難所運営についての御質問のうち、１点目の吉田町地域防災計画地震対策編には、吉田町の液状化被害はＬ１、Ｌ２地震ともに最大全壊30棟、半壊100棟と記載されている、おのおの棟数の根拠はについてお答えをいたします。

地盤の液状化は、細かい砂や砂を含んだ泥質の地盤が地震の強く激しい揺れにより液体状態になり、本来地盤が持っている強度が失われてしまう現象であり、地表への噴砂、地盤の側方流動による構造物の沈下や変形が生じるものでございます。

議員の御質問にあります、吉田町地域防災計画の地震対策編には、レベル１の地震が発生した場合の本町の被害想定として、液状化による建物被害は、全壊が約30棟、半壊が約100棟、レベル２の地震が発生した場合でも、同数の、全壊が約30棟、半壊が約100棟と掲載しております。

これは県が平成25年６月に公表しました静岡県第４次地震被害想定調査・第一次報告から、レベル１、レベル２、それぞれの地震における被害想定のうち、県全体の被害が最大となるケースにおける本町の値を最大値として抽出したものでございます。

この被害想定の根拠となる棟数の算定方法につきまして御説明いたします。

県においては、まず町内全域を250メートル四方のメッシュに区割りした上で、地震動の予測結果に基づき、レベル１の東海・東南海・南海地震、レベル２の南海トラフ巨大地震など、六つの地震モデルのケースごとに液状化の可能性について予測を行っております。

この液状化の可能性予測は、丘陵地や台地、河川や湖沼などを除いた低地のうち、液状化

対象層となります砂層や盛土を有するメッシュのみで行い、本町においては町域の約60％が対象となっております。この対象区域におきましては、ボーリングデータなどを用いたＦＬ法やＰＬ法と呼ばれる手法によりＰＬ値を算出し、メッシュごとに液状化の可能性を評価しております。

その結果は４段階で区分され、ＰＬ値が15を超える場合は、液状化の危険度は高いものとして判定区分は大、ＰＬ値が５を超え15以下の場合は、液状化の危険度はやや高いものとして判定区分は中、ＰＬ値がゼロを超え５以下の場合は、液状化の危険度は低いものとして判定区分は小、ＰＬ値がゼロの場合は、液状化の危険度は極めて低いものとして判定区分はなしと評価されます。

この手法による本町の液状化可能性予測では、被害が最大となる南海トラフ巨大地震の東側ケースを例に挙げますと、判定区分が大となるのは、町域の約13％にわたる2.8平方キロメートル、判定区分が中となるのは、町域の約18％に当たる3.9平方キロメートル、判定区分が小となるのは、町域の約10％に当たる2.1平方キロメートル、判定区分がなしとなるのは、町域の約17％に当たる3.7平方キロメートルと評価されております。したがって、町全体のおよそ４割程度の区域において、液状化の可能性があるという評価でございます。

被害棟数算定の次の手順として、この液状化の可能性がある、メッシュにおけるそれぞれ地盤の平均沈下量を算出し、この地盤沈下量と過去の被害事例から設定された構造別、建築年次別の建物における全壊率や半壊率の相関関係からメッシュごとの被害棟数を算出します。この数値を集計した結果、本町における液状化による建物被害は、最大で全壊が約30棟、半壊が約100棟と想定されているところでございます。

なお、メッシュごとの建物データにつきましては、固定資産課税台帳から町内における建物構造や年代を集計し、地図情報に基づいた各メッシュへの棟数配分を行っております。

次に、２点目の吉田町の液状化対策の進捗度はについてお答えをいたします。

本町の液状化対策といたしましては、下水道事業において、全体的な地震対策として策定しました下水道施設総合地震対策計画の中で、マンホールの浮上防止等の対策を実施しております。

具体的には、管路の総延長約80.6キロメートルのうち、緊急輸送路に埋設されている管路や防災拠点、避難所等からの排水を受ける管路など、約30.8キロメートルを重要な幹線等と位置づけ、平成20年度から事業着手し、本年度実施しております管路施設耐震補強工事をもって、計画しておりました対策が全て完了する予定でございます。

また、水道事業におきましては、基幹管路を中心に、レベル２の地震動や液状化に耐え得る耐震管への布設替えを進めており、本町の給水区域内における令和５年度末時点の基幹管路の総延長約7.1キロメートルのうち約2.2キロメートルが完了している状況でございます。

このほか、現在において津波避難タワーや道路の橋梁などの重要構造物を新設する際には、設置箇所ごとに地質調査を実施し、液状化対策を踏まえた上で基礎構造などの設計を行い、整備をしております。

次に、３点目の液状化に関する知識の普及と液状化対策の必要性の周知の現状はについてお答えをいたします。

液状化に関してこれまで町が進めてきた取組といたしましては、東日本大震災後、真っ先に作成し、平成23年12月に町内の全戸に配布をしました吉田町津波ハザードマップに、議員

の御質問にあります揺れやすさマップや液状化マップを掲載し、さきに申し上げましたＰＬ値により４段階の液状化危険度を色分けしてお知らせしており、この液状化マップにおける町内の液状化危険度は、小山城北西部における砂礫質層の一部地域を除いて極めて高いと記載をしております。

なお、吉田町津波ハザードマップにつきましては、現在に至るまで防災講習や防災学習等、多くの場面でその都度内容を説明し、周知を図ってきたところでございます。

また、静岡県地域防災計画が平成25年にかけて大幅な見直しが行われ、静岡県第４次地震被害想定・第一次報告が公表されたことなどから、平成25年度に吉田町地域防災計画の全面改訂を実施しており、この際に、さきに申し上げましたとおり、静岡県第４次地震被害想定における液状化による建物被害想定などを掲載いたしました。

次に、４点目の吉田町地域防災計画には、地震発生時の避難場所として、住吉３か所、川尻は３か所、片岡７か所、北区７か所、津波避難施設として、津波避難タワーなど19か所、避難所として、住吉７か所、川尻区３か所、片岡区５か所、北区５か所が掲載されている、各地区の避難場所指定及び避難所開設について、各地区での順番は決められているかについてお答えいたします。

避難場所とは、災害が発生したときに、緊急に命を守るため、あるいは災害の発生が危惧されるときに、事前に避難し命を守る場所でございます。例えば、地震が発生し、津波から命を守るために緊急避難をする津波避難タワーや、土砂災害や火災から身を守るために一時的に避難をする学校の校庭などでございます。

町では、災害対策基本法に基づいて、災害の種類ごとに町内の24施設を避難場所に指定するとともに、津波避難施設として15基の津波避難タワーを含む19の施設を指定しております。このうち、津波避難施設につきましては、津波浸水想定区域をＡからＳまでの19の街区に区分けした上で、津波における避難場所として街区ごとに指定しておりますが、24の避難場所につきましては緊急に命を守るための一時的な避難地でございますので、各地区において順番は設けてありません。

なお、大雨などによる避難の場合は、雨風がしのげる屋内施設として、住吉地区では住吉小学校、川尻地区では中央小学校、片岡地区では片岡会館、北区地区では自彊小学校を第一優先で開設する避難場所として設定をしております。実際に、さきの台風第10号が接近した際にも、この４か所を開設しております。

一方、避難所とは、災害等により自宅が被災もしくは被災するおそれのある方で、居住場所を確保できない方を一時的に受け入れて生活を支援し、災害後に地域の救護や復旧活動の拠点となる施設であり、原則として、耐震性を有し耐火性の高い公共的な建築物の屋内施設を対象としており、町では20の公共施設を避難所として指定をしております。

この避難所につきましても、現時点において優先順位の取決めはございませんが、大規模災害時におきましては、まずは町内４地区に１か所ずつ程度、安全で拠点となる避難所を開設することを基本とし、被害や避難者の状況に応じて避難所を速やかに指定し、順次拡大していく必要があるものと考えております。

最後に、５点目のＬ２地震発生時の避難所開設及びその後の運営の担い手はどのような方々かについてお答えをいたします。

吉田町地域防災計画において、避難所の開設は「避難が必要と判断した場合は、安全な避

難所を指定し、周知するとともに、速やかに管理するための責任者を派遣し、災害の規模に応じて、必要な避難所を可能な限り当初から開設する」としておりますことから、避難所を開設する際には、まずは町職員が現地に赴き、初動の開設を行うことを基本と考えております。

その後の避難所運営につきましては、県の避難所運営マニュアルにおいて、避難所の運営主体は避難所利用者であり、避難所開設後は利用者をメンバーとする避難所運営組織を立ち上げること、また、自主防災組織は避難所の立ち上げを主導し、災害発生から1週間程度が経過して利用者数が落ち着いてきたところで避難所運営組織に体制を適宜移行すること、そして町職員は施設管理者と協力し、避難所の開設や解消、町災害対策本部との連絡調整、避難所の運営支援をすることなどをそれぞれの役割としております。このように、大規模災害時における避難所の開設や運営につきましては、基本的に地域の方や避難所を利用される方が主体となっていくべきものと考えております。

今後、このような自主防災組織や避難所運営組織による住民主体の運営体制が構築できるよう、まずは避難所運営マニュアルを見直し、訓練等を通じて地域との調整や連携を図ってまいります。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　丁寧な答弁ありがとうございます。

最近は、丁寧な答弁があったときはもう一回やれと言われているような気がしておりまして、12月も続けてやりたいと思いますので、今日は考えた質問、ちょっとピックアップして質問しますが、12月になると地域防災計画もございますので、避難場所、避難情報を中心にやりたいと思いますので、液状化マップは、液状化はちょっと簡単にやります。

そもそもの疑問は、吉田町の津波ハザードマップに記載されている液状化マップでは、吉田町のほぼ全域が液状化危険度極めて高い、ＰＬ値15以上であると記載されている。ところが、静岡県が出した静岡県第４次被害想定の液状化マップでは、住吉、川尻の海岸線のところは液状化発生の危険度が高いという15以上で、液状化発生の可能性があると、割とすらっとなっている。加えて、片岡とか北区の一部にも液状化発生の可能性が高い地域がある程度であって、先ほどもありましたけれども、大と中で足し合わせても６キロ平米ぐらい。

この吉田町のハザードマップのデータと県の違い、これは何だというのがもともとの発想の始まりなんですが、これは何で違うんでしょう。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

議員おっしゃられますとおり、町の液状化マップと県が公表しています第４次被害想定とでは、かなり大きな開きがございます。その違いはと申しますと、一言で言えば算定の違いというところになるんですが、まず町と県との違いですけれども、地震度の解析手法など違うといった点がございますが、一番大きい違いは地盤モデルを作成しているかどうかというところになります。

具体的に申し上げますと、町では地盤モデルというものを作成しないで、町内の土地の成り行きなどを示す微地形というものがあるんですが、それで分類のほうさせていただいてい

ます。

吉田町の場合は、小山城北西部にある砂礫台地と、あと扇状地、砂州・砂丘、埋立地・干拓地、四つの微地形に分類されているんですが、その分類、大きく４種類ですね。その分類ごとに地震度を解析して、ＰＬ値と地表加速度の相関関係からＰＬ値を算出しているということで、地形を大きく分けて四つに分けた、その中で評価しているということでございます。

一方、県は町内を250メートルのメッシュに区割りしていますので、町域、大体340区画ぐらいに割っているんですけれども、それぞれボーリングデータ等によりメッシュごとに地盤モデルというのを作成して、そのメッシュごとに地震度を解析してＰＬ値を算出していると、この違いがマップに表れているということになります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　やり方の違いというのは説明がありましたけれども、結局、県の調査のほうが精度が高いということですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

町がやっている、県の手法、いずれも今でも採用されている手法でございますが、県のほうがより精度が高いと。どちらも間違いではないんですけれども、県のほうがより精度が高いというものと認識しております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　県のほうが精度が高いとすれば、今吉田町のハザードマップで全戸に配布している地図には、吉田町、ほぼ全面危険性高いよと言っているんですけれども、町民に過剰な危機感を植えつけてしまうという危険性もあるわけで、それであればあの地図は静岡県の４次の液状化マップに変更すべきだと思うし、いやいや、吉田町も正しいんだということであれば、吉田町全域に対して、より液状化という観点でプロパガンダというか、危険性の周知とか、どういうことをやったらいいのかとか、そういう報告というか、情報を流すということが必要だと思うんですが、どちらを選択するのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

今、液状化マップも掲載している吉田町津波ハザードマップですが、これは平成23年度にもう全戸配布させていただいている事実もございますし、今でも有効というものであるんですけれども、より精度の高い静岡県のデータということで、現在のほうはまだ実施しておりませんが、県のホームページ見れば、そういったデータも全部閲覧できるようになってございますので、吉田町のホームページ、そこに掲載するような形、またその後には、ちょっとなかなか静岡県で公表しているのも、大きな地図の中での区分けなものですから、ちょっとはっきりしないところもありますので、できる、できないか、これから検討していくんですが、そのデータを活用させていただきながら、もう少し見やすいものを公表するようなことも考えていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　実は、参考資料に県の地図、液状化マップを載せようと思ったんだけれども、ちょっと難しいんですよ。だから、そういう点では分かりやすいのを作ってホームページに載せるとか、そういうことをやっていただければ、町民の皆さんにもそういうことを見てくださいねという連絡しながら、ＬＩＮＥなんか活用して、それであれば周知できるかなと思っております。

ちなみに、吉田町の液状化マップを基に、家屋の全壊とか半壊とか、そういうのは想定されているんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

すみません、もう一度お伺いしたいんですが、吉田町の液状化マップにおける半壊、全壊の検証をされているかということでよろしいですか。

それにつきましては、実施のほうはしてございません。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　その辺は置いておきますが、片や津波ハザードマップでは全面危ないよと言っておきながら、地域防災計画の被害想定には県の値を示していると。そうすると、今聞いたように、全域危ないハザードマップに基づいた被害想定はやっていないとすれば、吉田町の見解として、片や危ないと言いながら、片や少ない想定を示しているというのは、何か矛盾するような気がしますが、そこに関してはどうお感じでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

確かにその二つを並べてみますと、片や全域危ない、片やそうでもないと言っている、矛盾は生じているんですが、ちょっと時系列の話のところで、先に吉田町津波ハザードマップを作成していただきまして、そのときの町民にお示しするものとして液状化マップのほうも掲載させていただいております。その後に４次被害想定が出されたということで、吉田町地域防災計画にはそれを載せているというのは実情なんですが、確かに誤解を生むところがございますので、それは今後いろんなハード整備も進んでいます。また今後、まだこれからだと思うんですが、静岡県では第５次被害想定のほうにも着手されるようなお話も聞いていますので、そういった状況を見て、次にハザードマップであり、地域防災計画もそうですけれども、そこら辺は誤解を生まないような整理をしていきたいと、そんなふうに考えます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　じゃ、ちょっと飛ばしまして、津波避難タワー、答弁でもありましたけれども、津波避難タワーを作成するときには、しっかりと設置箇所ごとに地質調査を実施し、液状化対策も踏まえた上で基礎構造などの設計を行いと。吉田町の道路上に設置する津波避難タワーの標準仕様設計基準の基礎に関する記載に、地盤条件として支持層震度や液状化の有無というようなことを勘案して避難タワーを建てたということで、かつ、あれを建てるときにお伺いしたのは、くいを何本も、40メーターか50メーター、しっかり植えつけてというお話も聞きましたので、津波避難タワーに対しては、液状化というのは大丈夫だと私は思っていますが、そこは本当に大丈夫なんでしょうかね。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

津波避難タワーにつきましては、当時、道路橋示方書の耐震設計編というところに液状化等々いろいろ基礎のものがあるんですけれども、それに基づいてしっかりと設計し、施工のほうをしてございますので、大丈夫でございます。

以上です。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　避難所はどうなのかと。大きな地震があったときに、次にも聞きますけれども、避難場所へまず逃げて、そして大きな被害があれば、避難所を開設してやっていかなければならないわけですが、その避難所そのものが液状化で傾いているとか、使えないとかというようなことになると大変なことになるというふうに思っておりまして、静岡県第４次被害想定の液状化マップでは、指定された避難所のうち、住吉小学校総合体育館及び川尻会館が液状化の可能性が大中小の中に当たる液状化発生の可能性がある地域に存在しています。もちろん吉田町の液状化マップでは極めて危険な地域に存在しているということです。

今後、町民の安心・安全のために、津波避難タワー同様に液状化対策ということを図るということは考えていらっしゃるのか、いやいや、そこであっても全然問題ありませんよというふうにお考えなのか、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

今議員がおっしゃられました、吉田町が指定している避難所のうち、マップのほうからちょっと危険なところ、黄色の中というところになるんですが、住吉小学校総合体育館と川尻会館というふうにお聞きしたんですが、すみません、このマップがやっぱりかなり地図が荒いというんですか、なかなか境目が不明瞭なところでございまして、私が調べたところ、ちょうど境目だったのが、ちょっと川尻会館は、すみません、今回の調べではなしというような形でさせていただいているので、いずれにしろ福祉避難所を除く今20か所で申し上げますと、ちょっとすみません、こちらの調べでは、可能性が大となるところはゼロか所でございます。中のところは３か所、あと小というところが３か所で、なしが５か所、対象外が９か所ということで、ちょっと可能性があるのが６か所という辺りで、その辺の液状化対策、どうなっているんだというところも今調べているところでありますが、基本的には先ほどの津波避難タワーや橋梁は土木の考えでございますが、建築につきましても、やはりそれなりに液状化の検討をして設計するようなふうになっておりまして、ちょっと年代別に基準にするところは、違いはあろうかと思いますが、一般的には建設基礎構造設計指針であったり、現在では静岡県の建築構造設計指針等が出ていますので、それぞれそれらを建てるときに、そういった指針等に基づいて基礎も検討されていると思いますので、液状化対策はされていると思うんですけれども、ここはいま一度、全避難所について調べてまいりたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　数値的には、私が調べたのとほぼ似ているわけですけれども、昨日でしたか、答弁……あ、全員協議会です、中央小学校の体育館、建築21年だったと思うんです

よ、建築してからね。住吉小学校、川尻会館が建築何年かというのはちょっと押さえておりませんけれども、どこまで耐震という点ではやられている部分はあるのかなと。

また、耐震が不足するんであれば、補強しましたよね。だから、耐震という点ではまだ大丈夫だと思うんですが、そのときに液状化ということをしっかり考えた上で建設されているのかどうかというのは不安なので、今おっしゃいましたけれども、しっかりとそこをチェックして、問題があるようなら、やっていないようなら、そこを対応していくということをやっていただきたいと思いますが、どうでしょう。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

今、議員のほうから、耐震性ということと液状化というところでお話ございました。先に耐震性にちょっと触れさせていただきますと、先ほど申しました吉田町の指定する避難所、全てにおいて耐震性能は一番優れているという１Ａというランクになるんですが、全てそれに該当しますので、耐震性については問題ございません。

また、液状化については、まだ調べ切れていないところは今後調べを続けてまいりますが、一例を申し上げますと、液状化の危険が中としている住吉小学校につきましては、当時の設計のところを見ますと、液状化の検討もした上で、結局、特段のあれは必要ないという結果が出ているものですから、ないんですが、液状化の検討もした上で今の建物ができているというふうになりますので、そのほかにつきましても調査のほう続けてまいります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　参考資料の一番最初の表、地域防災計画に記載している、その中で液状化という言葉が幾つ出てくるかというのもチェックした。地震対策のときに17と出ます。地震対策編の中でも、その資料の２枚目、裏のページの一番下に、第２章、平常時対策として、そこに記載されているような言葉がありますけれども、第３章の地震防災施設緊急整備計画や、第５章、災害応急対策、第６章、復旧復興対策には、液状化という言葉が一切出ていないわけです。だから、そういう点で、吉田町というのはあんまり液状化について関心がないのかなというふうに思ったわけですが、その辺はないですよね。しっかりやっていますよね。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

これまでの町の液状化に対するというところでございますが、確かに地域防災計画にはこういった、議員の資料にございますとおり、必要性の周知等に努めるというふうにしっかりと意思表示している中で、ちょっと県との違いはありますけれども、液状化マップとして周知しているというところあるものの、もう少し、じゃ液状化対策というのはどういうものなのか、また何で対策を練らなきゃいけないというところがまだ周知できていない部分がありますので、その辺については今後進めていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　では、避難場所とか避難所についてお伺いします。

避難場所に関しましては、まずは逃げなきゃいかんということで、優先順位決めている場

合じゃないと、私もそう思います。避難場所を開設というか、避難場所に職員の皆さんは来られるのか、来られないのか、そういう計画があるのか、ないのか、その辺はどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

すみません、ちょっと確認させていただきたい、避難場所ということでよろしいですか。

避難場所につきましては、職員が行くというような計画は今持ち合わせてございません。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうしたときに、大きな被害が起きた場合、避難場所から避難所に移動しなきゃいけないと思うんですが、どこにそれを開設するのかという情報は、ＬＩＮＥとか何か同報無線とかでやるというふうに考えていますけれども、大きな被害があったときに携帯が使えるかどうかというのに懸念を持っていまして、そうしたときには、やはり職員の方に迷惑かけるかもしれませんが、避難場所に職員の方が来られて、災害本部と無線連絡することによって、住民はある面パニクっていると思うんで、それを抑えるためにも、しっかりとした情報を流すということが重要なことだと思うんですが、今のでは、職員のほうは行かずに、じゃ、そういう情報は今言ったようなＬＩＮＥとか同報無線ということしか考えていないということでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

議員おっしゃられますように、大災害が起きたときは、恐らく一時的に通信は駄目になるかなというのも予想しています。その中で、今能登半島地震を踏まえまして、安否確認のものを本来であれば電子でやるのが一番早くて正確なんですが、多分使えなくなるだろうということで、紙で集計を取りたいというのも始めているというのも一つ、そういうところがございます。

実際、大災害が起きたとき、避難場所に町民の方避難されて、今職員がそこに行くという計画がないということですけれども、実際、災害対策本部はすぐ立ち上げるようなことになりますので、災害対策本部に情報をまずは集めて、災害対策本部で、じゃその避難場所からここの避難所開けるとかという指示を出していくんですけれども、そのよりどころになるのがやはり情報となりますので、それは職員が行くというのも一つでございますし、また町民の方々にちょっと通信が駄目なときどういう手段があるかというのは、また検討していかなきゃいけないんですが、多面的に情報が集まるような仕組みづくりは必要ではないかというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　情報収集というのは大切だと思うんで、答弁にもありましたけれども、大雨などによる避難においては、各地区の、例を言えば、住吉小学校、中央小学校、片岡会館、自彊、これを第一優先に開設すると記載されている。そういう面でも、大きな地震があったときの第一優先というのを決めておけば、それを町民の皆さんにしっかりとお知らせしていれば、まずはそこへ。ところが、それが避難所が何か使えないというときには、しっかり情報を流して、そうするとまずここにおいては、私たちは第一、片岡であれば片岡会館に

行こうというような意識を常に持っていれば、まだ安心な分があるんじゃないかなと。何がしかの連絡で、片岡会館、開設しましたよと、じゃやっぱり行こうかという話になると思うんで、やはりそういう地震の際の第一優先というのをまずは決めて周知しておくことも大切なんじゃないかなと思いますが、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

避難時には速やかな行動、動線といったところになるかと思うんですが、ちょっと今答弁でも申し上げたとおり、今優先順位というのは設けてございませんが、やはり町民の方がすぐに移動するということでは、まずはそういうところを決めて、仮にそれが駄目になったときに、じゃ次の手段としてどうするかというあたりをちゃんと決めて周知する必要があると思いますので、そういった検討を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そこはよろしくお願いします。

避難所です。答弁のほうに出ていなかったのであれっと思ったのが、８月に行われました町政連絡会、報告会、住民主体の避難所運営を３年をめどに進めていくというお話がございました。これについて、３年間でどのようなことを実施して、住民主体の避難所運営を達成しようとしているのか、答弁にあると思っていたんで、素直に入るかなと思ったら書いていないんだけれども、それはいいですよね。３年間でやっていくんだという町の考えには、変わりはないということでよろしいでしょうか。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

以前、町政連絡会ですか、総合防災訓練のときの説明で申し上げましたとおり、向こう３年間でそういった住民主体の避難所運営ができるように今後検討を進めていくというふうにお答えさせていただいていますとおり、その方向で今進めようと思っているので、申し訳ございません、ただ、まだ具体がこれから詰めていきますので、ちょっと今回の答弁ではそこまで詳しいことは申し上げなかったんですが、今こういうふうに進めておこうかというのは素案を練っているところでございまして、今度10月２日、12月１日に開催予定、実施予定の地域防災訓練に向けた事前打合せ会を各自治会、各自主防災会の方に出席いただいてやる予定があるんですが、そこで町としては、そこでどこまで出せるかというのはあるんですけれども、今後このように、向こう３年計画でこういったものを構築していきたいというのを発信させていただきたいと思いますので、すみません、具体についてはこれから詰めていくような状況でございます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そういうことでしたら、もうちょっと続けませんが、要は自主防災会を中心にまずはやっていただくとすれば、自主防災会というのは町内会長が主たるメンバー。そうすると、町内会長は２年で交代していくわけです。それで、半分。今、指導、研修やったとしても、３年後にはその人たちはいないんですよ。それをいかに克服して研修なり指導なりをやっていくということは、しっかり詰めていただきたいというふうに考えます。

ちょっと話変わるんですが、大雨のときは、片岡は片岡会館に避難所を設けるという話があって、2020年、４年前ですね。私が一般質問で、自主防災について、吉田町の体育館、小中学校、その年に総合体育館も空調入れたんですよ。片岡の避難所の指定の中に吉田町の特別支援学校が入っているんだけれども、そこ、体育館に空調が入っていないというお話しして、これ、何とかなりませんかねという話しすると、それを避難所として開設する場合は、当面送風機等の配備を検討することと並行し、設置者であります県に対して早期にエアコンを設置していただけるように要望してまいりますという答弁をいただきました。どうなっていますか、今。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

すみません、その件につきましては、今でもちょっと進捗はないという状況でございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　結果的に進捗はないんだけれども、しっかりと県に対してその要望をしているのは事実なのか、そのままなのか、そこはどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

町では、各小学校、特別支援学校もそうなんですが、毎年度、避難所運営委員会というのを開催しておりまして、そこでは、町、自治会、学校、自主防災会、関係機関が集まって防災に関する打合せを行っているんですが、特別支援学校につきましても、今年度で言えば７月にやっているんですが、そういう中でそういったことは申し上げさせていただいているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　その点、よろしくお願いします。

片岡地区は片岡会館ですけれども、やっぱりほかの体育館に比べて狭いんですよね。やっぱり広さを確保しようとすれば支援学校だと思うんで、そこをしっかり進めていただきたいというふうに考えます。

これも先日行われました町政報告会において報告されたことですけれども、今年の能登半島地震の支援に行った職員の言葉として、住民とのコミュニケーションが大切であるというふうな紹介があったと記憶しているんですが、それはいいですね。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

実際、能登半島地震の際に、被災地に避難所運営の補助として派遣した職員から直接聞いておりますので、間違いございません。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　行かれて帰ってきて、そういう話を聞いて、その後何かこの半年間で、町民とのコミュニケーション、防災に関してコミュニケーションを取っていこうということで、何か進展とか行動とか、そういうのはありましたでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

すみません、ちょっと私の発信の仕方が至らなかったのか、住民とのコミュニケーションというのは、町と住民とではなくて、住民同士のコミュニケーションが、その地域の中でコミュニケーションがやっぱり必要ではないかというふうに聞いております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　それも極めて重要な話で、自助という観点、共助という観点、大切だと思うんですが、私は避難所運営で、今まず開設するのは町職員だというのを前提として話したときに、まず開設してくださって、住民が押し寄せたときに、あの人は誰、誰が仕切っているの、分からない、それはまずいと思うわけです。

一つの提案ですが、今、防災訓練やったときに、町長、副町長、教育長、避難地というか、訓練の場所に来られますよね。それで、自主防災会のほうとお話をされて、次の訓練地へ行かれるわけですけれども、そこへ町職員の中で地区割りというのはもうやっているわけでしょう。そうすると、防災訓練をやるところへその地区担当の方が来て、最初から参加していただいて防災に関するお話をして、町民の皆さんに防災意識を上げるとかでそこにずっといて、町民の皆さんとお話をすることによってコミュニケーションを図って、ああ、この人がまず開設してくれるのかなということ、そう認識を持ってまずお話しして話しやすい環境をつくっておくと、いざ、避難所を開設したときに、避難所開設の効率化、運営の効率化に寄与するんじゃないかなと思うんですが、そういうふうにやっていこうというお考えはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

当町では、議員おっしゃられますとおり、各地区に連絡部という職員を配置してございます。ただ、職員も異動ございますので、年度によって替わったりするものですから、これは毎年度やっていかなきゃいけないとは思うんですけれども、総合防災訓練のときには、先ほど言った大雨のときに開ける４か所が基本となりますが、その地域連絡部において、総合防災訓練のときも避難所開設訓練を実施しております。

ただ、これまではなかなか職員の中だけだったんですが、最近は見学できますよというふうにお声かけもさせていただいて、一部自主防災会の中にはそういったところを、あ、こういうふうにやっているんだといって見学いただいているところありますが、もう少しそれを、避難所は１個ではございませんので、ほかの地区に広げたりとか、ほかの避難所にも広げたり、そういった連携とか、やっぱりそういう顔を見せる関係というのが必要だと思いますので、そういうふうにつながるような、また訓練等を企画していきたいというふうに考えます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　ほかの地区どうか詳しくは見ていませんが、片岡東のことを考えると、サイレンが、サイレンじゃないのかな、とにかく避難場所に集合します。組長が人数報告します。じゃ、これからこういう訓練やります。消火器、放水で三角巾と。１回やったときには、参加していただいた方に対して、やっぱり防災に関する何がしかの知識を持って帰って

もらいましょうということをやったわけですが、なかなかそれは難しい。そうすると、やっぱり集まって、はい、解散というんではもったいない。せっかく集ってもらった。そうすると、やっぱり集まってくれた以上、防災課としてはその担当の方がそこへ参加して、防災知識というか、防災意識を上げるような講話をやっていただくと。それがいい話であれば、ああ、防災訓練来てよかったなと思っていただけるような防災訓練にしていったらどうかなというふうに考えているわけですけれども、そういうところはどうですか、なかなか難しいですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

いろんなところに結局は通じてくることなんですけれども、これからやろうとしている避難所運営マニュアル、現実、今避難所運営マニュアルの、町で持ち合わせているのがあるんですが、どちらかというと職員向けのものでございますので、これを住民向けにまずは変えていかなきゃいけないという中で、その中で時系列に体制からいろいろ盛り込んでいかなきゃいけないと思うんですが、それが訓練をやることによって実現性が高いものになっていくと思いますので、そういうのと合わせながら、今議員がおっしゃられたような活動も検討していきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　一言で。

今日はいろいろお願いも多いんですが、やっていただくということがあったと思いますので、それをぜひ確実に実施していただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

以上です。

○議長（大石　巌君）　これで、７番、平野　積君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩といたします。

再開は11時10分といたします。

休憩　午前１０時５７分

再開　午前１１時０７分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

◇　大　石　裕　之　君

○議長（大石　巌君）　ただいまの質疑応答は12名であります。引き続き一般質問を行います。

１番、大石裕之君。

〔１番　大石裕之君登壇〕

○１番（大石裕之君）　１番、大石裕之でございます。通告に従いまして、質問をさせていただきます。

教育長が目指す教育についてお尋ねいたします。

令和６年第２回吉田町議会定例会６月議会におきまして、町長の行政報告が行われました。その中で、教育関連の報告としては、実施から８年目を迎えた吉田町教育元気物語ＴＣＰトリビンスプランや、文部科学省が展開するリーディングＤＸスクール事業、グーグル合同会社と連携してＩＣＴに係る事業を展開するＧｏｏｇｌｅ　ｆｏｒ　Ｅｄｕｃａｔｉｏｎパートナー自治体など、幾つもの行政報告がございました。

私は、地域にとって、子供たちの教育というのは将来にわたり大変重要なことだというような思いから、今回質問のテーマとしてそれらの事業などを含めた教育関連の質問を議論、質問させていただこうということで準備をし始めたわけでございますが、そこでまず教育長の教育に対する姿勢や考え方などを知りたいと考え、町のホームページ等を調べてみました。明確なものは見当たりませんでした。また、教育長が就任された令和２年４月１日以降の議会会議録も一通り調べてみましたが、教育関連の質問は幾つも出されておりますけれども、残念ながらそういった教育長の考えというようなものが分かるような議論というのは見つけることができませんでした。

教育に係る事業には人が最も重要で、最大の要因であると考えております。町の教育をつかさどる立場にある教育長の教育に対する考え方などに触れ、今後、吉田町の子供たちのための教育を考える基礎としたいと考えております。

そこで、以下の点について質問いたします。

(1)教育長が考える理想の教育とは。

(2)教育長の教育に取り組む基本姿勢は。

(3)教育長のこれまでの経験から見る吉田町の子供たちの特徴や評価は。

(4)吉田町の教育行政について、現時点での評価と課題は。

(5)今後の教育行政に対する取組や構想は。

以上、私の質問といたします。

教育長におかれましては、思いの丈を存分に答弁していただきたいと思います。どうぞよろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

教育長、山田泰巳君。

〔教育長　山田泰巳君登壇〕

○教育長（山田泰巳君）　教育長が目指す教育についての御質問につきまして、主として学校教育の観点からお答えいたします。

まず、１点目の教育長が考える理想の教育とはについてお答えいたします。

私は、教育は一人一人が持っている力を伸ばすゴールのない営みであると考えています。人が持つ力には、知識や技能もあれば、思考力や判断力、問題解決力やコミュニケーション力、思いやりや責任感、健康、体力など、様々あるわけですが、学校教育では、知・徳・体をバランスよく育み、社会生活を送る上で必要になる様々な力の基礎となる部分について、経験を積み重ねる中で身につけていくことが大切であると捉えております。

一人一人が持っている力はそれぞれ違いますし、身についていくスピードも量もそれぞれ異なりますので、教師は一人一人に応じた支援をすることによって成長を支えていくことが必要になります。正解がない、または答えが一つとは限らない課題に立ち向かわなくてはな

らないと言われている現代社会を生き抜いていくためには、与えられる知識を受け身で学ぶのではなく、自分なりに考える場面を教師が設定することによって、一人一人が持っている力を発揮させ、時にはペアやグループ、時には全体の中で協働的に学ぶことにより、自分の考えを再構築していきながら、これまでの自分を超えていくという経験を繰り返していくことが大切だと考えております。

教育は、これができたら終わりというゴールがあるものではありませんので、一人一人が目的意識を持ち、主体的に取り組む意欲を育むことで、学校を卒業してからも生涯に渡って学び続けていくことができるよう、学校と連携を図りながら一人一人が持っている力を伸ばす教育を進めていきたいと考えております。

次に、２点目の教育長の教育に取り組む基本姿勢はについてお答えいたします。

社会はめまぐるしく変化し、価値観の多様化や情報化の進展など、これまでどおりの考え方や方法では対応できない時代となっています。こうした時代の流れの中で、慣習として当たり前のようにやってきたことが、本当に当たり前のことなのかを問い直してみることが必要だと感じています。安易に流行に流されて本質を見失うことがないよう留意しなくてはいけませんが、前例踏襲ではなく、子供にとって、教職員にとって、保護者にとってどうかという相手意識を持って、常に問い直しをしながら教育に取り組んでいきたいと考えております。

次に、３点目の教育長のこれまでの経験から見る吉田町の子供たちの特徴や評価はについてお答えいたします。

先ほど２点目で申し上げたとおり、時代は変化しておりますので、一概に過去と比較をすることはできませんが、吉田町の子供たちは、授業や学校行事等で何かを企画しようとしたときの発想力や新たな取組に対する積極的な姿勢は優れていると感じております。

例えば、総合的な学習の時間である吉田探究への取組において、防災やＳＤＧｓについて、自分たちが学ぶだけではなく、自分たちの学びを保護者や地域に広げて伝えていこうという発想を持って発表の場を企画したり、運動会の企画や運営を教師に指示されて動くのではなく、子供たちが主体的に種目や動きを考え、当日の運営をしたりするなど、積極的に活動する姿が見られています。

また、授業においては、１人１台端末が導入されて以降、タイピング技能は日に日に上達し、自分の考えを画面に打ち込む文字数も見違えるほどに増えていますし、以前のように教師対子供ではなく、子供同士が関わり合って学ぶ姿が当たり前のように展開されていることは他に誇れる姿だと認識しています。

こうした力を発揮することができる子供が増えてきていることは、子供たちの努力はもちろんですが、子供たちの力を伸ばそうと支援している教師の関わりのたまものだと捉えております。

一方で、集団生活になじめず、人間関係づくりに苦慮したり、判断力の甘さから相手を傷つけたり、ささいなことでトラブルを起こしたりする事案が起こっていることも事実です。相手の立場を考えた言動を取ったり、意見が異なる場合に折り合いをつけたりするなど、自分の感情をコントロールする力を身につけていくことが必要であると感じています。

また、主体的に学びに向かう姿勢が見られる一方で、知識・理解や読解力などの向上に結びついていない点も見られます。低学年から基礎的・基本的な内容の定着を図り、積み上げ

ていくことが大切ですので、分からないことをそのままにせず、分かるまで追求する意欲や向上心を高めていくことも必要であると感じております。

次に、４点目の吉田町の教育行政について、現時点での評価と課題はについてお答えいたします。

吉田町の教育大綱では、教育目標として「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」を掲げており、その具体的な施策として、学校教育を中心にＴＣＰトリビンスプランを展開しております。このＴＣＰトリビンスプランは、冒頭に教育元気物語とつけているとおり、子供も教職員も保護者も元気になれるように、三者にとってよりよい教育が展開されることを願った施策となります。

学校教育では主眼を子供の成長に置いておりますので、子供が社会生活を送るために必要な確かな学力を身につけるための環境づくりが必要ですし、子供の成長を支援する教職員の働く環境を整えることや、保護者が安心して子供を学校に通わせることができる環境づくりも必要になってきます。

私が考える教育行政とは、子供たちが将来に向けて、よりよく成長していくことができるようにするための環境づくりを学校と連携しながら進めていくことだと捉えております。その上での評価と課題になるわけですが、学校教育における人的・物的な環境整備につきましては、各種支援員や相談員等の配置、ＩＣＴ機器や空調設備、トイレの洋式化や照明のＬＥＤ化など、他市町に比べて手厚く予算を確保していますので、環境づくりとしては総じて順調に進めることができていると評価しております。

また、学校との連携につきましては、毎月実施している校長研修会で教育委員会の考えを伝えたり、学校訪問しながら情報を共有したりして、意思疎通を図りながら進めることができております。

一方、今後の課題といたしましては、予定している１人１台端末の更新や学校施設の維持管理、老朽化への対応などに加え、校務のＤＸ化、部活動の在り方など、新たな課題への対応をどのように進めていくかということについて考えていかなくてはなりません。子供にとって、教職員にとって、保護者にとってよりよい環境づくりに努めていきたいと考えております。

最後に、５点目の今後の教育行政に対する取組や構想はについてお答えいたします。

吉田町の教育を進めるに当たっては、教育大綱が基になりますので、「生涯にわたり学びあい高めあう人づくり」という教育目標を押さえた上で、基本方針として掲げた「生きる力の育成を目指す学校教育の推進」「心豊かに学び続け、学びを生かす生涯学習の推進」「スポーツに親しむ活動の推進」「文化・芸術活動に親しむ活動の推進」「学びやすく活動しやすい教育環境整備の推進」の五つの方針に沿って取り組んでまいります。

学校教育においては、生きる力の育成を目指しておりますので、この生きる力の３要素であります「確かな学力」「豊かな人間性」「健康・体力」の育成に努めてまいります。特に「確かな学力」の育成につきましては、ここ３年間、全教職員研修会の充実を図りながら、教師の授業力の向上に取り組み、端末を効果的に活用した個別最適な学びと協働的な学びの推進によって、子供たちが主体的に学ぶ力をつけるよう努めてきましたので、そうした学び方が知識・理解や思考力、表現力、問題解決力などの向上につながっていくよう、学校や家庭と連携しながら取り組んでいきたいと考えております。

吉田町で育っていく子供たちが、郷土を愛し、やがて大人になって社会を支えていけるよう、教育の役割を果たしてまいります。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　御答弁ありがとうございました。

教育長の御答弁で、この文章自体は教育長が自ら全てつくっているわけじゃ当然ないので、教育長の生の声を聞きたいなというところが正直ございまして、これはこれで非常に御答弁としてはよく分かりますし、理解をさせていただくところでございます。

そういった中で、子供たちのための教育ということで考えておりますが、教育長が育みたい子供たちの将来の人間像、ここにも若干触れられてはおりますけれども、もう少し具体的にもしお話ししていただければと思うんですけれども、どんな人間に育ってほしいなというような思いを教育に込められているのか、子供たちに期待しているのか、そこら辺をちょっと御答弁いただきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　今回の答弁については、基本的に私がつくりました。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

○教育長（山田泰巳君）　実際にどういう子供たちを育てていくかということに関しては、私はぜひ子供たちが主体性が生かせる、主体性が持てるようにというところは常に思いながら、各学校のほうの校長先生等にも話をしています。

というのは、今時代がいろいろ変化する中で、例えばＩＣＴが進んだりだとか、いろんなことが変化をしていっているんですけれども、どうしても子供たちというのは、今後もう情報化社会の中で生きていくということになります。ＩＣＴが幾ら進んでも、それを使うのは子供だと思うんですね。人が使うということになりますので、そうした活用というのを子供たちがいわゆるどういう場面でどういうふうに使っていけばいいかということを考えていく力というのが必要だと思うんですね。なので、いろんな場面で、例えば教員に言われていろんなことをやっていくというんではなくて、自分たちがそれをどういうふうに使っていこうかということが主体的に考えられるようになっていかないと、いわゆる考える力がついていかないと、やっぱり世の中を生きていくことができないんではないかなというふうに思っていますので、私は、言葉としたら、主体性を育てるということはとても大事じゃないかなというふうに考えています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

ありがとうございます。

私も全く同感でございますが、子供たちが主体的に物事を判断できる、行動ができるということと、ＩＣＴ化がどんどんされていくという中で、ＩＣＴ化される中で主体的に物事を考えられる、考えていける教育を今実践されているというふうには思っているんですけれども、そこでの矛盾みたいなものというのは感じられるところはございますか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　ちょっとお答えになるかどうか分からないですが、今、主体性とい

う話をしましたけれども、主体性というのは１人でやることばかりではないというふうに思っていますので、端末等を使いながら、子供たちは今自分の考えをそこに打ち込み、それを周りと共有をしながらやり取りをしています。ですので、自分がいろいろ考えていることというのが相手にも伝わっていく。要は、自分の思いをアウトプットしていく。それを受けた友達がそれに対してまた反応してくれるという中で、いわゆる協働的に学んでいくというようなことで、自分の考えを新たに再構築していくというところに成長が出てくるんではないかなというふうに思っています。

そうした意味では、ＩＣＴが進むことによって、例えば何かを検索して、それを写して終わりではなくて、そこから自分がどういうふうに考えるかいうところが大事なんではないかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。本当にそのとおりだと思います。

ただ、教育長も私より年上の先輩に当たると思うんですけれども、我々、自分自身が受けた教育がそういう教育ではない、方法論としてはそういう教育ではない中で、そういったことに対応したり、それをよりよいものに磨き上げていくというか、効果を最大限に求められるし、それを求めてやっていくことについて、そこの難しさみたいなものというのはございますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　以前、教育を進めていく中で、子供が非常に素直で、教師の言われたことを素直に取り組んで前向きにやっていくというところをプラスの表現として言うということが、学校の校長先生等にも話をしたときに、いい面としてそういうことを言われたことというのはありますけれども、先ほど話したように、いろんなことを素直で言われたとおりに、いわゆる指示待ち的な部分も含めて、そのとおりにやっていくというような子がいい子なのかというと、必ずしも今の時代に求められている力ではない。例えば、企業等でどんな人が欲しいかと言われると、そうした素直に言われたことをやるんではなくて、自分からいろんな発想を持ってやっていくというような、そうした力を求められているというようなことを考えていけば、我々は育ってきた時代にいろいろなことを知識としても、いわゆる詰め込みじゃないですけれども、受験目指して一生懸命やっていくというような教育を受けてきた年代ではなかったかなというふうに思うんですが、今求められるのというのは、もちろん知識や理解というのが進んでいくということは大切なことではありますけれども、そこに向かってどういうふうに努力をしていくかだとか、仲間と一緒に何かを解決していこうだとか、そうした力というのがやっぱり育っていくということが大事なんじゃないかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。よく分かりました。

教育には、制度とかシステム、やり方というのは大変重要だと思うんですが、そういった中で、今いろいろ苦労されながら子供たちが主体的にいろんなことを考え、行動できるようなことを一生懸命やってくださっていると思うんですけれども、そういった中で子供たちの一番近くで教育に携わる人の人間性とか教え方とか、そういったものはやはり教師の方の影響というのは、子供にとって大変大きいと思っております。

特に人間的な魅力のある教師というものを育てることが、ＩＣＴ化されたり、いろんな情報化されても、一番生身の人間として近くにいる教師の影響というのは大変大きいと思っておりますが、人間的な魅力のある教師を育てるということを私は力を入れてやってもらいたいことの一つではあるんですけれども、そこら辺の考え方については、教育長はどのようにお考えでいらっしゃいますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　教育は人なりとか、人は人を浴びて人となるとか、やっぱりそうした人との関わりの中で人が育っていくというんですか、感化されながら育っていくということはとても重要というか、教育の中でやっぱり重要になると思うんですね。

人それぞれ性格も違いますし、そういう中で教師がやっぱり子供の人格を育てていくというのは教育の目的にありますから、教師自身がそういう人間性であったりだとか、人格が育っていかないと、子供に対する影響力というのは大きいというのは当然のことだというふうに思います。

人を育てていく、大人になっている教師を育てていくというのは、非常にやっぱり難しい部分があるだろうなというふうに思いますが、そこはやっぱり教員同士の関わり方、同僚としての関わり方の中で、そうしたものというのをつくっていくということが大事なんじゃないかなと思います。

例えば、私が教員に対していろんな話をするということはできますけれども、それがこうしなさい、ああしなさいでは、なかなか人というのはやっぱり育っていかないと思うんですね。そうすると、やっぱり人同士の触れ合いの中で人って感化されながらというところがありますので、いかにしてそういう同僚性を高めていくかというところが大事になるんじゃないかなと思います。

そうした意味では、そこの組織の中の代表になっている校長先生中心に、学校の中での教員としての在り方みたいなものというのを話をする機会であったりだとか、研修会でなくても、職員室の中で自然に触れ合う中でというようなこともあるだろうし、そうした機会というのはとても大事なんじゃないかなと思っています。

今、働き方改革というのが言われていて、放課後、話をしながら時間を使って遅くまでということはなかなかできないんですが、そうした中でも、職員室にいるときの触れ合い等というのは、非常に大事になってくるんじゃないかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

今、働き方改革というお話も出ましたので、そこについてもちょっと意見を伺いたいんですが、教師という、子供たちにとって人生の師となり得る、そういったお仕事だと私はやはり思っておりまして、このトリビンスプラン自体もそういった働き方改革の一つになること、考え方ではあろうというふうに思っておりまして、子供と教職員、保護者の三者にとって魅力ある教育を実現するための環境を整備していくというのがこのトリビンスプランの考え方だというふうに理解しておりますけれども、そういった中で、子供が中心がいて、子供にとって一番いい教育環境を私はつくらないといけないと思っておりまして、子供にとって一番いい教育環境をつくるのには、先生方もこうあってほしいよね、教師もこうあってほしいね、保護者にもこういうふうな考え方なり、こういった対応をしてほしいよねということがこの

トリビンスプランの中核なんだというふうに理解をしておりますが、そこの考え方は間違いがないでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　そのとおりだと思います。ＴＣＰの中で、やっぱり中心的に考えたいのは子供の存在であると思います。なんで、子供の成長を願った中で、教職員があくせくしながらゆとりがなくてというのでは、いい教育はできないだろうというふうに思いますし、そこに保護者も協力しながら、保護者も働きながらも子供を安心して学校に預けられるというような環境をつくっていくということが大事なんだろうというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

そうですね、私もそういった意味での、今やられていらっしゃるこのトリビンスプランというのは意味があるし、これがより効果が出てくると、全国のそういった教育に対する影響というのもまた増えるのかなというように感じているところでございます。

先生の在り方という面で言いますと、教師の見られ方の変化というのは、時代とともにあると思いますし、保護者との関係性も大分変わってきているというように思います。特に、教師の方々が本来の教育の場じゃない部分で相当に疲弊していくというような現状がよく報告されてきたりしておりますが、それ、文部科学省の問題もあるというような報道もございますけれども、現場の先生方がより子供たちと向き合えるような環境をつくっていただきたいなというように思っていますけれども、教師のそういった働き方の中の、あとは保護者に対する対応とか、そういったことも相当に疲弊していると。クレーマーも含めて、子供を心配する余りという親御さんの心情ももちろん理解をするんですけれども、そういったことに対する対応というのが、先生方の組織というのは、民間とは違って明確な上司というのは、校長とか教頭とか副校長とかいうぐらいの方しかいなくて、なかなか結果として担任に押しつけられてしまうような、そんな状況があるというふうに思っておりますが、そういった先生方の教育に携わる環境づくりということに関しては、どのような御認識をしていらっしゃいますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　そこに対する環境づくりという意味の答えになるかどうか、ちょっと分からないんですけれども、教育課程そのもの、例えば一日の日課であったりだとか、週課であったりだとか、年間の計画もそうなんですけれども、いろんなものを考えていくのは教職員がいつも12月くらいからもう年度末にかけて、来年度どうしていこうかということで、いろいろ工夫しながらやってきています。そうした中で、今まで例えば当たり前のようにやってきていること、私たちも子供の頃から、学校行ったら掃除やるというのは当たり前であったし、小学校なんか今でも２時間目と３時間目の間に、10分ではなくてちょっと長めの休み時間を取ったりというふうにしながらやっていますけれども、そういうのってどこにも決まりとして、そういうふうにしなくてはいけないということが書かれているわけではないんですね。なので、今までいわゆる慣習的にやられているようなことというのが、当たり前のこととして変えられないものだというふうに感覚を持っていると、いつまでたっても時間って生み出せないと思うんです。

先生たちが疲弊をしていくという中で、今業務改善でいろんな負担を取り除いていっては

いるんですけれども、負担感とか多忙感とかという、そういったものってなかなか解消されていないというようなところがあります。その一つは、子供のトラブルの対応であったり、保護者との対応であったりというのもあるかもしれないと思います。

例えば、先ほどお話をされた保護者との対応であったりについても、トラブルが起こるときというのは、いわゆる初動として丁寧に対応していけば、そういうトラブルに発展しなくても済んだんじゃないかということも多々あるかと思うんですね。そういう意味で、先生同士が学校の中でも情報共有したりだとか、連絡を取り合ったりだとかというような体制をつくっていくということが、組織的な対応につながったりだとか、トラブルで大きなことに発展したり、尾を引いたりというようなことがなくなっていく要素になるんではないかなというふうに思っていますので、そうしたところというのは、結局私たち、私の立場で話をできるのはリーダーである校長先生とやり取りすることが一番やっぱり多いんですけれども、そうした校長先生とやり取りをする、そしたら校長先生が学校の職員とやり取りをするという関係性をうまくつくっていくことが必要なんではないかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

そうですね、校長先生に対して、また校長先生も、自分の学校の先生たちとのコミュニケーションなり、自分の背中を見せて教育に対するやり方とか方法論が自然と伝わっていったりすればいいなと思うんですけれども、先生方というのは、教育の世界って結構閉鎖的な面がすごくあると私は思っているんです。それが少しずつ変わってきていると思うんですけれども、それで先生の世界というのは、私は今先生には社会性が求められていると思っているんですよ。社会性がなかなか少ない方が多いというか、教育にはもちろん熱心で一生懸命やっていらっしゃる先生はもちろん多いんですけれども、そこに一般論で言う社会性みたいなものはなかなか身についていないというか、身につける場もそんなになかったということがある、言えるのかなと思うところもあります。

民間に勤めたりして、そういった中で社会性を身につけて先生になってという、後から採用されるような先生方、高校なんかいるんですけれども、そういった形の先生だと、非常にいろんなことが柔軟に対応できる。さっきおっしゃられた初動対応の部分なんかでも、非常にそういった方というのは柔軟に対応してくれて、ある意味評価が高くなったりされる方も結構いらっしゃるわけです。先生もパーソナリティーがそれぞれありますから、一概に全部がそうということじゃもちろんないんですけれども、やはり先生が社会性を身につけてほしいなと私は思っておりまして、そういったことの対策というのは何かできることがあるのか、どうなのかなと、いつも思っています。

私は、県の教育委員会にもそのことをずっと言っていまして、新卒で採用されたら、数年間民間企業に出向させろと言っていたんです。県でも人数は県単でやらなきゃいけないものですから、予算は全部。文科省の予算、国の予算使えないので、給料全部、県単で払わなきゃいけないので、たくさんはできないんですけれども、人数は少ないですけれども、そういった形で民間との人事交流みたいなことやっております。私はそれの枠をもっと広げてほしいなと思っておりますし、新卒で先生になられて教壇に立つというのは、ある意味、社会性が乏しいままで、子供たちの親御さんたちはもっともっと社会性を持った方々の対応をしなきゃいけないというような状況もあったりもするものですから、本人もしんどい部分がある

んじゃないかなというような思いが私は思っています。

そしてもう一つ、私は私の父親が教師でした。私はそういった中で育ってきていますし、私の姉も教師を昔はやっていました。そういう中で、うちの父親と正月とか親戚が集まって酒飲んだりすると、私のおやじの兄弟たちはみんな民間の企業に勤めている民間人なんですね。うちのおやじだけ教師なんです。それで、大体そこでいつもけんかになるんですよ。それで、いろいろ話を聞いていると、小さい頃はよく分からなかったですけれども、中学生とか高校生ぐらいなってくると、それぞれの言い分を聞いていると、うーん、おやじ、やっぱり教師だなみたいな感じの理解をするように私なんかもなったりしていたこともあるんですけれども、やはり社会性みたいなものがなるべく早いうちから、教師として教壇に立つ以上、なるべく早いところからそういったものが身につけられれば、なお本人にとってもいいし、子供たちにとっても、結果として保護者にとってもいい形になるんじゃないかと思っているんですが、その点については、何か対策なり、何かできることとか考えていらっしゃることみたいのはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　先ほど、教育は人なりとか、人は人を浴びて人となるというような話をしましたけれども、やっぱり教員もいろんな人たちと話をしたり、それこそ民間あたりでどういうふうにやっているのかという、いわゆる今までの思い込みの中で、ずっと学校生活しかしていなかったような人たちが、そういう社会のことに触れるということは大事なことだと思います。

以前、いわゆる初任者研修と言われる１年目の先生たちの研修の機会というのは、最初の１年間だけに絞られて研修を積んでいましたが、その１年間だけでやるんではなくて、２年次研修、３年次研修というふうに３年間でそうしたことを学んでいこうというふうに年数が延びました。そうした中で、２年目、３年目の中では、学校ではなくて、企業体験、いわゆる民間企業体験というものを、これ数日しかできないんですけれども、そうしたものも必ず入れるような形になってきています。どこで民間の体験をするかというのも含めて、全部自分がそこの民間の企業と連絡を取って、そこで実際に働いていくというような形で、若い３年目までの中の一つのプログラムの中に入れています。以前は、民間との交流で半年くらいだとか１年間そちらのほうで働くというようなことも、県で何人かというのは先ほどおっしゃられたとおりありましたけれども、今はもう３年目までに必ずそういったことを数日だけでもやらなきゃいけないということがあります。

それと、自分が思うのは、やっぱり教員も地域の一人の人間ですので、先ほども防災等の話がありましたけれども、地域の中の一人として、教員も地域とのコミュニケーションを図っていくというようなことが必要になってくるというふうに思いますし、ここ最近、学校の仕組みの中で変わってきているのは、コミュニティ・スクールということも進めていて、地域の人たちがかなりの数、学校のほうにも関わってくれていますので、そういうような人たちとの教員とのやり取りというのも増えてきているというようなことも考えれば、そうした学校だけの世界ではなくて、いろんな人と話をしていく機会というのを増やしていくこととというのは、やっぱり必要なことなんだろうというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　地域地域でそういった場というのはたくさんあると思いますし、そう

いったところに積極的に先生方も一地域住民として参加していただくことで、いろんな気づきだとか経験もできるのかなというのは、確かに私もそう思っておりますし、そういったところになるべく積極的に参加しろというような指導をぜひ口を酸っぱくして言っていただくぐらいしないと、なかなか奥さん任せになっちゃったりとかというところが多いと思うので、ぜひそういったことはちょっとお願いしたいなというふうには思っております。

それで、まず先生方をとにかくしっかり育てる、冒頭でお話ししました、人間的な魅力のある教師を育てる、そういったことは、とにかくこの吉田町だけのことで考えると、非常に先生方の人事が、遠くに行ってしまって町外に行ってしまうということが多々あるものですから、吉田町だけで育てるというのはなかなか簡単ではないんですけれども、そうは言っても、吉田町内に赴任してこられた先生方は、数年間は間違いなく吉田町の子供たちに直接教育に関わるということは、大きな影響をその間でも及ぼすということでもありますし、地域全体としても、吉田町単独ということだけではなく、地域全体として、吉田町にやはり赴任してくるといろんな面で勉強になるし、教育の質を上げることができる、教師として非常にブラッシュアップできるというような教育カリキュラムなりというものを構築していただければありがたいなというように思っておりますが、その点について御答弁いただければと思います。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　教員には、やっぱり人事交流があって、県の教育委員会でも毎年人事に関する基本的な方針というのを出しています。その中では、この榛原地区は吉田町と牧之原市と川根本町が一つの榛原地区をつくっていますけれども、基本的にはその中で教員が動くことが多いんですが、そこだけではなくて、志太地区や小笠地区も含めて、いろいろ地区間での人事交流等も進めています。

榛原地区の中で動くことが非常に多いということを考えれば、吉田町、牧之原市、川根本町の、我々は教育長同士で話をする機会があったり、担当課長同士で人事について担当している者同士で話をするような機会がありますので、そうしたときには、結局吉田町で働いている人、特に中学校というのは吉田中学校は１校しかないですから、必ず他と毎年毎年交流をして新しい人が入ってくるということになりますから、逆に言えば、吉田町で今ＩＣＴを進めていることを人事交流で他市町に行けば、吉田町でこうやってやっているということを広めていくというような役割も担うことができるというところで、地区全体の中でそうした底上げをしていかなきゃいけないんだろうというふうに思っています。

そうした意味では、その人事交流というのを上手に使っていく必要があるんだろうというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ぜひよろしくお願いしたいというように思います。

締めのほうに入ってくるんですけれども、教育長が教職に就かれて、多分もう40年以上経過していらっしゃると思います。教育の世界に携わる中で、教育のすばらしさ、やりがいを一番感じているところというのはどんなところでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　先生になる動機というのを、例えば教員の採用試験を受けようとしている人であるとか、先生になったばっかりの若い人たちだとかに、どうして先生を目指そ

うとしたのというふうに聞くと、多くの答えで返ってくるのが、恩師に憧れてという回答が来ることが非常に多いんです。なので、教員って学校の生活の中では、それこそ子供といろいろやり取りをして、トラブルが起こったり、意見の違いがあったりだとかというようなこともあるかもしれませんが、卒業のときに本当に気持ちが高まって、子供もそうだし、教員もそうだし、涙を流せるような感動の中で卒業式を迎えられると。それってやっぱり教師冥利に尽きるところだし、私にも教え子が、吉田町で暮らしている子たちがいますけれども、そうすると、当時の学校のときの話だとかというのに花が咲いたりだとかします。そういうような話が出てきたときというのは、本当に教員の魅力というんですか、楽しさというか、そうしたことを改めて感じるときかなというふうに思います。

そうした意味では、教員の子供への真剣な関わりというか、情熱を持った関わりというのが子供たちに伝わっていくと、教育ってやっぱり充実していくんではないかなと。それは今すぐ花開くものではないかもしれないですけれども、何年か先に子供が大人になったときに、ひょっとしたらそれがプラスの方向にいくこともあるんじゃないかなと。そうした意味では、教師の魅力というのは、そういう人と人との関わりの中にあるかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

教育長が今そういうやりがいというか、教師のすばらしさを語っていただきましたけれども、ぜひそういう思い、そういう思いというか、そういったことが現場で体験できる先生方を増やしてほしいというように思います。

就任されて、教育長としては４年ぐらいたたれていらっしゃると思うんですが、そういった現場の先生方の思い、思いというか、そういう先生を増やしてもらう理想の教育に、少しずつでも着実に近づいているという御認識はございますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　なかなか一朝一夕に達成できることではない。先ほど答弁の中でも、ゴールのない営みだというふうに言いましたけれども、やっぱりここまでいったら、もうそれで終わりですよというわけではないので、ある程度のところまでいけば、今度はそれがベースになって次を目指していくというような形になっていきますが、少なくともこうやって私たちが学校の先生たちとやり取りをしていく中で、先生たちが少しずつ少しずつ変わっていくというような姿というのは、感じ取ることはできているかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございます。

ぜひ、子供たちにとってのいい教育環境、そしてそれが先生たちにとっても働きがいのある場所になる、結果として親御さんたちの信頼も厚くなるという、このトリビンスプランも含めたすばらしい教育環境をこの吉田町で実現をしていただきたいと思います。

そしてあと一つ、最後になりますが、お願いになるんですけれども、今、今日こうして教育長といろいろ議論もさせていただいて、教育に対する思いとか、熱意とか、考え方というのを知ることができましたけれども、教育長なりが町民等にそういう情報発信をする場というのが現状なかなかないというふうに思っておりまして、どういう形がいいのか、どういう形があるのかというのはちょっと分からないですけれども、ぜひ情報発信を積極的にしてほ

しいなと考えているんですけれども、その点についてだけ、最後、御答弁いただければと思います。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　冒頭、議員のほうからも、例えばホームページ見てもそうしたものがないという話がありました。そうしたところも含めて、私が考えているようなことというのをどういう形で発信できるかということについては、またちょっと今後考えさせていただいて対応していきたいなというふうに思っています。

○１番（大石裕之君）　ありがとうございました。これで質問を終わります。

○議長（大石　巌君）　以上で、１番、大石裕之君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩とします。

再開は13時とします。

休憩　午前１１時５９分

再開　午後　零時５７分

○議長（大石　巌君）　では、皆さん、おそろいのようですので、休憩を閉じ、会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は12名です。

◇　八　木　　栄　君

○議長（大石　巌君）　引き続き、一般質問を行います。

10番、八木　栄君。

〔１０番　八木　栄君登壇〕

○１０番（八木　栄君）　10番、八木　栄です。

私は、令和６年第３回吉田町議会定例会一般質問において、さきに通告してありますように、中学校の部活動について質問いたします。

中学校の部活動、運動部の地域スポーツクラブへの移行について、令和５年９月の定例会において一般質問をしました。あれから１年が経過したわけですが、この間に中学校運動部の地域移行についてどのような進展があったのか注目するところです。中学校の運動部では新チームになり、秋の新人戦を行っている運動部もあると思います。

また、部活動には文化部もあり、こちらのほうも教師の働き方改革による変化に関心があり、再度、中学校の部活動について質問いたします。

１番目、本年度の部活動の状況は。加入生徒の数や全校生徒に対する割合を含めてお伺いします。

２つ目、現在、部員不足の運動部にはどのようなものがあるか。

３番目、吉田町部活動の在り方協議会において、部活動の方向性はどのように示されたか。

４番目、吉田町部活動在り方委員会において、活動する場所についてどう示されたか。

５番目、吉田町部活動在り方委員会において、活動費や各種大会への参加費用の補助金等

についてどう示されたか。

６番目、吉田町は近隣市と違い、中学校が１校しかないので、地域移行後の部員不足を補うために複数校が合同で行うということができないが、その対応は。

７番目、地域スポーツクラブは中学校部活動として活動するのか。それとも中学校部活動とは無関係の状況になるのか。

８番目、文化部においては、学校の働き方改革によって何らかの変化があったのか。

以上が私の質問です。明確な御答弁をお願いします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

教育長、山田泰巳君。

〔教育長　山田泰巳君登壇〕

○教育長（山田泰巳君）　中学校の部活動についての御質問のうち、１点目の本年度の部活動の状況はについてお答えいたします。

吉田中学校の部活動につきましては、本年度、野球、サッカー、バレー、陸上競技などの運動部が16、吹奏楽、美術などの文化部が３、合計19の部活動が存在し、７月31日時点で509人の生徒が所属しております。全校生徒が777人ですので、65.5％の生徒が部活動に加入していることになります。令和３年度から加入・未加入の判断を自らすることができる完全自由加入制としていることもあり、加入率は年々減少傾向にあります。

しかしながら、部活動に所属していない268人のうち、141人については地域のクラブチームや他のスポーツ団体に所属している状況にありますので、部活動以外での生徒の活躍の場が拡大している傾向にもあります。

また、本年度、19ある部活動のうち、弓道部と水泳競技部につきましては、専門的な指導者の確保の問題や地域に活動の場があるということから、３年生の活動が終了した時点で廃部となり、本年度末時点で部活動の数は17になる予定でございます。

次に、２点目の、現在、部員不足の運動部にはどのようなものがあるのかについてお答えいたします。

部員不足につきましては、その競技がチーム制で、大会の参加規程の人数に達しない場合とした上で申し上げますと、本年度の３年生までを含めた状況で部員不足となった運動部はございません。しかしながら、この夏の大会で３年生が引退し、１年生と２年生の部員で構成した中で大会の参加規程人数に達しない運動部は野球部とサッカー部になります。

野球部は年度当初15人の部員がおりましたが、３年生11人が引退することで１、２年生だけで４人になってしまいますので、９人制の野球では大会に参加できないことになってしまいます。また、サッカー部は年度当初17人の部員でしたが、３年生13人が引退することで、こちらも４人になってしまいますので大会に参加できないことになります。

次に、３点目の、吉田町部活動の在り方協議会において、部活動の方向性はどのように示されたかについてお答えいたします。

吉田町部活動の在り方協議会につきましては、町長の行政報告でも申し上げましたとおり、昨年度から同協議会を立ち上げて議論を進めており、令和８年度に３年生となる生徒が部活動を引退する時期を境目として、休日の部活動から段階的に地域に移行していくことを目指し、現在、協議を行っております。

先月、本年度第１回の協議会を開催いたしましたが、その中で教育委員会事務局から地域

クラブ創設に当たって基本的な考え方を三つ示しました。

一つ目は、生徒が自ら新しいことに挑戦したり、自らの特技を生かしたり、将来の夢や目標に向かって主体的に取り組んだりすることができる活動とすること。

二つ目は、競技力や技能の向上、または趣味としての気軽な活動のどちらを目指すにしても、楽しさを感じることができる活動とすること。

三つ目は、町内１中学校というコンパクトな環境を生かし、地域で支える持続可能な活動とすることという三つの柱を基に、教育委員会内に地域クラブ推進の事務局を置いて進めていくことを提案し、委員の承認をいただきました。委員からは、主体性や楽しさをどのように捉えるかといった意見も出されましたので、活動の基本的な考えを共有して移行していくことができるようにしていきたいと考えております。

次に、４点目の、吉田町部活動の在り方協議会において、活動する場所についてはどう示されたかについてお答えいたします。

活動場所につきましては、学校等の公共施設を使用することを原則として、現行の部活動と同様、吉田中学校内の施設については地域クラブの使用を優先とした上で利用団体としても登録し、小学校等の施設を利用したい場合には、毎月実施する各施設の利用者会議において調整して決定することを想定しております。また、使用料につきましては、減額または全額免除とする方向で検討しているところです。

次に、５点目の、吉田町部活動の在り方協議会において、活動費や各種大会への参加費等の補助金等についてどう示されたかについてお答えいたします。

活動費や大会参加費、傷害保険加入費や指導者報酬など必要経費をどのように確保していくのかについては、懸案事項として今後の協議会で議論をしていかなくてはならない大きな課題となっております。

活動費につきましては、当面、平日の部活動が存在しますことから、これまでどおり部活動加入者から諸会費として徴収していくことが考えられますが、登録料や個人種目としての大会参加費、傷害保険加入費などは地域クラブ加入者の受益者負担としていくことも想定されます。

また、指導者報酬につきましては、単価設定の問題に加え、受益者負担なのか公費負担なのか、あるいは双方負担にするのかなど今後の協議会の中で方向性を議論し、公費負担が必要になる場合は予算の調整も必要になってきますので、慎重に進めていきたいと考えております。

次に、６点目の、吉田町は近隣市と違い、中学校が１校しかないので、地域移行後の部員不足を補うために複数校が合同で行うということができないが対応はについてお答えいたします。

令和４年12月にスポーツ庁及び文化庁から示された「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン」には合同部活動の導入について示されているわけですが、静岡県中学校体育連盟におきましても、合同部活動と合同チームの参加基準を設けて大会参加を認めております。

合同部活動とは近隣の３校以内で一つの部活動を設置するもので、１校の人数に規定があるわけではありません。それに対し、合同チームとは部員数の減少によって単独チームによる参加が困難な学校への配慮措置として、同一市町内または同一支部内において競技の人数

に満たない学校同士や、満たない学校と満たしている学校で合同のチームを編成することをいいます。

合同チームで参加ができるのは個人競技のないバスケットボール、サッカー、バレーボール、軟式野球、ソフトボール、ハンドボールの６競技に限られています。吉田町には中学校が１校しかないわけですが、合同チームは同一支部内で編成することができるものですから、志太榛原支部内の近隣校と組むことができるようになっています。

さきの２点目で申し上げましたとおり、吉田中学校では野球部とサッカー部が規定の人数に満たない状況ですが、志太榛原支部内の学校と合同チームを組むことが可能となりますので、現在、吉田中学校では近隣市町に相談をかけている状況であると聞いております。

次に、７点目の、地域スポーツクラブは、中学校部活動として活動するのか、それとも中学校部活動とは無関係の状況になるのかについてお答えいたします。

地域クラブは学校の部活動とは異なる組織となりますので、中学校部活動として活動するわけではありませんが、さきに申し上げましたとおり、令和８年度の３年生が引退する時期を境目としまして、休日の部活動から段階的に地域に移行していくことを目指しておりますので、平日の部活動がある限り、地域クラブ指導者と部活動顧問が連絡を取り合うことは必要になってくると考えております。

今後の課題でもあるわけですが、例えば大会の開催案内が学校に届けば地域クラブ指導者との連携が必要になりますし、練習試合で行う場合は相手校との連絡や会場使用の調整なども必要になってきます。地域クラブへの移行が円滑に進み、いずれ平日も含めた完全移行となれば学校教育から離していくことが考えられますが、現時点においては、休日移行をしたからといつて部活動と無関係になるわけではないと考えております。

最後に、８点目の、文化部においては、学校の働き方改革によって何らかの変化があったのかについてお答えいたします。

文化部におきましては、令和５年度末にパソコン部を廃部とし、現在、吹奏楽部、美術部、科学部の３つの部が活動しております。吹奏楽部につきましては、コンクールへの参加や地域行事への出演依頼などもありますので休日も含めた活動をしておりますが、美術部と科学部につきましては平日を中心に活動していると聞いておりますので、教員への負担は運動部に比べれば軽減されております。

吹奏楽部につきましては、個人の技能の向上に加え、全体で合わせて一つの演奏をつくらなくてはならないため、練習時間の確保とともに専門的な技術指導ができる指導者の確保や、学校備品として使用している高価な楽器の維持管理など、地域クラブへの移行に当たっては様々な課題を抱えています。これらの課題を含め、文化部につきましても運動部同様、協議会において地域クラブへの移行について検討してまいります。

なお、部活動の地域クラブへの移行については、現在の小学６年生が中学２年生の夏から関わっていく問題ですので、本年11月に開催予定の中学校入学説明会において、児童と保護者にも概略を説明できるように進めていきたいと考えております。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

それでは、再質問させていただきます。

最初に１点目で、人数が少ない部活動があるよということで、野球部とサッカー部。これがすぐにクラブチームに移行することでもなくて、すぐ合併ができるというわけでもないということであると思いますので、こうしたところ、今、新人戦があったりして、来年にはまたちゃんとした大会があるんですけれども、それに間に合うかどうかということですけれども、それがないと試合ができない。試合がなくてもいいよというならそれでいいんですけれども、その辺に向けてどういうふうに考えているかということをちょっとお聞きしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

人数が少ない部活動の中で、大会に参加できないような状況にあるところに対してはどう対応しているかというところですけれども、先ほどの教育長答弁にもありましたとおり、大会に参加、今年の夏に３年生が引退することによって大会に参加できない人数になってしまったところが野球部とサッカー部ということになります。

これにつきましては、教育長答弁でもありましたとおり、合同チームの申入れを今、近隣市町にしているということですので、それによって中体連のほうでそういう参加規程に合同チームというのは許されているものですから、それで申込みをすれば、吉田中学校の野球部が合同チームとして大会に参加できるということになりますので、それ以外の部活については基本的には大会に参加できる。個人戦等もあるものですから、大会に参加できるということになっております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番。

志太榛原地区の中なら合同チームということが可能だよということで伺ったんですけれども、例えば、今どこかへ声かけてあるとしたら、どこへ声かけをしているかということは教えてもらえますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課です。

合同チームについてどこに声をかけているかということですけれども、野球部につきましては牧之原市が今、牧之原中学と榛原中学と相良中学で合同部活動を既につくっておりまして、その合同部活動の中に吉田中学校の野球部が合同チームとして加わってもらうということで、今、声かけをしているということです。

それから、サッカー部については、榛原中学と相良中学の２校が合同部活動になっておりますので、そこの合同部活動のチームに吉田中学校のサッカー部が合同チームとしてお願いをしているというような状況を聞いております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

こういう状況になったことで、まだ新チームというんですか、３年生が終わったもんで、保護者としたらもう自分の子供が入っている部活動のこと、様子が分かるわけですよね。そ

ういう中で保護者とかクラブへ入っている子供とかから何か意見とかそういうものはありましたか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

保護者からの意見があるかどうかということについてでございますが、それこそ部活動の在り方協議会ですね。昨年度から立ち上げて、昨年度３回、今年は８月に１回やっているんですが、そこの在り方協議会の委員の中に各保護者枠がありまして、小・中学校の保護者さん３人、そこの委員の中にも入っております。そこからいろんな部活動に関しての意見とか聞いておりますが、直接教育委員会に保護者から部活動の状況についてという問合せというのは特には聞いていない状況ですので、保護者の代表の方から聞いたりとか、あと中学校のほうには幾つか当然いろんな連絡は入っていると思うんですが、現状のところは部活動あるものですから、そのままやっていけているという状況だと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

あと、今言われた在り方協議会ですね。これ、昨年聞いたときは６月に１回やっておる。今年、町長の行政報告で８月に１回やったということですが、今、質問の答弁を伺いますと、自分は昨年の質問で在り方協議会で協議していきますといって、ある程度回を重ねていかないと、なかなかいい意見が出ないのではないかなというふうに思ったわけですけれども、今、答弁を伺うと割かし前向きな意見が出てきて、何かある程度進んでいるかなというふうに思ったものですから。ということで、何回くらい、これまで。今年の８月やったと聞いたときは、自分が昨年一般質問して１年たったわけですが、その間に何回くらいの協議をしたかということをちょっとお伺いしたいですが。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

部活動の在り方協議会については昨年度３回行っておりまして、今年度が８月の１回ということになりますが、それ以外にもいろいろ、体育協会の方とか文化協会の方とか個別にいろんな意見を聞く機会は設けておりますので、その協議会にある意味、テーブルにのせるためのいろんな打合せというのは昨年度とか本年度におきましても何回か行っているという状況でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　令和８年度から休日の地域移行という目標が、昨年、私が質問した中で答弁があったわけですけれども、それが実際達成できるかというのはちょっとなかなか難しいかなと思うんですけれども、その辺はどうですか。昨年の答弁があったように、８年の移行が、その目標が達成できそうかどうかというのはちょっとお伺いします。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

８年夏までの移行が目標が達成できそうかどうかという件についてでございますが、これは国のほうが、文化庁、スポーツ庁のほうが改革推進期間として５、６、７年度末までをも

ってというところで、８年度以降は地域移行、休日から地域移行にするようにという国の青写真ができたわけですが、本町につきましても、そういった形でいくということで目標を立てております。

当然、目標実現可能かどうかというところになってくるわけですけれども、本町にとって実現可能な状況になるような案として、今般の８月５日に在り方協議会あったんですけれども、そこで具体的な方向性というかを教育委員会のほうから示させていただきましたので、実現可能になるように進めていくというところではあります。

ただ、一番の問題は指導者が集まるかどうかというところの問題が委員からも意見もありましたし、当教育委員会としても、そこの指導者確保問題というところが大きなところかなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

ただいま指導者というお話出ましたが、やはり日曜日なら大概お休みの人で、若い方も年寄りの方も指導することはできると思いますが、今度は平日となると学校が終わってからというと、ある程度、普通の会社員だと仕事が終わるまでが大体部活動が終わる時間だもんで、指導ということはちょっと難しいと思うんですね。

だから、どちらかというと、高齢といっちゃあれですけれども、ある程度自分が仕事第一線終わった方が、経験者というかそういう人が指導者としてやるならできるかなということで、よく一般的に高齢者しかいないというような、そういう指導者をお願いしても高齢者しかできないというようなことが言われていると思うんですけれども、自分からすると高齢者だからできるという感覚があるんですね。

高齢者でも達者な方もいると思うものですから、そういう方にぜひ、そういう経験を持った方にやってもらえればある程度、平日でも御隠居さんになってしまえば休日ですので、やってもらえるかなと思うんですけれども。その辺は、だから求めるものが若い人とかといって求めるとかなり無理があるというふうに思うんです。ですから、あくまでも指導者として、その資格は取らにゃいかんと思うんですけれども、そういう中で年齢ということを考えなしにしたら、高齢者の方ならある程度、高齢者という言い方は悪いんですけれども、ある程度の年代の方ならそういうことが指導ができるんじゃないかと思いますが、その辺に関してはどうお考えですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

指導者の年齢については、当然、年齢に絞ってこちらとしても指導者を確保するために動くわけではないものですから、当然やっていただける方がいれば、若い方でも年配の方でもどちらもこちらとしてはありがたいということで考えております。

以上です。

○１０番（八木　栄君）　了解です。

○議長（大石　巌君）　いいですか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　あと、部員不足ということで、今、中学校の部活動を合同チームと

してやる考えがあるよということですが、これが地域移行しても、先ほど言ったように吉田町は中学校が１校だし、スポーツクラブになっても、同じ競技で、部員数が少ない競技はクラブへ移行しても同じく人数が少ないわけですよね、やる子供が。だから、そうすると地域スポーツクラブへ移行しても少ないものは少ないで、なかなか活動的にクラブが成り立つかどうかというのがあるですけれども。

それならそれで、今言ったように合同チームで中学校でやったほうがいいというように感覚あるんですけれども、だけど、あくまでも国の方針でクラブへ移行するだよというふうに指導されているわけ、今言ったように８年にはということになっているだもんね。

その間に合同の中学校の部活動としてやるというのは今、お話だと思うんですけれども、それ以降、クラブとしてもそれじゃ全体で吉田町の一つのクラブ、サッカー、野球が一つのクラブ、スポーツクラブじゃなくてどこかよその、近隣の志太榛原地内だか分からないですけれども、そういうところで合同でクラブとしてやっていくというようなそういう考え方になりますか。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

中体連の大会参加規程が今、それこそ地域クラブ化というところに向けて、毎年のようにちょっといろいろと変わっています。大会の参加規程というのも令和６年度は令和６年度で、令和５年度はまた違ってということで、ちょっと今、過渡期にある中の大会参加規程も変わっている中、そこの合同チームという考え方がそもそもクラブチーム同士で合同チームでいいのかというところも問題があります。

今回については、それぞれの部活動の中の合同チームというところで決められていると思いますので、そこのクラブチームが将来、８年度の夏以降に必ずクラブチームが地域クラブ化しなければいけないというわけではなくて、国のほうはそういう方針でいますが、改革推進期間はそこの３年間なんですけれども、地域の状況に応じて考えていってくださいというのも当然あるわけですので、ねばならないじゃないものですから、そこは流動的にというか柔軟なやり方でやっていくしかないのかなと思っておりますので、ちょっとまた状況を見ながら、大会参加規程とかその状況を見ながらやっていくということになると思います。

以上です。

○議長（大石　巖君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　今、サッカー部と野球部が人が足らなくてという話だけれども、ほかの部活動については、スポーツ部はもっとたくさんあるわけですね。それについては、人数が不足していないもんでやっていけると思うんですけれども、それについては将来的にはどのようなふうになっていくのか、ちょっとお伺いします。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

野球、サッカー以外の運動部の将来的にどうなっていくかということでございますけれども、現状のところ、吉田町の吉田中学校での部活動の人数に今、大会に参加できる状況で人数がおりますので、基本的には移行するまでの間は吉田中学校部活動としてしっかり大会に参加できる状況であると。

８年度夏以降に、まず休日からということになるものですから、平日はしばらくは吉田町

の部活動として残るという中でやっていきますので、そこは平日も移行できるようになるような状況になる部活はまた時期がちょっと変わってくると思うんですけれども、そこも部員の人数とか状況を見ながら、指導者が地域の方から出てきてくれたら、そこは平日も含めて地域移行すぐできるでしょうし、なかなか顧問、指導者が集まらなければちょっと部活として残るというような状況にもなるのをちょっと見越した中で、基本的な形としては８年度の夏以降に移行ということで考えながらやっていくということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

もし人数が足りて普通にやっていけるとしたら、今、国のほうでは８年ということで移行しようということで言っているような形ですけれども、先ほどそういうふうに言われているけれども、別に地域性を考えて、そこがすぐにそうならなくてもいいよというようなお話でしたけれども、その辺をはっきりしないと保護者とか子供とかがどうしたらいいかって迷っちゃうと思うんですよね。

なので、できるだけ当局というかそちらのほうではっきりした道筋を立ててやらないと、子供らがきっと大変だなと思うんですけれども、そのためには曖昧じゃなくて、はっきりした目標を立てて、いつまでにちゃんとそうするよということをちゃんと伝えてやったほうがいいと自分は思うんですけれども、その辺については。だから、ちゃんと決めてほしいなということがあるんですけれども、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

一番は子供たちが部活を楽しんでやっていただくというかということで、子供たちとか保護者も含めて迷わない状況ということを考えれば、当然今のような状況で、時期は方向性として目指しているものは出ていますけれども、実際に本当にできるのかというところを教育委員会としてはっきり言えてないという状況はあるのは、やはり一つ一つの部活動がなかなか状況がそれぞれに応じて違って、一概にこうなるということがなかなか言えないということがまず一つです。

それぞれの部活動と、例えば地域クラブとのつながりでいけるかとか、そういったこともやりながら、もしそれで全部が移行できれば、もうこれですって言い切れるんですけれども、そこの部分が今の時点ではなかなか言えないというところで、皆さんにオフィシャルに、こうですというのがはっきり言えないというところがあるものですから、そこは当然、早くはっきり言えるような形にはしたいんですが、その中の在り方協議会での検討もそうですし、教育委員会事務局としても一生懸命、どうするべきかということで動いているという状況であることを御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　とにかく自分が思うに、この中で小学校から中学校へ行くような子供を持った親がいたとしたら、やっぱり子供のこと心配になるし、その子供自体もやっぱり心配になってどうしていいかなというふうにもなると思うもので、できるだけ早めにそういうことをはっきりしてやるということが大事だと思いますので、その辺はお願いしたいと思

います。

それから、先ほど何か三つ目の質問の答弁で、三つのことがあって、協議会の中ですね。一つ目は生徒が自ら新しいことに挑戦したり、自らの特技を生かしたり、将来の夢や目標に向けて。二つ目は競技力や技能の向上、または趣味としての気軽な活動。三つ目は町内１中学校というコンパクトな環境を生かしということで、委員から主体性や楽しさをどのように捉えるかというような、そういう意見も出たということで、そういうことを、この三つのことを考えると、昨年、私質問した答弁の中で総合型地域スポーツクラブのような組織づくりということが出たですよね。自分も、どのくらいになるかな。20年ぐらい前か分かりませんが、かなり前に総合型地域スポーツクラブについて一般質問したこともあったんですけれども、その内容を今ちょっと思い出せませんが。

そういうことで、総合型地域スポーツクラブというものがもしあれば、それで複数のスポーツを一つのところでまとめてやるということで、それで子供たちも本当に自分が好きなスポーツって１個じゃないと思うんですよ。自分は野球やっていますけれども、いろんなのを見たり、たまにはやったりするものですから。

そういう中で、人が少ないとなると余計人が欲しいから、一つのスポーツじゃなくて兼ねてやるということも考えられると思うんですよ。特に陸上なんかはスポーツの原点だもんで、陸上というのは何にでも共通しているもんで、かなり重ねてできるんじゃないかとも思うんですけれども。そういうことの中で、総合型地域スポーツクラブというようなものについてはどのようにお考えがあるかというのを伺います。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

現在の在り方協議会の中で、８月に行われた協議会で教育委員会の案として示した、吉田町の地域クラブの案の中で、先ほどの三つのまず基本的な考え方を抑えた上で、じゃ運営組織はどうするんだというところで、教育委員会の事務局、課で言えば生涯学習課に例えば組織を、そこの事務局を置いて、今現在ある吉田町の部活動をまずはその地域クラブに宛てがうというところと、それにプラス、議員おっしゃった総合型スポーツクラブ、こちらも一つ入れて、例えば部活動が今現在、吉田中学校って平日は火、木、金あります。それで土日のどちらかということでやっていますので、例えば部活動がない月、水とかに総合型クラブということでやれば体育館も開いていますし、ほかの部活動がないところにやるということで、それを例えば総合型スポーツとしてやるということの考えも案として出させてもらいましたので、そういったことも含めて考えていきたいなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

今言った総合型地域スポーツクラブというのがあれば、かなりいろんなことが賄えるんじゃないかと思うんですよ。それで、その中に先ほど言った指導者ですか。そういう方も、今、体育協会、いろんな方がいると思うもんで、いろんな種類のスポーツをやっていて。ですから、そういう中でお願いしてやったらなかなかそれで、うまくいくかどうかというのはちょっと分かりませんけれども、そういうのでやってみたらどうかなというふうに自分は思うものですから、またその辺を調べて、また一般質問なりなんなりでちょっとまたお伺いしたい

と思いますけれども。

あと、中学校のスポーツ、運動部というと中体連というところがどうしても外せないということで、このままよその部活動と合同チームになれば、部活動としてなるもんで中体連の管轄になりますけれども、スポーツクラブというと中体連から外れるというふうに思うんですよね。

それで、今、自分、野球の関係やっていますけれども、野球に関すると、中体連で出た衆はスポーツクラブの大会には出られないよ。スポーツクラブの大会に出る衆は中体連に出られない。そういうようなルールというかそれが結構曖昧というか、ある程度はっきりしているかもしれないですが、それが行き届いてなくて曖昧で、両方優勝しちゃったとかという話も聞いたですよ。なので、その辺で中体連との関係といいますか、その辺はどういうふうに考えておりますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

中学校体育連盟の関係というところでいきますと、先ほども少し申し上げましたが、中体連が当然今までは各学校、中学校の部活動としてのチームだけが中体連の大会に出られたわけですが、国のほうでこういった地域クラブ化という、部活動の地域移行ということで、地域クラブも大会の参加ができるような流れになっていくということで、令和５年ぐらいから地域クラブも中体連のほうに参加できるというような規定ができております。

それが、今、過渡期の中、各競技によって出られるか、出られないかとかそういうのが違ったりします。例えばサッカーとかですと、アンダー15のクラブの入っている、ユース連盟に加盟しているクラブは入れないよとか。ただ、普通のクラブチームでも地域クラブとして中体連が認めた場合は参加できるというような規定になっていたりとか、例えば陸上競技ですと、吉田町であれば吉田中学校の陸上競技部、それからＡＣがあると思うんですけれども、ＡＣのチームのどちらかに出ればどっちも出られるというような状況になっています。どっちも出られるというのは、ＡＣで出たら、多分吉中の陸上部としては出られません。吉中の陸上部として出たらＡＣとして出られないんですが、吉田町にあるクラブチームなんですけれども、別の吉中の陸上部と吉田にあるＡＣが別のものとして出られるというような状況になったりとか、いろいろ、ちょっと規定によって今、それぞれ競技によっていろいろと参加規程が異なっていますので、いろいろ見ると、それぞれちゃんと見ないと参加できるかどうかというのがはっきりしないというか、その種目でしっかりと見ていかないとという状況にありますので、これはまた多分、中体連のほうで今後どうしていくかというのを決めながらやっていくと思いますので、現在のところはこの中体連が決めた参加のルールの中で出ていくということになりますので、ダブルで出られるということは多分ないと思うんですが、そこら辺の取決めをしっかり今、決めているという状況ですので、昨年度等についてはなかなか曖昧な部分があったのがだんだんはっきりしてきたりとか、そういう取決めをしっかりしていっているんじゃないかなというふうに思われますので、そこはちょっとこちらとしても状況を注視していくというような状況だと思います。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番です。

とにかく、取りあえず合同チームという形であっても、将来的にはクラブチーム、スポー

ツクラブということになるとしたら、やっぱりその辺のこともちゃんと担当する人が把握していないと、いざというとき全然、子供たちに迷惑がかかっちゃったりとか、その指導者に迷惑がかかったりすると思うもんで、その辺を自分も知りたいもんで。

中体連ってたしか学校の先生方の関係のものだと思うんで、私が直接聞いたりなんかはできないと思うもんですから、教育課のほうでその辺を調べて。自分は野球やっていて、野球連盟のほうならいろいろ話は聞けるもんで。今、野球とサッカーがそういうような形だということでありますので、その辺、ちょっと自分も知りたいもんで。ぜひ、今、答えられるって先ほど答えたことしかないものですから、ちゃんとしたものを調べて、一応いただきたいと思うんですけれども、その辺はいかがですか。議長、どうですか、その辺。後でいただくということでどうですか。どうですか、担当課のほうで、ちゃんと調べたものを。自分が調べるとなかなか調べにくいということがあるもんで、中体連って。その辺の大会へ出る、出られないというものを、ちゃんとある程度確実なものを調べてもらって、いただきたいと思うんですけれども、その辺はできますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

中学校体育連盟の例えば要綱等についてはホームページ等で確認できると思います。志太榛原地区の中体連の要綱というのは中学校にお伝えしているものだと思うんですけれども、お伝えすることはできると思いますので。ホームページ等には出てないかもしれませんので、お伝えすることはできると思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　よろしくお願いします。

あと、自分が聞いた七つ目ですけれども、中学校部活動として活動するかそれとも、全然切り離してということで聞いたんですけれども、それは要は会場の問題もありますけれども、お金のことですよね。今こうして、仮にそれじゃ合同チームをつくった場合、吉田中学校が１校、仮に牧之原が２校、３校でやるとしますよね。そこに経費がかかるわけですよね。そうした場合に、中学校の部活動であるものですから町から出るわけですね。そういった場合、また四つの学校の合同なら四つで分割するとか、あとは部員の人数で割って分割とかそういうことになると思うんですけれども、そういうことがなかなか大変になってくるんじゃないかなと思うんですけれども、その辺はどういうお考えですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

今、議員おっしゃるのは合同チームとしての参加ということだと思うんですが、あくまでも吉田中学校の部活動は吉田中の部活動として残ります。牧之原市のほうは野球でいえば３校が合同で合同部活動としてあるものですから、それぞれ多分、の運営費でやっていくということになって、合同チームはあくまでも大会参加のために合同になるだけですので、大会参加のときの交通費とかどうするかというところの問題はあると思いますが、基本はそれぞれの部活動の運営費でやっていくということになりますので。

以上になります。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　じゃ、例えばある程度成績がよくて、上の大会へ行くよといったときの参加費とか、じゃ行くにもバスは別で行くとか、参加費もそれじゃ別になるとかってそういうことですか。だって、一つの大会で合同チームで出るなら参加費はその場合はどうなりますか。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

合同チームで出る場合も多分参加費が例えば5,000円だとしたら、5,000円で合同チームで払ってもらうということになると思いますので、そこはそれぞれの各学校の部活動の参加費から折半するような形が一般的ではないかなと思います。折半する形が一般的じゃないかなと思います。交通費等については、吉田町の部活動の今の補助金参加規程で、例えば中部大会以上については補助金の規程がありますので、そこから交通費等は出ることになりますので、吉田中学校の生徒が行った交通費に関してはそこから出すと。牧之原市のほうについては牧之原市のほうで出すということでいけるんじゃないかなと思います。

以上です。

○議長（大石　巖君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　高校野球も結構エリアが離れたところの合同チームとかってあるんですけれども、割かし練習ってたまにしかしなくて、試合が練習みたいなもんだということを聞いていますけれども、中学校の今の部活動の合同チームも練習はそれぞれやって、それで試合のときだけ集まって試合をするって、そういう感覚になるんですか。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

実際、吉田中学校の校長に聞いてはいるんですが、今後の大会参加に当たって、いきなり大会だけのために集まるのかといったら、やっぱり少し、当然いきなり本番ではなくて、一度合同チームで練習をしなければいけないというところで、試合がない土日のときに集まって練習をやっているという話は聞いていますので、そこは例えば保護者が送迎して、そこの練習会場まで行ってみたいなというところで聞いていますので、そういった形でやっているとは思います。

以上です。

○１０番（八木　栄君）　了解です。

○議長（大石　巖君）　いいですか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

吉田町としては、ある程度学習というものに力を入れていて、ＴＣＰトリビンスプランですか。それとか、そういう中で子供たちはいろんな子供がいて、先ほど大石議員の一般質問の答弁で、教育長が「一人一人が持っている力を伸ばす教育」ということで、それはその環境づくりですか。それはゴールがないよという話で、それでそれぞれ持っているものは違うよということで。

部活動というと、一応ちょっと調べると、授業以外のところで教師が、先生が、その子供の勉強以外のところで触れ合って、その子供がどういう子供かな、何かいいところがあるかどうかとかそういう学力以外のところをコミュニケーションを取って、いいところを見いだ

すだか上手にやっているか分かりませんが、そういうことをうたってあるんですけれども、だもので、部活動で今やっている中で先生らがいろいろいて、それに携わっていてというわけで、クラブのほうへ移行しちゃうとそういうことができなくなっちゃって。結局、そうすると先ほど教育長が言ったとおり、一人一人が持っている力を伸ばすって。持っている力というのはどこで見いだすかという、ちょっと先ほど答弁聞いていて気になったんですけれども。

だもんで、部活動が一つ、いわゆるそういうのを見いだすための一つのあれだとしたら、それがなくなったとしたら、じゃ今度どういう場で個々の子供のいいところというんですか。持っている力というのを確認というのか理解するというのは、そういうことをする場所というのはどういうところになりますか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　部活動そのものが今、教育課程上、やらなくてはいけないものではない。教育的な価値のあるものである。けれども、やらなくてはいけないものではないという位置づけになっています。それこそ先ほどの答弁の中で、私も今までの慣習で当たり前のようにやってきたという話をしましたけれども、私たちが育ってきた時代というのは部活動あって当たり前という時代の中でやってきていましたが、今そこの考え方がもう変わってきていると。部活動ではなくてもいろんな場で活躍する機会というのが、地域のクラブもそうですし、ピアノをやったり書道をやったりということもそうかもしれません。ただ、それは学校教育の中でやっていることではない。

子供たち一人一人を見る機会というのは、部活動という場がなかったとしても、教育活動っていろいろありますから、学校行事もあれば。なので、確かに今まで部活動の中で見いだされて、そこで救われている子供たちもいたことは確かなんですよね。ただ、そこを今、縛りをかけるんではなくて、当面は今、平日の部活動は残しますけれども、今後は地域移行になっていけば、部活動という場ではなくて、ほかの教育活動全体の中で子供たち一人一人を見ていくというような形に社会全体が変わっていく。これからの過渡期になるんではないかなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　だもんで、先ほど教育長がそういうふうに言ったもんですから、どういう場面でそういうものを理解していくのかなということで、自分としたらば部活動というのは一つのそういうものをやる場だということは、ちょっと調べてあれしたってものですから。今、ほかにあるということ、例えば今、ほかのこと言いますけれども、具体的にもう少し分かったら教えてください。部活動以外の子供の能力的なものを理解できるというところはどういう場面ですかということで。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　学校教育の中で教員が把握できるかどうかというところになってしまうと、部活動が教員の手から離れていってしまえば、当然、今やっている部活動のような活動について見る機会はなくなってくるとは思いますが、学校では授業がありますよね。それから学校行事、それは旅行的な行事もあれば、例えば球技大会をやったりというのもあるだろうし、運動会があるだろうし、儀式的な行事もあるだろうし、いろいろな行事があります、合唱コンクールも、含め。

という学校行事の中でも見ることができるし、もっと言ったら、行事ではなくて授業でもなくて、日々の中で子供の様子というのはやっぱり見える機会ってありますよね。休み時間もそうかもしれないです。清掃活動もそうかもしれない。給食もそうかもしれない。いろんなところでやっぱり子供たちを見ている。もっと言ったら、いろいろなものを、家庭生活で何をやっているかということを、昔よく言った生活ノート的なのとか三行日記みたいなものが、今、もう端末になってきていますけれども、そういうので子供たちがどんなことをやっているかという様子をつかむということもあります。いろいろなところで子供の様子を拾う機会というのはあるんではないかなというふうに思います。

○１０番（八木　栄君）　了解です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　分かりました。

それで、やっぱり学力ができる子、それとか運動ができる子、あとは芸術的に優れている子とかいろいろ子供の特性というのはあると思うんですよ。能力ですか。先ほど文化部のこともちょっと伺ったんですけれども、中学校の文化部というのは割合は、子供が入っている割合ですね。運動部と文化部の割合はどのくらいになっていますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

先ほどの教育長答弁で、全校生徒777人中509人が部活動に入っているよということの中で、この509人のうちの運動部が383人、文化部が126人ということになりますので、割合としたら運動部が75.2％、文化部が24.8％の割合ということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番です。

文化部の中で吹奏楽なんかもかなり一生懸命やっているということで、日曜日もやっているよという話ですけれども、この働き方改革という中でその辺はどのように変化したかというのをもう一回、伺いますけれども。吹奏楽以外のものを含めて、文化部の活動内容ですね。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

文化部の活動の変化というところですけれども、吹奏楽部につきましては、先ほど教育長答弁で申し上げましたとおり、いろんな大会が土日にあったりとか地域の活動もあったりとか、練習するに当たってはやっぱり長時間の練習ということも必要になって、土曜日、日曜日も含めて活動している状況になりますので、吹奏楽部の顧問になった教員については、部活動に関する時間の短縮というのがなかなか得られてない部分があるんですが、美術部、科学部につきましては基本的には平日の活動が中心で土日はあまりないということを聞いていますので、それぞれの美術部、科学部の顧問にとっては土日の活動がないというところでいけば部活動の活動時間は少なくなっているので、働き方改革という意味でのところは文化部としてはなっているのかなと思われます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　文化部については、吹奏楽部というのはいろんな楽器があるもので

すから、人数が減っちゃうと、オーケストラというんですか。ある程度、数がいないと困ると思うんですけれども、ほかの美術部、科学部というのは個人的なこともあるかなと思うんで、人数、関係あるかもしれませんがないかもしれないというところで、こういった文化部のほうも将来的には地域に移行というんですか。そういうことは、あくまでも運動部だけで文化部はそうはならないよということでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

文化部につきましても文化庁から同じような答申が出ておりまして、同じように改革推進期間としてうたっていますので、吉田町、本町としましても、同じように運動部、文化部ともに地域移行というところで考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番。

とにかく部活動の地域移行が速やかに進められないと一番困るのが中学校の生徒で、中学校の生徒って小学校から中学校に上がるスポーツ少年団の方もそうかもしれませんが、大変かわいそうだなと自分、思いますけれども、そういうことに関して教育長はどのように考えておりますか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　やっぱり子供のことを第一に考えてあげなくちゃいけないんだろうなというふうに思っております。もちろん、教員の働き方改革というところの一つの中で動いてきたということもありますけれども、その犠牲に子供がなってはいけないと。なので、中学校で部活動がなくなっても、その受皿としては活動をする場というのが地域の中にあるというような形をつくっていってあげたいなと思っています。

指導者の問題って確かにあるんですけれども、中には教員が兼職兼業でやりたいという人もいます。もちろん異動があるので課題はあるんですけれども、そうやって指導者を確保していくことで子供たちが学べる場というのを確保していってあげたいなというふうに思っています。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　最後に、小学校の卒業式なんかだと、中学校へ行ったら大好きなスポーツを頑張りたいという声をこれまでたくさん聞いてきました。好きなスポーツをやりたい。ですけれどもできなくなっちゃうということは本当にかわいそうだと思います。中学校は町立中学校でありますので、責任を持って子供の声に応えていただくことを、また子供が迷わないようにしていただくことをお願いして私の一般質問を終わります。

○議長（大石　巌君）　以上で、10番、八木　栄君の一般質問が終わりました。

◇　山　内　　均　君

○議長（大石　巌君）　続きまして、８番、山内　均君。

〔８番　山内　均君登壇〕

○８番（山内　均君）　８番、山内　均です。

質問する前に、今回この質問に関して、私は建築家として特別な思いで聞こうとしています。まず、東日本大震災見てきました。熊本地震も行ってきました。そして、今回、能登地震がありました。これが一番大きかったですね。そして、その中で出てきたことが、熊本地震ではエコノミー症候群、これは中越地震からずっと引き継いでいます。それで、今回、後で出しますけれども、やっぱり関連死というものに関してちょっと特別な感覚を持っています。後でお話しします。

その中で南海トラフ地震が起きました、南海トラフ地震ですね。一番、南海トラフ地震の過去の、私の勉強というか記憶の中で、まず東海地震が来るときに相模湾に起きたんです。相模湾のひずみが丹沢の分かれ目を出てきて、それを駿河湾に起きたという記憶があります。ですから、今、皆さん、ここにいますけれども、ひょっとしたら今、どこかで何かが進んでいるかもしれないです。そういう意味でお聞きします。学術的なものではなくて、本当に技術的な話。実際に起きた話を起きたものに関してお聞きをしたいと思います。

まず、質問の趣旨としては、１月１日午後４時10分、最大震度７の能登半島地震の発生は記憶に新しいところである。突然の最大震度７の地震は東海地震への恐怖を強いものとした。南海トラフで８月８日午後４時42分、日向灘を震源とする最大震度６弱の地震が発生した。それに対して、気象庁が初めて南海トラフ地震が発生する可能性が平常時より高まっているとして、南海トラフ地震臨時情報「巨大地震注意」を出しました。

気象庁の対応は、巨大地震に対し準備を促すものであると感じています。その後、神奈川県で８月９日、震度５弱、15日には震度４の地震が連続して発生しました。この連続の中に東海、東南海、南海地震へのつながる心配を大にしています。最大震度７を記録した能登半島地震などから今、必要なことは何かを考えなければならない。そこで質問をします。

１、生活用水、飲料水について。

①南海トラフ地震臨時情報が発令された時点で街の店舗から水が消えた。平成29年、第３回一般質問で聞いたが、「有事の際に住民等の生活を支える生活物資を滞りなく供給するための商業施設の誘致を行い、誘致した企業と有事における物資供給に関する協定の締結を行うことにより云々」とありました。改めて物資供給に関する協定の具体的内容は。

②その協定による町民へのメリットは。

③巨大地震による上水の供給停止は必ず起こる。被害想定と供給計画は。

④断水時、給水車による水の供給場所など地図上の情報提供はできないか。

⑤川尻の自噴式水くみ場の保存及び非常時の供給施設としての利用、また北区には同様な機能を持つ場所が２か所あると確認をしている。非常時の給水施設として利用する町の考えは。

以上、答弁よろしくお願いいたします。

失礼、２番目ありました。ちょっと緊張していますね。ここへ来ると緊張しちゃう。

２番目です、ありました確かに。各地区での避難所の役割の在り方と改善及び関連死について。

①北区・片岡区と住吉区・川尻区の避難所の在り方は時間とともに全く違った役割を持つと思う。避難場所の作成など具体的な対応はあるのか。

②資料には、能登半島地震での下水処理場の機能確保に１か月から４か月かかった経過が示されている。短期間で安価にできる浄化槽による処理を考えるべきであると思うが、考え

は。

③関連死については、ストレスが重要な要因であるとの情報がある。トイレや避難所の在り方に関連があると思うが、対策は。

④巨大地震における町自主防災会と対策本部の役割は。

答弁、お願いします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　南海トラフ地震臨時情報に対する対策及び対応はのご質問のうち、１点目の生活用水、飲料水について、①南海トラフ地震臨時情報が発令された時点で、街の店舗から水が消えた。平成29年第３回一般質問で「有事の際に住民等の生活を支える生活物資を滞りなく供給するための商業施設の誘致を行い、誘致した企業と有事における物資供給に関する協定の締結を行うことにより……以下略」と答弁があった。改めての物資供給に関する協定の具体的内容はについてお答えいたします。

平成29年第３回議会定例会における議員からのご質問に対し、「本町では、内陸のフロンティアを開く取組の中で、北区内で進めております物資供給拠点確保事業区域では、進出した店舗と町との間で有事における物資供給に関する協定の締結を行っております。具体的には、災害時物資支援協力に関する協定と災害時荷さばき拠点に関する協定を、マックスバリュ東海株式会社、株式会社ノジマの２社と締結しております。今後も、この推進区域に進出する企業との間で同様の災害協定を締結していく予定でございます」とお答えしておりますので、まずはこの２社との協定の具体的内容について御説明いたします。

平成28年10月に防災公園の南側に立地しましたマックスバリュ東海株式会社、現在のイオンビッグ株式会社や株式会社ノジマと締結をしました「災害時物資供給支援協力に関する協定」では、地震、風水害、事故等による大規模な災害が発生した場合に、町の要請に応じて、災害時に必要となる生活必需品等の物資を供給する協力を行うことに関する事項を定めております。災害時に必要となる生活必需品等としましては、それぞれの協定の中で、発災から３日間程度の災害発生直後に必要な物資と、それ以降に必要な物資を対象としております。

イオンビッグ株式会社との協定では、発災直後に必要な物資として、おにぎりやパン類などの食料品、飲料水、粉ミルクやベビーフードなどの乳幼児食品のほか、紙おむつや生理用品、使い捨て食器などの生活用品を、また発災後、しばらく経過した後に必要な物資として、レトルト食品や菓子類、カセットボンベなどの調理器具、衣類や衛生用品などを対象としております。

また、ノジマ株式会社との協定では、基本的に家電量販店でありますノジマ吉田店が保有する販売用商品の全てを対象としております。協定では、対象とする物資を多く保有することや提供に努めていただくとともに、町からの要請に対し、直ちに納入していただくことなどを定めております。

また、同時に２社との間で締結をいたしました「災害時荷捌き拠点に関する協定」では、２社が運営する店舗の駐車場を被災者支援のための物資の集積場、配送場または配給場として使用することに関する事項を定めており、発災時においては、町の要請により店舗駐車場を荷さばき拠点としてお借りすることが可能となっております。

平成28年10月に締結をしました協定については以上でございますが、その後、平成30年３月には防災公園東側に立地しました株式会社杏林堂グループホールディングスや株式会社ソルーナとも同様の協定を提携し、基本的にはそれぞれの店舗が保有する販売用商品の全てを生活必需品として提供を受けることや、店舗駐車場をお借りすることが可能となっております。

物資供給拠点確保事業区域からは外れますが、浜田土地区画整理事業区域内に立地しましたコメリパワー吉田店につきましては、平成30年12月にＮＰＯ法人コメリ災害対策センターと「災害に関する物資供給に関する協定」を締結いたしました。この協定では、町の要請に応じて作業用品や日用品、飲料水やポリタンクのほか、ストーブなどの冷暖房機器類、救急ミニトイレなどを優先的に供給していただくことを定めております。

次に、②その協定による町民へのメリットはについてお答えいたします。

町民の皆様の被災に備え、町では食料、毛布、トイレなどの災害備蓄品の計画的な整備を行っておりますが、有事の際にその備蓄品だけで被災生活を送れるわけではございません。町民の皆様には日頃からたびたび、各家庭での備えについてもお願いをしておりますが、これらの災害協定は災害備蓄品の不足分を補うだけではなく、町で備蓄していない多種多様な生活必需品を迅速に供給していただくことが可能となるものでございます。

また、「災害時荷捌き拠点に関する協定」により、防災公園を中心としたふじみスクエアの一帯を荷さばき拠点として利用することが可能となりますことから、物資の円滑な受け渡しにも寄与するものでございます。このようなことから、これらの協定によるメリットは、災害時において物資の供給を速やかに安定して行えることによる町民の皆様への安心感であると考えております。

次に、③巨大地震による上水の供給停止は必ず起こる。被害想定と供給計画はについてお答えをいたします。

南海トラフなどの巨大地震が発生した場合の被害想定について、平成25年に公表された静岡県第４次地震被害想定報告書では、本町における上水道の断水率は発災直後で100％、１日後で97％、１週間後で74％、１か月後で22％と見込まれております。ただし、県の想定の手法は津波や停電の影響は考慮しているものの、各市町における耐震化の進捗度合いや水源からの距離等が考慮されたものではありません。

一方で、能登半島地震における水道の被災状況は、浄水場など施設の耐震化がなされていなかったり、管路耐震化率が低かったりすることにより被害が大きかった自治体や、遠く離れた水源から原水を得ていた自治体で断水期間が長く続いたことなどの報道がございましたが、本町の配水池や浄水場などの水道施設は耐震化率が100％であり、基幹管路についても昨年度時点で導水管・送水管は53％、配水本管は27％の耐震化率を有しております。

さらには、水源について町内に自前の水源を有していることに加え、第４次被害想定が公表された以後の令和４年度には川尻工区に防潮堤が完成しておりますことから、現時点における被害想定は県の第４次被害想定よりは低いものと考えております。

また、供給計画につきましては、吉田町水道事業応急給水復旧計画の中で、大規模災害の発生に備えて平時における事前対策や災害発生後の初動、応急給水活動の実施方法を定めており、災害時にはこの計画に基づいて町民の皆様への応急給水を実施してまいります。

この計画におきましては、災害発生後から直ちに応急給水活動に着手し、被災した町民の

皆様に対する水の確保と供給を最優先に取り組むこととしております。

具体的に申しますと、給水所の設置による供給につきましては、吉田町地域防災計画で定めた避難所を応急給水場所とし、配水池や浄水場から非常用コンテナによって運搬した水を給水いたします。また、病院等へは給水タンクによって運搬し、受水槽へ給水いたします。

それと同時に、水道の復旧による供給再開を目指し、水道施設の被災状況の確認や点検を進め、避難所や病院などへの通水を優先して応急的な復旧作業を実施してまいります。この復旧作業により、通水が可能となった場所では、消火栓なども利用して仮設の給水栓を設置し、常時給水できる箇所を増やしてまいります。

万が一、巨大地震が発生した場合には、日本水道協会をはじめ全国の自治体や水道工事事業者に支援をいただきながら、一日でも早い復旧に取り組んでまいりますが、平時から町民の皆様が自ら行える災害対策として、１人１日当たり３リットルの飲料水を備蓄することや容器を準備しておくことなどの広報にも努めてまいります。

次に、④断水時、給水車による水の給水場所など、ハザードマップなど地図上への情報提供はできないかについてお答えをいたします。

断水時における飲料水の給水場所につきましては、吉田町地域防災計画で定める避難所を基本としており、災害時は仮設トイレの設置や物資供給などを合わせて避難所を一元的な拠点とすることによるものでございます。

また、災害や断水の状況に応じて、その他必要と認められる給水場所をその都度選定していくこととしておりますが、これらはあらかじめお示しできるものではございませんので、現時点において地図上への情報提供は考えておりません。

次に、⑤川尻の自噴式水汲み場の保存及び非常時の給水施設としての利用、また北区には同様な機能を持つ場所が２か所あると確認している。非常時の給水施設として利用する町の考えはについてお答えいたします。

水道事業者が自噴式水くみ場を非常時の給水施設として利用し、町民の皆様に飲料水を供給する場合には、塩素消毒を行い、遊離残留塩素濃度を１リットル当たり0.1ミリグラム以上として飲用に適した水質を確保する必要がございます。

そのためには、自噴式水くみ場に消毒設備を設け、常時、水質検査を行い、安全で良質な水質を維持管理する必要がございますので、公営企業の観点から考慮しても、水道事業者が管理する給水施設として利用することは考えておりません。

次に、２点目の各地区での避難所の役割の在り方と改善及び関連死についてのうち、①北区・片岡区と住吉区・川尻区の避難所の在り方は時間とともに全く違った役割を持つと思う。避難場所の作成など具体的な対応はあるかについてお答えをいたします。

避難場所とは、災害が発生したときに緊急に命を守るため、あるいは災害の発生が危惧されるときに事前に避難し、命を守る場所でございます。

町では、福祉避難所を含め、災害の種類ごとに町内24の施設を避難場所に指定するとともに、津波避難施設として15基の津波避難タワーを含む19の施設を指定しており、緊急に命を守るため避難できる場所として活用いただく計画としております。

災害発生時には、災害の種類や被災状況により避難所に避難される方の居住地や避難者数に違いは生じると思いますが、居住場所を確保できない方を一時的に受け入れて生活を支援するという基本的な避難所の役割は、どの避難所においても変わりはないと考えおります。

次に、②資料には、能登半島地震での下水処理場の機能確保に１か月から４か月かかった経過が示されている。短期間で安価にできる浄化槽による処理を考えるべきであると思うが考えはについてお答えをいたします。

下水道事業では、日本下水道協会が発行する下水道の地震対策マニュアルにおいて、地震発生時に最低限守るべき機能として、流下機能・交通確保機能、揚水機能、消毒機能及び沈殿機能とされておりますことから、町では下水道施設総合地震対策計画を策定し、下水道施設の耐震化を進めております。

この中で管路につきましては、マンホールの浮上防止等の液状化対策をはじめとした地震対策を実施しております。具体的には、管路の総延長約80.6キロメートルのうち、防災拠点や避難所などから排水を受ける管路などを重要な幹線等と位置づけ、約30.8キロメートルを対象として、平成20年度から液状化等の地震対策を実施し、吉田町地域防災計画において避難所として設定している24施設のうち、下水道事業計画区域にある６施設の下流管路を対象として地震時の流下機能と交通確保機能を保持するよう対策をしてきており、本年度工事の完成をもって完了する予定でございます。

なお、避難所のうち住吉小学校と吉田中学校につきましては、マンホールトイレを設置しておりますので、避難後、早期に利用を開始していただける状態となっております。

吉田浄化センターにつきましては、昨年度に発電機設備を新設したことにより停電時の揚水機能を確保しております。

また、吉田浄化センター反応タンク内に可とう継手を設置し、地震の揺れに対して弾性を持たせ破断が生じないよう対策をしており、消毒機能と沈殿機能を確保しております。

さらにその上で、想定を超える大きな地震によって水漏れなどが生じた場合に備え、下水道業務継続計画においては、浄化センターの敷地内に仮設沈殿池を設置し、流入渠から仮設ポンプで揚水することを計画しており、し渣等を沈殿させて消毒を実施し、排水することとしております。

このように下水道につきましては、管路、処理場ともこれまでに地震対策を講じておりますことから、地震発生後も早期に使用していただけるものと考えており、現時点においては、下水道区域内にある避難所からの汚水の浄化槽による処理は考えてはおりません。

次に、③関連死については、ストレスが重要な要因であるとの情報もある。トイレや避難所の在り方に関連があると思うが、対策はについてお答えいたします。

災害関連死のこれまでの事例において、その原因としましては、被災のショックや余震への恐怖を含み、避難生活や電気・ガス・水道等の途絶による肉体的・精神的負担が大半を占め、次いで、医療機関の機能低下などによる初期治療の遅れが挙げられております。

やはり、避難所などにおける避難生活の環境が、災害関連死に大きく関わっており、議員の御質問にもありますとおり、特にトイレ環境や雑魚寝の影響が大きいといわれております。

この避難生活などが原因で亡くなる災害関連死を防ぐ対策としましては、当然のことながら、避難所の生活環境の改善に取り組むことが重要であり、県が発行している避難生活の手引きにもＴＫＢを避難生活環境改善のキーワードとして挙げております。

Ｔはトイレで、その対策として、衛生管理を徹底し、きれいで十分な数のトイレを確保することが大切とされております。

Ｋはキッチンで、その対策として、栄養の偏った食事を避けて温かい栄養バランスの良い

食事を提供することが大切とされております。

Ｂはベッドで、その対策として、床に直接寝ることを避けて簡易ベッド等の就寝環境を整えることが大切とされております。

このうちトイレにつきましては、先に申し上げましたとおり、町では、避難所用の簡易トイレや車いす対応組立式トイレを備蓄するなど、必要数に応じた計画的な整備を行っており、避難所となる住吉小学校や吉田中学校におきましては、マンホールトイレを設置しております。また、能登半島地震の被災地支援に派遣しました自走式の水洗トイレカーを配備するなど、被災時に早急に対応できるよう災害時のトイレ対策を講じてきております。

このほか、能登半島地震の被害状況を踏まえ、改めて各家庭における備蓄が大切であることを啓発するための災害備蓄品啓発チラシを作成し、その一面には、携帯トイレも備蓄しよう！と題して災害用トイレの備蓄の必要性や使い方などを明記し、３月10日の津波避難訓練や９月１日の総合防災訓練の事前説明会の際に、自主防災会を通じて各家庭に配布していただけるようお願いをしたところでございます。

トイレの衛生環境の徹底や温かい栄養バランスの良い食事の提供、簡易ベッドなど就寝環境の整備は、いずれも避難所の運営に関わることでございます。

町では、これまでもプライバシーを確保するための間仕切りテントや空調、Ｗｉ－Ｆｉ環境の整備など避難所環境の改善に努めてまいりましたが、改めてＴＫＢの視点も取り入れた上で、現在掲げる住民主体の避難所運営を目指し、避難所運営マニュアルを見直すとともに地域との調整を進めてまいります。

最後に、④巨大地震における町自主防災会と対策本部の役割はについてお答えいたします。

自主防災会は、地域住民が協力して災害に備え、地域を守ることを目的とする組織であり、災害が発生した際、地域住民が的確に行動し、被害を最小限にするため、日頃から家庭内の安全点検や地域住民への防災知識の普及や啓発、各種防災訓練の計画や実施など災害に対する備えを行い、実際に災害が発生した際には、初期消火活動、被災者の救出や救助、安否確認や情報の収集、避難所の立ち上げを主導するなど、地域における重要な役割を担っております。

一方、町災害対策本部は、災害対策基本法の規定に基づき、災害が発生した場合や発生が予想される場合に、災害に関する情報の収集や整理、災害対策の方針の決定、関係機関との連携確保などを行い、災害対応を迅速かつ強力に推進する役割がございます。

こうしたそれぞれの役割の下、災害発生時に町と自主防災会は、互いに協力をして災害応急活動を行うこととなるため、平時から防災訓練の計画や実施、防災啓発活動などを通じて、より一層の協力体制を構築し連携強化を図ってまいります。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　長いこと御苦労さまでした。

今、ずっと聞いていて、本当の緊急時に必要なのが二つ、三つ入っています。それは、防災協定の各、何ていうんですかね、お水を供給してくれる店舗のこの中に、これは非常に災害時の、皆さん今回もそうだと思いますけれども、地震で店舗から水が消えたときに一番考えたのが、誰もが考えたのが多分そこでしょうね。それを一つ考えています。そのときに非

常に大事なことだと思います。ただ、このときに、この災害物資による協定を遵守してもらうときのその、何ていうんですか、ルールってありますか、町民との町と店舗とのルール、水を供給されるときの。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

その協定のやり取りというところでございますが、その協定では町と企業と締結しているものになりまして、その内容としまして、その事業者と町民の方が直接やり取りするという協定ではなくて、町とその事業者が連絡を取って、町の要請に応じて提供いただけるとそういう内容になってございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の回答を聞きまして、ずっと答弁の中で平時の安全確保、平時ですね、私が言っているのは、恐らく起きてくる東海地震を含めた東海、東南海、南海を含めた地震は国の４分３くらいを含めますね、被害が、そのときに助けに来る人っていないでしょう。まず行きますよ、大阪や名古屋へ、九州へ、北九州、そのときにその心配をしているもんですから、これ今日、質問をしたんです。

そのときにやっぱり欲しいのは、本当の起きたときの対応、それを聞こうと思っていたんですけれども、残念ながら平時の避難のあれ提出のとおりだと思います。

それで、また多分もう一回やるとなると思います。

ちょっと資料を見てもらいたんですけれども、資料のときに、なぜこれをつけたかというと、発災から、例えば、輪島のこれ浄化センターでしょう、それに４か月間かかっているわけですね。町の今のその回答とはちょっとかけ離れているような気がします。震度５か６の話でしたよね。

それとあとはやっぱりここにあるには、この資料もそうですけれども、珠洲市では５月中の見込み、約５か月間ですよ。水ですよ。その水の、今言ったその供給に関して確率性、実施できる、本当にできると、何て言っていいかな、確信というのはどの辺持っていますか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

まず、この資料を拝見しまして、下水道のほうの施設の機能確保にかかった日数をまず御紹介いただいております。これについて。

○８番（山内　均君）　短めにやってくださいね。短にお願いします。

○上下水道課長（内田宏一君）　では、これは飛ばします。

水の供給について能登半島で断水５か月かかったということについてですが、能登半島の市町では浄水場等の耐震化が進められておりませんでした。それから、遠く離れた白山市から県水道でもって水を供給していただいておりました。このパイプラインが途中で寸断をされまして、水がなかなか来ないという状況がございました。

吉田町は、町長答弁の中にもありますように、町内に自前の水源もございますし、水道管の耐震化も進めておりますので、能登半島と同じような期間で断水が続くとは考えておりません。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　防災の関係でちょっと聞きたいもんですから、技術的な話はいいです。本当いいです。

今、やりたいと思っているのは、こういう地震が起きたときですよ、東海、南海、100年に一度、200年に一度、地震が起きたときに、本当に心配するのはそのときの対応は常にしっかりとした対応を準備しておかないかんということで質問をしています。それしか、私は、建築家としては考えることはそれなんですね。

それで、ここの中に、今いろいろ答弁がありましたけれども、水の供給、生活用水と飲料水、飲料水については、さっき課長の答弁にいただいた中では、それはそれで的確にいけばいいと思います。ただ今回の大きな地震に関しては、東京から九州までを含む全体的な大地震ですから、そう簡単にいくとは思っていません。そういう意味でこんな質問をしています。

ただ水汲み場に関しては、ちょっとこれできないかな、水くみ場に関しては、残念ながら、もう解体したという話なんですね。ただ、ここに書きました北区には、山王神社のところにもそういうものがあります。それを今度は防災訓練の中には利用していただきたい。知っていますか、山王神社のところにある、どうですか。インターの横、山王神社、御存じですか、防災課長。

○議長（大石　巌君）　質問をそのまま続けてください。まとめて答弁します。

○８番（山内　均君）　どうですか、ありますか。それ知っていますか。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。

危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

山王神社は存じていますが、そこに井戸があるというのは存じ上げてございませんでした。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　実はその井戸も自噴をするくらいの水圧を持っています。それを持っているんですね。そういうときにはそういうものを利用していただいきたいと。それともう一つは、杏林堂の、今これから沼地になっていますよね、あそこのところ、地元の人といろいろ教えていただいて、そこに昔は自噴をしていた、今でも自噴をするのかな、そのそういう場所があるらしいんです。

要は、飲料水ではなくて、生活用水に使うときにはそういうものなら、大きな役割を持ってくると思うんですけれども、そういうふうな考え方に関しては、防災としては持っていますか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

当町においても当然、災害時においても、飲料水とあと生活用水というのは必ず必要になってくるというのは当然のところでございます。

その災害時において、今、吉田町水道事業応急給水計画ということで、これ町水のものになるんですが、ちょっとこの計画の中では、地震によってそれぞれの配水池が線が取れたとしても、受水池の貯水量が8,385立方メートルということでかなり膨大な水が確保されます、災害時においても、これは物すごい膨大な量なんですが、ちょっと運搬というところの課題というか、その計画はまた別にあるんですが、その量であればその生活用水は十分賄えると

いうような計算にはなります。

ただ、それは計算上の話で、そういった井戸、そういうのを生活用水として使うというのも共助の中の一つとしてはあるんではないかというふうに考えます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　確かにその水の供給で、今言われた量がありますよね、吉田町の人間が、１日に5,000人が使うとしてどのぐらいもつ計算ですか。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

ちょっと5,000人で割るというとちょっと電卓がないとあれなんですが、先ほどの8,385立方メートルというのはどれぐらいの量かと申し上げますと、この計画の中で、発災から１か月後ぐらいまでに必要な水の量として１人１日100リットルというふうにしております。その100リットルで先ほどの量を割り込んだ場合に、８万3,850人相当の水が確保できるような計算になりますので、８万3,000人です。ですから、この量からすると十分な量が確保できているというものになります。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、１日ですか。１日の量か。何日の量、８万3,000。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　１日です。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、確かに、能登半島とは違うとは言いました。ところが、こういう事例が実際あるということを、これが一つと、もう一つは、能登半島とは違います、磐田市です。磐田市見付で中日新聞のこういう、８月21日の記事が出ています。これちょっと読むの、時間が、後でまた別にやりますから、読んでみますと、磐田市が地下水の水質を定期的に調べるために、所有する井戸を市と見付地区地域づくり協議会が協定を結んで、災害時に生活用水の供給源として役立てようと、市と見付地区地域づくり協議会が協定を結んだ。17日は、住民とポンプを動かし、いざというときの備えることを確認したと。その中で、記事をもう一つ読みますと、市は年１回水質確認の最終に使っているが、ずっと飛びまして、南海トラフ地震臨時情報が出たときは、市内のスーパーからも水が一切なくなったと。地域の資源を活用することで安心な環境をつくるのは何よりであると報じていると。

今、先ほど言った、とてつもない災害、大災害も目の前に来ているかもしれません。そういうものによって、ちゃんとして、磐田だって、磐田市は吉田町と同じようにやっているはずなんですね。それでも考え方によってはこういうことが起きるんですよ。

本当に起きたときはどっちが必要かと考えたときには、私はやっぱりこういうものも含めて要ると思うんです。

それともう一つ、前回、水道のことをやりましたね。吉田町に水道も、あなた方、町の人たち、町からするとうちは水道が出ていますと、でも水道が出ていない人も町民なんですね。水道を扱えない人がね。そうすると、その人に対して、こういう答えってできないと思うんですけれども、その人らに対応する町のこの、何ですか、考えというか対応する方法というのは持ち合わせていますか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

ただいま議員は、災害のときには水道は断水するので井戸で備えよということをおっしゃっておられると思います。今、水道を利用されていない方は御自分のお宅に井戸があって井戸水を使われておりますので、地震のときには、水道が断水しても井戸の水をお飲みいただくことができるんじゃないかと思っています。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　それはもう今の答えに関して情報不足ですよ。

先日お会いしましたよね、ある人にね、あの人の言うことには第二東名のときには水が枯れたと、水道がね、もう一回をその東名のときかな、工事のときには水が出なかった。要するにね、自噴を、私も矛盾を感じるんですけれども、自噴をしながらでも大地震のときには水道が枯れることによって止まるんですね。実際止まったんですね。生活ができませんよね。

そういうときのことを備えるのが防災じゃないですか。私はその、何て、一人一人の町民に対してのその優しく接することが町の役割であると思っていますけれども、いつもそういう観点で聞くんですけれども、回答はまず違う。その辺はどうなんですか。それでよしとするんですか。それどうですか、ちょっと考えるということは必要だと思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

災害時に必要なものは当然備えなければいけないと思います。繰り返しになりますが、飲料水、生活用水としても、先ほどのこの水道事業の応急給水復旧計画の中で、量的にはカバーできていると、ただ、いろんな不測な事態が起こり得ると思いますので、多面的に多重的なものとして、そういった井戸を使うというのも共助の中でやっていく必要があると思います。ただ、こういった井戸もその災害のときに枯れるということも、もしかしたらあるのかもしれないですが、いろんなことを多重的にやっていくというのは必要だとそのように考えます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　私に言わせると、それもやっぱり平時の安全対策ですよ。震度８の地震が起きたときにもちますか。例えば、あそこのオアシス館にあるタンクのあれがどのぐらいもちますか。そういうのを想定しながらやっていくのが、僕は対策だと思うんですけれども、ぜひその辺はもうちょっとずっと下げた段階で、町民のために何ができるかということを考えながらやっていただきたいと思うのが、私の感覚です。

あと残りは別の形でやりますけれども、もう一つ、浄化センターのことで、先ほどあれが出ましたね。浄化センターは、液状化、さっきのほうで話が出ました。こう見ると、液状化の真っ赤いところです。あの建物が震度７から８でもっているとは私は思いません。

その理由は、以前、８月に震度５強だったかな、６のときがあったときがありましたよね、８月に、あのときにいろいろ沈殿槽の池の変形があったと思うんですけれども、その辺の何ですか、考え方というか、その辺に対する対応の考えというのは、今全く安全であるという感じで思っていますか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

まず、過去に震度５強の地震があったときに池の変形があったという御発言がございましたが、池の変形はございません。外階段が外れたということであります。これは、将来、建物を増築する箇所に、ここに外階段があったら便利だろうということで基礎なしで造ってあったものですので、基礎なしの階段でしたので、地震の震動によってこれが外れました。そういうことはありましたけれども、池の変形はあのときは起きておりません。

それから、浄化センターが震度７の地震を食らったときにもつと思わないということでございました。浄化センターの建物は、地上に出ている部分と地下に潜っている部分がございます。この地上に出ている部分については耐震化を施してございますが、地下部分について、震度７等の地震が起きたときに無傷ということはありません。町長答弁の中でも申し上げておりますが、地震が起きましたときに下水道の機能に最低限求められるものとして、この水をくみ上げる揚水の能力、それから、くみ上げた水を沈殿して、要は水の中である程度沈殿してその上澄み水を塩素で消毒して川へ流すという最低限のことが求められておりまして、それについては満たすということであります。全国の下水道はそうですけれども、下水道に共通することですけれども、処理場というのは海に近いか、川に近いかというところにどうしても下水道施設があります。

○８番（山内　均君）　それは分かります。

○上下水道課長（内田宏一君）　それがレベル２の地震が起きたときに無傷でということはできないもんですから、下水道の世界では耐震性能の２ダッシュという考え方がございまして、被害を受けるのはやむを得ないけれども、被害を受けたときに最低限の機能を果たすことというレベルが設けられておりまして、それについては吉田浄化センターは備えているということでございます。

○議長（大石　巌君）　挙手をしてください。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　いや、私は設計屋として感じるのは、あの建物そのものが被害を受ける、それは普通なんですよ。増して地下に、今言われた、耐震性が施されていないとなると、余計ちょっと心配ですね。やっぱりその心配はするんですね。本当に液状化し、変形したらどうするんだと、本当にもつだろうか、不同沈下起こしたらどうするんだろうと。

そういう意味ではやっぱりもうちょっと、それに替わる対応、例えば、これ、もう長過ぎて時間がありませんからもう一回どこかでやりますけれども、関連死の中で考えていくことが、やっぱりその今の浄化槽がないか、もしあったときにもできるようにということで、私は職業柄考えるわけですよ。

あとその中でやっぱりちょっと心配するのは、トイレは幾ら今平時はいいだろうとやっていますけれども、能登半島を見たときに、多分皆さん気がつかなかったと思うけれども、テレビの映像の中に、避難所にも大きな大型の合併浄化槽が映っていたのを気がついた人いますか、多分いないでしょうね。

要するに、私としては思っているのは、地盤の悪いところでのその、住吉もそう、先ほどあった住吉、川尻のその地盤の悪いところにはもうあらかじめそういうのを埋めておいたらどうかと、そのくらいの緊急性と緊張感をもってやることが必要だと思うんですけれども、

そういうような考えないですね、どうですか、ないですね。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

能登半島に運び込まれた大きな浄化槽については、環境省のフェイスブックであるとかいろんなＳＮＳで私も拝見をしておりますので、承知をしております。能登半島で浄化槽が被害を受けたもんですから、環境省が手配をして大型の浄化槽はあそこに設置したということがそこに書いてございました。能登半島で浄化槽、かなりの被害を受けておりますので、あらかじめ埋めておいても、それがまた地震によって被害を受けるということも考えられます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　その答えは明確に否定しますよ。今回の能登半島の地震の特徴は活断層なんですよ。活断層によって４メートルも動きました。そことは違うでしょうけれども、やっぱりそういうものが可能性としてはあるという想定を、我々はします、やっぱり仕事の中ではね。だからそういう意味で、もうちょっと分かりやすくというか、もう一回、全然、今私の役割を果たさなかったもんですから、もう一度この質問の回答をもって、どこかでもう一回やります。これでは何の回答もなくて、私のやりたいことは異常時の対応です。平常時の対応は当たり前の話なんですね。ぜひ、そこでやっぱり町の人たちが困惑しないように、そういう意味での、何ですか、質問をもう一回やりたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

以上で終わります。

○議長（大石　巌君）　以上で、８番、山内　均君の一般質問が終わりました。

ここで暫時休憩とします。

休憩　午後　２時５９分

再開　午後　３時０９分

○議長（大石　巌君）　休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員数は12名であります。

引き続き、一般質問を行います。

◇　蒔　田　昌　代　君

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

〔１２番　蒔田昌代君登壇〕

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田昌代です。

私は、令和６年第３回吉田町議会定例会において、事前に通告してあるとおり、コミュニティ活動の支援について、町長に質問いたします。

第６次吉田町総合計画前期基本計画の中の第４章、多様な人々が快適に暮らせるまちづく

りの中のコミュニティの目指す状態として、住民が積極的にコミュニティ活動に参加し、地域活動が自発的に進められているまちと掲げられています。

その中の施策２コミュニティ活動の支援に、コミュニティ活動団体が実施する備品購入及び地区集会所の建設等に対する支援があります。コミュニティ活動の充実・強化を図るため、様々な支援制度の活用によりコミュニティ活動に必要な備品整備や施設の建設などを支援していきますとあります。そこでコミュニティ活動の支援について以下質問します。

(1)分野の主な成果の指標にコミュニティ活動支援件数（累計）の令和５年度の現状値は４件であるが、この内容とはどのようなものか。

(2)令和９年度までの目標値は12件となっているが、施設の建設の支援は何件を見込んでいるか。

(3)施設の建設について、北区には大幡会館があるが、大幡会館建設委員会が設置されており、町と大幡会館建設委員会と施設の建設について話合いを行っているか。また、その中でどのような意見があったか。

以上、御答弁よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　それでは、答弁をお願いします。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　コミュニティ活動の支援についての御質問のうち、１点目の分野の主な成果の指標においてコミュニティ活動支援件数・累計の令和５年度の現状値は４件であるが、この内容はどのようなものかについてお答えをいたします。

第６次吉田町総合計画前期基本計画における分野コミュニティにおいて、目指す状態を住民が積極的にコミュニティ活動に参加し、地域活動が自発的に進められているまちとしており、分野の主な成果指標の一つにコミュニティ活動支援件数・累計と設定しております。

この内容といたしましては、自治会や町内会などのコミュニティ団体が行うコミュニティ活動に対する支援のため、一般財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報事業として実施する助成の採択件数を指標としております。

また、この指標は、令和４年度を起点とした累計としており、令和４年度と令和５年度ともに２件でありましたことから、令和５年度の現状値を４件としているものでございます。

助成内容といたしましては、コミュニティ活動の促進を図るために必要な備品等として、集会所や祭典用などの備品購入に対して助成を行っております。

なお、この助成事業は宝くじの受託事業収入を財源として行われており、事業の広報活動も主な採択要件となりますことから、この事業により整備した施設や備品などに宝くじの広報表示を行うとともに、広報よしだに事業実績を掲載し、広く町民の皆様に周知をしております。

次に、２点目の令和９年度までの目標値は12件となっているが、施設の建設の支援は何件を見込んでいるかについてお答えをいたします。

第６次吉田町総合計画・前期基本計画における分野コミュニティの主な成果指標として設定をしております、コミュニティ活動支援件数・累計の令和９年度の目標値である12件は、令和元年度からの採択の実績を踏まえた上で、本年度を含め、毎年度２件の助成を受けることを想定して設定をしております。

また、成果指標として設定しているコミュニティ助成の事業メニューといたしましては、さきに申し上げました各地域の祭典に使用する太鼓などの備品や、その他コミュニティ活動に直接必要な備品の整備を行うための一般コミュニティ助成事業と、集会施設の建設や大規模修繕の実施に資するためのコミュニティセンター助成事業の二つの事業を想定しておりますが、成果指標における件数には、備品整備と施設整備の区分を定めておらず、あくまでもコミュニティ事業の実績を踏まえた上で設定したものでございます。

議員御質問の施設整備の実施を目的とした助成事業について令和４年度以降に申請はございませんが、助成事業について自治会や町内会に周知をする中で申請を希望する団体がありましたら、積極的な支援を行ってまいります。

最後に、３点目の施設の建設について、北区には大幡会館があるが、大幡会館建設委員会が設置されている。町は大幡会館建設委員会と施設の建設について話合いを行っているか、また、その中で、どのような意見があったのかについてお答えをいたします。

町は、大幡会館建設委員会の皆様と過去に２回、大幡会館建設に伴う意見交換会を行っております。直近の令和４年度には、委員会の皆様が知りたい吉田町地区集会所建築補助金やコミュニティセンター助成金を申請するための条件、土地利用に関する手続などについて説明をしたほか、会館の建設がスムーズに進むよう、町が作成したロードマップを資料としてスケジュールの確認を行うなど、町関係課が連携をしてサポート体制を整え、これまで委員会の皆様を支援してまいりました。

今後も引き続き、実施主体であります大幡会館建設委員会の皆様から、さらなる相談や要望、問合せなどがあった場合には、適時適切に対応してまいります。

○議長（大石　巌君）　答弁が終わりました。

再質問はありますか。

12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

今、御答弁頂きました。

この総合計画の中で、この見ていると令和９年までの目標というのが掲げられていて、これならクリアできそうだなというふうにちょっと正直言って、今までの過去にやっている助成等町がやっていることを見ていると、これならクリアできそうな感じだなというふうに思います。今日の答弁でもそういうふうにできそうだなと思うんですけれども、その内容が、今回のこの総合計画の中に地区集会所の建設等に対する支援というのも載っておりますので、そこに対してどのぐらいの割合で考えているのかな、それが入ってくるとまたちょっとなかなか目標達成に大変じゃないのかなというふうにちょっと考えたところです。

ですが、この一番助成するのにも内容によってはちょっと重たいものもあったり、予算がかなり額が必要になってくるものがあると思いますけれども、この今回、宝くじのコミュニティ、一般財団法人自治総合センターが宝くじの社会貢献広報の事業として実施する、お金を使っているということなんですが、ほとんどここのコミュニティに対するに使う予算というのはここでいただくというふうに町は考えているんですか。自分たちの財源よりもこういった財源を利用して事業を進めていくという態度で、今後も進めていくということでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このコミュニティ事業というので、全てを賄うかと、コミュニティ、それこそ自治会であるとか町内会であるとか、それぞれ運営する資金というのはあると思いますけれども、ここのコミュニティの助成事業でできるものは、答弁の中でありましたとおり、例えば、備品であるとか対象となるものがございますので、その対象にならないものについてはこの助成金は使えません。

その対象になる物については、このコミュニティの助成金を使いながら、上限もありますので、その上限の範囲内であれば、その活動の中の一部そういうものをそろえるのに、この助成金を使ってコミュニティ活動を行っていただきたいということで、町のほうは考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

備品に対しての助成をこの宝くじのメニューで使うといことで、建物には使わないということでよろしいですね。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

それこそ答弁の中にもありましたとおり、このコミュニティ事業というのは、一般コミュニティというのとコミュニティセンター助成事業と２つございまして、先ほど今、説明させていただいた備品購入については一般コミュニティという助成事業のほうを使わせていただく、建物についてはコミュニティセンター助成事業というのがまた別にございますので、そちらを利用して支援をさせていただくということでございます。

以上です。

○１２番（蒔田昌代君）　了解です。

次に質問させていただきます。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

この助成金、コミュニティを助成していくのに二つあるという、建物の場合と部品というのを二つあるということは承知しました。

この、答弁にもあるんですけれども、自治会や町内会で周知をする中で、申請を希望する団体がありましたら積極的な支援を行ってまいりますということなんですが、この助成事業に対して希望する団体というのはほぼどこのどういった団体で何件あるのか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このコミュニティ団体というものにつきましては、例えば、この事業の助成要綱の中にもございます、対象となるコミュニティ事業とはどういうものかという定義がございます。その中で主なものといたしましては、町内会であるとか自治会であるとか、そういうコミュニティ団体がこのコミュニティ助成の対象となってまいります。

先ほど言ったその周知とかそういうものにつきましても、自治会定例会等で、うちのほうから広報をさせていただいて、町内会も含めて、どういう今回申請があるかというところに

ついては申請を上げていただいているというところでございます。
令和５年度の実績からいくと、申請に関しましては４件ほどコミュニティのほうから実績がございます。
以上です。
○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。
○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。
この申請４件あった令和５年は、４件のうち２件か、４件全部オーケーということですか。
○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。
○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。
申請が４件あったということで説明をさせていただきましたが、採択については２件でございます。
以上です。
○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。
○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。
この採択されなかった理由というのはどういったところでしょうか。
○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。
○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。
このコミュニティの事業につきましては、うちのほうで取りまとめをしまして、県のほうに送って、県から先ほど言った財団のほうに送るような形で、審査についてはその財団のほうで審査をいたしますので、そこが今までの実績であるとか、審査基準に基づいて審査した結果２件だということで、うちのほうは結果をいただいております。
以上です。
○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。
○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。
審査があるということですけれども、その助成する額に上限があるということで審査が通らなかったということではないということでよろしいですか。
○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。
○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。
このあくまでもその上限があるというのは、申請する時点でもうそこの上限を上回ることはできないということになりますので、あくまでも申請の時点でその上限以内の事業費で申請をしていただきますので、上限を上回っているからその審査が通らないということはございません。
以上です。
○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。
○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。
この答弁書の中で、やっぱり一般財団法人自治総合センターから宝くじの社会貢献広報事業として実施するとありますが、やっぱり同様にその宝くじの、この事業の広報をして広報も主な採択要件となるから、整備した施設や備品などに宝くじの広報表示を行うとともに広報よしだに事業実績を掲載しとあるんですが、例えば、この宝くじの広報表示というのはどういったものになるんでしょうか。備品などに直接つけるものなのでしょうか。それ以外に

何か、この事業実績を広報以外に載せるということは何かやっているんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この広報活動につきましては、申請時にどんな広報をしますかということで計画を一緒に出しますので、その中で吉田町といたしましては広報でこういうものを広く町民の方に知らしめるということで計画のほうを上げています。

表示については、こういう宝くじのそういうシールがありますのでそれを貼って、その助成金でやっていますよというような表示はさせていただいております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

じゃ、購入した備品等には必ずこの宝くじの受託シールを貼る、利用したものですよということでシールを貼るということですね。それ以外ほかには、広報よしだ以外は特にないということですよね。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

その申請のときに、こんな広報しますよという中ではやはり広く町民の方に知らしめる方法とすれば広報で知らしめるのが一番全町民の方に広く知らしめることができるというところで、広報のほうで掲示をさせていただいているということでございます。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

次の、最後の３点目のちょっと回答についていきたいと思います。

神戸の北区に大幡会館というのがございまして、そこを、私以前、大幡に住んでいたことがあったので、ちょうどそこでその子育てもやっていたときがあって、それからもう20年近くなるんですけれども、全く状況が変わっていないという話を聞いていて、トイレがまだくみ取り式で、場所的にはすごくよくて行き来しやすいし、ちょうどいい位置にあるなと大幡会館はいい位置にあるなと思っていました。だけれども、今ちょっと引っ越してまた別の神戸にいますけれども、やはり現状はあまり20年前と変わっていないということがあって、やはり地区の皆さんからも大幡会館の建て替えをという話がいっぱい出ているのはお聞きしています。それは町も承知だと思います。

前の前の議員のときに、大幡の地区から出た議員さんがいたので、その大幡会館建設のことに関して一生懸命頑張っていらしたというのをお聞きしております。いろいろ町とも話合いをしたり、住民の判断と間を持って話をしたりとか、いろいろやってきたということも伺っています。

今回、大幡会館の建設委員会の皆さんのあるということを聞いて、その後、大幡会館建設はどうなったのかなというふうにちょっと思っておるんですけれども、去年、令和５年度の予算書には、大幡川幹線道路整備事業費として設計委託料というのを計上させてあって、今年度は、６年度にもまた不動産鑑定だとかいろいろやるというふうに予算書に載っていました。ある程度その大幡の場所を幹線道路からすると県道から南側は去年、今年である程度事業のめどが立ったなというふうに私は思っております。

その次の段階としてやはり考えるのはそのコミュニティと言われる大幡会館のあそこの部分、道のこととコミュニティの部分になると思うんですけれども、大幡会館がその後どうなっているのかということを、ちょっとお聞きしたくてちょっと今回の質問もさせていただいたんですけれども、その建設委員会というのが立ち上げられていて、過去に２回大幡会館建設に伴う意見交換会を行っておりますと書いてあります。直近の令和４年度には、と書いてあるんですが、令和４年度以降、この今６年度なんですけれども、この大幡会館建設委員会にその後の進捗状況とかそういった説明とかというのはされているんでしょうか。また会合を持ったということはあるんでしょうか、どうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

道の報告ではなく建物の報告ということで総務課からお答えさせていただきますけれども、議員からの質問の建設委員会との町の接触というか会合というものは、町長答弁にございましたとおり、このときにやっているというのが最終になります。

こういった大がかりではありませんけれども、何か質問があれば町の職員がお答えしたりとかという細かな調整はその後も続いております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

この会館を、建設委員会となっているので、ここの主に委員会とやり取りをするというのは総務課さんでよろしいんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

総務課が全てお答えができるということではありませんけれども、私たちが窓口になってそれぞれの課につなぐというものは総務課のほうで受け付けております。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

この令和４年度に委員会の皆様が知りたい吉田町地区集会建築補助金やコミュニティセンター助成金を申請するための条件、土地利用に関する手続などについて説明をしたほかというふうに、ほか会館の建設がスムーズに進むよう、町が作成したロードマップを資料としてスケジュールの確認を行うなど町関係課が連携してサポート体制を整え、これまで委員会の皆様を支援してきましたとあります。この実際、建設するのに当たり、大幡会館を建設するのに必要な条件というのをいろいろ聞いていると思うんですけれども、何がちょっと足りなくてまだ建設に至らないのか、そこんところをお願いします。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

町内会が宝くじの補助金だとか、町の補助金等を活用して大きな建物を造るという事業ですので、町内会の中で解決しなければいけないこと、町と一緒に進めなければいけないこと、様々ございます。町内会の問題としては、町の職員からこの場でお話しすることではございませんので、それは差し控えさせていただきますけれども、町と相談して決めていくことにつきましては、建設場所はどこに、じゃ、するのかというところ、その建設場所がどこだよ

とこうに決めていただければ、ちょっと神社も近いというところがあるものですので、埋設物、下に何か埋まっているものがないかとかいうものも確かめなければいけない、そういう調査もしなければいけない。

あと建物の広さを決めていただいて、その広さによっては、先ほど企画課長が答弁させていただきましたけれども、補助金の額等も幾らになるかが、そういったことで決まってくるということですので、それぞれの、もちろん、先ほど議員からも質問がありました、側道の話もその中に絡んでくるわけですけれども、全て、町内会が決めることと町が決めること、それ同時並行にいかないとなかなか話が進んでいかないというところになっております。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

では、町が進めていかなければいけないことというのはほぼある程度進めてあって、あとは町内会で問題を解決するだけということになるんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　そういったことも含めて話合いの中でロードマップを示してお話をさせていただいているということです。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田昌代です。

その話合いを今年度するんでしょうか。もう直近は令和４年度なので、今令和６年度に入っているので、それの話合いというのは考えているんでしょうか、町は。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　今の時点では町内会のほうからの申入れはありません。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

町内会で一応問題となることを解決できた場合は、じゃ、町内会から用意ができたのでお話をしたいですとあれば、開催するのはあり、もう、すぐできるということですよね、でいいですか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　そうですね、いろいろ手続等も町内会でやってもらわなきゃいけないものがあって、どのところで開催するかという時期にもあると思います。個別にお話をして解決する話合いなのか、ある程度関係者が全部集まらなければ解決できないのかというところもありますので、そこは町内会からの申入れを聞きながら、開催時期、開催人数等を決めていきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

町内会でまたある程度話をまとめて持っていくということがあれば、町とまた話合いをするということなんですが、実際、町としては、一応地区集会所建設補助金とかいろんな助成金とかの申請とかあるので、そのメニューを、やっぱりもし建てる条件がそろって、じゃ、この補助金の申請もされて、センターの助成金もできるというような場合、そういう条件をそろうというのは、どのぐらいなあれなんでしょうか、どういうふうに見込んでいるというか、確実に予算を取れてこの助成金を取る時期というんですか、整いましたよ、じゃ、お金

はこのぐらい見積りができて、それを用意するための町の考えをちょっとお聞きしたいです。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

先ほど御説明させていただきました、コミュニティの助成事業というものの中も、これもそれこそ申請の時期がございまして、いつまでのこれも申請をしていただいて、いつまでにこれを完成させなければいけないかというスケジュールがございます。先ほど答弁の中にもありましたとおり、その辺のロードマップについては、今うちのほうからも示してあります。この時期に申請してもらって、この時期までに、これ申請した場合で採択された場合はここまでに建築を終わっていただくと、その手続については各、さきにお話しさせていただいた、土地利用であるとか、いろんなその手続についての各その該当するロードマップを作成していただいて、今うちのほうがそれを示させていただいてあると、それに基づいて、今度は地元のほうがどういうふうに今後スケジュールを組んでいくかということになると思います。

あと、採択については、先ほどちょっと御説明させていただきましたが、必ず採択が通るというわけではございませんので、なるべく通るような働きかけはしたいとは思いますけれども、ただ、確実に申請した年度に必ず通るというわけではございませんので、その辺を見計らって町のほうでも予算措置をしていくだとか、あとその辺のスケジュールを逆に地元のほうでも考えていただくだとか、ということで、今、町のほうは進めているというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

この町が作成したロードマップの中では、大体町としての考えは、大幡会館をいつ頃に建てたい、いつに建てたいというふうに具体的に年度とかって示してあるんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

あくまでもこの助成事業を使う事業主体というのは、要は地元の町内会の方がこの建設委員会が事業主体となってコミュニティ助成事業を実施していただくことになりますので、いつまでにこのものを建てるかというところにつきましては、地元の方がいつまでにこれを建てたいのかというところがはっきりした時点で、うちのほうに申請が上がってくるということになりますので、うちのほうから、じゃ、これを何年までに造らなきゃいけないということはあえて示してはございません。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

助成金とか補助金とかを利用して会館を建てる予定なんですが、ある程度自己資金というのもやっぱり町としては地元に用意してもらうということでなっているんですよね。全部をこの助成金、補助金で賄うというものなんですかね、どうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

その自己資金をどのくらい欲しいかということにつきましては、先ほどあった、建築面積

がどのぐらいの大きさのものをどのぐらいの費用で建てたいかによって、助成金については先ほどお話しさせていただいた上限がございますので、補助金に関しては10分の10出ますけれども、ただそれはあくまでも上限がございますので、それをオーバーしたものについてはあくまでも、なんで、今お話しさせていただいたんですけれども、建設費用についてはあくまでも地元のものが建つというところで行いますので、それに対してうちはこういう助成事業があるということで助成金のほうを手当てしていくという形になりますので、あくまでもどのぐらいのものを建つかというのは地元の意向でどのぐらいの資金が必要かというのに関しては、必要に応じて自己資金が必要になってくるということになろうかと思います。

以上です。

○１２番（蒔田昌代君）　分かりました。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

今後の町内会の皆さんの考え、意見とか動きで、会館が造られるかどうかというのが決まってくるということですね。

どうしてもコミュニティ、現の今のある場所もすごいいいと思いますし、大幡会館はいいと思いますし、皆さんが期待しているので、皆さんが情報がちょっといつになるのか、なかなか決まらないもんでいろんな情報がちょっと錯誤しているもんですから、ちょっと今回質問をさせていただきました。

コミュニティというと、やはり、私も、町にはいろんな場所にコミュニティがあります。今後やっぱり年月を重ねていくうちにやっぱり老朽化してきたりとか、今はまだ新しいところもありますけれども、そういったところのコミュニティの維持管理のために、特に建物とかのために助成金とかそういったのを速やかにちょっと集め、申請とか、情報を集めていただいて、町からも積極的にちょっと聞いていただけたらいいなというふうに私は思います。

コミュニティ、本当に今、コロナの後になってもう人と人のつながりが薄くなってしまって、集まる場所というのがやはりあるんですけれども、人が集まってこないという現状もちょっとありますけれども、やはりコミュニティはやはり再度みんなのつながりを知る場所でもあると思うので、やはりコミュニティの維持のために町もちょっと頑張ってもらいたいなと思います。

以上をもって私の一般質問を終わります。

○議長（大石　巌君）　以上で、12番、蒔田昌代君の一般質問が終わりました。

◎散会の宣告

○議長（大石　巌君）　以上で本日の日程は全て終了いたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午後　３時４７分

開議　午前　９時００分

◎開議の宣告

○議長（大石　巌君）　改めましておはようございます。

本日は定例会18日目でございます。

ただいまの出席議員数は12名であります。

これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（大石　巌君）　本日は提出されました第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についての質疑を行います。

議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

◎議案第４１号の質疑

○議長（大石　巌君）　それでは、議事に入ります。

日程第１、第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから第41号議案についての質疑を行います。

質疑は最初に歳入の１款から11款まで及び21款についての質疑を行います。

引き続き歳出の質疑を行いますが、議事日程のとおり本日は１款から４款まで及び12款から14款までとし、款別に区切って質疑を行いたいと思います。

説明員を入れ替えながら進めるため、出席する説明員により順番が前後する場合がありますので、御了承願います。また、歳入の１款から11款まで及び21款以外の歳入については、歳出の財源に合わせて行うようお願いします。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて確認の質問とならないようお願いします。また、簡潔明瞭に審議する議題に関すること以外の質疑まで至らないよう御協力お願いをいたします。

質疑につきましては、決算書あるいは説明書の何ページということで、明示を、お願いをします。

それでは、質疑に入ります。

初めに、歳入の１款から11款まで及び21款についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前　９時０３分

再開　午前　９時０５分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

出席議員は12名であります。

次に、歳出に入ります。

初めに、歳出１款の議会費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、２款総務費、１項総務管理費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

決算書の99ページ、説明書55ページです。

１目情報化推進費、13節音声テキスト化サービス使用料79万2,000円について質疑します。

自治体ＤＸ推進の一環として、ＡＩ相談パートナー、文字起こしシステムですね。これを昨年度、使用料を計上されております。これは、主に会議録の作成を中心に、昨年度92件の使用実績があるとのことでした。

伺いたいことは、まず、この導入したソフトですが、文字起こしソフトとしての優秀さ、自治体業務として十分活用が見込めるものなのかどうか、その前年度利用に対しての、町としての評価を伺いたいです。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

まず、昨年度、令和５年度、92件の実績がございましたという報告はさせていただきました。使ってみての課題、感想ということでお話しさせていただきたいと思いますけれども、大体２時間ぐらいの会議を文字起こしすると、ＡＩ相談パートナーで使ってみると約１時間で文字起こしが終了するということになります。ただ、あくまでも発言したことを、機械的に文字起こしをするということだけですので、誤字だとか意味不明な言葉だとか、そういうものがたくさん入っている状況です。

その後、その文字起こしで機械的に文章になったことを、きれいに職員が手で直していくという作業になるわけですけれども、職員がイヤホンだとかヘッドホンで聞いてタイピングするよりも、はるかに速い時間で文字起こしができるということで大変役立っています。

作業量としてもしっかり計ったわけではありませんけれども、ただ肌感覚で言うと、通常の作業よりも３割ぐらい業務量としては、削減ができているというような感想を持っております。

ただ、申し上げましたけれども、機械であるため、発言者がしっかり、ゆっくりきれいな

言葉で発言しないと、なかなかきれいに文字起こしができないということは、難点があります。

そういったことには、マイクの活用だとか、集音器の活用で補っていきたいと考えておりますが、おおむね使ってくれた職員からの評価としては、よいものだというふうに捉えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

役立っている。感覚的には３割ぐらいは文字起こしを人の手で２時間かけてやるのが、１時間ぐらい。性能がだんだんアップしていると思うんですけれども、まだまだ人の手で最終的にチェックして、間違いの修正などは必要かとは思うのですが、使えるものであるなという認識かと思います。

それで、それを受けてだと思うのですが、本年度の当初予算にも盛り込まれていまして、使用料として66万円の計上がございました。昨年度、今年度と展開していく中で、現在の使用の仕方、役場内でのルールだと思うのですが、総務課に変換してほしい音声データをＵＳＢなり、あるいはネットなりで出して、総務課がやるという形を取っているかと思います。

導入の最初だからそれでやむなしとは思っているのですが、これ本来であれば、各課が自分たちの膨大な会議録とか議事録とかを音声変換が自由にできるような、そういう環境構築、またそのためには、安全性の部分とかやり方とか、様々な研修が必要かと思うのですが、そうした展開はどのように考えておられるでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

総務課のほうで、今、お受けしてやっていることで、事業の報告をさせていただきましたけれども、それはライセンス、一ライセンスを持っていて、町として一ライセンスを持っていて、そのライセンスを総務課で管理しているというやり方になっております。

そのライセンス者数を増やしていけば、総務課が二つ持つライセンスなのか、ほかの課にもう一つのライセンスを与えるのかというやり方となるわけですけれども、今は、令和５年度の実績で92件ということでやっていますので、その一ライセンスの中でもまだ十分に余裕はあると、金額はいわゆる今でいうサブスクといわれるもので、使用料を払えば年間というか月どこまでも使えるというものですので、まだ総務課的には余裕があると把握しております。

今のところ、そういうところですので、もうちょっと増やしていくには後でもいいのかなと。今、大きな会議だけに使っていますけれども、それが小さな会議、打合せ等も使っていけば数も増えてきますので、そのときになったらまた考えていきたいと思っております。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

今、ライセンスの話が出ました。まずは総務課が持っているライセンスの中での活用だと思うのですが、使用に耐え得るとか、あるいは各課の業務効率がそれこそ、その部分で３割程度向上が見込めるということであれば、ライセンス数を増やして、それに見合ったものであるかどうかの検討も、ぜひ今年度中に評価をお願いしたいと思っております。

もう一つですが、文字起こしソフト、受注先のアイネス中部、ここのホームページなどを見ておりますと、このソフト、文字起こしソフトではあるのですが、自治体の様々な業務の手助けを、ＡＩを活用しようというところで、このＡＩ相談パートナーという使用がございました。

例えばなんですけれども、今、言った会話の自動テキスト化とか、いわゆる文字起こしのほかにも、職員支援ガイダンスの表示機能、どんな相談があったときにどう対応すればいいかというのをパソコン上で出してくれるとか、あるいは相談記録表の作成をサポートする。これは例えば福祉の現場とかいろいろ相談事があったときに、それを活用して全部ＡＩに読ませてということができれば、すごく業務の効率が向上すると思っております。

実際、そうした自治体業務の軽減化は時短化、残業の削減、また、町民に向き合う時間が増える。ほかの仕事にもっとマンパワーを振り分けることができる。そういうことにつながるかなと思っているのですが、こうしたものを将来的に活用していこうかどうかというところで、どうお考えになっているかお聞かせください。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

ＡＩ相談パートナー、まだ私たちは会議録の文字起こしのことしか使っておりませんけれども、今、議員から御紹介がありましたもので、うちが使えるようなものがありましたら、もちろん使っていきたいなとは思っております。

そもそもこのＡＩ相談パートナー、またはＤＸと言われているものは、職員が機械に任せられるものはどんどん機械に任せて、本来、人でなければできない業務に時間を割いていこうということを、やっていくためのものですので、活用できるものは率先して活用していきたい、また、総務課も勉強をして各課に周知できるものがあったら、やっていきたいなと思います。

今、大きな会議しか文字起こしをやっていませんので、小さな打合せ等で記録を取るものだとか、そういうところにも活用できるようにしていきたいということと、先ほども言いましたけれども、きれいな文字を起こすように、マイクの活用だとか集音器も総務課で６台用意してありますので、そういったものも使っていただけるように、もっともっと周知していきたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　広聴事業費、説明書の11ページです。

その効果に様々な方法によって、町民の意見を伺うことにより、町政に対する町民ニーズを的確に把握することができた。町民からの要望には迅速に対応し満足度向上に努めることができたと記載しています。意見聴取の様々な方法とは具体的にはどういう方法なのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

町でやっている町民の声を聞くものとしては、土木要望、自治会等からあがってくる土木要望もありますし、あとはインターネット、ホームページとかにありますお問合せフォーム、

それから、庁舎の１階のロビーのところに置いてあります、思いつきひらめきレター、それから、重い内容になりますけれども、陳情とか要望書みたいなものがあります。

そういった内容で、皆様からの様々な要望を受け付けている状況です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　それに関して、令和５年度は何件ぐらいきて、そういう要望に対して町がどのように対応していったか、具体例を一つか二つか紹介していただけますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　ホームページのお問合せフォームに関しましては、100件を超える要望、御質問等がございました。内容のことに関しましては、町民から今、ふるさと納税をやっていて、その後、経過がどうなっているのかというようなお問合せだとか、役場の手続ですね、入園だとか、国保の切替えとか手続の相談、どういうふうになっているのかというようなお問合せ等がございます。

ただ、土木要望のことに関しましては、令和５年度は130件ぐらい総務課のほうに提出がありました。内容としましては、カーブミラーの故障だとか道路穴です。あとは草刈りとかそういった要望です。

それから、思いつきひらめきレターのことに関しましては、20件を超える要望がございました。ここは町の町民の要望ですので、公園とかを造ってほしいだとか、そういった大きな要望だとか、地域活動を行っていた企業への感謝のお手紙だとか、そういうようなお手紙がございました。

陳情に関しましては、リニアの話だとか、そういったことを町長にいただいているというようなことです。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　いろいろ要望とか陳情もあるかもしれない。そういう要望が来た場合、町の中ではどういうルートを経て実際の対応を図っていくと、総務課がまず受けるのか、担当が受けるのかはちょっと分かりませんが、その後の対応までの流れというのはどうなっていますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

一旦は総務課で受付をさせていただきまして、町長に上げるべきものは町長まで回覧をさせていただきます。その後、担当課、総務課で対応できないものに関しましては、各担当課のほうへその情報を周知させていただきまして、返事が必要なものに関しましては、御連絡をすると。メールで返事をしたり、御連絡、電話番号が書いてあれば連絡をさせていただいたりというような形でお返事をさせていただいております。

ただ、内容によっては、すぐに完成までにできないものもありますので、途中経過をお話しさせていただいたりとか、今こういった状況で待っていただいているというようなお返事をさせていただいたりとか、もちろんすぐできるものに関しましては、職員が行ってすぐ対応したりとかいろいろやっております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そういう情報というのは庁内で共有化みたいなことはなく、総務課、担当課という流れで対応をしていくという状況なのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

「ちょうない」というのは、庁舎内ですか。

庁舎内の共有のことにつきましては、町職員全体に対してのお叱りとかお褒めの言葉、そういった言葉は職員で共有させていただいて、私のほうから課長会議等で報告させていただいております。

ほかの各担当課が対応するべきことに関しましては、今、担当課がやっている、上層部にはもちろん報告をさせていただいて、共有はしております。

あと、隣同士の課、関係する課のことに関しましては、もちろんやっていただいているということですけれども、今、ちょっと土木のことに関して言うならば、福祉系の方が知っているかと言われると、今、ちょっと知っていない状況になっております。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　山内です。

15ページのほう見ていただけますか。庁舎管理です。

エレベーターに関しては、エレベーターホールですね、ようやくやっていただきまして、よかったと思っています。それに関しては、非常に一種安心。あれは構造的に非常に大変な構造をしていると私は思っていますので、よかったと思います。

その中でもう一つ、庁舎の効果のところに、快適な公共施設空間の確保ができたと。それで、庁舎の一番最初から見ていると、よく見えたのですが、雨漏りあったじゃないですか。

それで、今の状況、気候の状況を見ていると、今までのような雨じゃなくて、もっと強烈な雨がもう来るでしょうね。そうしたときに、現在も下に置いてありますけれども、雨漏りに対しての調査というか、検査というか、徹底的に調査をやらないとまずいと思うんですよ。鉄骨の部分というのは構造的に酸化したらアウトですから、その辺の状況というのはどういう状況になっていますか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

雨漏りにつきましては、こちらでも雨漏り箇所というのを把握しながら、どこからどういう形で伝わっているか、まず、職員のほうで確認をしながら、実際、施工業者、庁舎を建てたときの業者のほうに、ここが雨漏りしているというのを見ていただいてはおります。

ただ、雨が吹き付けている風向きとか、そういったところによって、漏るときと漏らないとき、そういうことがございますので、ちょっとその辺はまだ経過観察をしている部分もございます。その間に新たに雨漏りをしていることもあるものですから、ちょっとまたどこかで全体で、どうするかというのをやっていかなきゃいけないなというのは、重々承知はしておりますけれども、今のところはその都度見てはもらって、対応できることという中で、まず対応しているという状況でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　一番心配するのは、建ってから何年くらいたっていますか、この庁舎。もう30年以上たっているでしょ、まだ経ってないか。長い間、雨の状況が続いて、特に鉄骨の部分というのは、仕事をしていると入ったところから、雨が漏れてくると全く違うところへくるわけです。

その辺は今、言ったその都度やっているって言うけれども、大々的にちょっとやる必要があるんじゃないかと思うんですけれども、その辺の計画というのは持っておりますか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

今現在、今年度予算とかでそういう大々的にやるというのは、ちょっと確保していないものですから、今後ちょっと様子を見ながら必要であればそういう形でやっていかないと、庁舎が駄目になってしまうということは重々承知しておりますので、またちょっと検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　それに当たって、私はこう常々思っているのは、あそこのホールから入ってきた右側の今でも受け皿を置いてありますよね。あの位置は、もう本当に、といをつける、大きな。例えばといは、竹の形をやるとか、いろいろな方法がありますので、それに見合ったものをつけていかないと、雨というのは風でどこまで上がっていくか、我々が知っている範囲では工事をやっていても、雨と風によって大体、毛細管現象で１メートル上がってくるんですよ。ちょうどあの高さというのは、大体50センチぐらいしかないから、もうその辺を見据えて根本的にやらないと、これからのものに関して、本体をいじめるじゃないかと思っていますので、その辺はエレベーターのようにしっかりやっていただきたいと思います。エレベーターも満足しているわけではないですけれども、そういう意味では、大きな地震が来たときに、そこに集中的に来ますから、ぜひその辺はやってください。

といを、何かの形でといをつけて、みんなのアイデアをもって大きなといをつける。それがもう一番の解決だと思いますから、その辺も考えて計画を立てていただきたいと思いますから、よろしくお願いします。返事があれば、計画をお願いしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

今、山内議員言われた、といというのも一つの方法だと思っております。そもそも大本で止められてといをつけなくてもそこで止められるもので、ちょっとそこが分からなくて、どうしてもといで対応しなきゃいけないところ、それぞれあると思いますので、またその辺は今後見ながらやっていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

説明書の24、25ページにかけて、男女共同参画推進費の中の第７回吉田未来フォーラムについて、お尋ねします。

未来フォーラムは昨年度で第７回ということで、その前は名前が違っていましたよね。未

来フォーラムという名前になったわけですが、やっている団体、女性団体がほぼ企画とかそういうのをしているのかなと思うのですが、これについて男女共同参画という意味で考えたときに、町では名前が吉田町未来フォーラム、女性だけの団体の方だけで大丈夫じゃなくていいのか。

もっと男性、女性、性はいいんだけれども、もっとほかの形が未来フォーラムという名前がついている限り、もっとほかのことができるんじゃないかなと思うのですが、その先のことをどのように考えているのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この男女共同参画というところで、女性団体が企画をしてというところが、今、主に行動しているところだと思います。もともと、その男女共同参画というものが女性進出というところがやはり争点でございまして、女性の社会進出であるとか、そういうところも含めまして、女性団体の方にそういうふうな企画、今まで男性がやっていたものを女性の方の目線でどういうふうな形で、できるかというところも含めまして、今、未来フォーラムという形でさせていただいております。

この未来フォーラムも昔というか前は、子育て、特に社会進出、働きながら子育てをするような形での講演会であるとか、そういうものが主だったんですけれども、今年度につきましては、イクメン、男性がいかに家事、そういうものに参加するかという視点を持って、令和５年度の未来フォーラムは開催させていただいたというところで、やはりこの男女共同参画につきましても、いろんな今、女性の社会進出もございますし、最近できましたジェンダー問題であるとか、いろんな視点がございますので、今後、今はその女性進出というところで、あとは男性とか企業の働き方であるとか、そういうものを今は争点にしておりますが、その社会情勢の変化に応じて、その辺も団体もどういうふうにしていくかというのは今後、方向性を見ながら検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

子育てであるとかというのは、吉田町の未来を見てという意味でやっていくよということで理解してよろしいですね。

そうした中で、ある程度それがまとまってきたら、もう１個先の方向性を持っていくよというようにも理解したのですが、それでよろしいですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今回、そういう争点で見ているというところで、例えば、働き方改革というところであれば、今でも男女共同参画の中では、企業セミナーであったりとか、企業の方に女性の働き方であるとか、働き方の推進であるとか、そういうものも企業セミナーの中で、講演をしていただいたりだとか、意見交換をしていただいたりとかということもやってございます。

今後は今、議員おっしゃるとおり、多種多様な男女共同参画といういろんな幅が広がってきておりますので、そういうものが必要であれば、未来フォーラムの中でそういうものに争点を絞っていくような形にも、今後、検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　そうしますと、企画課のほうでそういったアドバイスはすぐにこれからもしていく。そうした中でその今、女性団体が主になってやっていると思うのですが、そういう方向性をつくっていくと理解してよろしいですか。どこまで企画課が関わっているのかなというところもちょっと分からないので。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

それこそ、この女性団体の連絡協議会というものが、うちのほうの事務局が企画課のほうで担当してございますので、随時そういう面に関しましては、今の動きであるとかそういうものについては連絡を取りながら、会のほうを進めておりますので、そういう情報は入れながら今後どうしていくかというところは考えていきたいというふうに考えてございます。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　了解しました。そうした中で、具体的な話をさせていただきますと、５年度のときには有名人、つるのさんをゲストで呼んでやった。誰でも入れるようで入れないというか、前もって予約制、一般の方が107人ということを聞いてございます。

そういった有名人を、それなりの謝礼金もある中で呼んでやるんだったら、もっと広い会場で、もっと町民の方に大勢来てもらえるような、というようなことを考えなかったのか、というところがあるのですが、その点についていかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

それこそ、今、町内の中で、どこでやるかというお話でございますけれども、今までも講演会等で、学習ホールで、かなりの人数を入れてやれるというところもございますし、今回もつるのさんというと、かなり有名な方で、そういう方も周知させていただいた中では、今の学習ホールくらいのキャパで何とか結果としてできておりますので、また人によってかなりもっと有名であれば、もう少し大きい総合体育館であるとか、どこかの体育館を借りてやるということも考えられますが、ただ今までの経験といいますか、今までの実施した感じでいきますと、学習ホールのキャパであれば、何とか人数的にもいけるんじゃないかなというところで、今回、学習ホールにさせていただいたというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　それは制限をするから、そのキャパで、そのキャパに合わせた制限をしたというふうなことではないんですか。前売りじゃないけれども、予約なしで町民の方、皆さんおいでください。子育てを終わった方だっていいと思うし、その中で広げることはできたと思うんですよ。107人でしょ。それはもうそのキャパに合わせた人員を確保したというふうに思えちゃうんですが。

だったら総体でもどこでも町民の皆さん来てくださいで、せっかく有名人の方が来てくれる、タイトルは子育てでやるんだから、それに関心ある人、つるのさんを見たくて来る人もいるかもしれないけれども、それはそれで内容がよかったら、なるほどと言って帰ってくれるかもしれない。そこまで考えたらもっと広いところでやればよかったと非常に思います。

今後、そうした有名な方を呼ぶにしても、町民の皆さんにも開放してやったほうがいいと思うのですが、その点どうお考えですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今回に限りまして、応募して今、来てくださった方が200人ちょっとというところで、実際、学習ホールで、今、講演をやるとなると200人弱のお客さんは何とか入れるという中で、今回計画をさせていただきましたけれども、今、議員おっしゃるとおり、もう少しこう例えば自由度が、入るのに制限をやらずに自由度によって、お客さんをもう少し呼べる講演者の人にもよりますが、そういう方であれば、今後もし大きく、もっとやって、もっと見込みができるということであれば、ケース・バイ・ケースで検討していきたいというふうには考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

決算書の71ページ、資料の９ページ、10ページになります。広報事業費についてお伺いをいたします。

広報事業費のこの効果のところに、町をＰＲすることができたというように書かれておりますが、この町をＰＲするということも含めて、ふるさと情報便として吉田町のゆかりのある方々に情報発信をしているということですが、これの目的を教えてください。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このふるさと便というものは、町にゆかりのある方に町の中で今、どういうことが起きているかということを、うちのほうから情報発信するという意味で、広報のほうを送らせていただいております。その方たちに今、吉田町というのは今どういう動きをしているかと、どういう話題があるかというところも改めて、皆様に情報発信をしたいということを目的に行っているものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

それは分かるんですけれども、吉田町に今どういうことが起きているのか、どういうことをやろうとしているのかというのを送って、それでその後、何を期待しているのかというところをお聞きしたいんですけれども。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

送ることによって吉田町、この方というのは大体町外とか県外とかにいらっしゃる方に、広報で送らせていただいておりますので、まず吉田町と疎遠になってしまいがちな吉田町において、どういうものが常に吉田町に興味を持っていただく。その方たちも吉田町のことが常に気になるというところでは、情報発信をして吉田町とのつながりをつなげていくという目的では、目的を果たしているのではないかというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

そうですね。吉田町のことをある意味、思ってもらいたいというところだと思うんですけれども、その中で私が言いたいのは、ふるさと納税に、この方々をやはり導きたいだろうというように思っているんですけれども、ふるさと納税をこの方々に多分、案内ぐらい送っているのかとは思うんですけれども、まずは案内を送っているかどうかということと、その方々がふるさと納税をどれぐらいしてくださっているのかというデータみたいなものというのは取られていますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、実際にうちのほうで送っているのが、令和５年においては10件ほど、10件の方々に今、広報のほうを送っているわけですけれども、その方がふるさと納税をしているかどうかという個別データまでは、うちのほうはちょっと把握してはございませんけれども、やはり今、議員おっしゃるとおり、そういう方にも吉田町を応援していただきたいという意図もございますので、そういう中では、そういうふるさと納税であるとかそういうものには、つなげていけるのではないかというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

ふるさと納税というのは、私は努力すればするほど、ある程度、増えていくものだというふうに思っていまして、税収等はほかの税収なんかコントロールが簡単にはできないという中で、ふるさと納税は努力する価値があるだろうと、現状の制度の中で言えばという中で、民間で考えると10件ということで思いのほか少ないなと思ったんですけれども、ゆかりのある方々は、リストで言えば、ふるさと納税をしていただける可能性の高いリスト、優良リストに民間だったら普通に入るリストだと思うのです。

そういった方々にふるさと納税を、お願いをしたりする。実際に吉田町にふるさと納税をすることで、そういう人たちも吉田の産品を食べたりすることで、また吉田町を思えるというようなこともありますので、ぜひそこのところを優良リストがあるのだということを自覚していただいて、そういったところにつなげていただきたいというように思うのですが、御答弁最後お願いします。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

うちのほうからしてくださいというのは、なかなか言いにくいところもございますけれども、ただ、今、議員おっしゃるとおり、かなり吉田町にはゆかりのある、吉田町とのつながりが濃い方だと思いますので、やはり吉田町のことを考えていただいているんじゃないかなという面では、ふるさと納税のほうにもかなり興味を持っていただいているのではないかというふうに考えてございます。

そういう中でも今後もそういうふうな形で、吉田町との関係性ですよね、そういうものについて今後もそういうものを進めながら、ふるさと納税のほうも進めていきたいというふう

には考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書の52ページ、職員研修費です。

この職員研修費については、10年以上前に、その頃の当初予算が800万円だった頃です。執行率が50％を切っているので、当初予算を減らしませんかと、それをほかの事業に回しませんかというお話をしたときに、職員が希望する研修に予算がないから出られないというようなことはやりたくないという返答で、しばらくの間はそのまま、しばらくしたら600万円になりました。コロナの影響もあるのか500万円に減っている。

令和５年度の実績見ると、執行率を見ると95.5％という状況になっています。令和６年度の予算を見ると500万円のままになっているわけですけれども、やはり予算がないから職員が行きたい研修に行けないという状況を避けるためにも、やっぱり当初予算というのは増やしておいたほうが、職員のレベルアップという面でもいいのかなと思うのですが、その辺はどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

今、議員からの御質問がありました予算がないから研修に行けないというようなことは令和５年度もございませんでした。高い執行率95.5％という高い執行率でしたけれども、そういった状況はかろうじてなく終わったので、本当に町としてもよかったなと思います。

この事業に関しましては、町長からも外に出ていろんなものを見て、いろんなことを聞いて、いろんなものを見て、視野を広げてくるようにというような指示も受けておりますので、総務課としても予算のほうは確保していきたいと思っております。

とかくつい自分の業務ばかりに目を向けがちですけれども、実際はいろんな研修に出て行くと、自分の業務以外の情報もたくさん入ってきて、どこに自分の業務で参考になることがあるのかというのは、分からないものですので、本当に職員には多く研修のほうに参加していただいて、視野を広げていってもらいたいと思っております。

予算のことに関しましても、来年度予算は今後ですし、今年度も多くの職員が外に出て研修のほうに参加しておりますので、予算を見ながら必要があればまた、予算のほう増額をかけていきたいと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　その説明書の効果のところに、昨年同様、研修以降も情報交換等をすることができるネットワークも構築している。また、令和５年度には、新たに職員の対面研修への参加意欲の向上が見られるというふうに記載しています。これはすばらしいことだと思うんですが、この機運をどういうふうに醸成していったのかというのは、何かあるのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　総務課長、太田順子君。

○総務課長（太田順子君）　総務課でございます。

令和５年度の実績、53ページの一番上のところで、延べ133人の職員が研修に参加したと

いうふうに記載させていただいております。この133人中、現地に参加した職員の割合が84％を超える率として、現地参加で残りがオンラインの研修ということになっております。うちのほうがやった研修のお知らせということに関しましては、毎月総務課のほうで来月はこんな研修が行われます、現地に行く研修もあればオンラインでやる研修もあれば、それをイントラネットのほうで全職員が見られるような環境で流しております。

そういったこともやっておりますし、あとは各課では自分たちが入っている協会だとか、買っている冊子とかに研修のことも来ておりますので、そういった研修に参加していただいたりとか、あと自分がより専門的な研修に参加したければ、自分でまたイントラネットで調べたりということで研修のほうを参加しておりますけれども、そういったことで研修のほうが多くなっているのかなというふうに思います。

ここは今後の職員を育てていく、よりよい職員になっていくためには必要なものだと思っておりますので、引き続き、やっていきたいです。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

説明書の36ページから37、シティプロモーション事業の中で、小山城前アンテナショップについての支出が結構ありますよね。そうした中で町の考え方があそこのアンテナショップをどう今後やっていくのか、方向性がよく分からないのですよ。

いろんな説明を聞くと店舗の、まだ無店舗の方、創業まだ間もない方というか、そういう人を呼んで、そこでというんだけれども、そもそもアンテナショップだったら、町内のほかの既存のもの、事業者のものも紹介できると思うんですよ。よく東京とか行くと静岡県のアンテナショップとかというと、もう地方のものを静岡県のものを仕入れてというのかして、紹介がてら販売するというようなのがすごく頭に強いんですよ、アンテナショップというと。今のアンテナショップは大丈夫なのかというか、どこまでやろうとしているのかが見えない。

そうした中で、業務委託料として払っています。需用費なんかを見るとアンテナショップ外用ストーブ灯油代、灯油ぐらい自分でやれよと思っちゃうんですが、そういったものまでも町が全部丸抱えしている割には、どれくらいの効果が本当にあるのか非常に疑問があります。ましてや、37ページのほうには町内６事業者が出品し、合計で約39万円の売上げがあったと、年間で39万円ですよね。それでアンテナショップとして成り立っているのかなと非常に思うんですが、町の考え方をもう一度お願いできますか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この事業、一般質問のほうでもお話しさせていただきましたが、コロナを契機にうちのほうで企画させていただいて、今やっている事業でございます。このアンテナショップの目的といたしましては、先ほど言った企業の支援、いわゆる店舗を持たない方の支援ということが一つございます。あともう一つの目的といたしまして、小山城周辺ににぎわいをつくるという二つの目的を持って、今このアンテナショップというのを経営させていただいているということでございます。

先ほど６店舗、今39万円の売上げがございました。あれは今、店舗をなかなか借りられな

い、自分で持つこともできないし、今、商品をどこに売るにもそういうつてがない方なんかにその一角をお貸しして、そこで自らのものを販売していただくと。それによって、１件、令和５年度においては独立をして自分で販売ができるようになったという方もいらっしゃいます。そういう方のステップアップをする場として使うというのが一つ、そういう効果があると思います。

もう一つは、小山城周辺のにぎわいということで、お話しさせていただいたとおり去年あたりでも今、委託を出して管理していらっしゃる方が、もともと吉田町の地域おこし協力隊の方で、その方がいろんなつて、といいますか、自分のコネクションであるとか、そういうものを利用して、いろんな方を集めて、いろんな音楽鑑賞であるとか、縁日であるとかいろんなにぎわいに資する事業を進めていただいているという中で、必要なものについては町のほうで、にぎわいに資するものであれば、このプロモーションの中で協力できるものは協力していくということで今、支出をさせていただいているというところでございます。

今後、小山城周辺をどう整備していくかというところもございますけれども、今、にぎわいであるとかそういう小さいものではありますけれども、そういう起業についても今、貢献できているというふうに町のほうでは感じておりますので、町としましては今の状態を何とか継続しながら、今後やっていく中で、どう考えていくかというのは、その中でまた今のアンテナショップの在り方については、検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　そうしますと、管理者、イベント屋じゃないんですよね。にぎわいを起こすという意味で幾つかやっているとはいえ、平日とか行ったところで何もないと思っちゃうんですよ。彼がどれくらいの企画をもって、にぎわいと、もう１個の意義をやっているのかちょっと見えないところがあって、もうちょっと上手にできないかな、利用できないかなと思うんですよ。

あそこが本当ににぎわうのは、ある意味、ほかのイベントとのタイアップ、例えば商工会でやっている楽市、この楽市のときには非常に人が出る。そこでワイワイやっている。というのはすごく見えるんだけれども、それ以外のときに行ったところで、コーヒーショップをやっているような、やっていないような、よく分からないような感じでいるんですが、あれで本当に大丈夫なのかな。

アンテナショップという名前をつけているからには、やはりもっと町内のものをＰＲする場、販売する場という方向に考えることはない。あくまでも起業目的であるとかそういう方のものをあそこでやる。そこのところが非常に分からないところですよ。町のほうでこれだけお金をかけてやって、ほぼ丸抱えのような形でやっていて、もうちょっとあそこ何とかならないかな。にぎわいはにぎわいでいいんだけれども、だったらもっと活用していただきたいと思うのですが、その点について。

既存の自分が思うのは、既存の町内のものもあそこでやる。だから「しらすのまどぐち」もあるのだからそことタイアップしながら、やっていく。それが常に土日だけとかじゃなくて、平日から人が出入りできる、しているような状態をつくりたいというのが一番の思いだと思うので、それをやるんだったら本当に今ある地元の産品を、もっとほかのものがあるんですから、紹介したりとか販売したり、そういう方向に持っていくことはできないのでしょ

うか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

議員のおっしゃるとおり地場産品であるとかそういうものということも、小山城の中では今、「しらすのまどぐち」等がありまして、そういうところで地場産品も売っていると。

中で今回このアンテナショップという名前で今、事業をやっておるんですけれども、先ほど言ったように、もともとのその成り立ちといいますか、目的が起業であるとかにぎわいをつくるという目的で、今このアンテナショップということをやっております。

先ほど言った、そのような地場産品のものであるとかということを考えると、今の規模でいいのか、いろんなもっと大きい規模でないとまずいのではないか。どういう規模感でそういうものをやるかというのは、今やっているアンテナショップとは、目的をまた別にして今後どういう整備をしていくかという中では、そういう議員のおっしゃる意味でのアンテナショップ、地場産品を売るようなアンテナショップをどう配置するのか、どうつくっていくのかというところについてもそういう目的でどう整備していくかということも、今後検討はしていかなければいけないかなというふうには思いますけれども、今のこのアンテナショップというものは、もともとそういう目的として今、目的を達成できているので今の段階ではこのものを継続していきたい。

地場産品については「しらすのまどぐち」とかそういうものを利用しながら、地場産品についてもＰＲしていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　今、目的を達成していますと述べられたのですが、この状況が目的を達成しているという状況ですか。もっと大きな目的というか目標というかあるのかなと思ったんだけれども、今の状態がもう目標を達成している状態ですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、目的を達成しているというのは、小山城全部を考えたときに目的を達成しているというものではなくて、今このもともとコロナを発祥として、アンテナショップという事業を立ち上げたもともとの目的が今、小山城周辺ににぎわいをつくっていく、アンテナショップに起業、店舗を持たない方のお店のものをそこに置いてＰＲしていくというところもございますので、そういう目的については今、達成できているという中で、ただ、今後先ほども言った大きい意味でのアンテナショップであるとか、にぎわいであるとかというものについては、今後、小山城をどう整備していくかという中では、当然必要なことだと思いますので、そういう中で検討していきたい。

そこにどうつなげていくかというところも今後、その整備が決まれば、アンテナショップというのもどういうふうに活用していくかというところも、今後については検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。ほかに。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、同じところでちょっとお聞きしますね。

今、ずっと聞いていて、非常にビジネスをするものとして発言させていただくと、年間を通して39万円の利益を上げたと、利益ではなくて売上げね。売上げがあった。恐らく利益はゼロでしょう。利益はそんなに出ないはずです。ただし、このアンテナショップに町としては、どのくらいのお金をかけていると計算はされていますか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このアンテナショップというのは、今のコンテナハウスの中に一角を使っておりますので、このアンテナショップということになりますと、今、経営している方の商品を管理してもらう委託料でありますとか、その中で利用している事業費であるとか、そういうものが経費としてかかってございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　いろいろ聞いていて、多分、市場調査していないでしょう。市場の調査。必ず、ビジネスをやるときに、市場調査がなかったら絶対失敗しますよ。偶然性を求めるだけですから。その辺の考え方というのはちょっと厳しいかもしれないけれども、本当にこの人に任せていて、彼を追い詰めませんかね。そんな気がするんですよ。

要するに、言いたいことはやるのであれば町のほうで、常にどういう形で応援をしていきますよと、彼と常に連絡を取っていかないと逆に潰しちゃうような気がするんだけれども、その辺の常日頃の39万円の売上げを上げるためのお金が、基本的に今、聞いたけれども、町はどれくらいお金をかけていると思いますか。どういう計算をしていますか。数字でお願いします。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この39万円というのは、今あそこに無人で出店している方、６人の方が商品を置いているという売上げが39万円でありまして、あそこでショップを開いてコーヒーショップを開いている方の収入では決してございません。あくまでもその39万円をその方々が売り出していると、あくまでも目的とすれば、そこでそういう商品というものを知ってもらって、あくまでもチャレンジの場として実利用していただいて、そこから自分で起業できるような形に、羽ばたいていっていただきたいという目的でやっておりますので、事業とすればそういう事業であるということで御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　いいですか。聞きたいのはまず、シティプロモーションの当初予算額、598万7,600円ですよ。金額がこれ5,900万円ですよね、当初予算。その中で今の数字はあそこを使っている金額的なものは、どれくらいの数字を認識しているんですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今の２款１項６目の14のプロモーション事業費という中の当初予算で5,900万円というお話がございましたけれども、補助金全ての事業を合わせた金額でございまして、そこのアン

テナショップに使ったお金が5,900万円というわけではございません。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ごめんね、しつこくなりますけれども、そんな数字は分かっている話で、あそこに現在、あそこの維持管理をして、そうして最終的には、39この数字が出たときに、そこにはどのぐらいの投資をしていると思っているんですか、という金額を聞きたいんです。要するにその金額が見合うかどうかという話ですよ。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この今のアンテナショップの事業費につきましては、12節のところに委託料とございますけれども、この委託料をうちのほうから委託契約を結んだ中で、アンテナショップにある商品についても管理していただいて、そこで併設しているカフェについてもその委託料で、営業していただいているというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　その金額というのは、委託料が92万4,000円ということ、これが今、町が投資をしている金額という認識をしているのですか。92万4,000円、ここに委託料とありますが、それ以上、それだけじゃないと思うんです。もっと大きな金額に入っていくと思うんだけれども。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今アンテナショップのうちの経費ということで、決算の中で言いますと委託をして、この中で管理をしていただいているお金がございます。

あとは事業費の中にもアンテナショップの電気使用量であるとか、修繕ですよね。修繕というのはその方がするものではなくて、壊れたらうちのほうで直すというような修繕もございますが、そういうお金も入れた中で考えれば92万4,000円というのが、うちのほうが管理委託として払っているお金。

そのほかの経費といたしましては、もろもろ足すと10万円か20万円くらいなので、100万円ちょっとのお金で、今そこに投資というか、経費をさせていただいて経営しているというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　はっきり言おうとしていることは、本当に見合わないものであったなら、もうちょっと根本的な考えを見直して、そうしてしっかりやらないと、町もそうだけれども、彼自体を追い詰めていくことになるんじゃないですかということを言っているんです。ちょっとそういう心配をしているものですから、もう一度、彼を含めて、そういう人たちを含めて、やる必要があるんじゃないかと、この金額を見ているとね。

それともう一つは、民営の民意を圧迫する可能性がありますので、それも含めたしっかりとした会話というか、議論というかそういうのをやる必要があるんじゃないかなという気がするんです、ここから見ると、あそこに対して。

にぎわいの創出を図っているということになったら、それがどのぐらいの数字として、にぎわいって多分出ていないと思うんですけれども、そういうものも必要、調査とともにやっていかないと、これから先ずっと、この感じでやっていくことが果たして、それぞれが幸福になるのかどうかという感じがしますので、ぜひその辺もまた機会を見つけてお聞きしたいと思っています。

しっかりとしたそういうものを出して、そして胸を張ってここで数字を言えるような、そういうものをやっていかないと、ぜひそれをやってください。そういうものはほかにも影響してきますから、ぜひその辺はやっていただきたいと思うんですけれどもどうですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、経営者の方を圧迫するというお話がございますけれども、この事業につきましては、プロポーザルをかけていまして広く公募した中で、手挙げをしていただいて、やれるかやれないか、そういうことも含めて手挙げをしてもらった方とうちが優先交渉権を得て、契約をしていますので、決してうちのほうが無理矢理やっていただいているわけではない事業でございます。

先ほど言った、市場調査、もともと先ほどからも申し上げたとおり、目的が今言っている起業の方のチャレンジの場ということと、今の小山城のにぎわいを創出してくれる場、その辺もプロポーザルの中では仕様書として、うちのほうが提示させていただいて、それに同意した中で今、やっていただいておりますので、決してこの方に無理にやっていただいているというところはございません。

先ほど言ったように、小山城整備全体を考えていく中では、今後このアンテナショップはどういうふうに発展していくのか、現状のままでいくのかというところは、その内容の中で、検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　プロポーザルに関しては、私もよく積極的にやっていますので、よく分かります。当然、その人には初めの自分の理念を出しながらやるんでしょう。でも結果的に結果が出なかった場合というのはしっかりと見極めて、それに対する対応をしていかないと、それなりの満足した結果が出なくなりますよという話ですが、ぜひその辺もしっかりと見極めをしていただきたいと、そういう形を思います。よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はございませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　今と同じところですが、川根本町と吉田町とのイノベーション推進事業費のことでお伺いをいたします。これはそもそも川根本町とイノベーションの推進事業をすることになった経緯を教えていただきたいです。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

イノベーション事業というのが、それぞれの特産、特色を生かした中で地域を活性化していこうという中で、川根本町とやるという目的については、吉田町については「海」、川根本町については「山」という全く正反対のものをお互いに特徴として持っていますので、そ

ういう意味でお互いのものをうまく活用しながら、地域を発展させていこうというところの目的を持って、この事業を立ち上げたというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

川根本町が山で、吉田町が海ということで、お互いそれぞれ持ち合わないものを、イノベーションをしたりすることも化学反応とか、いい効果が出るのだろうというようなことで、始めているというのは分かるんですけれども、なかなか距離的に遠くて、それを例えば観光資源的に考えて使っていけるようにするには、なかなかちょっとそこら辺も大変なところがあるのかなという感じはしています。

ただ、この事業自体がそこまであまり考えていなくて、商品自体みたいなものを開発しながら、お互いがウイン・ウインになるような形ということで考えているという理解でよろしいでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このイノベーション事業の中では、議員おっしゃるとおり商品開発であるとかということもありますけれども、遠いと言いながらも近からず遠からず、あまり物すごい遠い距離で行けないという距離でもないし、かといって隣町でもないという中では、あまりにも近いところではないという中では、イノベーションの中ではお互いに海のツアー、山のツアーというところで、「りょうし」同じ狩りの猟師、海の漁師という形で交流できるような形のツアーについても企画をさせていただいて、実際、川根本町ではその猟師について、吉田町からの交流として吉田町からのツアーのお客さんが、川根本町のほうに行っているというところもございますので、商品だけではなくて、そういう交流についてもイノベーション事業の中では検討していくというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

そういうところまで広く効果を出せれば、一番いいのかなというふうには思っております。ただ、これがコロナの関係等で事業者との調整がつかず、実施できなかったというようなことも明記されておりまして、思うように成果もなかなか出にくいような状況が、まだあるのかなというような感じはしていますけれども、今後の展開としてどういうことを考えていらっしゃるのか、いつぐらいまでどういうような展開を今、模索しているのか、そこら辺を教えてください。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、この事業に対してどういう展望というところのお話でございますけれども、現在は今やっているツアーであるとか、商品に関してはふるさと納税につきまして、向こうで作って売るものを吉田町のふるさと納税のものとして扱っていたり、そういう交流もやったりしております。

また、向こうの山のほうだとキャンプ場とかそういうものもございますので、そこにうち

の製品をコラボさせて、ふるさと納税として扱っているというケースもございます。

そういう面では、今後についてもふるさと納税であるとか、商品開発であるとかにつきましては、今後も進めていきたいというふうに考えております。

あとは、各それぞれ吉田町においてもしらす、うなぎであるとかいろんな特産品がございます。川根本町につきましても、またそういう特産品もございますので、そういうものを県外であるところに行って、イベント等に参加してそういう特産品をＰＲしながら、販売していくということにも、今後このイノベーション事業のほうで、活動していきたいというふうに考えてございます。

近くでは、令和５年度のほうに、令和７年度に開かれます関西万博のほうに、お互いのコラボした商品をメニューとして向こうに販売していただいて、なおかつお互いの観光等についてもＰＲしていくという事業もありますので、そういう面で、お互いのいいところを県外とか町外にも広げていくというところで、事業のほうを進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今、ふるさと納税の話も出ましたので、ふるさと納税促進事業費、説明書26ページです。

ふるさと納税額は、令和４年度は11億8,955万円で、令和５年度は11億1,225万円と6,700万円ほど減額になっています。その理由としては、定例会初日の町長の行政報告において、昨年10月の経費算出制度改正に伴い一部返礼品の寄附額を増額したため、その影響が出たのではないかというふうに述べられております。

それに対して、ふるさと納税推進委託料は、令和５年度の１億5,478万円に比べ、800万円増の１億6,287万円、もらうために努力しているお金は上がったけれども、結果的にふるさと納税の額は減りましたという結果になっているわけです。そこについて増額、推進費の増額理由をお願いします。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　すみません。推進委託料です。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この推進委託料につきましては、返礼品なり送った額に対してパーセントでやるというものもございますし、あとは送ったというか返礼品を、うちのほうに入った実入りのお金、ふるさと納税として寄附をいただいたお金のパーセントで、サイトであるとか、ああいうところに委託料として支払っている部分の委託料というのもございますし、あとは経費です。受領書であるとかそういうものを送ったりする経費であるとか、そういうものについても、この委託料の中で払ってございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　委託料というのは、12節委託料、ふるさと納税推進事業委託料です。

今、答弁では返礼品のもののお金とか証明書の作成とか、それは別の項目に入っているわけですよ。ふるさと納税推進業務委託料が上がっているということを聞いています。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、言っている委託料というところの観点で、お話をさせていただきますと、委託料というのは、うちのほうからサイト業者、何件か今、十何社サイトがあります。それと、それに対する発送であるとか、そういう手続を、実際に物を発送する業者として、中間業者というのが入って、一つのパッケージとして、ふるさと納税の返礼品を、各課に送ったりする業務を行ってくれる委託料として今、ここで契約している金額がこの金額になります。

この金額につきましても、ふるさと納税でかかる、入ってくるお金というのが年度で入ってくるお金と、この委託料につきましては、実際にかかったお金、具体的に言いますと、令和４年度に１月、２月、３月、その前でも寄附はしてくれているんだけれども、実際にお金を支払うのは令和５年度になってから、その経費についてはかかってくるという話になると、そのお金についてはその委託料がかかってくるという中で、その払う期間の時期によって変わってきますので、実際、この令和５年度にはこれだけのお金のものが、実際お金が入って、実際お金を支払ったというところで、実績とはちょっと乖離が生まれるというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　最初にその答えを期待していたんですけれども。

吉田町民が、ほかの市町にふるさと納税をすると、町民税控除されることになります。それがちょっと税務課にお伺いしたところ、令和５年度は5,587万円になっていて、令和４年度に比べたら1,100万円アップ、令和元年度に比べれば3,500万円アップ、人数も増えていっています。この流れでいくとどんどん増えていく。

ふるさと納税は、どうなるのか、経費とかその辺の実入りがどういう計算になるのか、それはしなきゃいかんのですけれども、要は今後ふるさと納税を伸ばしていこうとした場合、どういうことを考えていかなければならないのかという、そのお考えはございますか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

今、議員おっしゃるとおり、いかにふるさと納税を増やしていくか、実入りのお金を増やしていくかという中では、まず、一番最初にやるのは商品を今のままマンネリ同じものを商品として、扱っているのではなくて、どう新しいものを入れていくだとか、どういうふうな工夫をしていくかというところが非常に大事になってくると思います。

そういう限られたルールの中で、どうやっていくかという中では、今、うちのほうとしましても企業回り、今、実際事業者としてふるさと納税に協力していただいている町内の事業者さん、そういうところにつきましても、令和５年度については、20回ほど打合せをさせていただいて、新しいどういう工夫ができるかとか、こういうような新しい商品ができるよとか、そういう打合せをさせていただいて、新しい商品開発にも取り組んでいるという中で、実際に今、新しい返礼品ということで、今やっている仕様を少し変えて、より皆さんに届けやすい、例えば、マグロであれば大きいもの一つよりも小分けにしたほうが、同じグラム数であっても小分けにして、返礼額を下げたほうが売れるとか、そういういろんな工夫をしながら、やっておりますけれども、そういう商品であるとか、新しい商品を付け加えるという

のでも60件ほど令和５年度の中で、いろんな工夫をしながらやっているという結果もございます。

そういうのと、あとは新規、新しくふるさと納税の事業者として入っていただける、そういう方についてもうちのほうからＰＲをしながら入っていただいて、なるべくそういうふうなふるさと納税の中で御協力を願いたいという話についても、令和５年度については３件ほど新しく新規事業者として入っていただいている業者もございます。

そういう中で、返礼サイトにあとはどうＰＲしていくかという中で、サイトを増やしたり、先ほど言った中間業者、真ん中で事務、実際の事務をやっている業者が実際は写真を撮ったり、どういうＰＲをしていったらいいというアドバイスも、その中で中間業者の方に受けているという中で、その中間業者を活性化させるために、新たにもう１者入れて、そういう中でお互いを競い合わせながら、よりＰＲをどのようにしていったらいいかというのも考えたりしながら、こういうふるさと納税をいかに利用してもらうかというところについては考えております。

あとは、先ほど言った広報などでも関係人口、そういうところでうちの吉田町をＰＲしながら、いかに広報等でもそういうことで関係人口を増やしながら、いかに吉田町に支援していただくかと吉田町の施策に支援していただくかというところについても、吉田町の施策を対外的にもＰＲしながらそういう人口も増やしていきたいという面で、今後ふるさと納税をよりいかに増やしていくかというところについても考えているというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　吉田町民がふるさと納税して、控除額に関しては、しばらくは増えると思うので実入りを増やすには、この納税額をいかに増やすかということだと思うので、今おっしゃっていたようなことをどんどん推進していただいて、しっかりと実入りを増やすということを考えていただきたいと思います。

時間過ぎているんですが、ちょっと別件、生活交通確保対策、28ページです。

この中の地域幹線系統確保費補助金、約1,000万円についてお伺いします。

これ実は昨年も質疑しました。毎年増加していて本当にこんなに増えているのかというお話ですけれども、令和元年度を基準にすると令和５年度は５倍に増えている。町内のバス停の乗降者数を説明書に記載し始めた令和２年を基準にすると、2.4倍に増えています。乗客数が減っているかというと、乗客数は令和２年度からは1.3倍に増えているわけです。

昨年の答弁では補助金増額の理由は、燃料費の高騰や人件費の確保などであり、その査定については人件費やバス賃収入などをある計算式に当てはめており、業者がむやみに経費計上しているわけではないというお答えをいただいておりますが、この赤字路線のそれぞれの赤字額というのは公表できるものですか。要は、令和元年度から令和５年度までに５倍にも赤字が増えているのかどうか、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

先ほど言った令和２年度からというところで、その前に比べると乗客は全然まだ戻ってはコロナ前ですよね、からはまだ戻ってはいないという状況ではございますけれども、今、議員おっしゃった額については、うちのほうで実際経費に幾らかかって、今、赤字路線という

のは、吉田町が関係しているのは四つ路線がございます。その路線について、経費がどのくらいかかる、その経費に対してできた路線でどのくらいの収入があるかというところの金額も全てうちのほうに出してもらっています。

それを吉田町の区間、牧之原、藤枝まで、島田まで行っているその区間の距離で按分した計算方法を用いて今、この金額というのは出しておるものですから、金額自体はうちのほうにもこういう金額で今、これだけの経費がかかって、これだけの補助金が必要ですよというところについては、うちのほうにも提出していただいておりますし、これについては国・県についても報告をさせておりますので、むやみやたらに出た数字ではないというところはありますけれども。

ただこれを公表できるかどうかということについては、少し確認してみないと分かりませんが、金額についてはうちのほうでも把握させていただいているというところでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　それは去年の段階で同じ答弁なわけですよ。要は赤字が令和元年度から令和５年度に５倍に増えているかどうか、金額を言わなくてもいいから本当に上がっているのかどうか、そこはどうですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

すみません。今、手元に５年間の全部の金額について資料を持ち合わせておりませんので、確実に５倍になっているか、今、金額がどのくらい増えているかというのは、はっきりとちょっと手元にはないんですけれども、ただ出し方、経費についての出し方、要は計算の仕方については変わっておりませんので、その５倍、うちの走っている区間も路線変更しているわけではございませんので、距離も変わっておりませんので、その金額については今、議員がおっしゃるとおりその分だけは増えているというのは確実でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　要は確認していただいて、赤字の額を出していただければ、出していただきたいというふうに考えますし、その計算式で出た額は間違いないとおっしゃるんですが、それぞれ計算式に入れる要素というのが、本当に妥当な額がそこに入っているのかどうかと、そういう検証もしっかりやった上で、この額、出た額が正しいと町は認識していますという話なのか、この額は、計算式は間違っていないでしょう。だから、この式は間違っていないと思いますと言っているのかその辺はどうですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この補助金というのは、町が単独で出している補助金ではなくて、県も補助金を出しますし、国のほうもこれの申請で出しておりますので、その国の経費の出し方、その基本の条件に基づいて出しておりますので間違いはないということで、うちのほうは認識してございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　要は、国と県がやっているので間違いはない、町は知らんという答弁なのか、町としてもしっかり押さえていますと言ってくれればそれでいいんですよ。ところが、国と県がやっているので間違いないと思いますみたいなことを言われると、「おいおい」という話になりますよということですが、そこはどうですか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

この内容につきましては、県のほうにも確認を取っていますし、うちのほうでもそういう意味ではこの金額については、間違いはないというふうに確認は取れています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

決算書の81ページ、資料の22ページになりますが、多文化共生推進事業費でお伺いをいたします。

この効果のところに住民と外国人が交流を図るイベント等の参加者数、年間で174人ということで出ております。効果のところにも吉田町国際交流協会主催のワールドフェスタを開催し、外国人住民と地域住民の相互理解や交流を図ることができたというように書いてあります。

確かに、そこに参加した人たちというのは、そういう交流ができたというようには思いますが、今、一般質問等でもいろいろ出ますけれども、外国人の方と吉田町の町民の皆さんが、生活上でトラブル等が外国人の方と出てきているという状況を考えると、私もこのイベントに何回も今まで出させてもらったりもしていますけれども、もう少し日本人もそうですし、外国人も含めて多くの方が参加していただいて、本当に交流を図るというようなものにしていく必要があると思っております。

現状では、国際交流協会の関係者がほとんどみたいな感じを私は受けているんですけれども、現状の分析としてどのように今のこういうこの事業を考えていらっしゃるのかお尋ねいたします。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

このワールドフェスタ等につきましても、その国際交流協会が中心となってやっていただいているというところでございますけれども、こういう事業をコロナ禍の間はずっと中止になっていたものが今回再開されて、コミュニケーションを図る一つのツールとしては行っているという中でございます。

やはり、そういう今、議員おっしゃるとおりコミュニティをどうしていくかというところが非常に大切になってきますので、令和６年度において分かりやすい日本語といいますか、日本語が分からない方に、いかに日本語を理解してもらうか。

そういう中に、町としてもボランティアとして支援者として、入っていって、そういう日本人と外国人の方のコミュニケーションを図りながら、日本の文化を理解していただくというところも令和６年度から日本語教室を始めて、やはりそういうコミュニティをつくっていくということを今、事業として始めているというものがありますので、そういう中でいかに

コミュニティをつくりながら広げていくかというところは、今後展開として検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

日本語を習得してもらうということの事業を今、一生懸命やっているというのは私も一般質問等で聞かせていただいております。日本語を覚えていただくのが第一段階だとしたら、日本語を覚えてもらって、そこでコミュニケーションを取ってもらうというのが、多分この国際交流協会がやってくれているイベント的なものになっていると思うんです。

そういった意味で、これだけ吉田町の人口が３万人弱で何とか維持できているというのは、外国人の方が大変入ってきているという中で、人口がそれなりに維持できているというのは、影響が大変大きいというふうに、私は思っておりまして、こういう交流イベントというのは私も必要だと思っていて大事だと思っているので、もっと参加してもらえるような中身であったり規模であったり、外国人の方、日本人もそう、というようなものに変えていく必要があるんじゃないかなというように考えておりますが、その点いかがお考えでしょうか。

○議長（大石　巌君）　企画課長、石間智三郎君。

○企画課長（石間智三郎君）　企画課です。

先ほど言った日本語教室の中でも、そういう日本の方が入っていただいて、そこで新たにまたコミュニティをつくっていくと。そうしながら、コミュニティを広げていくというのも一つの今、うちのほうで行って実施している事業がございます。

あとは国際交流協会のほうとも連携を取っておりますので、国際と言えば、国際交流協会やっている今、ワールドフェスタであるとか、夏祭りであるとか、そういうものをどういうふうにして、その方が入ってくるのにどういう規模感でやるのか、どういうふうな今度そこで新たなコミュニティをつくっていくことができるかということについては、また国際交流協会のほうとも連携をしながら、検討していきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

再開は10時45分とします。

休憩　午前１０時３６分

再開　午前１０時４６分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

出席議員は12名であります。

次に、２款総務費の２項徴税費から６項の監査委員費までの質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書66ページ、戸籍住民基本台帳事務費についてお伺いします。

住民基本台帳事務等に関することに関して、説明書の69ページに出ておりますけれども、それを見ますと自動交付機は令和５年９月に撤去し、その後、窓口とコンビニでの交付となりました。その使用状況を見ますと、自動交付機では、９月までに月平均377件の交付がありました。その交付機撤去後、交付状況は窓口が、月平均で９月までに1,933件だったのが2,075件、142件増えたんです。コンビニが、９月まで232件が521件になり、289件増加しています。

つまり、自動交付機が窓口に１、コンビニに２移ったということだと思います。その結果、窓口業務というのは増加しているということになるわけですけれども、このことについて、どのように町民課はお考えでしょうか。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

町では令和５年９月末に自動交付機の廃止と同時に、コンビニ交付の手数料を、100円減額をしまして、コンビニでの交付が増え、窓口の負担が減るように努めております。

議員がおっしゃいますように、自動交付機の廃止後、自動交付機分は１対２で窓口とコンビニへ流れたという実績でございました。町民課で交付する証明書ではコンビニ交付も含めまして、一番多いものが住民票、次が戸籍、続いて印鑑証明書の順番となっております。

コンビニの交付率が低い要因として考えられますのは、戸籍は種類も多く、一部コンビニでは取れない戸籍もあります。間違いのないように窓口で職員に聞きながら、証明書の交付を希望する方が多いのではないかと推察しております。まだコンビニでの機械の操作が苦手な方や、マイナンバーカードの暗証番号の４桁が分からなくなってしまった方というような方につきましては、コンビニ交付が100円安くても、役場窓口での申請を希望する方が多い状況となっております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　コンビニは使いにくいというのは、身につまされるところもあるんですけれども、町民課の窓口業務をいかに減らすかということは、要は町民課でどういう分担になっているか、ちょっと存じ上げませんけれども、窓口業務が減れば、その人を別の仕事に回すことができるのではないか。コンビニは100円安いわけだから、どんどんそこをＰＲして、コンビニ交付を増やしていって窓口交付を減らせば、効率化、仕事がしっかりできるようになると思うんですが、ここもお願いするしかないのかな。

要はコンビニ交付をいかに増やすか、やっぱり100円安いというのも一つの効果だと思うんです。それを広報とかどんどん知らせること、窓口でもこうですよみたいなことを一言最後に言うとか、何か工夫してコンビニ交付を増やしていただきたいと思います。その辺はどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

町民課としたしましては、コンビニ交付を増やすために、さらなる周知が必要だと感じて

おりますことから、現在、窓口での証明書交付時に証明書を入れる封筒を渡しておりますが、そこにコンビニ交付について、既に記載はしておりますが、今よりも内容をもっと分かりやすくデザインを変えて変更をする予定でおります。さらに封筒を渡すときには一言声かけをしまして、渡すような形を取りたいと思っております。

あと、町内のコンビニでの交付が、一番多いものですからポスターの掲示等も予定しております。あわせまして、コンビニでの機械の操作が苦手な方、やはりいますので、高齢者の方も含めましてコンビニ交付の利便性を分かっていただけるように、分かりやすい手順を示したカラー刷りのようなチラシを、自由に取れるようなチラシの設置も考えております。

今後も引き続きまして、窓口での対応を継続しつつ、コンビニ交付の増加に向けた取組を積極的に行いながら、住民サービスの向上に努めていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　予定外で今の答弁を聞いていて思いついたんですが、１階にテレビがありますよね。あそこにコンビニの使い方みたいなのを流せば、あの場所は間違いだと思っているんですが、背を向けてこっち見ていて、ここにテレビがあるので、あれはおかしいと思っているんだけれども、そこに流せばああこうすればできるのかというのが、理解を深めることができると思うのですがどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　町民課長、伊藤美絵君。

○町民課長（伊藤美絵君）　町民課でございます。

そこも含めまして、今、議員がおっしゃいましたように活用もあるかなと思いますので、検討していきたいと考えています。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければ、これで質疑を終結します。

次に、12款公債費についての質疑を行います。質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、13款諸支出費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書の326ページ、ふるさと吉田寄附金繰入金です。

ふるさと納税の指定寄附金というものを基金に積み立てるというふうに理解しています。現在、指定寄附金は町が作成した８つの項目を寄附者がどれにします、選択して寄附するようなシステムになっているわけですけれども、この説明書では各項目の積立額というのは、記載されていません。実際には項目に従って管理されているというふうに思うんですけれども、そういうのは今後オープンにするというようなお考えはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

議員おっしゃられるとおり、内部で管理をしているので、当然把握をしております。こち

らをここにどういう形でここに載せていくかというのは、来年どうするかは検討しながらやらせていただきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今、項目が八つある。例えば、新たな安全とにぎわいの創出に向けたシーガーデンシティ構想を選ぶ人もいると。ところが、これが延々と続くわけではないと思うんですよ。

そうすると、割と抽象的な言葉にして、選択項目が変わったとしても行き先はここというような、そういうシステムをつくっておくと、選択項目を変えたとしても入れる場所は決まっていますというような流れができると思うのですが、そういうことは考えていらっしゃいますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

確かに、柱が変われば、そのもともとあったものがどこに行くのかというところは課題になると思います。実際、町政70周年記念というのが柱で当時あった部分があって、それから残っています。そこについては、80周年とかあれば、そういうところに充てていくというようなことを考えております。それ以外の柱についても今、想定している事業等がございますので、柱を変えるのであれば、そこが分からなくならないような形では考えたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければ、これで質疑を終結します。

次に、14款予備費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書327ページです。

予備費に関して、令和５年度は約1,000万円を吉田中学校の修繕料や一般行政事務費の特別旅費など７件、充用しています。当局の中で、この予備費を充てるというのか、補正してやろうというのか、その辺の予備費を使うという充用するときに、どういう決め事みたいなのがあるのか。むやみに充てているわけではないと思っていますので、その辺の説明をお願いします。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

予備費につきましては、議員おっしゃられるとおり、むやみやたらに何かに使っているというものではございません。あくまでもまず、予算を取る場合は当初予算、あとは補正予算というのが原理原則と考えております。

ですので、予算を取るときに、まず、補正予算で対応可能であるものであれば、まず補正予算をやります。その上で、次に補正予算では間に合わないような支出のタイミングになるものにつきましては、その中で予備費ではなくて、予算の現計予算の中のもので流用をするというものをまず考えます。そこの現計予算の中で流用するものもない場合に、すぐやらな

きゃいけないというものについて予備費を使用するということで、順位づけというか考えを持っておりますので、むやみやたらというわけではなく、そういう形で進めているというものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時５９分

再開　午前１１時０１分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

出席議員は12名であります。

次に、３款民生費についての質疑を行います。

質疑はありますか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書98ページ、高齢者社会参加推進事業費についてお伺いします。

シルバー人材センターの会員数というのは、ここ数年、大きな変化がございません。世の中では、企業の定年延長が進んでいる中、なかなか人材確保というのは大変ではないかと思うんですが、何かこれに対して努力をされているというところはあるのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

シルバー人材センターの会員確保につきましては、今、議員がおっしゃったように定年延長であるだとか、そういった社会情勢の中、会員確保については、やはり努力をしていかなければいけないということで、シルバー人材センターでは、月１回の集合形式で行っていた入会説明会を個別形式に変更をしたということが一つあります。

どういうことかと言いますと、集合形式での開催の場合は、その日程まで希望者の方が待たなければいけないということや、入会希望の方が、都合が合わなくて、その説明会に参加できないということから、タイムリーに入会できないということがあったという課題があるということで、その入会希望者の方の都合に合わせた個別の説明ということを取り組んでいるというふうに聞いております。

あとは、５年度で言いますと、８月に役場庁舎のロビーで会員募集を呼びかけるための、のぼり旗を立ててブースをつくり、そこで啓発品を配布したり、10月にハートフルを会場に開催されました、ふれあい広場のブースでも、会員募集の呼びかけを行ったりしているという状況になります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　次の質問にもつなげたい気持ちがあって聞くんですが、このシルバー人材に登録された方というのは、どういう動機というか目的というか、シルバー人材に登録しよう、どういう気持ちで何かがあって登録されたと思うのですが、その辺は調べているのか、調べていないのか、その辺はどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

統計を取って調べているということではございませんが、シルバー人材センターの入会の説明会や、就業意向を聞く場面で聞き取っている内容からすると、高い収入を求めるというよりは体力、時間ともに自分に合った状況で、無理をせず働きたい。それから、働けるうちには少しでも働いて、収入を得たいといった考えを持たれる方が多いというふうには聞いております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　これは去年聞いた話ですが、さわやかクラブというのは、どんどん減っていっていると。令和元年度から令和５年度まで300人減って約30％減っているわけです。このことは昨年もお伺いしまして、そのときに会員を増やしたいという気持ちを、さわやかクラブ自体は持っていると。

そのあたり町としても、どのように協力できるかを検討していきたいというふうに答弁されているわけですけれども、令和５年度は、また80人減っているわけです。それに対して町は具体的にどういうことをアプローチというか、アクションされたのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

さわやかクラブの会員数の減少ということにつきましては、さわやかクラブ連合会の事務局である社会福祉協議会も会員数獲得という会員数を増加させるために、支援を行っている状況にあります。

社会福祉協議会ではさわやかクラブの会員数減といいますか、役員の成り手がいないというところに課題を持っておりまして、役員がやらなければいけない事務処理であるだとか、いろいろな申請書類、そういった書類作成等の事務処理の援助をしている。そうしたことで、さわやかクラブを存続させるというようなところで、支援をしているという社会福祉協議会の動き自体もございますが、福祉課としましては、福祉課が作成をしております、地域の支え合い活動応援ブックという内容は通いの場であるとか、ボランティア活動などの情報を紹介しながら、社会参加や地域活動への参加を促進するためのパンフレットを作成しておりますが、令和５年度に作成したパンフレットの中に、４ページを使いまして「地域のさわやかクラブに参加してみませんか」というタイトルの下、活動の魅力を伝えることであるだとか、加入に関する啓発記事を掲載しております。

そのパンフレット自体は、福祉課の窓口、それから社協、地域包括支援センター、さわやかクラブに配布をして、そういった加入に関する活動に、現在、使っていただいている状況にあります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　シルバー人材センターで登録動機は、体が動くうちにしっかりと動かしたい、ある面、社会貢献みたいなものもあると思うのですが、それをやることによって、幾ばくかの収入が得られるというふうに考えると、今、さわやかクラブの役員が報酬を得ているかどうか知りませんけれども、配っても大した額にはならないと思うんだけれども、その体が動くうちに、さわやかクラブの役員というのをやって、そういう面での別の面での社会貢献みたいなのはできませんかというようなことは、お話、ＰＲすることはできないものでしょうか。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

さわやかクラブの各会員クラブの役員さん、それから、連合会の理事の方々、それぞれやりがいを持って、生きがいというところで活動をしてくださっている方も、たくさんいらっしゃいます。

そういう中で、さわやかクラブの活動の中で役員さんもそうですけれども、クラブの会員の方々が、全体的にそういった生きがいづくりや、そこに出かけていって、みんなと活動をする、地域のつながりを持つ、そういったあたりのさわやかクラブの活動の利点といいますか、魅力については、町としては先ほど説明いたしましたガイドブックのところにも、載せさせていただいておりますが、まだそういった活動を紹介しながら、さわやかクラブ加入に対しての啓発等はできる方法もあるのかもしれませんので、そこにつきましては、事務局である社会福祉協議会と連携を図りながら、できることはやっていくというふうにしていきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

説明書の120ページ、子ども医療費助成事業について、お伺いいたします。

取組内容実績効果のところを見ますと、現物給付が６万4,796件で償還払いが242件となっております。これ４年度と比べますと、まず、現物払いがボンと増えている。償還払いのほうは逆に減っている。これについて、担当課としてどういったことで、こういう現象が起きているのかというところは見ているのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

今、子ども医療費についての御質問になりますが、子ども医療費につきましては、そもそも受給者証を持って、受診をしていただいております。受給者証を持って、受診できるところにつきましては、現物給付になりますが、県外での受診ですとか、この受給者証をお忘れになった場合については、償還払いという手続になりますので、この増減で病名についてどうのこうのというわけではなく、どのような形で受診をしたかということになりますので、増減についての比較というのは、こちらでは行っていないところになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　忘れちゃったらそれできないから、後から償還払い、了解です。

そうした中で、今まではコロナがあったりなんなりで、かかる回数も多かったり、逆に少なかったりというのもあったかもしれない。そうした中で４年度と比べて現物給付、中高生が非常に増えているんですよ、４年度と比べて。俗にいうコンビニ受診について、非常に簡単にそんなに大した病気じゃないのにかかっちゃうような、医者にね。一時問題になったりしたんですが、当町において、このコンビニ受診に関しては、何か把握されているところがあるのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

コンビニ受診という言葉が、受給者証が発行された頃から話があったものになりますが、うちのところでレセプトを一つずつめくることができないので、病名ですとかそういったところは、確認は取れておりません。

多受診といって同じ病気を幾つものところでかかる方、例えば風邪を引いたのに、１軒目、２軒目、３軒目も同じところにかかった方というのもあるかもしれないのですが、そちらについてもこちらで把握できません。

理由も分かりませんので、ちょっと１軒目で自分が思った診断が出ないときに、２軒目に行く方もあるかもしれませんが、私たちがこの受給者証を発行しているのに、お願いしたいことは、受診控えをしないでできるだけ早目に受診をしていただいて、早目に体力を回復していただきたいということになりますので、早期受診をして自分の納得がいく治療をしていただいて、早くに病気を楽にしていただきたい、早く治療をしていただきたいといったところになりますので、レセプトを拾うこともできませんので、理由のところは分かりませんが、この受給者証を発行につきましては、早期受診、早期治療ということでお願いしているところです。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　コンビニ受診という言葉はどうか分からないのですが、調べたところ、乳幼児に関しては、お医者さん、ドクターのほうも本当に軽症というか、ほんのちょっとのことでも、病院に来てもらったほうがいいという見方が非常に大きいみたいです。

でも、中高生あたりになってくると、ある程度体力もついてくる中で、コンビニ的というか本当に軽いところで来ちゃうというのはやっぱり、ちょっと控えてもらいたいやみたいなのが、ドクターの言葉で結構出ているんですよね。

そう思うと、レセプトを見ていないから、分からないというのはしようがないのでしょうけれども、そういったところに関して、注意喚起といったらおかしいですが、先ほどの課長の言い分だと、とにかく何かあったら行ってくれという意味が強いのは、やっぱり医療費がどんどん上がっていくというのも、大変なことだと思います。

それだけ子供もどんどん増えていって、それなりに増えていくならいいんだけれども、子供の数が減っていくのに、受診料だけは増えていくというのは、何かしらあるのかなと思うので、そこのところのチェックというかＰＲができないものかなと思うんですが、その点いかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

議員おっしゃるように、コンビニ受診の数が増えると、ただでさえ少ないドクターが疲弊

をしてしまうというところもあると思います。一つには、時間外の受診につきましては、受給者証は使えないことになりますので、何でもかんでも夜でも何でも行ってしまおうというところは、受給者証の適用外になってきますので、そこのところはコンビニ受診、少しは控えられるのかなと思います。

そういったことも含めた周知につきまして、１年に一度受給者証を発行し直しておりますので、これからまた発行する時期になりますが、その中に適正受診といったチラシを入れさせていただいて、周知のほう努めているところですので、またさらにそちらをお配りしながら周知を深めていきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

決算書の129ページ、資料の92ページになりますが、老人福祉対策費の件でお伺いをいたします。

こちらの説明書の効果の部分で、この４番の入門的研修事業の中に、この間、全協でもちょっとお聞きしたんですけれども、参加者が９人いて就労には至らなかったと、ゼロ人であったというように、この間お聞きしました。

この就労に至らなかった方々のどんな理由があるのか、そこら辺をちょっと教えていただきたいのですが。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

介護の入門的研修の令和５年度の就労への、つながったかどうかというところにつきましては、全員協議会でお答えしましたように、就労につながった方はいなかったという状況でございますが、５年度の状況につきましては、研修が始まる前、始まる頃のアンケートでは、やはり就労の希望があるという方が何人かいらっしゃいましたが、研修を進めていく中で、御家族の中で状態が変わったりだとか、御家族の中で就労につながるまでの状況が変わったりというような理由で、就労のマッチングといいますか、そこに至らなかったというふうに聞いております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

今のお答えですと、研修中に家族の大きな変化があったということですけれども、一応参加者が９人いらっしゃって、それが全員就労には至らなかったということですと、ほかにもいろんな理由がそれぞれにあると思うんですけれども、そういうそこの理由に対して、フォローなり何かできることは、最善を尽くしていただいているというふうに思っているんですけれども、そこの対策に対しては、どういうような取組をされているのか、お聞かせください。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

この入門的研修につきましては、マッチングまで行うということで、業務委託をしておりますので、研修終了後も期間をかけて、その契約終了までといいますか、そこまでの業務期

間中にマッチングを行っていただくことになりますので、御家庭の状況であるだとか、そういうものを聞き取りながら、サービス事業所のどういった就業形態であるだとか、そういったところを丁寧に聞き取りながら、マッチングを進めているところになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　せっかく、こういった研修を受けていただいて、そもそも意欲もあるので、こういったことに、こういう研修を受けられていると思うので、いろいろな事情があるとはいえ、極力、そこから就労につなげていただくことが、基本だと思いますし、それを私どもも望むところでありますので、そこら辺のフォロー等を充実させていただいて、そういったやれることは長期にわたって継続してやっていただく必要があるのかなと、これで研修が終わっちゃうとそれでもう全くブチッと切れちゃうというようなこともないほうがいいのかなという、現実的にそれができるかどうか分かりませんけれども、そこら辺どのような対応をされているのかというのをまず、お聞きいたしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

この研修につきましては、先ほど説明しましたように、期間中にマッチングまでつなげるということで、毎年度行っているもので、その期間が終われば、やはりその後のフォローというものは、個人個人にお任せしてしまうというか、そういう状況でございます。

意欲があって、その研修に参加をしていただいて、その知識を得ていただいたということで、その知識を御家族の介護に充てられる方もいらっしゃいますでしょうし、その後、家庭の事情がまた変わった場合には、意欲を持ってまた就労につなげていただけるように、閉校式というか、終わる段階のときには、そういったお話をさせていただいているところになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

説明書の136ページです。

地域子育て支援拠点事業費のところになります。

全協のほうでもお聞きしました、こちらお譲り会です。令和５年度は新しい試みだったというふうに聞きまして、55名の方が参加されたと聞いております。

この子育て支援センターの利用人数のほう、こちらのほう年間で7,864人利用されているということで、本当に人気がある子育て支援拠点だなというふうに理解しております。

そういった中で、この55人の方が参加してくれたということが、いい方向性だと思うんですけれども、今後、もう少し町内の方はもちろんですけれども、町外、また母子手帳をもらったような方にも広げていただいて、この場所で関わる子供の年齢というのは限られているものですから、そういった方にも、いろいろと紹介というか、周知をしていただけたら、もっと広がるんじゃないかと思うんですけれども、町のほうはどのように考えていますか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

こちら地域子育て支援事業、子育て支援拠点事業費ですが、支援センターになりますが、皆さんがそれこそ町内の方はもちろんですが、町外の方も多く最近また利用していただいております。建物ができた当初は、まだ周知が足らなかったと思うのですが、最近では、前まで来ていたよという方で、また２人目産まれましたということで、寄ってくださる方も増えました。

その中でも、皆さん、中のスタッフが工夫したところですが、移動支援センターという形で、支援センターの外に出ていって周知を図ろうという活動をしてくださっております。

最近では、住吉会館の２階の和室で移動支援センターを行いまして、なぜそこで行うかといいますと、保健センターで赤ちゃん健康相談といった小さなお子さんが来る健康相談の場がありますので、そちらのときを使いながら、２階でこういうことをやっていますよということの周知をして、２階に来てもらって本拠点は、すみれ保育園のところに支援センターがありますよとか、またほかの移動支援センターもやっていますよという御案内もさせてもらいながら、支援センターはどういうものかということも、周知をさせていただいているところです。

また、事業の組立てにつきましても、スタッフのほうで検討をいろいろしてくださっておりまして、「みんなおいで」という毎月１回やるような事業を展開しております。どんな人でもいいよ、来てくださいという形で事業を始めましたところ、最近そこのところで人が増えてきて、またほかの日でも参加して、御利用いただけているような状況になっておりますので、皆さんの意見を聞きながら、どんなふうに事業を進めたら利用者が増えるかなとか、相談者が増えるかなといったところも、検討しながら実施しているところです。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

いろいろとこちらの拠点のところを皆さんに、周知していただくような活動をされているのは認識したんですけれども、利用し始めれば、多分回数は増えてくると思うのですが、そこを知るまでの前段階ですね、妊娠されている方とか、そういった方もいろいろと不安も多いかなというふうに考えるところであります。

そういった方も気軽に相談できるような窓口が、ほかにもあるのかもしれませんけれども、長い目で関われるように、そういった方にも関われるように、何かまた新しい取組を考えていただけたらというところでありますが、どうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

議員おっしゃるように、初めての方でも相談に来られたり、気軽に寄ったりしていただけるような施設にしていきたいと考えておりますので、そういった工夫をさらにしていきたいと思います。

例えば、今やっているところですが、保健センターと支援センターがつながるようなことができるようにしていただいております。

というのも保健センターで、少し気になるお子さんが通い始めるチューリップルームというものを開始し始めているのですが、そういったところにも支援センターの職員が関わっておりまして、保健センターの方が、職員たちが、まずは支援センターを知っていただけることで、保健センターの職員から支援センターの紹介をしていただけるというような流れにな

っているところです。

保健センターの職員にも、支援センターの様子を見に来てという形で、どんなことをやっているよといったものも見ていただいております。

そのほかに、支援センターだよりといったものを毎月発行させていただいております。役場や保健センター、自治会のほうにも配架させていただいているのですが、そのほかに許可が得られたスーパーなどにも配架させていただいております。

そのほかに、ホームページですとか、毎月ＬＩＮＥのほうにも掲示をさせていただいて、こんな活動をしていますよということとか、相談も受けられますよといった内容のことも、載せさせていただいているところですので、さらに皆さんが目に留まるようにまた、皆さん支援センターが使えるように、検討していきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

いろいろと考えていただけるということは認識した中ではあるのですが、子育てしている中で、子供さんもいろいろなお子さんがいらっしゃるかなという中、支援センターのところに関わる職員さんの知識や技術、そういったものはすごく求められるかなと思うんですけれども、そういったところはどのように工夫されておりますか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

５年度の決算のほうにものってはいるのですが、研修のほうが県で毎年行われますので、職員の入れ替わりもございますが、みんなで受講ができるように、１年に１人ずつ地域子育て支援拠点研修といったものがございますので、そちらを受けていただくように、技術のほうを向上して、研修に行った方がまた持ち帰って、センターで説明しながら、こういった資料をもらいましたよということで、紹介させていただいております。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

研修のほうもされているということでお聞きしています。

発達支援で悩まれている保護者の方も、こちらのほうを利用される方からのお話も聞いてはいるんですが、なかなか支援員の方に御自身の悩みを理解していただけないケースもあるような話も聞いたものですから、その研修で、そういった知識を増やしていただいているとは思うんですけれども、さらに特化した形でもっと専門的な職員さんを、そこの場所に配置することによって、さらにここの支援拠点、子育て支援センターのほうを利用される方にも幅広く、安心して利用できるようなものにつながると思うんですけれども、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

今、支援センターに勤務しております職員は、保育士の資格を持った方たちに勤務していただいております。同じ建物の中に発達支援事業所「すみれ」もございますので、そことも連携を強めていただいております。相談内容も発達支援だけには限らないものですから、もし発達支援のことで悩んでいるお子さんがいらっしゃる場合につきましては、すぐそこなので１回見学に行きますかというような形で、御案内をしたケースもございます。

行くまでもちょっとという場合につきましては、発達支援事業所の職員に支援センターのほうに来てもらって、また話をするといった機会も設けていますので、内容によりまして、どこに相談をもう一回かけたらいいかといった情報提供ができるように、支援センターの職員が発達支援事業所に相談するほうがいいのか、保健センターに相談するのがいいのか、保育園に相談するほうがいいのかといったところなども、同じ課内の職員になりますので、情報共有をしながら利用者さんに情報を提供しているような状況です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　すみません、最後にお願いです。

いろいろと連携を取りながら、情報共有をしながら対応されているというふうに確認はしたところではありますけれども、やっぱりいろいろなケースが出てくると思いますので、そういった意味も含め、現状維持に満足するのではなくて、さらに、どういったケースでも対応できるような、そういった心強い支援センターにしていただくように取組をお願いしたいと思います。答弁は大丈夫です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　保育園事業についてです。

保育園事業で、令和５年度のニューといえば、さくら保育園、さくら保育園運営費は、説明書129ページです。さくら保育園で始めた給食調理委託だと思います。

令和６年からは、さゆり保育園でも始めたということで、大きな問題はなかったでしょうけれども、１年間さくら保育園でやってみて、課題というものが見えてきたのか。見えたとすれば、それを令和６年度のさゆりで、どういう対応を図っているのかというようなことがあれば、説明いただきたいと思うのですが、いかがでしょうか。

○議長（大石　巌君）　こども未来課長、杉田香織君。

○こども未来課長（杉田香織君）　こども未来課でございます。

議員おっしゃるように、令和５年度から、さくら保育園で給食の調理業務委託のほうを行っております。

効果としまして、よい点のほうが私としては目についたので、まずはよい点のほうから、説明させていただきます。

もちろん、委託になりましたので、調理員の配置のほうはきっちりしていただきまして、欠員なく人材が確保されて安定した給食の供給ができたところです。ほかにも人材管理の部分でも、私たちは町で人を募集していましたところの負担の軽減、私たち事務職についても負担の軽減がされたところ、そこで採用した方たちに、教育のほうも委託のほうでしていただいているので、そこも安心していたところです。

そのほかに、一番私たちが安心したところですが、手づくり給食新メニューのほうを提供していただきました。この委託の方が入ったことで、もともとの直営で行っている調理員の方たちも、新メニューを考えましょうということで、メニューを考えていただいて、12品の給食の定番メニューができたことと、14品につきましては、行事用のメニューができたということで、委託の直営の調理員さんで、こども未来課におります管理栄養士と試作や検討をして、メニューの開発もできてお互いの会話も増えたというようなことになります。

あと民間の手法を取り入れたことで、調理業務の効率化が図られました。固定観念から、

今まで長く調理員さんをされていた方たちも、一歩離れた状況で、そういう調理方法もあるかといったような調理方法の検討ができたりですとか、食材の発注方法なども変わったりしたことで、業務の改善が図られたと考えております。

そのほかに、一番うれしいところですが、給食室の調理員の先生たちが食育を推進する動きが生まれてきました。先ほどの手づくりメニューについてもそうですが、旬の食材を取り入れて新しいメニューを開発して、教室を巡回しながら、これはこういった旬の食事だよというところも紹介していただいております。

あと今年からは、お味見当番といった年長さんに給食室に来ていただいて、この食材の中には何が隠れているかなといった食材について、興味を持っていただくような食育の推進が図られ始めたところです。

議員おっしゃるように課題はどうだったんだろうと言われたところですが、今、委託の方が入っていただいたことで、少し新しい風が入り給食室に、もともといた調理員の方につきましても、そういう方法もあるんだという形で、少し目からうろこの部分と、ちょっとやりがいを持ってやっていただけているところもありますので、今、課題がすぐにというところよりも、新しく前に進んできたというところが、委託が入ってよかったなというところになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

決算書の129ページ、資料の94ページの敬老事業費についてお伺いをいたします。

これの敬老の方々に記念品等を送ったり写真を撮ったりされております。その効果の部分で、町の発展のため長年にわたり、御尽力いただいた高齢者の皆様の長寿を祝うとともに、高齢者自身の生活の質の向上を図ることができたということでございまして、この最後のところの高齢者自身の生活の質の向上を図ることができたというのは、具体的にどういったことを指していらっしゃるのか、説明してください。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

敬老事業につきましては、全員協議会の内容確認のところでも御質問をいただきまして、敬老事業ということで、町が長寿をお祝いするということによりまして、御本人の地域とのつながりを実感していただくということで、まず、生活に張りが持てて、またこれから１年頑張ろう、そういった形の生活の意欲につながることができるということで、記載をさせていただいております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　気持ちは分かるんですけれども、私はこの敬老の事業に異論は全くありません。吉田町のために尽くしてくださってきた皆さん方の、特に高齢の皆さんの長寿を祝うという意味のことには、全く異論はないんですけれども、そこの効果の部分の最後のところが、これくっつけなきゃいけないことなのかなというのが、ちょっと思っておりまして、生活の質の向上を図るということまで考えると、なかなか難しいのかなと。

生活はさっきお話があったように、生活の意欲を持ってもらうためにという部分ぐらいだったら分かるんですけれども、質の向上、お祝いをすることだけで質の向上が図られるというのは、効果としてはちょっと無理がないかなという気がしております。

これあれですかね。例えば、町の発展のため長年にわたり、御尽力いただいた高齢者の皆様の長寿を祝うことができたという効果の書き方だと、何か支障があったりする理由が何か特にあるのかなと思ったんですけれども、そういうことはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　福祉課長、増田稔生子君。

○福祉課長（増田稔生子君）　福祉課でございます。

御意見ありがとうございます。

この記載につきましては、今後また検討していきたいと考えます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１１時４２分

再開　午前１１時４４分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

出席議員は12名であります。

次に、４款衛生費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

説明書の148ページ、感染症予防費のページですけれども、町は様々なワクチンをやっておりますが、説明書の150ページです。帯状疱疹予防接種助成事業というところを、ちょっとお聞きしたいと思います。

令和５年の当初で、新しく始めるということで、町長の思いもあってこういう助成になったということを前副町長がお話をされて、その結果、今回の決算を見させていただいたのですが、私としてはこの結果を見て、すごく非常に町民の方も関心が高いんだなと思いました。

この周知に関して、もちろん「広報よしだ」にも載せたとは思うんですけれども、それ以外にされた周知方法というのは、何かあったんですか。

○議長（大石　巌君）　健康づくり課長、門田万里子君。

○健康づくり課長（門田万里子君）　健康づくり課でございます。

帯状疱疹の周知方法につきましては、今、議員がおっしゃったように、「広報よしだ」に年度初めの４月に掲載をしております。それ以外にですが、医療機関にチラシを掲示していただいております。

あと、これも４月になりますが、毎年４月に広報紙の配布と同時に、各種健診や予防接種などを掲載した、健康ガイドというパンフレットのような冊子になったカラーのものになりますが、そちらを全戸配布している。そちらにも掲載をしているということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

広報の仕方が、いろんな方に伝わるようにということで、医療機関にもチラシを送ったということですので、それもあって、より伝わって病院にかかっている人は伝わって見つけたのだと思いますけれども、今回、私としては数字を見て、すごいなと思って、町民の皆さんは健康意識がすごく高いなというふうに思っておりました。その結果が今回出ていると思いますけれども、この結果を踏まえて町としては、どのようにお考えになっているのか、今後この事業をどうしたいというのか、そこをお聞きしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　健康づくり課長、門田万里子君。

○健康づくり課長（門田万里子君）　健康づくり課でございます。

令和５年度の帯状疱疹の予防接種につきましては、当初予定をしていたもので考えますと、当初予算のときの想定時と比べますと、約54％が受けていただいております。

これが高いか低いかということもありますけれども、直接町民の皆さんの声を聞くということはないんですけれども、令和６年度、今年度も５年度と同様に助成事業を行っておりますし、皆さんの経済的な負担の緩和もできていますし、受けやすい環境をつくっていると思っております。

それを踏まえて今後につきましても、帯状疱疹につきましては、町長のマニフェストにもある内容になりますので、今後も当課としては続けていきたい。ただ、帯状疱疹の予防接種については、国が定期接種化を検討しているワクチンの中の一つでもありますので、今後の国の状況なども踏まえながら、検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　12番、蒔田昌代君。

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

この助成事業が始まったときに、早速私のほうにも問合せがあって、これはどういうことだということで、町民の方から問合せがあって、これはこういうことですよと説明をさせていただきました。

あれから、１年がたったんですけれども、私の周りにも帯状疱疹になって、病院にかかってくるとか、薬をもらったという方がまだ多く見られますので、この事業は助成額としても他の市町とは比べものにならないと言ったら失礼ですけれども、絶対自信を持ってやれる助成額なので、ぜひとも町にも頑張っていただいて、帯状疱疹のワクチンを打つことで病気にならない、帯状疱疹にならないようにするための、町民の福祉のために頑張っていただきたいと思います。

以上です。答弁はよろしいです。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　158、159です。生活排水改善対策事業。

技術的なことは一切問いません。要するに技術的な話は要りません。

まずここに表がありますけれども、この中で常にこういういろいろ見ていくと、いろいろ何が、我々が仕事をやりましたよと、ここに出ている改善を図ることができた。いろいろあるほとんどがこういう表現をしているんです。自分たちがやったよという表現をしたいのか。

ただ、実際的には水道とかそういうのに関しては、町は水を全面的にきれいにするため、本当は100％、95％という数字いただいたんですけれども、そのときに、数字的な目的と目的に対してどのくらいできたよというものを書いていただけると、非常に具体的に分かりやすいと。確かにそういう形でやっているんだなと。そうして、連続が出ていくと、毎年毎年の比較ができてくるものですから、その結果的に町の仕事がスムーズに、全般的ですけれども、そういう形でぜひ一つ上げましたけれども、そういう形の表現というものはできないものですか。

○議長（大石　巖君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

同じページの右上に、この実施計画の目的意図も合併処理浄化槽の設置を推進し、生活排水による公共用水域の水質汚濁を防止するということが書いてございます。

この目的意図に対して、取り組んだ結果として、その効果がどうだったのかというのを端的かつ明確に表したものが、議員御指摘の文章でございます。

数はということでございますが、その数は次のページ、159ページに詳細にわたってお示しをしてございます。

以上です。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の返事でやるんだったら書く必要ないです。数字見れば分かりますからね。そういう意味で言ってもいいのかな、分かってもらえるかどうか。ちょっといいんですけれども、そういう表現、いろいろここだけではなくて見ていくと、何々ができた、支給することができた、ここにも書いてあります。たまたま出したときに子育ての乳製品も全部、効果として書いてあるんですけれども、そういうものを具体的な数字というか、それが見える形で、表現することはできませんでしょうかということです。全体的な話ですので、そこでも構いませんけれども、ごめん、技術的な話は一切言わないから。

○議長（大石　巖君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

予算、お認めいただいた予算は、当初予算額に示してございます。決算額もこの中に示してございます。その決算額に対しての詳細が、159ページに基数でもって示してございますので、これで十分足りると思っております。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　私が言いたいことは、いろいろ図ることができた。これだけではないですよ。全体的な話で、いろいろ図ることができた。でも実際にはまだまだ途中ですよということを、この中に表現ができる。そういう表現のほうが私はこの報告書としては資料としてはいいんじゃないかなという、見やすいかな、比較できますよということを感じるものですから、そういう表現をしていただきたいと。ここだけでなくて全体そうなの、全部がそうなの。そういう感じでお願いしたいと思うんですけれども、その辺はどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　上下水道課長、内田宏一君。

○上下水道課長（内田宏一君）　上下水道課でございます。

ほかの事業については、ちょっとお答えできませんけれども、例えば、議員がおっしゃる年度で進捗どうなんだというようなことが、総合計画の中で、この浄化槽については浄化槽人口普及率というのを第５期、第６期とも分野の主な成果指標に掲げておりまして、毎年、進捗管理報告書の中でお示ししてございます。

ここは、単年度の決算でございますので、お認めいただいた予算で、決算が幾ら、その成果が幾ら、単年度のことをここに示すということだと思っています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　否定をすることは要らないです。否定じゃなくて否定はしないと、そういう表現はどうですかということです。理事どうですか。例えば、そういう物事が進んでいくときに、やることほとんどができた、進めることができた。でもできたという中では全部、途中計画ですよね。途中計画の話でしょ、そういった計画の中での。そのときにこの話ではなくて、全体の中で予定の中で、目的はこういう目的であるけれど、ここまで進んでいますよと。それがやっぱり町の人たちに分かるような表現でやれば、もっと分かりやすい。具体的な資料として出るんじゃないかと思って、常々思っているんですけれども、どうですか。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

山内議員が言われているのは、恐らく、計画、いわゆる短期的、単年度ではなくて数年間のということの中で、今、どの辺を進んでいるのだということを言われているかと思います。

ただ、その件につきましては、総合計画の中での評価ということになりますので、今回、ここは予算のところになります。ですので、先ほど上下水道課長が申し上げましたとおり、単年度の予算に対しての決算になりますので、ここの表記というのは、こういった形で単年度の予算に対しての決算で評価をするということになっております。

この件については、当町はＰＤＣＡサイクルの中で、町づくりステップアップ行政評価シートということで行っている中で、この主要施策の書式がこういう形でいいのかということで、これまで来て数年間来ている中で培ってきたものだというふうに思っております。改善も重ねながらきているものでございますので、まずはこの主要施策については、この表現でよろしいかというふうに思っております。

ただ、今議員が言われたものについては、総合計画の進捗の中で、評価のほう、また、この予算ではない別のところの評価のところになってくるかと思いますので、そちらのほうで御判断をいただければというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　全体で否定するのであれば、それはそれでいいんですけれども、ぜひここまで進めることができたというものが分かれば、誰かが見たときに町の中での進捗状況が見えますよと。「できた」とやっちゃうともう終わりですよ、表現的にね。それを言っているんです。それを言いたいんです。そういうものができればこの資料として見方が、見て

いる見方が違ってくると思うんです。相当頑張っているなとか、まだ遅れているなとか、その評価を我々がするのではなく、町の人たちができるような状況がここにできれば、ベターであるかなという思いでいますので、またぜひ検討のほうをしていただきたいと思うんですけれどもどうでしょうか。検討していただけますか。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　議員が今、言われているのは総合計画の４年間の今現在も、指標をもとに成果指標で基準年から目標年度を立ててやっていますので、その中での評価という形のことを今、言われていると思います。

あくまでも、この決算については、その年度、先ほどのことを言えば、生活排水のところで、このときは何基を補助するんだという目標を立てて、単年度の計画を立てて、それが今回決算でできたというその１年間の言っているということですので、そこはちょっと御理解いただきたいと思います。

また、今、決算以外のその成果というのは、また別の、この決算ではなくて、別のところでの総合計画の評価のところで、そこは出てくるというものだと思っております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに、８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　検討の余地はないということですね。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

この主要施策のところについては、この表記が私たちは適切であるというふうに考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　地球温暖化防止対策、160ページです。

この効果に、環境負荷の少ないクリーンエネルギーを利用した、住宅用新エネルギー機器等の設置を推進し、二酸化炭素排出量の削減に努めたとあります。

この補助金は、充電と太陽光、その両方を設置するときに出る。予算が50万円で40万円、でも前々から言っているんだけれども、別々にしませんかと。要するに同時に設置しなければならないから、件数は減る。太陽光であり蓄電池であり、そっちを別々にすれば、補助金は高くなるけれども、吉田町の効果としては上がっていくというふうに考えていて、この財源内訳を見ると一般財源で全部やって、先ほどの生活排水とは異なって、やれるじゃないですか、やろうと思えば、どうでしょう。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

こちらの地球温暖化防止対策事業で補助金、太陽光システムの補助金につきましては、令和２年度から一体で設置をした際に、10万円の補助金を出すというものでございます。

実績としましては、例年50万円程度の予算を確保する中で、令和３年度が３件、令和４年度が４件、令和５年度が５件という数字になっております。実際、太陽光と蓄電池を設置する御家庭が、どのぐらいあるかというところは、ちょっと分かりかねる部分でありますが、

件数としては申請が少ない状況となっています。

そういう中で、家庭から出るＣＯ$_2$削減というのは、電気会社から買うというよりも、そのお宅で発電をして、それを備蓄して、電気会社から買わずに、ということになると、ＣＯ$_2$削減にはかなりの効果があるというものでございますので、その別で、例えば太陽光は太陽光、蓄電池は蓄電池というのを考えた場合に、今、太陽光だけで設置をされた方が400件程度ございます。その中でその方たちが蓄電池を、設置をしたいと言ったときに、そのお宅で出るＣＯ$_2$削減には効果があるということも考えられますので、今後、検討を別々にというのは検討できればというのは考えています。

ただ、今の時点で近隣の状況を見ながらもありますが、そういったところで加味しながら、検討してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

説明書の162ページになります。

環境保全費になります。効果のところの最後ですね。不法投棄物が微増であったということになっております。

昨年度は不法投棄の回収率ゼロ、ここ令和元年からの経緯を見ますと、１年おきに、こういうふうな数字が出てきて、１年置きにゼロの状態という、ゼロという数字が出てゼロというような状態が続いているわけですけれども、何かこちらの担当課のほうで試みたことが、いい結果になってそのままゼロで続かない、そういうのがあるのか、それとも何か試みをしたけれども、なかなかそれがうまく継続されない、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

それこそ、不法投棄につきましては、いたちごっこではないですが、なくなることはないのです。実際不法投棄が起こって、設置ができる場所につきましては、不法投棄禁止の看板を設置したりしています。

また、草刈り等をなるべくやって不法投棄がしにくいような状況をなるべくつくり出す中で、削減というふうに考えておりますが、実際、草が生えてくるとごみが捨てられるというような状況がございまして、そういったところをなるべくなくすようにしていますけれども、実際なくならないというような状況は続いております。感覚的には、そんな状況です。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

毎年、いつも常に気にしながら、そういった環境を整備していかなければいけないというのは理解したところであります。河川とかでしたら、ある程度不法投棄があったとしても、そんなに支障はないんですけれども、例えば道路のところにそういった不法投棄があったりすると、極端な話、日中でしたら目につくので、よけて通ることはできるのですが、夜間時にそういったものが不法投棄されたりとかするケースも今まであったわけですが、そういったところにそういった不法投棄をしないでねという看板とかも設置をしたりとかして、大分

そういうケースが少なくはなってはいるんですけれども、こちらの担当課のほうで定期的なパトロールとかそういったものも試みてはいるんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

県の中でも年間を通して数回ではございますが、不法投棄パトロールを実施しております。また、都市環境課のほうで公害の関係も併せて、公害の関係と不法投棄の関係を併せて、パトロールを実施しております。ただ、不定期ではありますが、月に１回か２回程度ということで、パトロールはさせていただいています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　パトロールのほうは続けてお願いしたいところです。

あとは不法投棄の関係でこちらを見ると、家電の対象物であったりとかするケースがございます。なかなか日本人の方でしたら、町から配布されているごみのカレンダー等を確認しながら、どちらに捨てればいいか、どうすればいいか、ということは把握できているかと思うんですけれども、やはり吉田町は企業も多いですし、外国籍の方も多く関わっているかなと思う中、そういった方にも周知されるようなごみ収集のカレンダーのほう、いろんな国の言語を使ったカレンダーを作ってはおりますけれども、もっとそういった方にも周知していただけるように、その不法投棄の看板のところに何か併せて、ＱＲコードで示せるようなものをつけるとか、ごみのこういったものはこういうところに捨てるんですよとか。

あとはそれぞれの隣組にカレンダーを表示してある組もあったりなかったりする中で、例えば隣組ではない方が何か収集できないようなものを置いていかれるというような、迷惑なことをされるような方もいらっしゃるので、日本人、外国籍とは問わないですけれども、そういった方にももっとごみの回収、ごみの分別、そういったものを理解してもらえるような、何か町のほうで試みというか施策というか、そういったものは考えられていますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

ごみカレンダーにつきましては、日本語以外に４か国語を出させていただいていまして、必要であればそういったものを配布させていただいています。

それ以外にも、インターネットにつなげるような形ではありますが、インターネットを確認していただく中で、そういったものを見られるような状態にはなっております。

それ以外の施策というとなかなかちょっと今、浮かんではこない状況ではございますが、ごみステーションにそういった苦情があった場合につきましては、日本語以外の表記でも不法投棄禁止というようなラミネート加工をさせていただいた看板を配布したりですとか、そういったお話が組長さん等から、もしあったりした場合については、そういったものを配布させていただいて、そのステーションにつけていただいて、というような対応をさせていただいています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

説明書の155、156、主に156ページの効果の二つ目です。

飼い主のいない猫について、不妊去勢等手術を行うことで、繁殖を制限したが、公共の場所で発生する死亡件数は微増した。

死亡件数とこの資料と、どう因果関係があって、こういうことを書かれたのかな。結果として、その前のページに避妊の数とか去勢の数というのが出ています。死亡の処理の数が出ている。

この効果のところでこういうことを書かれると、何か因果関係があるのかなと思っちゃうんですが、何かあってわざと出したのでしょうか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

実際、飼い主のいない猫につきましては、全数というのは把握できない状況にあります。そういった中で、この不妊去勢手術の効果を考えた場合に、小動物の死体回収を委託であったり、職員が行ったりということでやらせていただいておりますが、その猫の件数が平成30年には、今手元の資料になりますが、133件ありました。それが実際令和４年度で60件まで減少しています。

そのことが確実に効果に結びついているかというのは、なかなか申し上げにくい部分でありますが、その徘回している猫自体がかなりの総数減ってきていると、そういうところで交通事故であるとか、死んでいる猫というのが減ってきているのではないか、というところの推測の部分でそういったことで書かせていただいた状況です。

以上です。

すみません、付け加えて、微増と書かせていただいたのは、令和４年度が60件で、令和５年度が63件という猫の死亡が63件ということで、ちょっと増えてしまっている状況がございましたところで微増と書かせていただいています。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　特に因果関係はないわけですね。こういう書き方をする必要ないかなと思っていましたので、死んだ猫がその手術を受けた猫であるとか確認をしているのかどうかも分からないんだけれども、よく耳カットするんでしょ。そういう猫が非常に亡くなっているというか死んでいたのが多かったよとか、そういうところで比較ができているなら、まだ分かるんだけれども、総数が分かっているわけではない中で、何でこういう書き方をしたのかなというのが非常に疑問だっただけです。もうちょっと書き方を考えたほうがいいかなと思って聞いております。いかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

書き方については、考えさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　同じ環境衛生推進事業費、155ページです。

同僚議員とは違って、私は超素直に受けるタイプなので、ちょっと読み上げます。

実は、この補助金に対して私は、大きな疑問を持っています。町としては本当に効果があるのかどうかを徹底的に調べるべきではないかというふうに考えて、それを説明します。

平成18年度から平成22年度までは、猫不妊去勢手術は行われていませんでした。その５年間で公共の場で死亡した犬猫等の平均は年間288匹、そのうち猫は197、猫の確立が高かったです。

平成23年から平成26年までの４年間は、手術に対して補助金を12万円から20万円出しています。年間平均36回の手術を行い、その死体数は平均269件で、その前より20件減っています。ただし、この時期から死体に関する動物死の明細が出なくなりました。先ほど答弁で、ぽんぽんぽんと言ってくださいましたけれども、それ以降、猫がどうなったかというのは不明です、我々にとって。

平成27年から令和元年までの５年間は、予算を300万円増やしました。手術件数は年平均212件と、それまでより６倍増やしました。死体の数がどうなったかというと、平均247件で手術を増やしたにもかかわらず、この動物の犬猫等の動物の死体は、20件しか減っていない。

令和２年から令和５年度までは、予算を150万円に減らしました。手術件数は年平均123件とそれまでよりも80件減った。しかし、死体の件数は年平均190件と手術していたよりも減っているんですよ、50件。

そうすると、今後手術して、去勢して不妊とかやるというのは、今、答弁でもありましたけれども全体像が分からない中で、補助金出しているけれども焼け石に水みたいなことになっていないのか。でも減っているじゃないかということに関していえば、運転手が気をつけるようになったのか、今、車に衝突防止のブザーが鳴るように、そういう進展のもとで、全体的に減っている可能性がある。いやいやと言いそうな話ですけれども、手術を行うことによって、じゅわじゅわと減ってきているから、減っているんですよという考え方もあります。

いろんな考え、仮設は立てられるんですけれども、本当は何だと、現実は何だというところがアンノウンだと思うので、そこをしっかり調べていただいて、本当にこの補助金が有効なのかどうか。今まで2,100万円ぐらい使っているわけですよ。これが本当に有効なのか、そこをもう一度検証していただいて、予算化するなら予算化、効くのならＮＰＯをもっと増やしてしっかりやってもらうというようなことがあれば、激減するとか何かそういうことが考えられるのであればそれをやればいいし、それほどもう焼け石に水ならやめればいいし、その辺をちょっと検討していただきたいと思うのですがどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

検証というのが、ちょっとどんなふうにしたらいいかというのが、想像つかないものですから今の時点で検証しますとは、さすがにお答えすることはできないと思っています。ただ、検証できるかどうかというのは検討させていただきたいなとは思います。

もう一つですが、確かに根拠という数字というのは示すことはできないですが、環境省の資料にもありますけれども、１匹の雌猫が半年ぐらいたてば、もう出産ができるような状態になります。その猫が１回の雌猫が、大体４匹から８匹産むというふうな試算が出ています。その猫が産んだ子がまたそれを繰り返すと、２年で80匹というような数字を環境省では試算をしています。

その猫をそのままほうっておくと、また３年で2,000匹というような数字も環境省のほうでは試算をされておりますが、当然もちろんそのまま生き残るということもないでしょうし、その数字がそのまま猫になったらどれだけの数だという話になってしまうので、そこまでと

いうことはないと思いますが、その年間の令和５年度の実績で言いますと、70匹の雌猫の不妊の手術ができております。少なくともその70匹が新たに産むというような状況にはないということで、爆発的な繁殖力の中で増えてくというのは、抑制ができているというふうには考えております。

先ほど、議員のほうで調査ができないかというところで、お話ししたことにつきましては、先ほども申し上げましたとおり、その検証する方法というのを、もしあるようであれば確認していきたいというふうに考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　考えます、で止めておいてほしかったんだけれども、要らんこと言うので言いたくなってしまうわけですが、すごい繁殖力なわけでしょ、猫は。こういうだけあって、これだけ潰したとしても、これはすごい勢いで繁殖していきます。そうすると焼け石に水じゃないんですか。絶対数が分からないんだから、今の説明を受けただけで、猫はすごい勢いで繁殖しますと言っていて100匹弱ということで手術しました。それで抑えられているんですと説明されても全然納得がいかんわけですよ。

だから、やっぱりいろいろ考えて調査して調べていただいて、確実に調査をしていただくということで、やっていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　答弁はいかがですか。

都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

どういった調査の仕方があるかというのも含めて検討させていただきます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　普通にいきます。まず、161ページ、見てください。

環境教育推進事業費、この中で感心をしたのは、取組内容と実績に、生涯学習課主催のシニアカレッジと共催し、環境学習教室を令和５年10月11日と25日に清水先生と中山先生との講師の地球温暖化現状と対策、地球温暖化と科学についてという講演を行いましたね。

以前、何件かやったことがあったんですけれども、シニアカレッジの人たち、見たとおり御存じのとおり彼らは、すごい学習意欲が高い、基本的な潜在能力が高い。そういう人たちがいろんな勉強をしています。歴史もそうだけれども、今まで吉田町に反映されたことがなかったんです。なかなか反映されにくかった。

それが今回こういう160ページにありました地球温暖化に対しての、これから世界的に行くでしょう。そういう人たちに対しての講習をこの人たちが受けてくれた。件数、ニーズが多いです。

これは、本当はシニアカレッジと町が求めていたものではないかと、感じているんです。これがもしうまくいって、やってくれたらと思うんですけれども、その辺の今回のシニアカレッジのコラボレーション、講習を受けていただいた。そのスタートというか、きっかけは何だったんですか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

すみません、今、少しきっかけという答えが、ちょっと出せなくて大変申し訳ないんですが、この取組としましては、町として環境学習を進めるに当たって、どういった人を対象にしていくかというところもあります。

そういった中で、既にシニアカレッジというものが、生涯学習課のほうで行われている中で、専門的なシニアカレッジに当初、すみません、僕も関わっていたものですから相談させていただくと、専門性の高い学習をしていただいています。

そういう中で、こういった二酸化炭素という環境学習というのをやっていただくことで、そういった方たちが学習していただく。それを広めていただければという思いもありますが、なかなかそういった場合、そこまで広げるかどうかというのもありますけれども、そういったところとコラボをすると、予算的にも新たに取る必要もないということで、そういったところでコラボしたというところの回答でしか、ちょっと今できないんですが、今きっかけというか整合性あたりは分からない部分ではありますが、そういったところを狙ってコラボしたというところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、言われたとおりコラボレーションすることが、非常に大事なことだと思うんです、これから町の将来に向けてね。

特に、この講演のこのシニアカレッジの人たちが、この能力を持って子供たちに、もしこれが、講演ができたとしたら、一番最初、町長に聞きました。町長が言いました。ノーベル賞の学者をつくるんだと。えーと思っていたけれども、逆に言うとこういうことって、我々本当に可能性として生きてくるかなと。

そう思ったものですから、ぜひこの町のシニアカレッジがこれこそ生かせる方向になり、シニアカレッジの補助金とか交付金というものが何倍かになって返ってくると思いますので、ぜひこれを子供たちに教えるような何かをやっていただいて、その結果というか方向性とか、結果を出していただくとありがたいと思うんですけれども、それはどういう考えか、あれば教えてください。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

この都市環境課で行う環境教室につきましては、環境問題であるとか二酸化炭素というところもありますが、この環境問題につきましては、町全体で取り組む必要があるというふうに考えております。

そういう中で、学校の子供たちもそうですが、そういう機会を捉えて例えば、職員が行くこともあるかもしませんが、そういうことも含めてまた検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　「ちいさな理科館」ができたときに、非常に興味を持っていって、いろいろとお尋ねしました。そして先生方もいろんなことをやってくれたんですけれども、なかなかこれだというものが見当たらなかったと、先生もやっていて、そういう手応えがなかったような気がするんですけれども、これこそ「ちいさな理科館」でこういう形のものをや

っていただければ、「ちいさな理科館」を利用してやっていくような方向をぜひ取っていただきたいと思うんですよ。それはどうでしょうか。

〔「理科館の問題じゃない」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、理科館の問題じゃないと言いましたけれども、これ理科館の話ではなくて、町全体の話ですよ。町長も副町長も理事も誰でもやってくださいよ。町をどうするかという方向ですから、理科館どうしようという方向じゃないですから。

○議長（大石　巖君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

今回、理科館で取り組んでいる事業につきましては、生涯学習課ということになりますのが、町として今後、環境学習を行っていく中で、そういったソースが使えるとするなら、そういったものを使っていけばということは考えています。

以上です。

○議長（大石　巖君）　よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　これで、質疑を終結します。

◎散会の宣告

○議長（大石　巖君）　以上で本日の日程は終了いたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。

散会　午後　零時３０分

開議　午前　９時００分

◎開議の宣告

○議長（大石　巌君）　改めましておはようございます。

本日は定例会19日目でございます。

ただいまの出席議員数は12名であります。

これから本日の会議を開きます。

本日は、提出されました第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算についての質疑を行います。

議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

それでは、議事に入ります。

◎議案第４１号の質疑

○議長（大石　巌君）　日程第１、第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから41号議案についての質疑を行います。

昨日に引き続きまして、質疑は、歳出の５款から11款までの質疑を行います。

質疑は、款別に区切って行いたいと思いますが、説明員を入れ替えながら進めますため、出席する説明員により順番が前後する場合がありますので、御了承願います。また、歳入の１款から11款、21款以外の歳入については、歳出の財源に合わせて行うようお願いをします。

質疑につきましては、数値や説明を受けた内容などについて、確認の質問にならないようお願いをいたします。また、簡潔明瞭に審議する議題に関すること以外の質疑まで至らないよう御協力をお願いいたします。

それでは、質疑に入ります。

初めに、歳出の５款労働費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

次に、６款農林水産業費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

11番、河原崎昇司君。

○１１番（河原崎昇司君）　11番、河原崎です。

ページは、主要な施策と成果について関する説明書の194ページです。

これは、用水路改良維持修繕費のうち、繰越しをしている山崎頭首工について伺います。

現在のまず進捗状況はどうか、お願いをいたします。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

山崎頭首工の進捗状況についてでございますけれども、現在、堰となります、ゴムの袋体、こちらのほうにつきまして、製作を実施しているところでございます。現地での工程になりますけれども、出水期時期につきましては、工事のほうが実施することができませんので、10月中旬より仮設工となります。そちらで必要になります土のう袋、こちらの製作、その後、11月に河川内の坂路等の設置をいたしまして、12月にゴム袋体の設置、あと操作室の工事等を行いまして、今年度末までに工事のほうを完了させる予定でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　11番、河原崎舜司君

○１１番（河原崎舜司君）　11番、河原崎です。

進捗状況については分かりました。これ、現在、農業者は今の仮設ポンプ、これでポンプから神戸川から水を取って何とか間に合わせている状況です。一刻も早い完成により安定した農業用水の確保を農業者は望んでおりますが、令和６年度中に確実に完成できるかどうか、その点を今一度お願いをしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

もちろん、繰越ししている事業ということもございますし、現在、作業的に何かあってというところもございませんので、もちろん完成するように現在進めているところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　11番、河原崎舜司君。

○１１番（河原崎舜司君）　11番、河原崎です。

先ほども言いました。今、ポンプ８インチを４台つけて、何とか今、間に合わせている状況ですが、これ今、神戸川から取っているわけですが、ラバーダムの破損から４年か５年たっていると思うんですね。これは農家の皆さんにとっては大変厳しい、どうなるんだというお言葉ばかりかけられておりますが、あまりにも時間がかかり過ぎたかなとこんなふうに思います。吉田田んぼの水の取入口ですので、完全なる早期完成をお願いをしたい、このように思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　そのほか、質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木　栄です。

説明書の203ページの漁港環境整備事業費でありますが、吉田漁港多目的広場の整備工事になりますが、先日、多目的広場の脇を通ったら、出来上がっているような感じしたもんですから、上へ歩いて上がって行ってみました。駐車場とトイレがきれいにできあがっていました。ですけれども、登坂路というんですか、上がっていくところにバリケードが置いてあって、一般の方というか、まだ上がっていけなくて、使ってはいけないんだかなというふうに思いました。そういうことで、見た目ではもう完成しているもんですから、その辺がいつから供給できるかということでお伺いしたいと思います。

それで、また、使えるということになるような、町民への周知方法をまたお願いしたい、教えてください。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまの八木議員からのご質問でございますが、こちらの多目的の工事につきましては、昨年度、工事のほうを配線の全国的な供給不足によりまして、繰越しをさせていただきました。こちらの上部の工事のほうにつきましては、令和６年５月28日に完成をしておりまして、供用開始が５月31日ということでホームページに５月29日に掲載させていただきました。

こちらにつきまして、６年度の工事、今、議員がおっしゃった、今、搬入路の舗装工事、あとのり面の舗装工事のほうを発注しておりまして、工期が８月13日から12月６日までの工期で工事のほう進めてございます。こちらにつきましては、今、周知方法、ホームページというところで、御紹介させていただきましたけれども、こちら、完了しましたら、またホームページ、吉田町の広報紙、広報よしだ、あとＬＩＮＥ等で住民の方に最終的に全て多目的のほうが完成したというところでお知らせをさせていただきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　もう１回ちょっと分からなかった。供用開始はいつからということですか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　すみません、上部につきましては、駐車場の部分、あとトイレにつきましては、既に工事のほうが完成しておりまして、供用開始が令和６年５月31日に既に開始をさせていただいてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　ということは、自分は歩いて上がったんですけれども、今、登坂路というか上がっていくところの工事を12月６日までやるよというお話でしたもんで、車で上がることは駐車場に行くことはできないと思いますが、歩いていってトイレを使うとかそういうことはできるよということと、あと、12月６日に工事が完了したら、上がっていくところ、登坂路というんですか、そこも含めて改めて供用ができるよということになると思うんですけれども、その辺はいつになりますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまの八木議員からの御質問ですけれども、トイレのほうはもう既に供用開始しておりますので、使えるということで、今、多目的広場のほうじゃなくて、今、サイクリングをされる方とかランニングされている方とか、そういった方の利便性もございますので、いち早く工事が完成しましたので、上部につきましては供用開始をさせていただきました。

あと今、議員からおっしゃったように、工事、基本的に12月６日ということで、あと、工事のほう終わりましたら、検査等々ございますが、その辺も速やかに行った上で、12月頭、速やかに供用開始のほうをして、全体的に使えるということを周知していきたいと考えております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　年が変わるというか、お正月が来ると、多分川尻海岸でも非常に初日の出をお参りするとかそういうイベントがあったりして、あそこもちょうど皆さんが使うには日の出を見るところ、場所としてもすごくいいところじゃないかなと思うもんですから、また、多分みんなそこに行くんじゃないかと思うもんですから、余計混んじゃったりすると困りますが、一応６日で終わって、12月頭頃ということで使えるようになるということありますが、その辺の広報といいますか、そういうのしてやるとまた利用するというか、そういう方も確かな情報を得て行けることになるもんで、もう１回確認させて、どういうような、ホームページというと、パソコンを持ってない人は見れないもんですから、そのほかでどのような広報があるかもう一回お伺いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、八木議員からの広報についての御質問でございます。

広報の周知につきましては、まず、今お話しさせていただきましたホームページ、あとＬＩＮＥですね、あと広報よしだ、あとインスタ等もございますので、そちらのほうでも周知を行っていきたいと考えてございます。

以上でございます。

○１０番（八木　栄君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

すみません、今、八木議員が質問されたところと同じところになりますが、登るところの道路のり面の工事のほうが今、始まっているわけなんですけれども、工事のほう、御案内のところの表示のところには、最初はたしか８月の終わりぐらいから11月の終わりぐらいまでと書いてあったような気がしたんですけれども、少し何か12月６日というと時間がかかっているような気がするんですけれども、このあたりは何か工事のほうに支障があって時間がかかるのかどうなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、工期の御質問がございましたが、当初予定しておりました11月末ぐらいにということを考えておりましたけれども、今、働き方改革ということで、工事業者さんが土日を休みにされるとか、そういった工期をちょっと長めに取るといいますか、そういったところが建設業的に全国的にそういうことが進んでおりまして、業者さんのほうからもそういった要望等々ございまして、そういったことで少し工期が多く取るというようなことが必要となっておりましたので、今の12月６日までの工期という設定となっております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

そういった社会状況もある中、工事、そういった形になっているということは理解しました。ただ、やっぱり川尻の住民の方から、多目的広場のところが利用できたにもかかわらず、そちらに行かれる道路の通路の部分がまだ工事が進んでいないということで、すごく利便性

がやっぱり問われております。同じような、同時期に供用開始できるのが一番よかったんじゃないかなとは思うんですけれども、その辺は町として工事の進め方としては、予定どおりの方向性でいたんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、工事の工程等の全体的なお話だと思いますけれども、多目的広場のほう、補助金のほう活用して工事をさせていただいております。先ほどもお話ししたように、当然、年度内に令和５年度につきましても、工事全体を年度内に収めるというようなこともございましたし、全工程ですけれども、やっぱり不測の事態とかが起こってしまって、今回、トイレだけ供用開始の、その部分が工事が繰越しをさせていただいたという経緯もございます。

そういった中で、町としましては、今の全体的な工程としましては、今のような工程できれいに、あと補助の絡みとかもあるもんですから、そういったものも踏まえまして、現在の工事の全体的な行程となってございます。

以上でございます。

○４番（楠元由美子君）　了解しました。

○議長（大石　巌君）　ほかに。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　先ほど、頭首工の件で、ここに書いてあります広報のところにありますけれども、良好な用水環境を維持することができたと。この水路のできる部分ですけれども、この自然環境、それによって生物の自然環境に関して聞いてもいいですか。水路の自然環境に影響することに対して。

実は、今言われたもう４年くらい長い間、ラバーダムができてない状況ですね。

それで、我々はちっちゃなときから比べると、魚とか生物がほとんど見られなくなってきた。私は、あれから上のほうですね。以前も課長に聞いたのは、魚道を造りますよと、造ってありますよということですけれども、それに対しての魚道であるとか、水の環境に関しては、町のほうの考え方、魚道をどのような形で造るのか、何を目的にするのか、それともう一つは、あそこの吉田町全体そうですけれども、コイとかソウギョがいることによって、小さな魚がもう全滅しちゃってるんですよね。その辺も環境と併せて、農業の環境も必要でしょうけれども、自然環境に関しての見解、そういう見解をちょっとお聞きをいたします。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

まず、農業のところの話にはなるんですけれども、今の話ですと河川の話かと思っております。河川につきましては、まず先ほど魚道というような形、そういうものももちろん魚類の関係のラバーダム造っていたりとか堰を造ったりするとなかなか上に上がっていかないというような、遡上できないというところもありまして、魚道を造るというような対策もしておりますし、あとは自然の環境に近いように、都市部ですと三面の側溝といいまして、コンクリートを全て三面で下まで打ってしまうというようなものをされるというところもありますけれども、湯日川であるとか当町の河川とか大きいところになりますと、下につきましては、土で、水生生物といいますか、ミズモが出たり、水生生物が住みやすいような環境とか、そういうものの配慮等をしながら、整備のほうは進めていっているものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　実際に、湯日川自体そこにいる魚が、ちっちゃな魚が本当消えちゃったということ事実なんですね。その辺もちょっと環境の中で調査しながら、とにかく小魚とかザリガニとかそういう自然の環境も大事なことですので、生きることができるような状況、どのような状況で、どの辺でもし造るとすればどうなのかとちょっと教えてもらえればと思いますけれども。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　すみません、ちょっとまたこちらも農業のところではないんですけれども、河川のほうの環境でということでお話をさせていただきますれば、先ほども答弁させていただいたとおり、水生生物が住みやすい環境になるように、コンクリートで打たないような対策をする、あとは護岸であるとかでも、草が生えるような形で、多様な生物が生息できるような管理をする、そういうような形の生態系を守るような整備のほうを進めていくというような形で事業のほうをやっているものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　今のラバーダムの工事のことですけれども、湯日川の初倉のほうですか、上流のほうですね、やっぱり河床上がっちゃうもんで、河床を下げるための工事をやるに当たって、今言ったように、何ですか、絶滅種というんですか、ですから、吉田のほうの要は、初倉よりも下流になるもんで、自分ちの吉田町の範囲だと思うんですけれどもね。絶滅危惧種、生物があるもんで、そのやり方がこれまで当たり前にこう機械で川底をすくっていただけ、そうじゃなくて、水をちゃんと溜めて、それで水をきれいな状態でポンプでまた流すというそういうやり方で、結構この頃お金がかかっちゃうもんで、なかなか今までやっていたメーター数よりも短いメーターで予算の関係でやっているんですよと話は聞いたんですよ。今、ラバーダムやるにもどうしてるのかちょっと分からないもんで、そういうことまで、それは県のほうの方針でそういうやり方になったということですよ。なんで、ラバーダムに当たっても、そういうことの注意を受けてやっているのかどうかということは確認しますけれども。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

ラバーダムのほうの工事につきましては、静岡県と河川協議のほうをさせていただきまして、どのような形でやるかというようなことを町・県と協議する中で、工法とかそれ含めて決めさせていただいているものでございます。

水生生物の関係といいますか、今、環境に対する対策がどうかというようなお話ですけれども、ちょっとその辺まで、どこまで踏み込んだ内容でやっているかというところまで、ちょっと今、私、把握してなくて申し訳ないんですけれども、少なくても静岡県との協議の中で、こういうような工法でやるということを決めて、今回の工事のほうさせていただくものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　同じく194ページの山崎頭首工の件です。

今回、執行率が低かった、繰越ししたわけですけれども、その理由に令和５年度農業基盤整備促進事業山崎頭首工改修工事について、河川内での工事のため、施工可能期間が限られること。ゴム袋体の製作期間は10か月程度の期間を要すること。施工に先立ち河川管理者との協議に不測の日数を要し、令和５年度内の完成が不可能であることから、令和６年度への繰越工事となっていますと。

このゴム袋体の製作期間が10か月かかるというのは、いつ分かったんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

ゴム袋体の製作期間がいつ分かったかというようなお話ですけれども、こちらにつきましては、当初、私ども見込んでいたのは、こちらのもの、製作期間に四、五か月ぐらいたつのではないかということで見込んでおりました。

これが、発注準備の段階におきまして、再度事業者のほうにちょっと確認をさせていただいたところ、この袋体自体のものは海外からの取り寄せをするようなものが、というところもございまして、社会情勢のほうの影響を受けるというところの中で、10か月ぐらいかかるというようなことを聞いておりまして、どの時期で分かったかと言いますと、発注の段階で分かったというようなことになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　すると、発注の段階というのは、令和５年度に入ってからということでよろしいわけですね。

今の話と、さきに同僚議員の質問もありましたけれども、もう随分前から、農業従事者は直していただきたいという話が、それはもう声は聞こえているわけですよね、４年とか。そうすると、できるだけ早くこのラバーダムを直すというその使命を感じていたとすれば、このゴム袋体、見込みが四、五か月であったと。発注時に分かった。やはり正確に、例えばもう５年度しか予算が取れないとすれば、予算、要するに執行が５年度内に収まるように考えて４年度から準備始めるとか、極端に言えば、補正組んだっていいわけですよね。５年度内に完成させようという意識を持ってやるべきだったのではないかと思うんですが、やっぱり私はその四、五か月でできると思っていたと。でも実際に発注すると10か月かかりましたというのは、農業従事者にどう説明するんですかね。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

それこそこちらにつきましては、コロナ後の関係で、国際情勢のほうが関係が悪化したというようなところもございまして、その中で、実際に発注するもの自体が海外からの取り寄せだというところもある中で遅れてしまったということがございます。説明というような形になりますと、実際には、農業者お困りになられているというところのことはありますけれ

ども、実情としまして、できる中では10か月かかってしまうということになりますので、そこのところちょっとご理解いただくというような形でお願いをしたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　令和４年度に、業者に確認すると、まあ、四、五か月でできますよ。で、いざ発注したら10か月かかりましたと言われたのか、まあ、昔聞いたときに四、五か月だと。そう思い込んで、発注時期、で、四、五か月で、何時期でしたっけ、河川工事の河口の時間には間に合うという話だったのか、どちらなんでしょう。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　それにつきましては、設計を令和４年度のほうにやっていますので、令和４年度の設計をつくっている段階につきましては、おおむね四、五か月ぐらいではというところで話を聞いていたところでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうするともうこれはどうしようもないことだと。世界情勢のために繰り越さざるを得なかったという理解なんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　それもすみません、一つの要因ということで考えてございます。

まだ、そのほかにこちらのほうの繰越しをさせていただいた理由に、静岡県との河川協議のほうの話もございます。こちらにつきましても、静岡県とどのような形で今回のラバーダムの工事をやるかというところにつきまして、話をする中で、そちらのほうも要因の中にあるということと考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そのこともう聞こうかと思ったけれども、やめたんですけれども、それもしっかり議論すべきことだと思うんですが、結局10か月かかるんだからもう間に合わないですね、４月からじゃ。だから、メインの遅れた理由は、ゴム袋体ができない。もう一つの、今、県との打合せ、それは今後の課題としてしっかりやっていただきたいし、前のほうもできるだけ早くどれぐらいの製作期間ができるのか、４年度計画時には四、五か月と言っていたけれども、やっぱりそこはどんどんそれを信用するんでなくて、チェックしていくというような形で少なくともやっぱり５年度、皆さんは期待しているわけだから、５年度に収まるようにどうしたらいいかということは、今回はもう仕方がないんだけれども、今後はそういうことが起きないようにしていただきたいと思います。

そういうのに対してはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

もちろん、町のほうとしましても、令和５年度で完成するということが一番かと思ってございます。議員のおっしゃるように、できるだけ精査する中で対応のほうしていきたいと思っています。

以上です。

○７番（平野　積君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑ありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ごめんなさい、すみません、先ほど聞いた水の環境に影響するものに関しては、町のほうでは、あれは県の問題だと思いますか、それとも町のほうの対応ということで考えていきますか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

水質といいますか、水というところで問題になりますと、県だけというような問題ではないかと思ってございます。それは町の問題でもございますし、河川に対しては生活雑排水等が入ってくることになりますので、町全体、県全体といいますか、そちらのほうで含めて全て考えていかなければならない問題かと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

決算書の205ページ、資料の191ページになりますが、荒廃農地再生事業費についてお伺いをいたします。この令和５年度、執行率21.6％ということで、数字が低いわけですが、これはこういう状況になった理由と分析されていれば、そこら辺のこともお聞かせください。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまの執行率が低いということの御質問でございまして、今、こちらの、昨年度の執行率につきましては21.6％という数字になってございます。ちなみに令和４年度につきましては、77.1％ということで、こちらの荒廃農地の再生事業につきましては、例年実績を見てこの数値と金額等計上してございます。ちなみに、令和元年度につきましては、972平米で２万9,100円の支出。あと令和２年度につきましては、4,113平米で10万円の支出。あと令和３年度につきましては、1,118平米の３万3,300円の支出。令和４年度につきましては、2,579平米の７万7,100円の支出という形になっておりますので、こちらにつきましては、やはりやられる方が荒廃農地の規模とかそういったものもございますので、その年によってばらつきもあります。当然、面積が大きければ上限までいってしまうということもございますけれども、そういったことで例年の上限等の状況を見ながら予算を計上しているものでございます。

令和５年度につきましては、お一方が721平米ということでやっていただいたんですが、ちょっとそれ以上の方が荒廃農地のほうのこちらの補助金を活用されなかったということで分析をしてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

すみません、ちょっと確認したいことが、これは荒廃農地再生事業ということなんですけれども、耕作放棄地も荒廃農地というふうなカテゴリーの中に含まれるかどうか、教えてく

ださい。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、議員のおっしゃるとおりでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

この事業、町単でやっていらっしゃる事業なんで、力も入っているというふうに理解をしておりますが、町内も耕作放棄地なり荒廃農地と言われるようなところが大分目立つようにもなってきておりますので、そういった中で、この制度を使う使わないは、どっちでもいいというと語弊がありますけれども、結果として、荒廃農地なり耕作放棄地が減っていけばいいと思ってはおりますが、その全体として、耕作放棄地、荒廃農地が現状の分析としては、どのようにそれを捉えていらっしゃるのか、お聞かせください。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま、現状どう捉えているかということでございますけれども、やはり農業者が年々人口減少とともに農業者の人口も減っておりまして、当然、なかなか農業やられる方が減少してございます。そういった中で、やはり荒廃農地というのがなかなか手がつかない、あとはおじいさんとか父親が例えば農業をやられていたというところで、また亡くなってしまったときに、結局、農業、その息子さんとかお子様が継いでいかないとかという現状もございます。そういったものをどういうふうに少しでも減らしていくかというのが課題であるというふうに捉えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　そうですね、高齢化も大分進んでもきていますし、引き継ぐときにまた何というかほっぽらかされちゃうみたいなのも正直あると思うんですけれども、この制度、町としてありますよということで、農業関係者にはそれなりに周知もされているのかなとは思っておりますけれども、これ自体が使い勝手が悪いということがあるかないか、執行率が低かったということでいうと、逆に荒廃農地を再生しようというような状況がなかなか生まれにくいという形なのか、それとも、この制度を使わなくても、荒廃農地は増えない、減らないまでも増えないぐらいの状況は現状にあるということなのか、そこら辺、分析としてはなかなか難しいと思うんですけれども、結果としては増えていると私は思っているんですが、これをもっと使い勝手のよいものにブラッシュアップするようなことというのは、何かお考えはないでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま、大石議員からのブラッシュアップというようなお話がございましたけれども、今、こちらの補助金につきまして、例えば、大規模なもっと大きな規模のものにつきましては、例えば県の補助のものがありまして、こちらにつきましては、その補完的な、そこをカバーしていくような少し小規模のものを捉えて、こういった町がちょっと、反対にいうと、

これ使い勝手がいいような形で補助金のほうを町のほうで、単独費のほうで整備させていただいているものでございます。

方法というのも、やはりもっと周知をしていかなきゃいけないのかなというふうに捉えておりますので、もうちょっと皆さんに知っていただくように広報等努めてまいりたいと考えてございます。

以上でございます。

○１番（大石裕之君）　了解です。

○議長（大石　巖君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今の話ともつながると思うんですけれども、私は吉田町の農業の将来ということに不安を感じているというところがあります。と申しますのは、説明書の66ページに納税義務者数が記載されています。そこには、農業所得者という欄があって、その中で、納税義務者は18人、所得金額は4,111万1,000円というふうになっています。５年前の平成30年、同様に見ますと、納税義務者は35人、所得金額は１億3,278万5,000円になっていました。

その後、30年からどんどん減っていって、先ほどの令和５年度の数字になっております。

人数とすれば、納税義務者ですけれども、人数は半分、所得は３分の１になっているという状況です。

もちろん、その器具を購入するとか、それを必要経費で落として、納税をちょっと義務者から外れているという方はいらっしゃると思うんですが、やっぱり年々農業所得者の納税義務者が減っているということに関して、産業課はどう考えており、吉田町の農業の将来という点では、どういう展望をお持ちなのかというのをお伺いします。

○議長（大石　巖君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま、平野議員からの吉田町の将来の展望ということで御質問ございましたけれども、まず、今、平野議員の認識どおり、納税義務者が直ちに減ったからと言って、農業者が減っているということ、影響がないというわけではございませんけれども、まず、農業センサスのデータによりますと、平成12年の農家数というのが313件でございまして、令和２年におきましては136ということで減少しておりまして、平野議員おっしゃるような状況は当然あるというところで認識してございます。

あと、この減少においては、様々なということで考えられますけれども、まずやはり一番の要因としましては、農業に限らず人口の減少というところが大きい問題と捉えております。こうした人口減少に伴います農業者の減少が不可避となる中で、少ない人数でも安定的に今、食料のほうを供給しなきゃいけないというふうでございまして、まず、今、そのために主なものとしましては、スマート農業の技術や高付加価値の作物の導入によりまして、生産性を向上させること、あと、担い手の確保を行うこと、あとは農地の集積、集約による効率的な農業の運営といいますか、促進を行っていくことだと考えております。

そういったものを、吉田町だけではなく、国も当然、今、農業の集約化とか、例えば吉田町でちょっと例を挙げさせていただきますと、例えばスマート農業技術というのを、吉田たんぼでドローンを飛ばして、それで農薬をまくとか、そういった機械化をやっぱり一定程度していかなきゃいけないとか、あとは今、県のほう、磐田のほうにイチゴのパック詰めを行

うようなところを整備するというふうなってございまして、そちらにつきまして、やはり農業者が手間を取るような作業というのを軽減して、いかに農業者にもっと時間をつくって、今、農業される方ってなかなか自分が作るものにつきましては、作ることについては一生懸命やられる形があるんですけれども、やはり商売という、お金もうけをするというか、そういった自分の生業とするところがちょっと弱いという点がございますので、そういったところで少し余剰の時間をつくって、そういったところに取り組んでいっていただいて、農業者の所得を上げるというようなところでの取り組んでいかなきゃいけないというところで考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　ということは、やはり農業、いろいろあると思いますけれども、農業所得で、農業で生計を立てていくということに関しては、やはり厳しい状態であるという認識でよろしいんでしょうか。

それで、今、答弁の中で、そういう中において所得を増やすような策をどんどん指導していくというような話だったと思うんで、やっぱり減っていってる、厳しいという状況は産業課としては認識しているという理解でいいんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、平野議員のおっしゃるとおり、やはり厳しいというふうには、間違いないというところで捉えてございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　１回目の答弁において、いろいろな施策で所得を上げていっていただきたいということなんですが、もうちょっと大きく吉田町の農業ということで考えれば、要するに、何の問題はないと、バラ色だと、これからどんどん発展するんだというのか、結構、町として援助しながら、今の維持していくというようなことをやっていこうとしているのか、その辺の見解というのはどうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、平野議員からの御質問でございますけれども、やはり町として農業人口もあと減っているということもございます。新規のやはりなかなか、新たに就農されるという方がやはり今後大事だというところもございます。そういった中で、昨年度はお一方が新規就農の補助金等を受けられて、そういったところで巣立っていったと。今年度につきましてももう一方がそういった形で新規就農者という形で補助金のほうを得て、そういった所に取り組んでいただくという形の方もございます。やはり、なかなか人口減少、あと農家の従事される方が減ってきている、あと、農業労働者の収入の確保、そういったところも全体を含めましてやはり、町だけではなくて、当然、農業につきましては、国全体の施策というものありますし、それだけでもなくて、その町々の特殊な事情とかそういったものございますので、国の大きな補助をまず活用しつつ、町がそういった隙間、隙間じゃないんですけれども、もうちょっと特殊なところといいますか、地域、地域のものをカバーできるようなところで、国とか県とかそれぞれ多重に捉えていって、そういったところも町がバックアップできればというふ

うに考えてございます。

以上でございます。

○７番（平野　積君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑ありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　189ページのところの担い手のところでお願いします。

現在、吉田町の農業、農家、非常に苦戦、苦戦と言うよりも大打撃を与えられていますね。その中で、ここにあります多分、新規就農者育成総合対策事業費補助金150万円ですか、あの山の上でハウス始めましたよね。あのところのやつは、この金額ではないですか。あそこで始まって、非常に吉田町の農業としていい方向というか、非常に可能性のある方向が、あそこで見いだされているような気がします。

それで、その結果、今の状況、多分調べてあると思いますけれども、どういう状況、結果的には１年間たちましたけれども、結果、作物の結果であるとか方向性であるとか、どういう結果が出ていますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

まず、山内議員がおっしゃった山の上の方がこの補助の対象の方ではなくて、この対象の方、海のほうでイモをやられている方の補助でございます。山内議員からございましたお茶畑を多分改良されてイチゴとかをやられる方だと思うんですけれども、そういった方につきまして、やはりなかなか今、隣町のやはり牧之原市なんかもそうなんですけれども、お茶の価格がキロ20円というふうに農業委員会のほうでも聞いてございまして、大分お茶農家の状況というのは非常に今、厳しい状況になってございます。

やはり、なかなかお茶畑を次のものに転換するというのがなかなか難しい中で、やはりそういったところでイチゴが一番いいというところで、今回イチゴに転換されて、それで先ほどもちょっとあったんですけれども、やっぱりお茶だとすごい全然なかなか収益が上がらないので、イチゴという形で、高付加価値のものをやっていくというところでございます。

また、ただ時期的にまだ始めたばかりですので、収入がなかなか安定したかどうかというのはちょっとまだ、そこまでの効果が見えていないところでございますけれども、やられた方はやはり今、お声を聞きますと、お茶をやめてイチゴに転換してよかったというようなことを非常に言っていただいておりまして、町としてもちょっとほっとしているというようなところでございます。

そういった中でやはり今、お茶畑というのが非常に全国的にも問題になっておりますので、そういったところで高付加価値のものに転換するような形を農協さん等々とタッグを組んで進めていければというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　実際、農業をやっている方、お茶をやっている方にいろいろ助けてくれよという話が出るわけですね。その中に一つの光明が見えたように私としてはしているんですね。あとイチジクとかいろんなことやるでしょう。そういうものに関して、これからの農業政策に関して、町のほうの方向性を示す、姿勢を示すのに非常に有意義なものであると

思うんですね。ぜひあの辺はああいう形で転換とそれとそれによる所得の倍増、あれはもう可能性としてはできると思っています。

そうすると吉田町のこれからああいう理念に向かって、どうしていく、これから吉田町はどういう形で引っ張っていく、そういうやつをまたＪＡとか、話をしながらやっていく必要があると思うんでね、それが多分救う道になるでしょう。そのときにそういう形での今、町のほうでそういう事例とか、周りと話をしているとか、そういう状況というのはあるんですか。

○議長（大石　巖君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、山内議員からそういうお話があったかどうかということなんですけれども、私も実は先日農協さんの会議でイチゴ戦略会議というものがございまして、そちらでイチゴの作り方とかそういったものを含めていろいろ御教授いただきました。今、そういった中でもお茶畑からイチゴに転換される方が非常に多くて、結構県内を見てもお茶畑からイチゴに転換される方がかなり増えてきている状況でございます。

そういった中で、そういう御相談が農家の方からございましたら、当然、そういったものを農協さんとかとつなげていくというところでありますけれども、やはり御本人の資力とかそういった施設を造らなければいけないとか、そういう経済状況もございますので、そういうものも踏まえながら、一緒に困っている方がいらっしゃれば相談に乗りながら取り組んでいければというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　実際、お茶の木の交配したものが５メートル、６メートルのあんなでっかい木になるって、実際知らない人いっぱいいるじゃないですか。今、山の上ってほとんどそういう状況ですよね。ぜひ静岡県吉田町からそういうもの発信をしていただいて、いい機会ですので、発信をしてその県を引っ張っていくとそういう形での圧、力、そういうものをぜひ発揮していただけたらと思うんです。

その辺でこれから産業課が考えている農業に関しての抱負があれば、お願いをしたいと思います。

○議長（大石　巖君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

先ほど、ほかの議員からの御質問もありましたとおり、やはり今、お茶畑だけじゃなくて、農業全体がやはり元気がなくなってきているところでございますので、先ほどの答弁とも被りますけれども、やはり農業やられる方のまずは収入の確保だとか、あとは継続性とか、あと機械化にしてもっと効率的にやるとか、そういったところ全体を踏まえた上で、農業者、農業をやられる方全体をバックアップしていければというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　ほかに質疑ありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　これで質疑を終了します。

次に、７款商工費について質疑を行います。

質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

まず最初に、決算書の収入のほうからちょっと聞きたいところがございます。13款の商工使用料の中の観光施設使用料、その下の公共財産使用料、これは、小山城前公園のところの駐車場について示されているようでございます。

こちらは、令和４年あたりで４万円程度のものが18万ということで、ぽーんと増えています。いろいろ話を聞いた中で、ここの条例に沿って当然使用料を請求してもらっているわけですが、あまりにも安過ぎると、私考えるんですよ。どこの自治体もある程度、安いというところはあるようなんですが、そうした中で、ここの駐車場に目的外も含めて、止める車、駐車する車が観光バスであるとかそういった大型のバスが増えてきているというようなことも聞いております。というのは、総体で何か大会があったりすると、町外の方が観光バス使って来るとかで、降ろして駐車をすると。１日止めても1,000円くらい。全面使ってというような今の条例でいくとね、なんで、言いたいのは、要は車両によって値段を変えるというのも一つ加えればいいのかなというのを非常に思っております。というのは、これからあそこの小山城へ入る道路も話がついて広げたり、改修するというのは聞いています。

そうした中で、やっぱり、普通車と大型車、当然重量違う中で、それが数動けば、傷みであるとか、そのものを修繕に係るお金もかかってくる。そういうの考えると、今の条例のままだと、非常に安いし、ただその面積に対する金額ですよね。そこがちょっと、もう一歩踏み込んで、そうした重量制限と言ったらおかしいんですが、そうしたものも加えたらどうだというのは非常に思っています。どんどんこれから町もにぎわいうんぬんやる中で増えていく、そうした時にやっぱり駐車スペースというのは、町内広いところってもうあの辺しかない。あとはもう本当に吉田公園の横の町有地とかってなってくるんで、そういうところも含めて、もう少し考えていったらどうかなというのがありますが、その点について、担当課よりこっちかもしれないけれども、お願いしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

議員おっしゃっていただいた使用料が安いということは、全体的にうちのほうも歳入の確保という面では安いかなとは思います。ただ、今のところは例規上に基づいてやっているということで、事務としてはまず適正であるという中で、この安いところがいいのか悪いのかということになると、行政財産の目的外使用という意味では、本来の目的とは違う部分で貸出しができる分について貸出しをしますということもございます。

ですので、その内容については、駐車場に限らないということもございます。ですので、イベントであるとかそういうことを考えれば、大きい面積になったときに、やりやすいものは、やっぱり金額が安いほうがイベントとかを打ちやすい。なんで、人を集めやすいということもあるので、そういう意味ではメリットかなということもございます。

今、駐車場ということでございました。確かにこの中で例規のやり方を変えればそういうことも可能なのかもしれませんが、まずその駐車場に限るものではなく、いろいろなものがある中で、目的ごとにいろいろなことを切ってやっていくというのが、まず非常に難しい部分がちょっと正直あるから、駐車場の場合は重量制限をかけるというような形にするのが、

ちょっとやはりこの中で動くとなると、なかなか難しい部分があると思います。

ですので、もし駐車場利用が多くて、そういう部分に特化をするということであれば、その設置条例なんかをつくって、別にやっていくということもあると思います。

また、今の中で、例えば、大きいものが入って、施設なんか壊したりというところとか修繕をする費用なんかが使用料と見合わないということも考えられるのかもしれないですけれども、基本的には使用料というところで、施設を破損した場合とかは別途現況復旧をしていただくとかという形でございますので、ちょっと今、なかなか議員おっしゃったような形ですぐに何かということには、ちょっといろいろやり方もあると思いますんで、いろんな検討が必要かなとは思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

目的外使用の中に駐車場以外のものが大きいというか多いのは理解しています。イベントで使う、それはもう本当に使ってもらうためには、安いほうがいい、それはもうもちろんのことだということは理解しております。

ただ、駐車場に関しては、やはり別の、今言われたこと考えてやってったらどうかなという非常に強く思っています。大体高速道路だって何だって、その車両によって値段違うわけですよ。一般の公道というか、県道なんかでも、本当にトラックが多く通るところは早いんですよね、傷みが。そういうの考えると、やっぱり痛めば修繕しなきゃいけない。ましてや町道を使って駐車場に入るような場所に関しては、その道路が本当に数が多く通れば修繕が必要になってくる。だからそれはそれでもうお金かかることです。片方でお金たくさん使って、片方が安くしている、これはやっぱり何かしらの対策を取ったほうがいいと私は思っておりますので、ぜひ検討をいただきたいというか、早期に考えていただきたいと思います。いかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

まず今の全体の金額面というところが、どういう形で実勢に合っているかどうかというところもあると思いますので、ちょっとどういう形でそういったものを値上げというか、そういうことも考え得るのかどうかというところとかをまずは、ちょっといろいろ調べたりいろいろちょっとしたいなとは思います。ちょっと必ずできるようなものではございませんが。

あと、駐車場に特化した部分については、やはり今、行政財産として、別の目的で持っている土地をあくまでその行政目的を妨げない範囲で駐車場として貸しているというだけですので、もしそこを駐車場とするというような町の判断であれば、当然それに見合った金額を取るような形にはなってくると思いますので、それはそのときそういうところでは、ちゃんとした金額でいくことになると思います。

以上です。

○９番（増田剛士君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑ありませんか。

４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

209ページになります。

観光振興費ですね。そこの部分の12節委託料地域おこし協力隊業務委託料のところになります。全協のほうでもお聞きしました契約に伴って、今回、こちらのほうの決算が上がってきているということでお聞きしております。

実際、令和５年度の予算の中では400万ほど予算が上げられてたわけなんですけれども、この前任の方というか、この方の契約が終わった後、新たな地域おこし協力隊の方につなげられなかった、見つけられなかったところの理由をお願いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、楠元議員からの地域おこし協力隊をつなげられなかったという御質問でございますが、当初、町につきましては、予算のほう御覧いただくと満額というか、12か月分を計上しておりまして、その受けていただいていた地域おこし協力隊の方と協議を行った上、委嘱期間の満了となる令和５年６月30日というところで、年度につきましては３か月で委嘱期間が切れたため、そのまま終了となったという形でございます。町としましても、今、いろんなお話が出ている中で、どういったその、産業課としての地域おこし協力隊の活用ができるかというところを今、思案しているところでございまして、当然、令和５年度の方につきましては、そこで契約というか任期が終了して一旦切れた形なんですが、ただ雇えばいいというわけじゃないもんですから、どういった形でその方を活用して、どういう目的でどういうふうに活用していったら町の例えば産業振興とか、あとそういったものにつながっていくかというところを今、研究中でございまして、そういったものを整えないとまず、ただ雇えばいいというところでございませんので、その辺を今、産業課でどういうふうな活用ができるかというのを検討しているところでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

前任の方の関わりの中で、そういったものも課題が見えてきてたんではないかと思うので、ちょっと何ていうんですか、それを考える時期的に何かもうちょっと早くそういうのって見いだせなかったのかなということと、あとその元々委嘱期間というのは分かっていたと思うので、その後、新しい方につなげられるようなそういった行為というものもできたと思うんですけれども、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、楠元議員から、なぜつなげられなかったというお話ですけれども、やはりこの前任の地域おこし協力隊の方は吉田の野営を前の年はやっていただきとかいろんな状況がございまして、いろいろ御活躍いただいたんですけれども、やはり町も今の観光の状況とかそういったものを踏まえて、やはり役割のどういった役割を担わせるとか、そういったこのいかに町ができないようなもの、当然、地域おこし協力隊の方、民間の方になりますので、官ができないようなどういったものができるかというところで、なかなかつなげていくその仕事の内容とか、依頼する内容とかというものが、まだ事細かに精査をしているところでございまして、やはりただ、あとは今、全国的にも地域おこし協力隊お話しになっているんですけれど

も、なかなかその募集しても募集がないとかということもありますので、どういった形であれば来ていただけるのか、あと吉田町に、あとは地域おこし協力隊というのは最終的に町のところで活躍していただいた後に根づいて残っていただくようなということもありますんで、そういったところも踏まえまして、今、検討している最中でございますんで、そういったところで少し時間がたってしまっているというところでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

前任の方との関わりのほうを今、詳細教えていただいたところではありますが、実際、他市町、近隣とかでも地域おこし協力隊で活躍、もちろん、この吉田町でもそうですけれども、活躍された方がその後、その市町でまた新たに御活躍されているケースというのはよく見るところであります。今回、この委嘱期間が令和５年度少なかったわけなんですけれども、この方はその後、吉田町のほうで今、御活躍がされているんでしょうか、その辺はどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

常にいるようなというところではないんですけれども、少し吉田町のところを気にしていただいてお声をかけていただいたり、そういったところありますけれども、個人的にどこに住んでいるとかそういったことは、ちょっとすみません、この場ではお答えを差し控えさせていただきますけれども、吉田町にその後も少し気にしていただいて関わっていただいたりとかということはございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

そうですね、いろいろとその方の御事情もあると思いますので、詳細は大丈夫なんですけれども、近隣のほうのところの市町ですと、比較的その地域おこし協力隊として活動した後、その市町で滞在してさらにＮＰＯ法人につなげるとかそういったところも活躍されている方々も多いもんですから、ぜひ吉田町にもそういったすごい活躍できるような方を呼び込んでいただいて町の活性化につなげていただきたいと思いまして、今後よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

ページ的には今のところ209から10。主に言いたいのは、210ページの総合戦略のところ、無料Ｗｉ－Ｆｉスポットの設置数、累計で11か所、このＷｉ－Ｆｉに関しては、この中では、出がないわけですよ。出に関しては、20ページのほうのオープンＷｉ－Ｆｉの管理費のほうについてございます。

いろいろ聞いてはいるんですが、この11か所についても本当に観光に関連したところというのは、少ないんじゃないかなという中で、何でここの産業課のここに載っけるのかなと。示し方についてお伺いしているわけですが。だったらこれ、20ページのほうのＷｉ－Ｆｉの管理のほうに載っけるのが普通かなと思うんですが、その点についてわざわざ産業課の観光

振興費のほうに載っけて、しかも出はない。これどうなのかなと思うんですが、その点についてお伺いします。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいま、増田議員からのＫＰＩの搭載場所の御質問でございます。

産業課のほうで、こちらの250ページのほうに搭載させていただきましたのは、第２期の吉田町まち・ひと・しごと総合戦略におきまして、基本目標３に掲げます本町に新しいひとの流れをつくる具体的な施策の一つといたしまして、分野３の町の魅力情報発信の強化として、情報発信における観光客の対応の強化といたしまして、この無料Ｗｉ－Ｆｉスポットの設置というところを掲げてございまして、この無料Ｗｉ－Ｆｉスポットですけれども、これを接続する際に町の情報というものが強制的に出るような今、形となっております。具体的に申し上げますと、町の基本データとか、あと特産品とか、子供と遊べるスポットとか、四季の見どころといったようなものが強制的に表示されるようになっておりますので、そういったところを捉えまして、観光に資する設備というふうに産業課で捉えておりますので、ここに予算を計上していないんですけれども、こういったものに資する設備というところでＫＰＩとして搭載をさせていただいております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　内容は理解しました。

そうした中で、この11か所が本当にそれにそぐう場所、本当に観光客が来て、Ｗｉ－Ｆｉつなごうといったときに、そういった場所なのかというところが非常に疑問があるところであって、それはそれで、本当にそれでひと・まち・しごと、その戦略にはそのように出ていて、やってるかもしれないんだけれども、現状どうなのかというと、それ分けたらどうなのと思う。こういう表示をするときに。観光分野ではこれだけ、その他の分野についてはほかの課のほうでやったらいいのかなと思うんですが、全部が観光、観光のためにこれをつけたというイメージがあんまりないように思うんです。体育館と公民館もそうです。学校の体育館、体育館は違うか、体育館は防災かな。いろんな分野でＷｉ－Ｆｉはつけているんですよ。だったら、そのように分けたほうが非常に分かりやすいと思うんですが、その点いかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

今、Ｗｉ－Ｆｉのほうのところを分けたほうがいいじゃないかということございましたけれども、先ほどの10ページ、企画調査費、こちらのほうに今、Ｗｉ－Ｆｉ５市２町の事業ということで予算関係ということで集約をしてあります。元々、これ、それぞれに分けていたものを分かりづらいということで集約をしたのがあります。といいますのは、今、議員がおっしゃられたように総合体育館あり、小山城あり、いろいろなところ、公共施設のところに来ております。これはあくまでも交流人口の拡大という中で、５市２町のところは行っています。

ただし、総合戦略、先ほど総合戦略の中では、先ほど産業課長が申し上げましたとおり、先ほどの箇所のところに今、設置しているわけですが、それで今回このＫＰＩということで、

これも先ほど分けると分からなくなるということで、一つにまとめたほうがということで、目的として観光施策というところで、今回ここに11か所ということでまとめさせていただいております。

ただ、これは根本的な課題というかなるかもしれませんが、ステップアップシート自体があくまでも今、今回は主要施策ということで予算の決算資料ということで出させていただいています。このステップアップとしての考え方としましては、全体事業、いわゆるまち・ひと・しごと総合戦略もあり、シーガーデンシティ構想もありということで、多課にまたがって行われる事業もたくさんございます。それをこういう形で今１枚にしているということでございますので、逆にもし分かりづらければ、一つは分けるという方法もありますし、外すという方法もあるかと思いますので、今は分かりやすくということで、どこに位置づけられているかということで、今回お示しをさせていただいておりますので、この件につきましては、また今後検討させていただければと思います。

以上でございます。

○９番（増田剛士君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　204ページの消費生活費。７款１項１目３の事業です。

全協でお聞きをしました。この中で意外とやっているなと思ったのは、立入検査、業者の立入検査が２件ずつですけれども、６件か、よく頑張っているなという気がしました。その中で、こういう立入検査をするようなときに、私も最近また紹介をしたことがあるんですけれども、ここではチラシとかいろんな啓発活動を行っていますよと。確かに効果の中に、効果というか実績の中にありますけれども、これなかなか実際の現場というかいろんな現場に当たると、それも知らない人多いんですよね。だから、その啓発活動はもっとやっていただきたいということと、そういう啓発活動に関しては、まだほかにやる必要があると思うんですけれども、その辺はどんな感じをしていますか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

ただいまの山内議員からの立入検査についての御質問だと思うんですけれども、こちらすみません、立入検査の表示がここにちょっと入ってしまっているんですが、効果としてそこの今、啓発というものにつきましては、一般の方の消費生活相談のための啓発でして、この立入検査というのは、法に基づいて強制的に行くもんなものですから、啓発とかそういったものを行うものではなくて、もうその事業所等に強制的にこの日に入りますとか、抜き打ち検査もありますんで、通知しなくていきなり入る場合もありますけれども、そういったことでやっておりますので、啓発のものにつきましては、一般の方の消費生活相談ということで捉えていただければと思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　すみません、聞き方が悪かった。これは私の中でも当然２つ、分かれています。立入検査をして、そこまでよくやっていますね、という一つの、これから多くなってくる、大変な部分が出てくるでしょうけれども、ただ、その大変な部分でお聞きしたい

のは、もちろん啓発活動もそうなんですけれども、６階でみんなのいる前で対応してますよね。それとあと１階で場所を借りて。ぜひ場所を、例えば法律相談のような、あんな厳密なものではなくてもいいんですけれども、できるだけ周りと顔を合わせないようにできるような状況、要するになぜかと言うと、最近の世の中ってプライベート、プライバシーの危険性物すごい多くて、どこかの県でもやっていますけれども、人探しやるじゃないですか、ああいうことが始まる可能性あるわけですよね、本当に困っているときに。そうすると、言いたいことは、スペースをどこかに確保していただきたい。６階でもいいんですけれども、エレベーターから行けるように、そうすることによって、例えばそこにもっと気持ちを楽に行ける人、それとプライバシー、自分のことを知られたくなくても行ける人がいると思うんです。私も１回、相談に行ったことあるんですけれども。架空請求でね。でも、そういう人たちって結構いるんですね。ここで見ると件数たくさんいますので、そういう意味でもっと啓発活動と同時に、来やすくするため、それとプライバシーを守るため、そのスペースをどこかに取っていただく必要があるじゃないかと思います。それによって、もっとこの場所が活躍できる場所、人を助ける場所ができると思うんですけれども、そういうイメージとしての将来的なスペースの確保ということに関してはどうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　産業課長、髙塚進吾君。

○産業課長（髙塚進吾君）　産業課でございます。

今、山内議員からのスペースの確保という御質問でございますけれども、今、令和５年度、こういった生活相談のほうが60件ございました。内訳といいますか、電話の対応された方がそのうち45人、直接来庁されて来られた方15人いらっしゃいました。そういった中で、現状、相談は先ほど議員からもございました６階の相談コーナーと１階のロビーの相談室で行っており、今、人数等からも考えても特段問題が出ているということはございません。

あと、相談員につきましては、当然専門的な知識を有している方でございますので、プライバシーの配慮とか個人情報の取扱いとか、そういったものについては最大限配慮して行っていただいておりまして、特に配慮が必要で、周りの方に聞かれては困るとか、そういったものがございましたら、別室の会議室を取るなどして対応してございますので、現状の相談件数とかと勘案しますと、現状すぐに設置するということは考えておりませんけれども、またものすごい人数が増えて、ちょっと庁舎内のスペースの問題とかそういったこともございますけれども、そういったことがございましたらまた検討していきたいというふうに考えてございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、検討するということで、ぜひ、その辺のもうちょっと、これからそういう人が入っていくような気がしますので、ぜひ検討していい方向を探っていただきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩中に説明員の入替えを行います。

休憩　午前１０時１８分

再開　午前１０時２８分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員数は12名であります。

次に、８款土木費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　まず、214ページになります。道路維持費です。

全協でもちょっと聞きましたけれども、現在、除草のときの何ていうんですか、事故。事故というか、除草による事故ですよね。それが非常に多くて、毎回毎回同じようなことが同じような形で出てきますよね。この中には、既にやっていますよと、それに対する講習であるとか協議であるとかやっていますよと言いますけれども、同じことが出てきたときに、それはやっているんじゃなくて、ただ、それやらせてますよという話だと思うんですね。

私はここのところ、ここでなぜ聞きたかったのは、全協でも言いましたけれども、一度大型トラックのフロントガラスに傷をつけたというの、あったじゃないですか。私もその経験ありましたけれども、あのフロントガラスは傷つかないですよ、本当は、そんなに簡単には。私が１回やったことは、10センチくらいの石がダンプから落ちて、それでも割れません。駄目です、変えましたけれども。言いたいことは、ああいうものが飛んでいったときは、今まで本当に人身事故なかったんですか。人身事故というのは今までゼロと言ってたんで、やってますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

人身事故って、直接石が人に当たるという意味の人身事故ということで捉えてよろしいですか。そういったものはゼロでございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　これ聞いた理由というのは、うちの中に石が飛んでいってということも何件かあったですよね。最近、特にひどいですね、見ていてね、報告が。それで中を聞くと、保険で出しますからという形で当たり前のような形で返事しますよね。でも、保険制度考えるためには、絶対保険がゼロになったときにはゼロのはずなんですよ。そういうふうにもってこれ調べればすぐ分かりますよ。そのときに、私はそういうものの出すときに、さっき言いました除草剤。除草剤をうまく利用していくことが必要なことだと思うんですよ。県のときに集まったときに聞いたときには、国は、要は国交省ですか、国交省は許可を出しているよと、除草剤の使用。県は出してると返事なかったですから。吉田町はいろんな理由があって使えませんよね。除草剤を使用することによって、危険性、人身事故を含めた危険性が減ってくると思うんですよ。それと同時に毎回毎回同じような、できることもあまり進歩がない、ああいう進歩のないものじゃなくて、やっぱりそれに対する保護のための施策があって当たり前だと思うんですけれども、そういう形でまず除草剤に関しては、町はどういう

形を取っていますか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

道路等の草刈りの関係で除草剤の使用ということの中でお答えさせていただきます。

町のほうにおきましても、除草剤のほうにつきましては、使用のほうはしてございます。ただ、使用する箇所というようなものもございまして、それにつきましては道路沿道沿いにおきます場所のほうが、農地の近くにあると農作物のほうに影響があるとか、そういうようなところも考慮しながら除草剤のほうは使用させていただいているというような状況でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、除草剤の、農業の生産に考慮しながらという話がありましたけれども、実際、農家の人たちとは私、いっぱい友達、ここにも過半数の議員がやっていると思います。時期を、除草剤をまく時期があるんですね。必ずね。除草剤と例えば、除草剤の種類。前回、ちょっと環境課に聞いたときには、農業を生産をしたいところから下の部分に関しては、道路の土手もやっていますよと。そういうのを考えていくと、今言った中では、農家の人がもう間違いなく分かっているわけですよ、プロとしてのね。そうして彼らは、稲とかそれを守るためにラウンドアップも何を使っていいかってよく分かってますよね、倍率を含めて。

要するに言いたいことは、ああいう草、事故を減らすためには、それを農家の人、プロの知識を借りる、それからプロを巻き込む、費用弁償でもいいじゃないですか、そうやってやることによって、快適な空間ができるんじゃないかと思っております。その辺はどのような、農家の人たちをプロを巻き込んでやると、それが必要なことだと思うんですけれども、そういう考え方、国に関してはどうお考えですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

農家の方を巻き込むといいますか、農家の方とも御意見をいただきながら除草できるところにつきましては、除草のほうはさせていただくんですけれども、何分にも除草剤自体のものが環境への影響もございますので、そういうところも配慮しながら、使用できるところは使用していくというような形になるかと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、聞きながらという話が出ましたけれども、そうではなくて、その人たちをとにかく何でもいいですよ、協議会とか何とか、取り込んで、そうした人たちにやってもらう、動いてもらう。そうしないと、何ていうかな、本当の意味での除草が、安全な除草なんてできなくなるはずなんですね。ぜひその辺は考えていただきたいと思う。その辺はどうですか、うんとは言わないかもしれんけれども。ぜひそういう部分をしっかりやっていただきたいし、これから国はそういうことで出しているんであれば、県だって当然、上位法から並んでいくと思いますので、その辺はやっぱり、私たちもやらにゃいかんしと思っていますので、ぜひその辺、町のほうでもそういう形での対応、県とか国とか、そういうとこ

ろの対応を考慮しながら、考えながらちょっとやっていただきたいと思うんですが、それがやっぱり除草から事故をなくすための、本当、簡単で確実な方法だと思うんですよ、それはどうですか、その辺。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

除草につきましては、農業者の方、一般のボランティアの方を含めて、御協力いただきながらやっていただいているところもございます。そういうところの御協力も仰ぎながら、もちろん事故が起こらないような対策を図りながら、実施のほうをしていければというふうに思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑ありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

同じページなんですが、214ページ。

道路の修繕に関して、取組の一番最初の行に、道路穴の補修と良好な道路環境の維持及び異常部の早期修理に努めたという記載がございます。町では、ＬＩＮＥでの町民レポートやってございますよね。それでは、町民レポートによってそういったものが発見できたとかいうもの多分あると思うんですよ。そういった記載がここにはないんです。町としてすごいいい事業として始めたはずなんですよ、ＬＩＮＥ、町民レポートね。今までは町内会に言ったり何か段階を踏んでやっと補修にかかれる、それがＬＩＮＥによって町民の方も、ずばりその場でできる。これすごい画期的なことだよと言ってやり始めた。それについて、一切記載がない。これね、前年度もなかったんですよ、見たら。これってどうなのと非常に思います。町の事業としてやって、非常に、多分、記載がないから分かんないんだけれども、どれくらい効果があったかというの、本来、そういったことは載せるべきと思うんですが、その点についていかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

議員おっしゃるとおり、こちらの資料自体のほうには載っていない状況でございます。もちろん、載せていくということが分かりやすいといいますか、見え方がありますので、載せていくということがいいかとは思っております。

先ほども言いましたＬＩＮＥに関するもの、実績でいうようなお話でございまして、実績につきましては、こちらの令和４年８月から開始されたものでございまして、令和５年の昨年度までトータルといたしましては、件数として104件、件数ございました。そうしますと、月平均で大体５件ぐらいのＬＩＮＥによる通報があったと。ただ、その中には、道路異常、道路の陥没とかそういうもののあるものと、またその他としまして、道路ではない草刈りとかカーブミラーの要望とか、そういう別のものもございます。こちらのものにつきましては、町のホームページのほうに毎月の状況ということで、こちらのほうは載せさせていただいているというところはございますけれども、こちらのほうも載せていくほうがいいと思いますので、また載せ方につきましては、ちょっと検討させていただきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　載せ方については、何件でやってそのうち町に係るのが何件とか、載せ方はいろいろあるとは思うんだけれども、載せてなかったということに関しては非常に不思議に思うし、ぜひやることだと思いますので、今後、次年度、楽しみにしていますので、よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　227ページ、大窪川の件にいかせてください。

これも中で聞きましたけれども、全協で聞きました。227ページですが、８款３項３目の３の事業の14節です。改めて聞きますけれども、大窪川、物すごい進め方が遅い。それで、大窪川の長さと現在までの工事はどこまでいっているか。何年かけて、どこまで行ったか、幾ら使ったか、それ分かりますか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

大窪川の改良の関係でお答えさせていただきます。

計画延長につきましては、こちらの3.46キロメートル、これが全体の延長でございます。この中で、下流部から整備のほうを進めてきまして、現在まで1.7キロメートルが完了してございます。

あと、こちらのほうの事業の開始につきましては、平成２年から事業のほうを毎年開始してございまして、全体の今までかかった事業費につきましては、約10億程度かかっております。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　それと、今、半分までいっていないくらいですね。しかも、それが平成２年からだから、30何年かけて。なぜここで言おうとしているかというと、非常に地理的に、富士見幹線ができましたね、富士見幹線ができたことによって高さありますよね、あれができたことによって、あそこで北と南が分断されたんです。それで、その北の水を排水できる大窪川が杏林堂の横に１本水が通っていますよね、あれしかないんですよね。あれが上の水の全体を排水ができる。小さなところ大窪川の東名川尻幹線寄りにもありますけれども、それはもう小さくて、それほど距離が取れないと思うんです。断面取れないと思うんです。そのときに、今心配しているのは、北区が非常に開発がえらい速さで進んできていると。あの住宅の建設もそうですけれども、それと同時に、今回の10号の台風のときに湯日川が警戒が出たでしょう、氾濫の警戒が出ましたよね。初倉でも出た場所ですよね。でも、そのときに心配したのは、東名から上で事故がもしあるとなると、インターのところしか出てこれないですよね、水が。そのときには何が起こるかがもう目に見えていますよね。

言いたいことは、その距離もそうですけれども、三十何年かけて1.7キロなんて、もっと早くできませんかということです。これからの雨に関しては、日本中すごい洪水に関して発表されています。

北区でも床下浸水の神戸川を含めてだんだん大きくなってくるんですね、その辺のことを考えると、ぜひ早めな工事をやっていただきたいのと、それともう一つは、断面をしっかり

したもっと大きなものを造らないと駄目になりますよということを地元の人たちも話をしていると出るわけですよ。

その辺をこれから吉田町としては、あと残りの1.9キロをどの辺でやるような形を考えているんですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

事業の推進を図れというようなお話かとは思います。こちらにつきましては、町のほうとしましても河川の整備ということで事業を進めているというところでございまして、何分、大窪川、議員も御承知のとおり、河川幅が狭いということ、あとは、河川ということもございまして、こちらの出水期につきましては工事のほうができないという制約の中、事業のほうを進めさせていただいているところでございます。そういう中で、町としましても鋭意努力しながら進めているところでございますので、何分ちょっと時間等はかかってしまうということもありますけれども、下流域から随時、事業のほうを進めていきたいというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　順次というのはいいですけれども、できるだけ早い時期にやっていただきたいのと、それと、今シミュレーションをかけて湯日川やっていますよね、そういうものをちょっと今の状況だとシミュレーションをかけた段階でやっていかないと、多分追いつかない。これだけならいいだろうという60ミリぐらいじゃもう駄目ですよね、恐らくね。テレビを見ている限り、瞬間的にみんな100ミリを超す数字が出ていますからね。そうしていくと、やっぱりもっと危機感というか、本当に危機感を持たないと危ないことになる。特に杏林堂の横の、これからあそこの沼地を開拓していくと思うんですけれども、あそこももう水がたまるところで、ほとんど遊水地、田んぼがどんどん、どんどん減っている状況です。その計算も含めて、町だけの計算じゃなくて、もっと大きな全体的な計算をやっていただきたいとは思うんですけれども、そういうのをやらないと大変なことになると思うんですけれども、その辺のお考えありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

河川のほうの整備のというところでのお話かとは思うんですけれども、今、国のほう、県のほうも含めまして、河川自体だけの対応というのはなかなか難しいということの中から、河川の流域の関係者がどのような形で治水対策をやっていくかということで、流域治水の考えに基づいて今河川整備であるとか、町のほうでも、この大窪川もそうですし、今回、住吉のほうで令和６年行います、第３号ポンプとかもそうですけれども、そういうような対策をやっていってございます。ですので、全てが河川というようなものではなく、流域全体でどのような形でやっていくかというところも捉えながら考えていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ぜひそれ早めにやっていただきたい、本格的にね。それと同時に、地

元によく知っている人たちがいるじゃないですか。今回のあそこにちょっとやったやつは、昔の水が噴出するようなところ、要するに、そういう昔の人たちの過去の状況とか沼地とか、そういうものを聞きながらやっていただく、それが大事だと思うんですよ。ぜひ、地域の人たちを含めたやり方、考え方、そういうものをやっていただきたいと思うんですけれども、どうでしょう、その辺は。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

今、地域の方といいますか、住民の方も含めてというようなお話かと思いますが、これにつきましても、湯日川の流域の計画を作成させていただくときにもそうですが、地元のほうに入らせていただきまして、実際の河川が浸水した位置、痕が残っているとか、どれぐらいの水位になったとか、そういうのを聞きながら作業のほうは進めて、実際のシミュレーションとかをしたようなものを作成もしてという経緯がございます。地域の方も含めた中で、町のほうもそういうような聞き取りをしながらやっていくということは、これからも変わりはないかと思っておりますので、そういう考えの中で進めていきたいというふうに思ってございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ぜひやってください。その中で、本当に困っているのは地域の人たちですね。地域の人たちの意見を聞くのと、それと同時に、これからやっていくでしょう、どうしたらいいかとシミュレーションをかけるときの説明、納得できる説明、それをやっていただかないことには、周りの人たちが、ちょっと今も来ていますけれども、そういう話が出てきますので、ぜひそれは心においてやっていただきたい、説明を含めてやっていただきたいと思います。

それと、もう一つは、232ページのＴＯＵＫＡＩ－０に関してお願いします。

今現在、木造住宅の耐震補強工事を14件やっていますよね、工事をね。14件というのは本当に異例で、今までの３倍から５倍くらいの勢い、私も今一生懸命やっているところがあるんですけれども、そういうのを見ていくと、これ令和７年で終わりますよね、事業。そして、今、能登半島地震と南海トラフ地震と、あとそれによって気象庁の発表によって、今、当然町の人たちを含めて耐震の診断であるとか、影響がすごい勢いで出ています。私も何件か聞きますので、それに関しては、本当に守るために時間を割いてやっていますけれども、ぜひその辺は地震に対する継続というか、令和７年に終わりますけれども、私、物事が終わるのは終わり方が一番大事だと思うんですよ。どういうふうな形でＴＯＵＫＡＩ－０、令和７年で終わろうとしていますか、継続も含めて。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

たしか先日の全協のほうでもお話をさせていただいておりますが、令和７年度でＴＯＵＫＡＩ－０事業は終了するということにはなっております。わが家の専門家診断については６年度で終了するということになりますので、ＴＯＵＫＡＩ－０事業、耐震補強工事につきましては令和７年度もございますので、これまで我が家の専門家診断をやった方々で補強まで進んでいない方等を個別訪問をしたりとかということで、木造耐震補強工事をやっていただ

くような方を１件でも増やしていくような取組として、個別訪問であったりとか、そういうことを建築士の皆さんの御協力をいただきながら、そういった個別訪問等を進めていきたいと考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今、今まで一般診断をやった人という話がありましたけれども、事情があってできなかった人、やれなかった人ほど実際には危機感を持っている人たちはいませんので、能登地震から南海トラフ。それによってみんな危機感を持ち始めましたから、ぜひ、終わると同時に、これからどういうふうにするのがいいのかというのは、県とか国から出てくると思うんですけれども、それに上乗せしたように町がやっていただきたいんです。

あと、耐震補強の目的というのは、我々は勉強する中で、建物の倒壊を防ぐわけではないんですね、倒壊を防ぐのを止めようとしているわけではなくて、倒壊はすると。必ず震度７、例えば８になっても倒壊をすると、そういう前提で、命を守るための逃げる時間だけを確保しなきゃならないのでやっているわけです。そうすると、瞬間的な倒壊を免れるためには、能登半島地震での映像を見たとおり、ほとんど昔の屋根のうちは瞬間的に亡くなっています。阪神もそうです。死者はほとんど即死ですね。それを踏まえていくと、屋根の軽量化とか、そういうものが一番の処方箋になるのは分かっているんです。その辺でこれから倒壊の時間を稼ぐための要素である補強の政策、そういうのを早めに出していただいて、そうしてやっていただくことが我々はその使命を全うすることだと思っていますので、必ず来ます、どんな建物もね。

今回、能登で起きた建物の地震は初めて出ました、パイルの柱頭が耐えられなかった、液状化によってね。だから、どんどん変わってくるんですね、建物は。例えば、この建物の基礎がパイルを使ってありませんので、ああいうものはないんですけれども、何が安全なのか実際は分からないですね。そういう意味で、ぜひ補強の政策、我々も努力しますけれども、速めな方向を出していただく、そうしてやっていただきたいと思うんですけれども、その辺はどういうような形で出していくのか。あと１年ですから、もう時間はリミットですよね。ぜひその辺を詰めてもらってやっていただきたいと思うんですけれども、その辺はどうですか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　山内議員の御質問は、令和７年度は終わって、令和８年度以降の話ということでよろしいですね。

令和８年度以降も国の補助金は残ります。県のＴＯＵＫＡＩ－０は令和７年度に終了するというふうに聞いておりますが、国の補助金は残りますので、補助率、補助額等につきまして今後検討していかなければいけないと考えていますが、町としましては、やはり１人でも多くの命を守るために、耐震補強工事につきましては継続をしたいというふうに考えています。

ただ、今年の能登半島地震が起こって、当然、国のほうもその追加策みたいなものを考えているようですし、県も何らかの検討を考えているんじゃないかというふうに考えておりますので、その県と国の動向を注視しながら町も進めてまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　最後になりますけれども、今言われた計画的なもの、数字的なもの、どのぐらいに我々に教えていただくことができるんですか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　時期につきましては、今のところ、私ども県のほうに確認しておりますが、今のところ出していただける情報はないというふうに聞いています。ですので、それにつきましては、常に注視をしながら確認してまいりたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　215ページの町内道路舗装修繕事業です。これの当初予算が9,500万でした。令和２年から令和４年まではずっと6,000万だったんですが、この3,500万を当初予算で増やした理由は何でしょうか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

当初予算を増やした理由というようなお話でございます。これにつきましては国の交付金のほうの要望、あとは事業の中では起債等も使いながら、できる限り補助、いろんなものを使いながら進捗率を伸ばそうというようなことを考えまして、予算につきましては計上のほうをさせていただいたところでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　例年ずっと6,000万でやって、200万から1,200万ぐらい減らされて徐々にやってきたと。それ以前は、ぱーんと補助金を減らされて執行率がかなり低い状況だったと思いますが、6,000万が4,000万ぐらいなるけれども、まずは執行率として100％ぐらいだと。

今答弁で、予算を国の交付金、補助金、これ財源内訳ではほとんど増やしていませんよね。４年ぐらいまでは6,000万に対して3,000万で50％国庫支出金としていたのを3,500万増やした部分に対しては、国庫支出金は3,300万と300万増やしているだけで、あとは町債と一般財源で何かやりますよと言っていたわけです、予算上は。それが交付金がむちゃくちゃ減らされたわけです、4,200万ぐらい減らされた。この理由は何でしょう。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

こちらにつきましては、国のほうからいただく交付金のものになりますので、ちょっとどのような事情でというと、なかなかうちのところも分かりにくいところかとは思うんですけれども、国のほうにつきましても施策をする中で重点的なものがどういうものかというのを定めながらやってきているものかと思います。その中で、今回につきまして町のほうといいますか、この舗装に対する交付金がつきまして、率のほうが低かったというようなことの感じでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　交付金が減ったというのは、要するに3,300万が600万になったわけで

すよね、予算からすると。それに伴って町債も一般財源も下げているわけです。当初予算としては、交付金はそれほど増やさないけれども、町債と一般財源でしっかり何がしかをやろうという意思があったんだと思うんだけれども、交付金が下げられたら、すっと下げてしまった。一番最初におっしゃったように、しっかりとやっていきましょうと、今までに比べて５年はしっかりとやっていきますという話なんだけれども、結果的には、例年と同じように4,000万ぐらいの決算になっているわけです、ちょっと繰り越してはいますけれども。だから、町がやりたかったことがやれているのか、最初はやりたかったけれども、結局は例年並みに終わったと言っているのか、そこはどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

事業的なものをちょっと内訳お話しさせていただきますと、交付金に係るもの、これ社会資本整備交付金を活用しての舗装事業が予算の中で9,500万のうち6,600万でございます。あと、そのほか、公共施設等適正管理推進事業債、これ起債のほうになるんですけれども、この起債のほうを活用したものが2,900万でございます。2,900万円の起債につきましては、工事を行っていると。これにつきましては事業伸縮を図るためにやっていく。

あと、町の方向性といたしまして、交付金を活用しながら事業を進めていくということを考えてございましたので、内示率が低かったという中で、そのものはちょっと下がってしまって、その分につきましては補正で減額をさせていただいたというところでございます。ですので町としましては、舗装自体、当初計画でやろうとしていたところはあるんですけれども、起債対応でやろうとしていたものにつきましては、事業としては進めさせていただいたというところになります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうすると、今までの流れを継続して、より進度を速めますというのではなくて、今年はここをやるぞというものを決めていました、従来の流れを継続して、それを進捗しよう、２本柱がありました、国庫補助金をもらうほうは減らされたんで、そんなに進捗しませんでしたけれども、町が町債とか一般財源で押えていこうと、やっていこうということはしっかりやれましたというお話でよろしいんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　今議員のおっしゃったとおりでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　じゃ、最初に町が町債と一般財源でしっかりやりましょうと言っていたところはどこなんですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　その部分が今言った公共施設等適正管理推進事業債を活用したものをやろうとしていたものでございます。起債につきましては、社会資本整備交付金の裏負担分、これも起債がございますので、その部分については下げさせていただいているというところでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　交付金がどうのこうのじゃなくて、どこをやったんですか、工事として。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　すみません、工事箇所につきましては、町のほうで実施したところは、今回実施したところは中臨港線、吉田中学校の総合体育館のほうに向かうところの道があるかと思うんですけれども、その学校の中間地点ぐらいのところに道がございまして、そこから旧県道、焼津榛原線になるんですけれども、そこのところの箇所を中心に舗装のほうは実施をいたしました。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そこを町債と一般財源でしっかりやっていこうと、今年の目標にした理由は何ですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

それにつきましては、道路の状況等を見ながら、町のほうとしまして不具合といいますか、道路穴が多い箇所のところを中心にやろうということで決めてございます。これは町のほうで路面性状調査ということで調査をやっておりますけれども、その調査の中でも、そこのところの箇所が悪いということで判定が出てございますので、そこのところにつきまして、今回、令和５年度につきましては工事をさせていただいているというところでございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今までは何がしかの計画があってという話で、国の補助金をもらいながら進めますという話だったんだけれども、今後は、そういう調査の下、路面の悪いところに関しては補助金なしでもしっかりと町としては対応していきますということでよろしいんですか。

○議長（大石　巌君）　建設課長、栁原真也君。

○建設課長（栁原真也君）　建設課でございます。

こちらの事業債につきましても、いつまであるかというところもありますので、ちょっと一概には言えないんですけれども、基本的には舗装につきましては、できる限り打替えといいますか、表層を改良していくとかという方法を取っていければというふうに考えてございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔発言する人なし〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

次に、飛びますが、11款災害復旧費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

暫時休憩とします。

休憩　午前１１時０７分

再開　午前１１時０８分

○議長（大石　巌君）　それでは、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開します。

ただいまの出席議員は12名であります。

次に、９款消防費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木　栄です。

９款消防費です。決算書251ページ、説明書の250ページ、消防費の特定消耗品費、補修材料費ですが、水防費の特定消耗品費と補修材料費というのは浸水災害に備えるための土のう袋と砂であるというふうに伺いました。豪雨が少なかったことによって執行率が低くなっているということでございますが、効果として、降雨前に浸水被害への備えが迅速にでき、浸水被害を軽減することができたとあります。実際、浸水する地域に住んでいる人たちからは、土のう袋が近くに置いてあるから必要に応じて使えるということで、大変喜ばれております。

私が住んでいる住吉の西浜町内会では、８月31日の台風による豪雨で住吉川があふれてしまいましたので、住宅への浸水を防ぐための土のう袋を使っております。津波避難タワーＣのところの階段下が土のう袋置場として使われているわけですけれども、台風の後、土のう袋の状況を見に行ったら、かなり数が少なくなっていました。住吉川は大雨が降ると満潮時のときに坂口谷川が逆流するものですから、よくあふれることがあります。それは皆さん、ご存じだと思います。備えあれば憂いなしということで常に必要な数を備えておくことが必要だと思います。土のう袋の備えについてはどのような方法で対応しているか。この間見たときに少なくなっているものですから、すぐまたあったら足らないかなというふうに思ったものですから、その辺どういう方法で常備できるような形になっているかお伺いします。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

土のう袋というお話でございました。大雨が予想されるときに、各家庭で土のう袋を敷き並べるということは、住宅地への浸水を防ぐ対策としまして有効な手段の一つというふうに考えておりまして、町におきましては、かなり前から土のう袋をストックして町民の方から要望があった際には配布のほうを行っているという状況でございます。

そんな中、議員御質問の津波避難タワーＣのところでございますけれども、ここは令和２年に当時の西浜町内会長から土のうがすぐに取れるようにということで、この場を土のう置場として使用したいという御要望をいただきました。これを受けまして、町ではそのときに土のう袋200袋をお渡しして以降、この場を御利用いただいているという状況でございます。この土のう置場の管理につきましては、基本的には町内会のほうにお願いしていまして、土のう袋の処分や詰め替え、また養生するためのパレットだったり、ブルーシートというあたりの手配も町内会のほうでお願いしているという状況でございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　管理は町内会ということでありますが、実際、袋が足らない状況、そこへ最初200袋なら、200袋常に置いていないと心配なわけですよね。100使っちゃったもんで、100しかないからもう100欲しいという場合は、それは誰が、どのような形でそこへまた供給するというようなことになるんですかね。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

令和２年、利用開始のときに、管理は町内会というお話をさせていただいたんですけれども、足らなくなった場合の補充というところの取り決めがしっかりなされていなくて、また、ちょっと引き継ぎ等もうまくなされていないということで、今回少なくなっているという状況を受けまして、再度、西浜町内会長と調整させていただきまして、取りあえず今、50袋のほうを提供したという状況でございます。

今後につきましては、また在庫管理はしていただく上で、必要な数等が分かったら町のほうで材料等を手配して、保管してもらうような形をとっていきたいというふうに考えています。

また、製作等については、ほかの町内会でやられているところもあるんですけれども、防災訓練とか、そういった土のう袋を作っているというところもございますので、西浜町内会につきましても、今度の地域防災訓練でこういった土のう袋を作っていきたいという意見もいただいていますので、そういったふうに管理のほうはしていただけたらというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巖君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

補充は50袋提供したということですけれども、これは砂を袋の中に詰めるということを誰がして、それをそこの置場まで運ぶというのは誰がやったんですか。

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

この50袋につきましては、町でストックしております土のう袋を役場のほうに取りに来ていただいて、お渡ししたということでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

これ砂と土のう袋の使った金額があって、砂はそんな物が変わるということはないと思うんですが、土のう袋、今よく白い土のう袋を使われているんですけれども、結構あれ、ある程度日がたったりすると耐久性に欠けるというか、ひなたなんかに置いておくと余計悪くなるんですけれども、持ったときにぼろぼろとばらけてしまうとか、あまり物がよくないんですよね、一時的なものであると思うんですけれども。もっと物がいいのでないと、ストックしておくには、いざ使うときに持ったら袋から砂が出てしまっては困るものですから、砂と土のう袋は町のほうが準備してストックしておくよという話なものですから、ちょっと見回ったら、新田の体育館のところの避難タワーの下にも土のう袋が置いてあったけれども、その中には黒い丈夫な袋で作ったのがあったんですよ、あれなら結構長もちするんじゃないか

と思うんですけれども、袋をもっと物のいいのに替えるということは考えられませんか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

土のう袋の種類なんですが、町でも以前はその白いのを使っていたんですけれども、やはりちょっとすぐ劣化してしまうという弱点がございまして、何年か前からは、議員おっしゃいました耐候性、黒いやつを使用するようになっています。全て黒いものにしているかというと、単価も白いものに比べれば４倍ぐらいかかりますので、一部のそういった黒いものも使いながら、あとは用途ですね、長期間置くとか、何回も使うというのは耐候性なんですが、一過性のものであれば白いものと、そういうふうに用途によって使い分けているような状況です。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

今回50袋は従来の白い袋ですか、それともいい袋でやったんですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

今回お渡しした50袋につきましては、黒の耐候性のものです。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

この５年度は執行率が少ないということでありますので、その年の天候とか、雨の具合でそれを使うか使わないかというの変わってくると思いますけれども、今、袋が３倍、４倍するよという話ですけれども、３倍、４倍しても耐久性が何倍もいいものですから、要望になるかもしれませんが、できれば袋をいいものにして、常に備えおいて、いざというとき不備がないような形でしていただきたいというお願いになるかもしれませんが、その辺はいかがでしょうか。これからいいのに替えるということで。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

その辺につきましては、町内会と調整しながら、用途とか必要に応じて対応していきたいというふうに考えています。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかにありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書251ページ、地震対策費です。そこの説明書の効果に大井川と坂口谷川において想定される最大規模の津波の遡上シミュレーションを実施することにより、全周防御の構築に向けた基礎資料を作成することができたというふうに記載されています。この基礎資料の目次として、どういう項目がその資料の中には入っているんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

これはまさに河川遡上をシミュレーションした令和５年に実施させていただきました吉田

町津波遡上シミュレーション業務委託というものの成果そのものになります。この業務の内容につきましては、資料を収集して、モデルも構築して、モデルというのは壁立てといいまして、海にこういう壁、川にこういう壁というＬ２対策を設定した上でシミュレーションをかけたときにこういう挙動になりますよという資料と、あと、結果を取りまとめとして、堤防全面における遡上高の抽出をして現況堤防高の比較、あと、今後どのように進めていいかというところをまとめたもの、こういったものが成果として上がってございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そのシミュレーション結果として大井川と坂口谷川、どのくらい遡上するという結果が出たんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

以前も質問の中で、大井川につきましても坂口谷川につきましても影響はあるということでお話をさせていただいたと思うんですが、ただ、この結果についてはまだ公表しているものではございませんので、先ほど申し上げましたとおり、このシミュレーションというのは海岸線が変わってきております。川尻工区、また今後進めていきます住吉工区、あと吉田漁港にもＬ２対策をばんとやったときのシミュレーションでございますので、ちょっと現状と違うということでございまして、まだ今公表するときでないということで、どこまで遡上するというのは今差し控えさせていただきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　シミュレーションやったときに、大井川の隣の焼津とか、隣の牧之原はもうシミュレーションの中には入っているのか、大井川と坂口谷川だけのシミュレーションなのか、そこはどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

焼津市さん、牧之原市さんというお話ですが、基本的に大井川と坂口谷川の今の堤防を使うようなことでの評価をしていますので、それも考慮してというところにはなります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうしたときに、今、防潮堤というのは川尻ができて、住吉を造ると、漁港も狭めてやるというのが前提なんだけれども、全周防御という観点では大井川の土手を上げるか堤防を上げる、坂口谷川も上げると。今の段階では上げる必要があるのか、ないのかということも答えられないでしょうか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

全周防御を実現させるためには、大井川につきましても、坂口谷川につきましても何らかの堤防のかさ上げ等の処置は必要になってきます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうすると、結構今、両方とも高いんだけれども、堤防ね。それ以上に、今以上に対策をしなければならないとすると、吉田町の津波ハザードマップ、全然それしませんと伝えているわけです。それに比べて、12メーターぐらい防潮堤防あったと思うんですが、それを直さないかんくらいに遡上するという結果が出たということですか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

壁立てをした上でのシミュレーションではございますが、今お示ししていますハザードマップ、あれもかなり大井川のほうも遡上するようになっていますし、そこからこぼれてくるのも考慮した上での今の吉田町津波ハザードマップになっていまして、それを越えるということではないかと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今のハザードマップは距離的にはちょっと陸地よりも先まで行くけれども、全然堤防を越えるようなレベルの遡上ではないというのがハザードマップの結果なんですよ。なぜなら、これは大井川を地形として計算しているからそういう結果になっています。川とは考えていませんというのが吉田町の今の返答なんです。だから、かさ高とすれば、もう堤防に比べれば全く関係ありませんというぐらいのハザードマップの結果が出ているんだけれども、今、この各川の堤防を何がしか手を加えなければならないという結果が出ているんであれば、かなり水かさは上がってくるということだと思うんですが、そうなんですか。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

Ｌ２津波の津波高というのは９メートルなので、河口部の嵩さって6.2しかないじゃないですか、なので川のほうからもあふれることを含めたシミュレーション結果になっているというふうになっています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　前提は、川尻、住吉防潮堤11メーター、告知は分かりませんけれども、造りました、漁港にも入らないように狭めました。津波が来ました、津波の逃げ場がないわけですよね、ぶち当たるわけだから。じゃどこに逃げるんですかと。そうすると、一番近い逃げ場は大井川と坂口谷川じゃないですか、それをこう遡るでしょうという話。今の話だと、そういうシミュレーションをやると大井川の堤防も何がしか手を加えなければならないという結果が出ましたということは、かなり大井川の水かさが上がってくるというシミュレーション結果です。そうすると、ずっと先まで、下手すりゃ島田のほうまで行くというような結果が出ているのか、その辺、公表しませんというから分からないんですよ。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

具体的なことはまだ公表できないという話だと思うんですけれども、言われるように堤防ができている影響も受けた９メートルの水が河川を遡上していくんですけれども、河川というのは勾配もありますし、特に大井川なんかは川幅が広いもんですから、ずっと上がっていくわけでもないというのと、河川の堤防というのは高いところから低いところに向かって流

れていくんで、レベルでいっても島田のほうまで行くような話にはならない。その２点で、収束をしていくんですよね、ずっと。なので、もうはっきり言っちゃうと、大井川に関して言うとびっくりするほど遡上はしないです。堤防を越えるようなところがどこまでいくかというのは、あんまりびっくりするような値は出ていないです。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうすると、その堤防、手を加えなくても住吉川の防潮堤、漁港を狭める、そうすると全周防御というのはその時点で吉田町はできるということでよろしいんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

ちょっと先ほどからも言っているんですけれども、あのＬ２の津波高はそもそも９なので、河川堤防の堤防高は6.2しかないですよ、河口で。なので、もう３メートルそこでは越えるんです。海岸の防潮堤は上げたんですけれども、河川のほうは上がっていないので、そこは越えるというところがある程度出てきちゃうということになります。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　堤防の高さが10メーターぐらいあると思っていたんで、いかないのかなと思っていたんだけれども、そうすると、そのシミュレーション結果をいつ公表するかだと思うんです。少なくとも今の津波ハザードマップは大井川、坂口谷川全然遡上しませんと言っているわけです。そうすると、北区は安心しているわけです。ああ、遡上というのは、要するに大井川の堤防を越えるようなことはありませんと、結果は。そうですよね。色で変えていって、少しは上に上がるけれども、全然堤防を越えるようなことはありませんというのが今の津波ハザードマップなんですよ。

今の話で、これが防潮堤ができると大井川の堤防を越えるという結果が出ています、だから吉田町は大井川と坂口谷川をかさ上げするのをやります。そうしたら、この防潮堤ができた時点で大井川と坂口谷川の堤防も上がっているのであれば安心してください、全周防御できましたという話になるんだけれども、まず防潮堤だけできて、こちらが堤防が上がっていないとすれば、今までは海側から来ると言っていたのが、川からきますと、今度の吉田町は。今、北区、片岡は安心しているわけですよ、まあ、来ないだろうと、津波ハザードマップを見て。ところが、川側から来るという話になると、いやいや、そうじゃありませんということを町民の皆さんに知らせなければならないんじゃないですか。だから、堤防が上がる時期が、上げようとしている計画がどうなのか、住吉ができるのがどういう時期なのか、それに合わせて町民の皆さんにも危険度というのは知らせなければならないと、状況、状況において。そういうお考えがあるのか。今おっしゃったように、いやいや、そんなに越えませんよと、懸念はありますけれども、しっかりと堤防を上げて完全に防御しますと。来たとしても心配するほどではありませんと。その辺がどうなんですか。できた時点で堤防が今のままなら越えるんですか。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

まず、今の浸水シミュレーション、海岸ができていないときの浸水シミュレーションとい

うのはあると思うんですが、あれは海岸から越える分と河川から越えるのも含めたシミュレーション結果になっているというのが１点あります。

ハザードマップの更新につきましては、現時点では川尻しかまだ防潮堤は完成していないので、防潮堤に関しては住吉ができて防潮堤ができたという話になるもんですから、どの段階でハザードマップの更新をするかについては、現時点では考えていないんですけれども、防潮堤ができたタイミングとかでするのかしないかも含めて、検討のほうをしたいなというふうに思います。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今現在の津波ハザードマップは、私の認識では、大井川と坂口谷川の川側来るということはないと。あの色を見たら越えるとは言っていませんよ。浸水域がどんどん増えていって、１メーター幾ら、幾らと色分けして出ているんだけれども、大井川とあそこに対してはそんなに、６メーターというような結果は全然出ていないから、本当に大丈夫かという話を今までしてきたつもりだけれども、今の話じゃ、今現在でも来たら越えますと言われると、全然前提が狂ってくるんだけれども。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

現在、このハザードマップなんですが、大井川も坂口谷川もその堤防とかの地形は考慮した上でシミュレーションをかけています。ただ、川の水というところは反映をされていないんですけれども、地形としては、上がってくるのがそういう堤防の中での結果になっていますので、ある程度越えるのも加味した上でのハザードマップだというふうに理解しておいて、地形としてです。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今の地図で、大井川を越えるということを示していますかと。そんなに高く上がるという結果じゃないでしょう。一番河口側は何メーター上がると言っているんですか。河口側は６メーター、７メーター上がりますと色で変えていますか。

○議長（大石　巌君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

現在のハザードマップでございますが、今回のシミュレーション結果では遡上するであろうというところの色は、大体今のハザードマップでどれぐらいかというのは、数メーターかなと思いますが、さほど変わらないのかなというふうな理解であります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

津波というのは９メートルで来るんですけれども、ずっとその９メートルが並行して町の中に入ってくるという結果ではないんですね。９メートルはピークのときであって、上がってきて、中に入った水が拡散してくるので、必ずしもそういう６メートルとかという結果が出るわけじゃないというのがまずあるのかなと、ちょっと聞いてて思ったんですけれども、違いますかね。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　９メーターの話は今はしていません。今吉田町が公表している津波ハ

ザードマップで大井川を越えるという結果は、私としては出ていないと、その地図から見るんです、越えるとは出ていないという認識なんですが、今でもそれを越えると言われると、今までの考えが全然違うんだけれども、そこはどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

そこは越えます。ただ、海のほうから入ってくる水と比べて、川のほうから回り込んで入ってくる水というのは絶対量が少ないので、比較的影響は少ないのかなというふうに思うんですけれども。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今、手持ちにないので、大井川の浸水の一番高いところって何メーターになっていますか。

○議長（大石　巌君）　ちょっと休憩をします。確認をお願いします。

休憩　午前１１時３８分

再開　午前１１時４０分

○議長（大石　巌君）　休憩を閉じ会議を再開します。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今のハザードマップと新たに両方の防潮堤ができたときでも基本的には変わらない、９メーターが当たるわけですね、防潮堤に。今までのこのシミュレーションはもう越えますよと、海側から越えますというのを前提にしていたんだけれども、逃げ場とすれば川に行きます。それはいいですかね。

〔「多少は」の声あり〕

○７番（平野　積君）　多少はという、要は、こういう波が来るんじゃないと私は津波は思っていて、高いのがこう来るんだという話だと思っている。そうすると、当たると逃げ場がどこかないといかんですよね。そうしたときに、大井川、坂口谷川に逃げ場として行くと、今のシミュレーションよりはほとんどが越えていたものに比べて、たくさん上がるというイメージを持っているんだけれども、シミュレーションを実際にやってみるとそうじゃなくて、そんなに、従来どおり越えないようにしなければならないんだけれども、今の結果以上ではない。そうすると、町民の皆さんも北区が心配だと。そういうことはなくて、今までどおり海岸、河口部分のところをしっかり上げれば全周防御ができますという結果が出ましたという理解でよろしいかなと、そこなんですよね。

○議長（大石　巌君）　理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　佐藤です。

今の議員のお話にあったとおりの結果になっていると思います。結局、海側を閉じても、川側から回り込んで入ってくる水というのは、結局海側から入ってくる水の影響よりは少ないので、多少、川側に回って入ってくる水は残ったとしても、今の想定を超えるような結果にはならないです。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ちょっと今聞いていて、何言っていますかという話ですよ。理事、ちょっと調べてほしい。津波というのを勘違いしている。東日本で津波で白い波が来たでしょう、あれは何段か上の８メートルから上の波の白さなんですよ。要するに津波って、こういう波の上にぼんと出るじゃないですか、輪っかが、落とすと。あれが何段も何段も来て、上に上に上がっているわけです、どんどん、どんどん。それが津波なんですよ。皆さん多分考えているのは、津波がどーんと来ると思っていませんか、そうじゃないですよ、上へ上がっていくんです。その結果、調べました。私が調べたのは、坂口谷川は東名のあの坂部のトンネルありますね、向こうへ抜ける、坂口の農協、あそこにトンネルあるじゃないですか、越える、昔、あそこに住んでいる人の本当おじいさんに聞きました。坂口谷川の手前の橋まで来ているんです、津波がね。貞観地震のときです。そのときには、能満寺の南側で大勢の人が津波で亡くなっています。あれは津波がどーんと来るんじゃなくて、どんどん、どんどん上がってきて、その上がってきたやつが盛り上がってくるという状況。そうでないと、名取の仙台空港のあそこまで行きませんよ、絶対に。あの川を見ていてもそうなんですよ、ずっと上がってきますから、上へ上へ上がってきますからね。

それで、もうちょっとね、僕はハザードマップ、はっきり言って信用していないです。北区、来ます。北区の今までの地震の経験でいろいろ話を聞いていくと、そうなんです、あそこのはばたき橋を越えているはずなんです。

多分、津波って、そのやつは地質学者の津波の話じゃないじゃないですか。流動体って違いますからね。その辺はもうちょっとやってほしいし、必ず来ますよね。それ、本当に調べてみてください。坂部の小学校のところなんか楽に行きますよね。どこまで行っていますか、津波。

○議長（大石　巖君）　山内議員、今、決算の中でのシミュレーションの話ですので、今のそういう状況についての話は、また別のところでしていただけますか。

○８番（山内　均君）　何で、平野議員が言って、俺が駄目なの。そこをちょっと教えて。

○議長（大石　巖君）　シミュレーションからの話ですので、今、それについては解釈の問題でなしに、決算。

理事、佐藤慎一君。

○理事（佐藤慎一君）　津波の現象みたいなものは理解していまして、最大津波高というものは、そういうものを基に出されているということでちゃんと理解していますので、その点については理解していますということで回答させていただきます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　一つだけ言わせてください。

沼津に来た津波が防災センターに行くと高さがあるじゃないですか、30メートルぐらいです。見たことありますか、静岡の防災センター、行ってみてくださいよ。今の話ししていたら、そういう話にはいきませんよ、絶対。駿河湾自体が盛り上がるわけですから、ぜひその辺はもうちょっと調査をやってみていただけませんか。そんな簡単なものじゃないはずです。何度も言いますけれども、今言った安心なんか誰もしていません。その辺お願いしますね。

○議長（大石　巖君）　ほかの質疑に変えてよろしいですか。

〔「議事進行」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　危機管理監兼防災課長、田邊　誠君。

○危機管理監兼防災課長（田邊　誠君）　防災課でございます。

今、議員おっしゃられました信頼度というところでございますが、平成23年度に作成しました吉田町津波ハザードマップ、皆さん御存じのとおり、当時、東京大学地震研究所の都司嘉宣理学博士に御指導いただいて、そういった過去の事例なんかも全て調べられた上でできたものというふう認識しております。

今回、令和５年度に実施しました津波遡上シミュレーションも静岡県の第４次地震被害想定の中で吉田町に最大浸水域をもたらした南海トラフ沖大地震の検討ケース６というもの、最大のものを用いて検証していますので、そういった意味では間違いがないシミュレーションだというふうな認識でございます。

以上でございます。

○議長（大石　巖君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　過去に、今その話を聞いていくと、能満寺のところまできて、あそこで何人かが水死したと、そういう碑もあるし、歴史もあるんです。でも、今の話だとあり得ないでしょう。東大のなんて信用していませんよ、私はね。現地を見たときにそうなんですから。多分、都司先生はそこまで調査していないと思います。僕はあれを見たときに、太平橋と富士見橋の中間で津波は止まっていたと、そんなばかなことあるかと思っています。それは、東日本のときにあれだけ上がっていった、名取空港を越えて堤防まで上がっていった、高速道路まで上がってきて止まったんですね。その辺もしっかりとしたあれをやってくださいよ。決算だからこそ言うしかないじゃない、どこで言いますか。諦めますか。それは本当に頼みますよ。

〔発言する人あり〕

○議長（大石　巖君）　議案に対する質疑をお願いします。ここでは、それぞれ議員の意見の表明の場所ではありませんので。

ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　なければ、これで質疑を終結します。

ここで暫時休憩とします。

休憩　午前１１時５０分

再開　午後　零時５６分

○議長（大石　巖君）　それでは、皆さんおそろいですので、休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開いたします。

ただいまの出席議員は12名であります。

次に、10款教育費についての質疑を行います。

質疑はありませんか。

３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

説明書257ページ、教育委員会費の中の旅費に関して伺います。

令和６年１月、昨年度、茨城県土浦市、それから利根町教育委員会に視察に伺われたと。内容に関しましては、それらの地域は恐らく先進的な部活動地域移行の取組をされているのでということだと思うんですが、その実施状況を見て、吉田町の部活動地域移行の実現に資する有意義な情報の収集を行うことができたと効果のほうに書いてありました。実際に行われた検証の中で、どういう部分が非常に突出していたというか、参考事例となるところで、それをまた、吉田町の地域移行の話し合い、これからつくっていく形になると思うんですけれども、どんな形で生かしていくということを伺いたいです。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

教育委員の視察研修ということで、今年の１月25日、26日と茨城県の利根町、それから茨城県の土浦市、こちらのほうに視察研修に行ってまいりました。

部活動の地域移行先進地域視察ということで、こちらの２つの市町ですけれども、国の実証事業を行っていたということを聞きまして、こちらのほうで教育委員の視察研修として行かせてもらったものです。利根町は１万5,000人の人口、土浦市は14万人の人口ということで、人口規模が違います。中学校数は利根町が１つの中学校ということで吉田町と同じような形、土浦市は８校の中学校ということで大規模な市ということで、２つ違う形の自治体という中で見てきたわけなんですけれども、そういった中で、どこを生かしたのかというところではございますが、地域移行の理念というところ、利根町については部活動と切り離して楽しく活動するというような理念がございまして、これは当町が進めていくべき、この間、一般質問でも回答させていただきましたが、そういった楽しい活動という部分は理念を引き継いでいけるようになるんじゃないかなということで取り入れさせていただいたものになります。

それから、運営主体が行政主導で運営しているというのが利根町、土浦市は土浦市地域クラブ活動推進協議会というものを立ち上げて運営しているということですが、基本的には教育委員会が設立した協議会ということになりますので、運営主体についても行政主導というところで、当町についても進めていこうと考えているものは行政主導というか、事務局が教育委員会となっているということで進めていく部分について参考にさせてもらったという部分かなと思います。

それ以外にもいろいろございますけれども、そういったものも含めて、今、在り方協議会のほうで検証しているということでございます。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　３番、盛です。

内容については、今伺ったとおりかと思います。地域の実情がそれぞれ、人口規模ですとか中学校の数とかで違ってきますし、また、それぞれごとの特色などでフィックスしていって、よりよいやり方を今後検討されていかれると思うんですが、こういった教育委員会さんの会議の中ででも、ぜひ俎上に上げていただきたいことがございまして、先般、八木議員のほうで一般質問されていましたけれども、今後、中学に上がられるような子には早めに、今の部活動の状況はこうだよというようなところはアナウンスしていくということであったと思います。ただ、地域移行の移行期間などを考えると、例えば今の６年生とか５年生には、

こういうことをやりますという報告はできるんですけれども、それより若い世代、小学校４年生、３年生、未就学とか新入学児童まで、どこまでいくかというところは現実的でないかと思うんですが、小学校３年生から５年生ぐらいまでのお子さんを持つ親御さんに部活動の在り方、吉田町として今現状こうだけれども、こういう問題が出てきて、こういうふうにしていこうと思っているとか、あるいは何か御意向はあるかとかいうような聴取の機会、それを教育委員会あるいは地域移行会議のほうで反映していくような施策が望ましいと思われるんですが、報告だけではなくて、聴取をするような機会を設ける可能性はございませんか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

小学生以下の保護者の意向調査ということでございますが、今回の地域移行を進めていくに当たって、令和４年10月にアンケート調査を取っております。これは小学校５、６年生、中学生の子供たち、それから保護者、その子供さんを持つ保護者、それから教職員に対してアンケート調査を取っておりまして、地域移行に関してのいろんな考え方とか、地域クラブになったら参加したいかとか、そういったような質問の内容でアンケートをやっています。そのアンケート結果を基に、昨年度、在り方協議会を立ち上げた中で、そのアンケートを題材にした中で、吉田町としてどうしていけばいんだというところの協議をしているところでございます。

今年度２年目を迎えて、何となくのこの組織体としての形はイメージができてきたという状況になっている中で、再度、もし詰めて聞いたほうがよいものがあれば、当然聞いていけばいいのかなと思っておりますが、現時点でやるよというところまではちょっとあれなんですけれども、参考にさせていただいて、今後詰めていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　３番、盛　純一郎君。

○３番（盛　純一郎君）　検討材料にしていただければと思います。

私が申し上げているのは、これから中学生になるお子さん向け、小学校３年生くらいから５年生ぐらいのほうがリアルなところで本音を言っていただけるんじゃないかなと思ったのと、あとは、部活動が終わった直後の中３生ですとか、あるいは町内在住の高校生、大学生、いわゆる学生というカテゴリーの方などにも話を聞いて、部活動はどうだったかとか、どうあるべきだとか、そのような意見が教育行政に反映できればスムーズな移行に寄与するんじゃないかと思っております。

もう一つだけ。それで、情報がアップデートされていない世代というのがちょっとございまして、具体的には、自分もそうなんですけれども、昭和、平成で部活やっていた世代といいますか、部活動があって当たり前、学校がやって当たり前、このような考え方でずっといると、そこがどうしてもちょっといい思い出として残ってしまって、それをまた下の世代に強いるというか、そういうふうにしてほしいというようなことがあるんですが、少子化もそうですし、あと教員の多忙化解消とか様々なことで現状このようなことをせざるを得ない、このままだとこうなるから地域移行、こんなふうにしていくという情報発信を、これ中学校が学校だよりとかで出すものではなかなか難しい、その学校だよりを見る家庭には伝わるのかもしれないですが、やはりここは、教育委員会さんのほうで、自分なりにも考えたんですけれども、例えば広報よしだで特集ページを組んで部活動の地域移行について考えるような、

町民に問いかけるような内容のものであるとか、ホームページで御意見を募集するとか、そのような取組もぜひ検討していただきたいなと思うんですが、そのあたりについてもお考えをお聞かせください。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

部活動の地域移行、今、今後の方向性等について広報したらどうかということでございますが、議員おっしゃるとおり、当教育委員会としても、当然、町民に対しての周知というところはやっていかなきゃいけないと考えております。なかなか形が見えていない中で出すというところが難しかった部分もあるもんですから、これから協議会で詰めていく中で、途中の状況であってもこういうようなことでありますとか、国の方針とか、そういったものも含めて広報やホームページ等でもまた周知できればいいかなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　平野です。

教育振興費、説明書の261ページ、その下のほうに総合戦略ＫＰＩの４つ目、学校教育の充実に満足している割合が39.1％となっています。これについてどのようにお考えでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

学校教育の満足度39.1％に対してどう思っているかということでございますが、この数値につきましては、令和４年９月に実施したまちづくりに関する住民意識調査で、満18歳以上80歳以下の男女3,000人を対象に、無作為抽出で実施された調査の設問ということになっておりまして、回収票は1,135通、37.8％の回収率となっているものでございます。この選択肢が、「満足」と「やや満足」、「やや不満」、「不満」、「分からない」という項目の選択肢があります。

実は、この「分からない」と回答した人が492人おります。この満足度39.1％は、この「分からない」の選択肢を選んだ票も入っているということになるので、この492人の「分からない」と回答した人を除いた数で算出すると72.0％の満足度ということになりますので、７割を超えた満足度はおおむね高いと考えておりますので、このまま事業を実施していくべきかなというふうに感じております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　「分からない」が四百幾つあったと。そこが問題じゃないかと私は思っています。紹介のあった住民調査で、吉田町の教育の目玉であるＴＣＰプランの認知度は、速報版で見ますと88.7％が「知らない」と答えている。この吉田町の教育の目玉であるそれを、町民は９割近くは「知らない」と答えているということが問題だと思っているわけです。

吉田町の教育行政ということを知っていただく、どういうことをやっていくんだというようなことを知っていただくことは極めて必要だと私は思っているんだけれども、今後どういう手を打っていこうとか、何かそういうのはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

ＴＣＰトリビンスプラン、町の教育政策について知らない人が多いということでございますが、実際、小・中学校の保護者の方にはかなりＴＣＰに関するアンケートを毎年行ったりとか、ＴＣＰに関する説明をする機会があるものですから、知られているというところの率は高いと思うんですが、町民に対してというところについては、今年度、それこそＴＣＰトリビンスプランと教育大綱についても、また新たなものが開始されたというところで、広報よしだとかホームページで周知をしているということになるもので、そこでは一応、町民全体に対して周知をしていると。

さらには、ＩＣＴに関してかなり吉田町については進めておりますので、それについての特集も何度か組んで、広報よしだのほうで周知しているということになるもんですから、周知に関しての施策としても最低限のところはやっているのかなと思います。なのに88.7％の方が知らないということであるのは、ちょっとこちらとしてもなかなか、実際はそういうことということであれば、もう少し考えなきゃいけないと思うんですが、基本的には、広報よしだとかホームページとかツイッターとか、ＸとかＬＩＮＥとか、そういったもので周知する。それから、いろんな会合で、行った都度、紹介していくというところしかないのかなと思っておりますが、より町民の皆さんに知っていただくような形でやっていければなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そのデータには年代別のグラフがあって、40代が70％ぐらいあるんです、「知らない」が。ところが、ほかの世代はほぼ90％です。40代というのは保護者の年代なのかなと理解しますが、その保護者でさえ７割知らない。教育委員会としてやっているつもりだけれども、相手は聞いていないという話ですよね。認知していないと。そこは、我々としてはやっているつもりですというんじゃなくて、まだまだ足りない、この分からない、知らない人がいっぱいいるという認識に立って、じゃ、どうしたらいいのかということを考えていくべきだと思うんですが、いかがでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

まちづくりに関する住民意識調査のところの設問というのが、ＴＣＰトリビンスプランを知っていますかというだけだと思うんです。それに対しての教育施策が書いてあるかといったら、多分、書いていない中での設問というところでいくと、多分、ＴＣＰトリビンスプランという名称がなかなか浸透していないのかなというところじゃないかなと推測されるわけなんですけれども、平成29年度からもう８年目を迎えて、教育委員会としてはＴＣＰトリビンスプランという名前を何度もお伝えしながら紹介をしてきたわけではございますが、それに対してなかなか認知度が低いというところですので、先ほどのホームページ、広報等だけではなく、いろんな会場でそういう話もしていきながらやっていくしかないかなと思うんですが、先ほどと同じような答弁になってしまいますが、そういうところで考えております。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　教育委員会がやっていきますと言ってくれれば、やめるつもりの質問

ですが、例えば、近隣の市町でお子さんを持っていて、ちょっとどこかへ移住しようと、吉田町も候補の一つに上がっている、そうしたときに、じゃ吉田町の教育どうなのと、分かりませんと答えられたら、もう全然、候補から落ちますよね、吉田町は。そういう面では、吉田町に人を集めようという企画に対してもやっぱり残念な結果になるわけだから、教育委員会はぼちぼちやるというようなお答えのように捉えるんですが、その企画も含めて、吉田町に人を集める、子育てという点では吉田町頑張っていると思っているんですよ、そこへ教育、それは考え方によるんだけれども、ＩＣＴを使ってしっかりやっていくということ、おお、吉田町すごい、吉田町の人も、頑張ってくれているよというような話が出れば、じゃ吉田町考えようかということも出るんじゃないかなと思うんで、企画課とも相談して、吉田町のＰＲという観点と、もう一つは吉田町民に吉田町の教育はどういうことをやっているということをしっかり理解していってもらうことを進めていくということを考えてみたらどうかと思うんですが、どうですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

他市町の方に教育について知ってもらうということについては、議員も御承知かと思うんですが、教育移住ツアーというのが企画課所管で始めていまして、10月に実際に他県他市町から来る方について、吉田町に移住を考えている方々に学校を見学していただこうということで教育移住ツアーを既に計画しておりまして、今もう既に何件か来ているという状況ですので、そこで他市町の方が吉田町の教育について見てもらって、ＰＲするということができます。

さらには、今、全教職員研修会といって、他市町から教員の方をメインですけれども、県内外からたくさんの方が来ていますので、そこで吉田町についても知っていただいているというところでいくと、吉田町の教育というのはかなり進んだ中でやっているなということを分かってもらって、それを外に出して知っていただくということはやっていますので、そういった外に対するアピールはできているんじゃないかなと思います。また、中に対しても、町民に対しても、そういった吉田町について、ＩＣＴも含めて教育に関していろんな先進的なことをやっているというのを紹介をしている、ある意味、保護者と子供たちはよく分かっていますので、子供たちはたくさんの人が来ているなというのは分かっていますので、そういった子供たちや保護者のほうから発信していただくというところでいけば、ある程度のアピールができるのかなと思っています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

次のページの263ページです。これはＡＬＴに関する内容でございますが、それこそＫＰＩに関しまして、小学校で94.1％、中学校が95.0％、これ令和４年度決算のときの同じ資料には、小学校で98.5％、中学校で98.9％という記載がありました。ＫＰＩが落ちたというのか、下がった理由というのはどういったところにあるのか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

ＡＬＴに関するＫＰＩの指標、今年度は下がったということに対してなんですけれども、これはそもそもＡＬＴが１校に対して１人配置してからも長いわけなんですけれども、これまではネイティブの外国人が来るというところについて珍しい部分が少しあったと思うんですが、だんだんもう吉田町にいるのが当たり前になっていくと、国際交流的なところの外国人がそもそも3,000人近くいるというところの中で、外国人が町内にも増えてきているという中で、子供たちが外国人に慣れてきているというところはあると思います。ですので、国際理解教育という面でも、ネイティブに慣れてもらったりとか、そういう意味でＡＬＴの特殊性というところで、外国人に慣れた部分について、今までよりはどんどん、どんどん慣れてきたという子供たちが多いから、ＡＬＴだから楽しいのかというところの質問で少し低くなったのかなと思っておりますが、ただし、パーセンテージとしては90％を超えていますので、基本的には高いということは同じという理解でいいのではないかなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　そうした中で、この負担金、ＡＬＴ資質向上研修費負担金というものが出ています。じゃ、この資質向上研修というものは、どういったものが行って、こういったものが負担金を出しているのかというのが、まず１点お願いしたいと思います。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

こちらの予算にいく研修負担金につきましては、実はＪＥＴと言って、外国青年招致事業の中のＪＥＴ、いわゆる吉田町としては会計年度任用職員として雇っていた職員に対して、研修の一環として負担金を支払うと、そこに負担金を支払っているというものになりますので、今ＪＥＴは、令和６年度はもういないんですけれども、令和５年度の途中までいたというところで負担金を払っているものになりますので、その負担金ということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　内容は分かります。ＪＥＴは当たり外れがあると以前言っていたような覚えもあるんだけれども、その中でまだ契約が残っていた分ということで理解しました。

そうした中で、先ほど、外国人が大分吉田町は増えてきた、その中で国際理解が進んできているというのはもちろんあるかと思います。でも、その一方で、英語指導というものはこのＡＬＴが担っているんですよね、ある程度。

授業は楽しいということと、外国人が大勢増えてきてある意味免疫ができたと言ったらおかしいんだけれども、昔より外国人に対する、でも今吉田町にいる外国人の皆様が英語圏の方が多いわけではない。で、このＡＬＴ自体は英語教育に資するようなところで入れていますよね。だから、国際理解は分かるんだけれども、英語に関して言ったら、楽しい授業はやっぱり、英語の授業の中で楽しいというものをしていくのが、この施策かなと思うんですが、先ほどの答弁だとちょっとずれているなと自分は思ったんですが、その点いかがでしょう。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

ＡＬＴが参加する授業が楽しいかどうかというところ、ＡＬＴは基本的には、各学校に英語の日本人の教員がいた中で、サブ的に配置してやってもらうということになります。ネイ

ティブで発音してもらうというところが主ですので、そこで当然ＡＬＴの方たちが楽しい授業をするためにはどうすればいいかというところで、補助的にネイティブでクイズ形式でやったりとか、そういったみんなで発音させて楽しくユーモアにやっていくというのがＡＬＴが入っている授業というところで、真面目にやっている授業、それも真面目なんですけれども、教員単独でやる授業については、より英語を理解してもらうために注力した授業というところで、ちょっと２つ、ＡＬＴが入っている授業と通常の授業とちょっと分けた形でやっているということになりましてというところですので、先ほどの答弁の中でちょっとそごがあるというところがちょっと私の中では理解できなかったんですけれども、どういった点になりますかね。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　そごがあるというか、違和感があるというか、そごとは言わないけれどもね。だから、先ほど国際理解というものが、そもそもどういうところなのかというのもなかなか子どもの時点で分かんないんだけれども、それが大勢外国人がいるからそういうのが減ってきてこの結果という答えだったんですよね、先ほどの答弁は。

ＡＬＴの授業だよね。だから、外へ出てのそういった環境には慣れてはきているけれども、授業に関して楽しいというところとは違うんじゃないのという意味で、ちょっと違うんじゃないのということを述べております。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

確かに、議員おっしゃるとおりで、町内に外国人が増えたのとＡＬＴの授業が楽しいのは違うんじゃないかというところではございますが、おっしゃるとおりだと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　話が伝わっていないかもしれないんで、いいんですが、そうした中で、もう一点だけお伺いしたいと思うこと。各校にＡＬＴが１人ずついますよね。彼ら、彼女らは、本当にサブ的な授業だけが契約であって、それ以外の学校行事とかそうしたものに参加するというようなものはないんでしょうか。私、いろいろな卒業式もそうだし、入学式もそうだし、あと体育祭とか運動会行っても、ほとんど見かけないですよ。どの方なのかも分からない中で、そういった契約はないのか。本来、生きた英語をもし身につけようと思ったら、そういう場のほうがすごく教育の機会があるんじゃないかと自分は思うんですが、その点について、そういう契約がないよということは、それはそれでもうしようがないんでいいんですが、答弁お願いします。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

ＡＬＴの契約内容についてでございますが、こちらは先ほどのＪＥＴ以外のところは、３人はインタラックという会社のほうに委託契約をしている状況です。その委託契約の内容については、基本は月から金までの８時から４時までの間の各学校に勤務するという契約になっています。学校以外にも英語遊びといいまして、保育園に行ってちょっと英語をやってもらうということもあるんですが、そういった中で契約しておりますので、学校行事に出ないというわけじゃなくて、学校行事やっているときもＡＬＴは多分いるはずで、いるはずでと

いうか、そこにいて子供たちと触れ合う時間があるはずです。

ですので、授業に出なければいけないだけじゃなくて、その８時から４時までの間の勤務時間もありますので、そこでいろんな行事にあっても行事でＡＬＴが参加することもありますし、実際私もそれは承知していますし、運動会等いろんなイベント等も、例えば写真を撮っていたりとか子供たちと戯れていたりという場面も見ていますので、しっかりとＡＬＴは勤務時間の中で子供たちと授業以外も交わっているというような状況になっています。

以上です。

○議長（大石　巌君）　９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　じゃ、自分がたまたま見ていないだけということで理解しました。ありがとうございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木　栄です。

決算書307ページ、体育施設広場維持管理費修繕費、説明書の308ページになりますが、説明書のほうは、スポーツ広場等の定期的な見回りを週１回実施し、修繕を実施することで利用者への安全確保及び施設老朽化の軽減が図られ、良好な維持管理ができたとありますが、この件についてちょっと伺います。

今月初めに、高島グラウンドで行われた榛南選抜学童軟式野球大会というのがありました。サッカー場のところに設置してあるトイレがあるんですけれども、水を流すポンプが壊れていて、大便が何というか富士山というんですかね、もうてんこ盛りになっちゃって、なっていました。

それは、帰り際に野球連盟の少年部の役員がきれいに流して帰ったですけれども、今現在まだ壊れている状態であります。この大会は、清流グラウンドを借りて会場として静岡県下30チームが、学童のチームがここに集まっています。21日、明日になりますけれども、準決勝、決勝戦がまたあります。来場者からトイレが壊れているという、こういうことについて指摘されたりしたら、ちょっとこの町の人間としてちょっと恥ずかしいというかだか、皆さんに申し訳ないなというような気持ちに私個人的にはそうなって、それで役員をやっているもので、町会議員をやっていると知っているんですよ、ある程度地元の衆は。

そういう中で、町外の人たちは吉田町がすごく豊かでいい町という印象で来てくれているわけです。なので、大変そういうことはありがたいですけれども、そういう中でトイレが、こういうのがあるとちょっとマイナスだなというふうに思いました。

それで、以前同僚議員が一般質問でおもてなしの心でトイレの整備というふうな質問をした経緯もありますけれども、そういうことでこの説明書の取組内容、実績どおりにはいっていないもので、それについてどういうふうなあれかというのをちょっと伺いますけれども。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

今議員がおっしゃったとおり、大井川の河川敷の高島グラウンドのトイレにつきましては、用を足したときに排水するためのポンプを踏むところで不具合が生じて、排水がうまくいかない状態ということは把握しております。

当然、高島グラウンドで多くのスポーツをやっていてだいているので、このような状態が長く続くということは望ましくないことなので、早急に対応してやっていきたいと、今修理するように、今手配をしているところです。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

壊れたのがいつ壊れたのか、ちょっと自分も把握できていないですけれども、かなり前から壊れていたんじゃないかなと思うんですよ。それで、ある程度長く置いてあるだかなということも思いますし、それで、すぐ直してくれればいいですけれども、なかなか時間がたっていると、何かそこに直せない事情があるのかなということも思えるですけれども、ある程度時間がかかって放置してあるというのは、その辺の何か理由はありますか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

このポンプ、修繕を実施しようと思って業者に見積依頼をしたところ、今ある仮設トイレが大分年数がたっているもので、修繕部品がもう生産中止ということで、そういうものがすぐに直せないよということでもらっていたため、ちょっと時間がかかってしまったんですけれども、そこでは大会もずっとやっていることですし、すぐに直して改善して早急にやっていきたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

正直に、この間やっているときに、使えないものでということで、使用禁止という貼り紙が町のほうがしてくれただけ、使用禁止になっちゃうと結局トイレの数が少ないもので、大勢の人が来たときに使えないと順番を並んだりすることもあるもので、一応、ペダルで水が流れないもので、タンクに水を入れてそこに置いておいたんですけれども、それで担当のほうに連絡をして、使えないで流してくれというふうな、今そういうことで書いてもらってあると思うんですけれども、実際ないと困るんですよね。

以前、教育長が、僕質問したとき、欲しいものはつくらない、必要なものはつくるというような意見言ったですけれども、回答ですか。絶対トイレは必要だと思うんですよ、ないとやっぱり困っちゃうもので。なので、もし部品が間に合わないようなら、自分ちも建築の仕事やっていて、いろいろ昔のものは部品がないよとかすると、仕方がないから新しいものに替えるということになるんですけれどもね。

ぜひ、あそこも確かに長いこと同じものがずっと建っていると思うんで、今は部品がないというのを聞いたものですから、ぜひ新しいのに早急に、早急に替わるかどうかというのはちょっと予算のこともあると思いますけれども、ですけれども必要なものだものでね。だもので、とにかく何か新しいものに替えていただきたいと思いますが、それについてはいかがですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この件につきましては、今ある予算の中で対応はできるということになっていますので、

早急に実施していきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木。

ちょっと、お願いというか、都合のいいお願いかもしれませんが、できたら今ほとんどの仮設トイレが洋式になっているんですよ。それで、学校なんかもみんな小学校なんかも洋式になっているもので、割かし和式のトイレって、僕らは４階のフロアのところのトイレは、男子の男便所のほうは和式が一つありますけれども、そういうことで、できればもし新しくするなら、洋式のトイレにしていただきたいが、それは可能ですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

洋式でできるよう、今、検討、進めるようにやっております。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　ありがとうございます。

できるだけ早い時期にやってもらいたいと思いますが、いつ頃できるというのを聞くのはちょっと無理ですよね。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

すみませんが、見積りを取って時期の確認中なので、今時期はちょっと明確にお答えできません。

○議長（大石　巌君）　10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　今、私聞いたのは、この今決算は令和５年の決算で、それで令和５年度からずっと壊れていたかどうかというのはちょっと分からないんですけれども、それで今聞いたものであれですけれども、この時点で今最初言った、スポーツ広場のことを定期的に見回ってちゃんとやっているよということは、この令和５年度ではそれができていたのかどうかというのは、最後にお聞きします。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

そこのところを確認したんですけれども、５年度にこれが壊れている、ずっとそのままということではないので、５年度は適正にできていました。今後、そういうことがないようにやっていきたいと思います。

以上です。

○１０番（八木　栄君）　了解です

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　304ページと305ページです。ちいさな理科館の。

昨日、シニアカレッジのことで聞いていく中で、たまたまつい最近話が出てきて、そしてその中で305ページを見ますと、ここに令和５年度の特別講座の表、いろいろあります。ここのところに、シニアカレッジのことも一般教養講座で入っていますけれども、この中で昔は理科館ができた頃は、今よく関心を持って質問していた中で、一応、実験とかそういうも

のが非常に多くて、そして子供たちを吉田町以外からも呼んで、実験棟の中で子供たちの学習意欲というかやってきたんですけれども、今回これを見ていくと意外と大分内容が変わってきたんです。この特別講座のなかでのコンセプトというものはあったんですか。どういうものが目的として決めていったんでしょう。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この特別講座につきましては、ここに記載があるように外部講師を招いて、コンセプトというものについては、理科館なんで理科の実験、観察とか学ぶ体験とか、理科に関するものの特別講座が主なものになっていまして、外部講師を呼んで招聘して実施するものとして実施しているものであります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　この人数の表を見ていても極端に少ないとか、１人とか割合ばらばらで、そのときこの中に10の項目に、吉田町シニアカレッジ一般教養講座と、この内容というのはどのようなものになっているんですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

このシニアカレッジの内容につきましては、地球温暖化の原因についての講座として実施しているものになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ちょうど、昨日、お聞きをした中での地球温暖化、それで、この何をするかと決めるのが、先生方、また結局は非常に大変だと思うんですよ。その中で、昨日たまたまシニアカレッジで聞いていて、以前からずっと思っていたシニアカレッジの人たちが、要するに意欲もあるし能力もあるしという人たちが、いろいろシニアカレッジを受けて、受けた中でその後がなかったです、受けたまんま。要するに、それぞれの人たちの教養を高める、自己満足をするのか。

ところが、これちょっと思ったのが、こういう中に吉田町でもシニアカレッジでいろいろあるじゃないですか、やっている項目というか、講習項目が。もうそれぞれが七、八年になって、かなりたくさんのものがあると思うんですよ。ちょうどその中に、こういう講習、講演の中に吉田町のシニアカレッジの人たちに費用を出してやってもらって、例えばそうすると、吉田町で考えているものの勉強、それがうまく講座を、子供たちに対する講座をつくっていただければ先生だからそういうのできると思うんですけれども、そういう能力があると思うんですよね。そういう人たちがやっていくと、ちょうど吉田町のシニアカレッジでやろうと考えていることとそれを子供たちと考えていることが、町の中で一体として一つのコンセプトが出てくるのではないかと。そうすると、ぞれぞれの興味の持ち方が学習の中でもそうですから、逆に意欲が出てきたり、そういうものが求めることができると思うんです。そういうものの考え方というか、今までシニアカレッジでやってきた人たちに講師としてやっていただけるような、そういうシステムをつくると非常に町としても、一貫した教育ができてくれるというか、教養を持ったものができると思うんですけれども、その辺はどうなんで

すかね。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

今言ったように、シニアカレッジから学んだことを地域の子供とかに教えるような先生になられることは、すごく理想的で地域で循環していくということで、すごくいいことだと思います。ただ、現実には今そういう方はいらっしゃらなくて、本人たちもシニアカレッジに来ている方が自分の生涯学習、教育のためにやっている分が多いんですけれども、そういう方が１人でも出てきてくれれば本当にいいことではあると思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　私はいつも教育というか、子供たちにこうしてほしいというのは、何か一つだけ興味を持ったものを、何でもいい、教科でも何でもいいんですけれども、持っておいてもらいたいんですね。そうすると、こういうところで勉強したものが、多分教育長にも認識をしておいてほしいのが、一つの科目が自分の中に得意なものができると、必ず周りって楽しくなるから、勉強楽しくなるから上がってくるんですね。ぜひ、そういうものを、この吉田町の中にも子供たちの中にも見つけてほしい、そういう子供たちが必ずいると思うんですよね。

そういう効果をぜひうまく使って、そして理科館の充実したものをできればと思いますからね。これもだんだん関心を持って見ていきますけれども、その辺の考え方、最終的に、最後にそういう形の子供たちを見つけ出す、そのための教育というか、学習というか、講座というかそういうのを含めたものの講座、そういうのをちいさな理科館の中の教材としてやっていただきたいと思うんですけれども、その辺はぜひお願いしたいと思うんですけれども、どうでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

今やっている講座の中でも、地元企業と連携したり親子で参加していただいたりしているものもあるので、そういうものを発展させていい方向にいければと思っております。

以上です。

○８番（山内　均君）　了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに。

１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

今と同じところで、シニアカレッジ、同じというかページで言うと297ページのシニアカレッジ、中央公民館活動事業というところになりますけれども、ここのシニアカレッジについてお伺いをいたします。

今、講座のお話がありましたので、そこのところからお話しさせていただくと、シニアカレッジ自体が新たな知識の習得や仲間づくりなどを通してシニア世代が楽しく充実した生活を送ることができるようという意味でのカレッジだというように認識をしております。

そういった中で、講座をやったり活動をしていく中で工夫をしているところというのは、どういったところでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

このシニアカレッジの運営委員会の中でも、工夫というか、その中でこういう講座をやったらどうか、こういうことについて学びたいとかということについても話して、そういうのを反映しながら事業を進めているものになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

そうですね、基本的には運営委員会の方々が中心になって決めるというのは分かるんですけれども、私は基本的に、前予算のときだったかな、言ったように、カレッジ自体を応援する立場で今も質問させてもらっているんですけれども、非常に高齢者というかシニア世代の方々が元気で楽しく生活できるというのは私は大事なことだと、我々世代にも大事なことだと思っておりますので、そういった意味でこの講座とか活動の中身を充実してほしいなというふうに思っております。

そういった中で、あんまりお金をかけずにもできる楽しいことってたくさんやっぱりあると思うんですね。例えば、どういう議論がなされているのかよく分かりませんけれども、町内でも例えば工場見学行ったりとか、社会見学行ったりとか、それとかシニアの方々ですから、例えば小学校の授業の参観をしてみたいとかという方って結構案外いらっしゃったりするんです、話を聞いたりすると。そういったのも、非常に刺激になったり、子供たちが実際、孫がいようがいまいが、今こういう授業をやっているんだという形で非常に興味を持たれるんじゃないかなと思っているんですけれども、それこそまさしく今の吉田町の姿をシニアの方々にも見てもらうということにもなりますし、それでお金なんかほとんどかからないんですけれども、そういったことも含めていろいろ知恵を絞ってやっていただくと、もっともっと楽しいものになっていくんじゃないかなと思いますが、その点についていかがでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

議員おっしゃるとおり、お金をかけなくてもできる事業、町でやっている事業を紹介するでもいいですし、それこそシティプロモーションではないですけれども、町の特性というかそういうことについても学んでいただける場でもありますんで、吉田町のことをより知ってもらうことができると思いますので、そういうことが積極的にできればやっていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

ぜひ、幅広い活動をしていただきたいなと思っております。

それで、基本のところでちょっともう一回、もう一回というか、お聞きしたいんですが、これ一応、定員40名の講座になっていると思うんですが、３年目の方が今年卒業されて、今４年目の方の締切りがもう９月の何日かで締め切られていると思うんですけれども、一応これ今まで１期生から４期生まで40名、毎回定員充足されているというふうな認識でよろしいでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

定員まで全ていっているというものではないです。実際、来ている方たち、参加してくれている方たちはすごく積極的な方で学習意欲もある方が、主に自分も拝見したときはすごく多いです。ただ、来てくれない方でも、ここ周知して少しでも学習欲を持てるようなＰＲ、そういうことをできて増やすことができれば、なおよくなると思います。そういうところは力を入れていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

そうですね。ＰＲがまだちょっと少ないのかな。この間あれにも出ていましたよね、これ、広報よしだにもこの間出ていましたから、そういう意味ではいろいろ広報も力を入れてやり出していらっしゃるのかなというふうには思っています。

このカレッジ、これ一応、２年で卒業ということになっていますけれども、募集は毎年しているんですか、それとも２年卒業して、また卒業させた後にまた新しい人を募集するという形なんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

基本的には２年という形にはなっていますけれども、ここについては随時募集という形で途中からも受けるという形でやっております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　１番、大石裕之君。

○１番（大石裕之君）　１番、大石です。

ありがとうございます。途中で入るのも、それはそれで柔軟にやっていただいていいなと思うんですけれども、毎年カレッジとして、コースとして２年のコースを毎年募集していくと、卒業は２年ごとという形で進んでいけるような形になればもっといいのかなと、それぐらいのやり方でも充足できるぐらいの形まで持っていっていただければ、非常にいいカレッジに育っていくんじゃないのかなというように思っておりますので、それぐらいを目指してやっていただきたいと思いますけれども、最後に御答弁だけお願いします。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

このシニアカレッジ、多くの方が参加できるように、定員までいけるような形でやっていきたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに。

10番、八木　栄君。

○１０番（八木　栄君）　10番、八木です。

今のシニアカレッジで、できるだけ多くの方にということで、自分一番初め立ち上げたとき入ったんですよ、カレッジ。

やっぱり、議会、議員だと議会があって、昼間やっているものですから、重なっちゃって、

何か月行ったか分からないですけれども、途中で中退しちゃったですよ。中退、恥ずかしながら。

なんで、今増やしたいと言ったですけれども、ある程度今70歳ぐらいまでは達者で働いている人も多いと思うもので、そうなるとなかなか意欲があっても昼間だと仕事があったりすると、これ入れないわけですよ。自分も理由がそうだったもので。だもので、もしあれならちょっとその辺を考えて、定時制をやるとかというふうなことでもないですけれども、何かそういうことで、うまく時間がうまく回っていければ、もう少し入ってくれる人が増えていくんじゃないか、もしかしたら私も入るかもしれませんがね、という感じなものですから、何かそういう考えというのは持っていますかね。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

御意見として伺って、また運営委員会の中でも諮っていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　説明書の261ページ、教育振興事業費、263ページ、英語教育推進事業費、266ページ、確かな学力定着事業費、269ページ、小・中一環教育振興事業費、この四つの事業費の意図が、ＩＣＴ機器を効果的に活用し、確かな学力の向上を図るとともに、いじめや不登校などの教育相談体制を整えることにより、充実した学校生活を送ることができている、同じ記載です。

意図というのはその事業の目的、こういう状態になる、目指すというようなことを記載すると思っているんですが、私は各事業を起こす以上は、それぞれ目的が異なるというふうに考えているんだけれども、ここでその四つの事業を同じ記載にした理由をお聞かせください。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

こちらの意図に記載してある内容、こちら左側を見ていただくと分かるように、実施計画の目的（再掲）というふうに書いてございます。この内容は、実施計画事業名につき、一つの意図として記載しているもので、この４事業、先ほど言われた４事業については、実施計画事業名として同じ教育振興事業というふうになっておりますので、その教育振興事業として統一した意図で記載しているというものになるため、同じ内容となっております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　そうすると、企画課が悪いと言っているんですか。

要するに、教育、学習、教育課としてはそれぞれの事業を担当しているわけですよね。だから、実施計画が一緒だから、事業はそんなもの何にも考えずに並べているだけですと、この意図は深い意味はありませんとおっしゃっているのか、我々とすれば、それぞれ目標は持っていますと、ただし、企画課がそろえろと言うんでそろえていますと言っているのか、どちらなんですか。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

今、ステップアップのこの主要な施策の関係で、今、いわゆる実施事業の目的ということで、記載のほうにつきましては今学校教育課長が申し上げたとおりなんですけれども、この今教育振興事業という中にこの教育振興事業という実施、いわゆる予算事業名は入っています。また、さらにほかのもの、今先ほど議員がおっしゃられた事業もこの教育振興事業を達成するための事業です、それぞれ。要するにツリーになっています。

ですので、教育振興事業の実施計画事業としまして、目的とありますが、ここを達成するためのそれぞれの下の細分化した事業の一つがそれぞれの、先ほど議員がおっしゃられた事業という組立てになっておりますので、目的手段ということで何ら別のものではないと、この目的に沿った事業のうちの一事業だという、まず御理解をいただきたいというのがあります。

これは、吉田町の行政評価のＰＤＣＡサイクルもそうなんですけれども、目的・手段、いわゆる総合計画の下に基本計画、目的を達成するために基本計画があり、基本計画を達成するために実施事業がある、この実施事業を達成するために、その下に各事業があるという、その事業がこの予算事業ということになっているものでございます。

確かに、この小さな事業に対しても、目的それから意図というものは当然ありますけれども、そのさらに上の目標というのがこの実施計画のここに掲げてある目標ということになります。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　じゃ、ちょっと変えます。

社会教育総務費、286ページ、287ページ、社会教育委員費、コミュニティづくり推進事業費、295ページ、これも意図が全く一緒です。先ほど言ったのと、この３つが違うのは、令和４年度はこの三つの事業、全部別々のことが書いてありました、意図に。

ところが、令和５年度が令和４年度の社会教育費に書かれていた意図をほかの事業に転用しています。そうすると、今の最初の説明で、これちょっと確認していませんけれども、実施計画の中では同じ事業だということなのでそろえているのか、たまたま令和５年度からそろえたのか。

一つ読みますと、令和５年度は社会教育総務費、意図、社会教育関係研修会に参加し、社会教育関係職員の資質向上と相互提携を図ることにより、町の社会教育事業を円滑に推進することができる、これで三つそろえているわけです。

去年の社会教育委員費に関して言えば、委員の資質向上を図り、社会教育事業の事業立案や社会教育に関する課題解決に取り組み、生涯教育の学習を推進に寄与すると、目的に合った意図が書かれていた。ところが、令和５年度は全く何か意味のない、わけの分からんやつでそろえられている、なぜまともなやつを、わけの分からんものに変えたのかという点ではどうなんですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この今議員がおっしゃった三つの事業、社会教育総務費、社会教育委員会費、コミュニティづくり推進事業費、ここについては、今年度社会総務費一つになっている、集約、統合して一つになっています。そのため、この実施計画事業については、今三つ同じような記載に

なっています。

この意図としましては、実施計画の目的にあるとおり、社会教育関係職員、主な事業が社会総務費、社会教育委員会費にはなるんですけれども、この三つ事業を含めた形で社会教育関係職員というのが、町の職員、社会教育委員会を含めてこの研修会に参加することによって資質の向上と相互の連携、連絡提携、コミュニティづくり、連絡提携することによってコミュニティづくりを推進するということの期待として社会教育関係団体と連携して町と社会教育委員会、社会教育活動団体、その三つが連携していくということで同じ記載という形で示しているものになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　令和４年度は、しっかりその事業目標、事業に対して書いてあったと、こちら側は、社会教育のほうは。学校教育のほうは、ずっと同じことが書いてある、やはりここに関しても今までも何回もやっているんだけれども、やはりそれぞれ、実施計画の都合上そろえましたではなくて、やっぱり一事業としては、ここに記載するのは、しっかりとしたその事業の目的というのを私は書くべきだと思うんだけれども、やっぱり実施計画にそろえて書くという方針なのか。

要は、ぼけると思っているんですよ。大まかな夢物語を書いているわけです、ここに。夢物語であっても、この事業の夢物語を書けよと、我々はそれを目指すんだと、よりもうちょっと具体性のあるところを書けば、後に記載している取組内容とか効果とか、そういうものを見るときに、それと照らし合わせてできているのかというようなことが分かると思うんだけれども、何かここの意図というのが何かあってもなくてもいいような記載になっているであれば、もうやめちゃえばいいし、何かちぐはぐなんで、そこは少なくともそうしていただきたいと思うんですが、それぞれの事業がこういうことを目指していました、過去であれば、ということをやっぱり示すべきではないかと。これＤ表ですよね、Ｄシートなんで、Ｄシートでここをしっかり検証しようと言ったときに、目標が実施計画のもう一つ上の概念をここに持ってきてよりも、やはりその事業の、これはこれでそろえますと言うんであれば、各事業に合った目標を添付していただければと思いますが、その辺はどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　理事、谷澤智秀君。

○理事（谷澤智秀君）　谷澤です。

この予算事業と実施計画事業のところというのは非常に、今議員の御指摘もありますけれども、なかなか、どういうふうにやったらいいかというのはなかなか難しいところがあり、当町としては、今実施計画というのを一番下の事業として総合計画では位置づけをしまして、そこにぶら下がるといいますか、どういった事業をやればいいのか、逆にどういった事業をやればその実施計画を目標を達成するのかという位置づけというのを、一応は職員の意識づけも踏まえて行っています。

ここについては、どちらに合わせるかということもありますので、これは確かに私どものほうでもいろいろ議論をしているところでして、特に今度、第６次の総合計画策定を昨年度していたわけですけれども、そのとき事業名、今議員がおっしゃられたようにどこの事業で合わせるのかというところがございまして、その関係で実は、昨年、総合計画は昨年度策定をしましたが、その前からその時期、第６次に向けて進んでいました。

その関係で、先ほど議員が言われた事業名が特に変わっているじゃないかというのは、ここは中で議論をして統合したというところがありますので、昨年と、令和４年度と令和５年度のいわゆる実施計画の位置づけがちょっと変更しているというところがあります。

この点につきましては、今町としましては実施計画を中心にそこに予算をどうぶら下げていくかという形を今は取っている、いわゆる手段ですので、そこをどう位置づけるかということで今やっておりますが、今後この主要施策を踏まえてちょっと検討はしていきたいというふうに思っております。ただ、やはり、目的、手段、何のために予算、この事業をやればどういったことを目標に向けてやっているのかという位置づけはしっかりはしていきたいと思いますので、その点また中でも議論をしていきたいというふうに思います。

以上でございます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

○７番（平野　積君）　了解、後でね。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

説明書の287ページになります。社会教育委員費になります。こちらのところの取組内容実績で、社会教育フェスティバルがありました。今回こちら初めての取組ということで、全協のほうでは、目的としまして、各団体の活動報告また情報交換の場ということでお聞きしております。実際、こちらの決算書の中に示されているこちらのフェスティバルにかかった経費と示されておりますが、実際にこのフェスティバル自体も随分前から計画されたように記憶しております。令和４年度も同じような金額を決算を出されて、令和５年度もこの金額で決算を出されているわけなんですけれども、町のほうとして、これぐらいの予算でそもそもこのフェスティバルを開催しようと考えていたんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この社会教育フェスティバルについては、一番最初から言うとコロナ前から検討していて、一度やってみようという形で話がありまして、前年度にどういう事業の内容をやろうということで話し合ったものが社会教育フェスティバルでやるということで、５年度その内容を反映して進めたものになっております。

町だけで決めたものではなくて、フェスティバルに対する打合せをした中で５年度やった事業で進めるという形になってこのような予算になっております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

各団体の活動報告、情報交換等が目的というふうに聞いているものですから、そういったことであれば、わざわざ総合体育館、あんな広い場所を使ってやらなくてももう少し小ぢんまりできたんじゃないかと思うと、もう少し大きくいろんな方を取り込んでやるようなイベントとして考えていたと自分は考えていたものですから、そちらのほうがより一層、この関わった団体さんにとっても、よりよいものにつながったと思います。

特に小学生とかの児童とかは関わってくれた方々はよかったとは思うんですけれども、中には国際交流、幅広い世代の方にももっと認知して情報を提供交換したいような方々の団体

もいたとは思うんですけれども、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この実績のところにも記載があるとおり、参加者、来場者について170人ということで、ここについては大分少ないんではないかなということを認識しております。ここについては、実施時期なのか周知の仕方なのか、その辺をどういうふうにやっていくかというところは、改善してもっと、せっかくこういうフェスティバルをやるのであればもっとやり方、周知の方法、時期とかも皆で話し合って決めるべきだと思うんです。そこちょっと、今後やるときがあれば改善すべきだと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

こちら執行率91.4％ということでかなり高いわけなんですけれども、実際、予算限度額もまだあと10％弱ぐらいは余裕があったと思います。この社会教育フェスティバル自体にかける予算がどれぐらいだったのか、ちょっと結局先ほどの答弁では分からないところではあるんですが、せっかくああいった大きい、町で一番、この県内でもかなり大きい体育館で自慢の体育館であります。そういった体育館を使ってこういったフェスティバルをやったわけですが、ステージも開催してくれた団体さんが１団体ありましたけれども、そういったステージも活用して、何かもっといろいろな方が来ていただけるような、誰か講師の方なのか何かイベントなのか分からないですけれども、そういったものを呼んでもう少し、この団体さんに関わっている方々以外の方にも来ていただけるような、そういった取組も必要だったと考えるんですけれども、その辺はどう考えますか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

ここのフェスティバルの開催に当たっては、社会教育関係団体が集まって今回の形にはなっています。せっかく総合体育館でやるので、そういうメニューとかという話が出てこれをやっていこうというものであれば、今後も検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　４番、楠元由美子君。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

関わっている団体さんからの御意見もあってこの形になったかと思うんですけれども、自分が当初、コロナ前このフェスティバルを開催するといったときに、会議のほうに参加した際に、すごく皆さんがいろいろなビジョンを持って会議に意見を出してくれたように認識しております。そのときの思いを関わる担当の課の方々が替わる中でうまく引継ぎができていないのも問題じゃないかなとかと思っております。

せっかく地域で関わっている団体さんたち、その方々が時間を割いてこういったフェスティバルを開催するというふうに協力してくれたものですから、よりよいものになるように町のほうでももう少ししっかりと考えていただいて、そういった団体さんにお願いするようにしたいと思いますが、よろしくお願いします。

○議長（大石　巌君）　答弁はいいですか。

○４番（楠元由美子君）　はい。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑は。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　310ページです、総合体育館運営費です。

その中の一番下のところに、調査委託料225万5,000円、これが内容が総合体育館管理運営手法調査検討業務委託料、これは225万5,000円もかけてどのようなものが調査結果として出たんですか。それでこの調査結果というのは、現にこれから進もうとしているものなんですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

ここの管理運営手法の調査につきましては、現在ある総合体育館の施設につきまして、現在、今直営でやっているものが外部に委託した場合でも、外部に指定管理での手法として指定管理に出した場合に、どのようなことができるのか、どのぐらい費用がかかるのか、まず初めに市場調査、例えば民間企業が参入する意向があるのかとかというものの調査、各事業者に参入の意向があるかとか、どのぐらいであれば事業ができるかということについての調査委託を出しております。

この調査項目につきましては、先ほど言った事業者が吉田町の総合体育館で事業の指定管理制度を実施した場合に参入の意向があるか、例えば、参入する場合には期間がどのぐらいあればいいのか、どのぐらいあれば事業者として利益が出るために事業者の立場からすると利益が出て運用ができる、どういうことをしてやっていけばできるか、あと参入についても、今貸館業務が主なものになっているんですけれども、それ以外の自主事業が何ができるかというところの辺について、事業者からもし企業が入った場合にどういう運用ができるかということで調査をしたものになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　この総合体育館、目的、防災の、メガクエイクあったときにですよ、物資の供給拠点ということになると記憶をしていますが、民営化になったときにはそういうもの、物資の供給拠点、そういうものの対応というものはできるのか、まず対応拠点になるのか、大地震が起きたときのそういう拠点が決まっていますけれども、それに対するそういうものの役割というか料率というか、そういうものも計算しているんですか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

この総合体育館につきまして、避難場所、避難所に今指定されているものになります。当然、指定管理、すぐにどうこうという話ではないんですけれども、この指定管理になった場合でも町として災害時の対応、覚書など協定など契約の中でそういうものについては、即座に対応するということで、指定管理になったとしても、そういうものがそういうことで避難所が使えないということにはならないものとして事業を進めるべきだと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の回答を予測して聞いたとき、多分皆さん見たこともある人がいる

と思いますけれども、よくＥテレで100分ｄｅ名著、見たことありますよね。この中で、ナオミ・クラインという人がショック・ドクトリン、聞いたことがあると思うんです。ショック・ドクトリンというのは、日本で国営企業の国鉄が民営化された、郵政が民営化された、税金を潤沢に入れて民営化した、その後に起きたことは天下りの先を見つけたことなんですと言っています、このナオミ・クラインという人が、本の中で。

私は、恐らくちょっと心配したのが、それと同じこと、天下り先が、天下りとは言わないけれども、そこに退職した人とか関係者が入っていくんじゃないかと、トップへ。そうしてその中で、使い方がそういう今言った、そういう心配をしている、天下り先というか、そこに行く先を。そうしてそういう形で確保するのがショック・ドクトリンという本の中に、Ｅテレでやっていますから見てください。その感じでその怖さを感じたものですから聞いたんですけれども、そういうものに関しての目的というのは絶対にありませんね。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

基本的には、その天下り先としての機能を設けるために指定管理をやるものではないです。あくまでも民間活力を活用して、今ある総合体育館が、もし入れる場合については、指定管理料とか金額等もいろいろ出てくるんですけれども、民間の活力を活用して指定管理者としてやった場合に、今までやっているよりも総合体育館の活用ができる、地域の体力増進とかの寄与するものでなるのであれば、そういうことも実施したいということの調査として今回やったものになりますので、天下りのためにやるものではございません。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今のやつで心配しているのはそこなんですよね。それは世界中の企業でも起きているんです、確かに、そういうこの映像を見る限り。それと同じようなことが町でもあるじゃないかと思うんですけれども、そういうものに関しての今言われた断言はできますね。そういうものをつくっていかないと、必ず絶対にそうはしないと。

それと同時に、もう一つは今言った、大災害、メガクエイクが起きたときにそれを民営化していった中でも、それが自由に対応できるような状況をどうやってつくっていくか分かりませんけれども、そういう目的は絶対に覆すことはないということは明言できますか。

○議長（大石　巌君）　生涯学習課長、山脇一浩君。

○生涯学習課長（山脇一浩君）　生涯学習課でございます。

指定管理者になったとしても、条例、規則等の中の運用になります。災害時においても、実際にどう結ぶか分かりません、契約なのか協定なのか分からないですけれども、災害時についても使えない、今避難所に指定あるにもかかわらず、そのときに民間が使うからということにはならないんで、先ほど議員がおっしゃる心配はないと思っていただきたいと思います。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の答えを聞いて安心、安心というか今の答えを聞きました。そうならないように、絶対にお願いをしたいと強く要望しておきます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

◎散会の宣告

○議長（大石　巌君）　なければこれで質疑を終結します。

これをもって第41号議案についての質疑を終結をいたします。

以上で本日の日程は終了をいたしました。

御協力いただき、ありがとうございました。

本日はこれをもって散会といたします。御苦労さまでした。

散会　午後　２時２３分

開議　午前　９時００分

◎開議の宣告

○議長（大石　巌君）　改めまして、おはようございます。

本日は、定例会23日目、最終日でございます。

ただいまの出席議員は12名であります。

これから本日の会議を開きます。

◎議事日程の報告

○議長（大石　巌君）　本日の議事日程は、お手元に配付のとおりです。

これから議案審議に入ります。

初めに、決算及び補正予算に関する議案の審議を議案番号順に行います。

審議につきましては、既に質疑が終了しておりますので、討論から行います。

引き続き、決算及び補正予算に関する議案を除くその他の議案審議を議案番号順に行います。

それでは、審議に入ります。

◎議案第４１号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第１、第41号議案　令和５年度吉田町一般会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

お諮りします。

本案は、原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり認定されました。

◎議案第４２号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第２、第42号議案　令和５年度吉田町土地取得事業特別会計歳入

歳出決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり認定されました。

◎議案第４３号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第３、第43号議案　令和５年度吉田町国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり認定されました。

◎議案第４４号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第４、第44号議案　令和５年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり認定されました。

◎議案第４５号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第５、第45号議案　令和５年度吉田町介護保険事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり認定されました。

◎議案第４６号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第６、第46号議案　令和５年度吉田町水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定及び認定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決及び認定されました。

◎議案第４７号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第７、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

８番、山内　均君。

〔８番　山内　均君登壇〕

○８番（山内　均君）　８番、山内　均です。

私は、令和６年第３回吉田町議会定例会に議案提出された第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について、反対討論を行います。

第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計決算附属書類より、吉田町公共下水道事業は平成２年１月に整備に着手。令和８年末までの379ヘクタールの区域内整備を進めている。令和５年度末までの整備状況は303.81ヘクタールで、前年度と比べ9.14ヘクタール増加をした。

第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計決算から、１、(1)の収益的収入及び支出により、収入で第１款の下水道事業収益７億3,273万1,304円、１項の営業収益は9,204万9,453円、下水道使用料であります。２項は営業外収益が６億4,068万91円、長期前受金です。１項は営業費用で６億5,020万5,763円、２項営業外費用は6,548万859円、３項が特別損失が５万4,086円で、予備費がなし。

(2)の資本的収入及び支出、収入の第１款資本的収入は８億5,656万4,452円、第１項は企業債は２億8,220万、これは借入金。２項の負担金は982万5,730円、これは受益者負担金です。３項他会計負担金３億5,936万7,722円が一般会計よりの支出。４項の国庫(県)支出金は２億103万4,950円。５項の他会計補助金413万6,050円は一般会計よりの支出です。支出では、第１款の資本的支出８億7,189万4,590円、２項の企業債償還金が３億5,936万7,722円。国庫(県)支出金が413万6,050円、これは返還金であります。

資本的収入額が資本的支出額に不足する額1,533万138円は、賛助企業企業債の借入額1,533万138円で、補塡をします。

このうち、(1)収益的収入及び支出で、収入の第１款１項は営業収益が9,204万9,453円で、下水道使用料。これと第２款の(2)資本的収入及び支出、収入の第１款２項負担金982万5,730円、これ、受益者負担金の合計の１億187万5,183円は現金収入である。また、資本的収入及び支出３項の他会計負担金３億5,936万7,722円、これは町税よりの負担金です。５項は他会計補助金は413万6,050円、これも町税の補助金になっています。合計が３億6,350万3,722円は、一般会計、町税よりの繰入金の合計である。

この中では、他会計負担金と他会計補助金を基準内、基準外と分けているが、他会計負担金と他会計補助金は同じ一般会計、町税から充当されている。下水道使用料と受益者負担金の合計は１億187万5,183円、一般会計からの繰入金は３億6,350万3,772円、これらは全て一

般会計から、町税からの繰入金である。また、令和５年度の決算で、都市計画税２億3,835万4,000円のうち１億7,555万2,000円が下水道の借入れの返済に充てられているのは、納得できるものではない。

吉田町公共下水道の整備は、令和８年度末での下水道施工面積379ヘクタールで新たな下水道施設事業の終了が決定されている。下水道区域内と下水道区域外が決定することになった。下水道設備があるところとないところが区別されることにより、不公平がはっきりした。断じて容認できるものではない。

町内の全ての人が納得できるよう、偏った公共下水道事業は早く見直し、町民間の税の不公平を解消するよう努めるべきである。下水事業と比較して非常に安価で施工性もよく、耐震性を備えた合併浄化槽設備、市町村設置型合併浄化槽による水洗化で、税の不公平感の解消を図るべきであるとした。

以上をもって、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定についての反対討論といたします。

○議長（大石　巌君）　反対討論が終わりました。

次に、賛成討論はありませんか。

12番、蒔田昌代君。

〔１２番　蒔田昌代君登壇〕

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

私は、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について、賛成の立場で意見を述べます。

当町の公共下水道事業は、令和２年４月１日から地方公営企業法の適用により公営企業会計へ移行し、資産の状況を正確に把握することが可能となり、経営状況の明確が図られています。

監査員による意見書には、処理区域内人口は１万1,619人で、前年度末に比べ347人、令和３年度と比べても445人増加している。処理区域内面積は303.81ヘクタールで、前年度末と比べ9.14ヘクタール増加した。接続人口は8,843人で、前年度に比べて425人増加し、人口普及率は39.89％であり、前年度末と比べて1.3ポイント増加している。また、計画処理人口に対する進捗率は79.0％で、前年度末に比べて2.4ポイント増加している。

経営状況については、令和５年度においては前年度と比較し下水道事業収益が6,465万9,000円、10.1％増加し、下水道事業費用も6,481万3,000円、10.1％増加したが、当年度純利益は26万9,000円である。下水道事業費用のうち、増加した主なものは管渠及び処理場費であり、5,809万5,000円、47.6％増加している。これは、令和５年度が第２期ストックマネジメント計画、令和６年から令和10年の策定年度であったことなどによるものである。また、令和５年度の有収率は95.3％で、令和３年度と同じであり、水洗化率は76.1％で、前年に比べ1.4ポイント増加している。

面整備を進めているが水洗化率は低い状況であることから、使用料収入の増加に向けて接続率の向上に努めていただきたい。汚水処理費が増加したために経費回収率が38.6％となり、前年度比14.6％減少し、業務委託の集約等により汚水処理費の削減に努めていただきたいとある。

流動負債である企業債償還金は毎年度、一般会計からの繰入金で賄われている。他会計か

らの繰入れを行っているが、経営基盤を強化したいと考える。そのため、下水道使用料が議会の承認を得て、令和６年度、改定された。下水道区域、また計画外地域への合併処理浄化槽への転換も併せて行われている。地域に合った計画で進められていると考える。

不公平であることよりも、経営基盤を強化するために下水道事業の将来を考え、町も努力し、また町民も一緒になり、全体で考えていくことだと考える。

よって、第47号議案　令和５年度吉田町公共下水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について、賛成します。

以上をもって、私の賛成討論とします。

○議長（大石　巌君）　賛成討論が終わりました。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで討論を終結します。

採決に入ります。

この採決は起立によって行います。

起立しない方は反対とみなします。

採決します。

本案は、原案のとおり決定及び認定することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大石　巌君）　起立多数です。

したがって、本案は原案のとおり可決及び認定することに決定をいたします。

◎議案第４８号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第８、第48号議案　令和６年度吉田町一般会計補正予算（第４号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第４９号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第９、第49号議案　令和６年度吉田町国民健康保険事業特別会計補正予算（第２号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５０号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第10、第50号議案　令和６年度吉田町後期高齢者医療事業特別会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５１号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第11、第51号議案　令和６年度吉田町介護保険事業特別会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５２号の討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第12、第52号議案　令和６年度吉田町公共下水道事業会計補正予算（第１号）についてを議題とします。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

これで、一般会計並びに特別会計等の決算及び補正予算に関する議案の審議が終わりました。

これから、これまでに議決をしました議案を除く、その他の議案の審議に入ります。

◎議案第４０号の質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第13、第40号議案　吉田町国民健康保険条例の一部を改正する条例の制定についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５３号の質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第14、第53号議案　令和６年度西の宮雨水幹線改修工事請負契約の締結についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　山内です。

今回、この入札結果を見まして、同業者としては非常にいい結果がいただけたと思っております。入札の結果の発表を見ていただきますと、一番上の建設会社が予定価格のパーセントが71.32％、その下が77.92％、名前は言いませんけどその下が90.54％、１％かな。それと、一番下が88.04％。

これ最近、私は入札に関して非常にいろんな懸念を持っていたんですけれども、今回、４社、５社が競っていただいた。そして、その中で健全なといいますか、しっかりした入札の中での競争入札がなされたと思うんです。この４社が、５社が競合していただいたその理由というのは、どのような形で考えていますか。

○議長（大石　巌君）　都市環境課長、鈴木　久君。

○都市環境課長（鈴木　久君）　都市環境課でございます。

こちらの入札につきましては、今回の工事内容が河川改修ということの中で、ボックスカルバートという二次製品を使うということの中で、町内業者の方にも参加しやすいような工事内容であったということが考えられます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　ボックスカルバートを使ってちょっと心配するのは、点検と安全性がどうかというのは図面の中では出ていないものですから心配したんですけれども、いつもそのようなときに制限を例えば、前にも言いましたけれども、下げるというか、もっと下げる、皆さんが受けやすいような条件につけるとかね。そういうことをやることによって、一つの

入札で、僅か8,000万の入札をやった中で6,000万から8,200万までの差が出るわけですよね。

そうしていくと、こういうしっかりした入札ができる条件を整えることによって、もっと吉田町の税的な、財源的な確保というか、そういうところもできるし、有効な工事そのものができると思いますね。たくさんの人が出ることによって、同じ工事をたくさんの目が見るということになりますので、ぜひ、そういう意味で制限を緩和する、出やすい状況にもっていくということは、実際には可能なんですか。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

入札制度全般の話になりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

今回、先ほど都市環境課長がお答えしたように、ボックスカルバートということで、比較的やりやすいものということで多くの形で入札していただいたということはあります。

制限つき自体の制限を緩和するということでございますが、単純に緩和ということもやはりできないかと考えております。

それは工事のやはり性質等によりまして、納入してもらう、完成させるものの品質を確保しなければならないということもございますので、そのために制限をつけて入札をかけているものとなりますので、当然、業者が一定数見込まれるという中でこの制限つきはやっておりますので、なるべくうちとしても入札には参加していただきたいということはございますが、かといって、制限を無造作に下げるということもなかなかできないので、なるべく入札に参加していただけるようなことを考えながらも、ただ、ちゃんとしたものを納品していただくことも考えなければならないという中で、制度のほうは考えていきたいと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　今の無造作にという言葉もちょっと訂正をしないかんなと思いますけれども、やっぱり健全な入札、そして、できるだけ開かれた入札をすることによって、吉田町そのものが開かれた部分に出ていくと思うんですよね。

ぜひその辺も、確かに条件としてはいろいろ難しい部分があるかもしれません。私も中におりますので、条件の闘争って大体分かっていますので、それはできるところはできますのでね。ぜひその辺は、こういうような形の、健全というか本当に競争ができるような条件をつくっていただきたい。そうして、それによってたくさんの業者が入れば、必ずその業者が見ていますから。だからさっきも言われた品質の管理に関しては、いや応なしに品質管理は上がりますので。ぜひその辺も、認識しながらやっていただきたいと思いますので、もし何か返事がありましたらお願いします。

○議長（大石　巌君）　財政管理課長、八木邦広君。

○財政管理課長（八木邦広君）　財政管理課でございます。

入札に業者のほうが参加していただける中には、発注時期であるとか、業者さんにとって施工性とか、いろいろなことを考えた上で、うちとしては基本的には全て見込業者がいる中で公告をかけてやっておるので、開かれているかどうかということでは開かれているものと考えております。ただ、入札に業者が参加するものには条件がそれぞれございますので、そういった中で多く参加していただけるとき、そうでないとき、そういったことがあると思うので、そういった時期とかそういったものを勘案することは必要かなと思いますので、なる

べく多くの方が参加しやすいようなものになるようにということは考えていきたいと思います。

以上です。

○８番（山内　均君）　了解です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５４号の質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第15、第54号議案　静岡県後期高齢者医療広域連合規約の一部を変更する規約についてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　質疑なしと認めます。

討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議案第５５号の質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第16、第55号議案　吉田町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　定例会前の全員協議会において紹介のあった地方教育行政の組織及び運営に関する法律では、教育委員に適した人物は人格が高潔で、教育、学術及び文化に関して見識を有する者とされています。

吉田町では、４人の教育委員が任命されています。吉田町では、先ほどの条件を満たした方の中から教育委員を選任されているというふうに思いますけれども、例えば、決める段階、推薦する段階において、教職員出身者の人を何人入れるとか、保護者を何人入れるとか、ＰＴＡ役員の経験者を何人入れるとか、年齢のバランス、男女比率をどうするかなど、吉田町の配慮事項というか決め事というか、そういうものはありますでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

今回の人事案件について、人選した関係が学校教育課のほうになりますので、私のほうからお答えさせていただきます。

まず、教育委員の選任の基準ということですけれども、法律上で先ほど議員おっしゃったような第４条第２項に書かれているものプラス、この法律の第５項のところに、第２項の規定による委員の任命に当たっては、委員の年齢、性別、職業等に著しい偏りが生じないように配慮するとともに、委員のうちに保護者である者が含まれるようにしなければならないということも記載されてございますので、町のほうはこちらも含めて考えているというものが一つです。

それから、町のほうで考える基準というか正式に規定として決まっているものではございませんが、当然地域がかぶらないようにということで、一つは地域、それぞれ、住吉、川尻、片岡、神戸、大幡とございますので、それぞれかぶらないような選任をするというところ、それから、男女の割合ができれば、理想は２対２ということになるように考えていると。現状のところは３対１ということになっておりますが、そういったもの、それから元教員とかが入ったほうがいいんじゃないかということで、教員を必ず入れるというのが今までの歴史の中で入っているものになります。

それから、先ほどの地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第４条第５項のところに、保護者である者が含まれるようにしなければならないということがございますので、保護者の枠として必ず１人以上入れるというようなことで基準を設けております。

以上になります。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今回の候補となっている方を推薦するに至った経緯というのは、どういうことなんでしょうか。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

今回の教育委員の候補の方を推薦するに当たっての経緯ということでございますけれども、先ほど申し上げました法律等の基準に基づいて、当てはまる方について、ふさわしい方を学校教育課のほうで探して、その中で御本人さんと面談等しながらお話をした中で決めていったというものになります。

以上です。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　この候補者は中央小学校の学校運営協議会の会長であるということを認識した上で、今回推薦されたのでしょうか。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

認識した上で推薦しました。

以上です。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　吉田町学校運営協議会規則によりますと、第９条の２項に、委員は校長のほか次にあげる者のうちから校長の推薦により教育委員会が委嘱しまたは任命すると記載されています。

よって、本議案に同意すれば、自らが自らを委嘱、委任することになります。また、第２条には、協議会は学校運営及び当該運営への必要な支援に関する機関として、吉田町教育委員会及び校長の権限と責任の下、後は略しますが、活動するということになります。つまり、自らを自らの権限と責任下に置くことになります。

私の認識では、このような組織というのはあり得ないというふうに思うんですが、会長であるという認識をもって推薦した理由は何でしょう。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

まず、学校運営協議会の委員が教育委員になることを禁止する明確な法的規定はないということがございます。ですので、両方の役職を兼任すること自体は法的に可能であるというところがまず一つです。

という中で、先ほど議員が御指摘しました吉田町学校運営協議会の規則の第８条に、委員は校長の推薦により教育委員会が委嘱しまたは任命するということでございますけれども、これについては、自らが自らをというふうにおっしゃいましたが、現在は教育委員ではないということになりますので、現時点では、教育委員会が委嘱するのに当たっては、自らが自らをではないということになるものですから、特に抵触しないというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巖君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　この学校運営協議会の任期は、幾らでしょう。

○議長（大石　巖君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

任期につきましては、同規則の第９条にございますけれども、委員の任期は委嘱任命の日

から当該委員または委員任命の日の属する年度の末日までとするということでございますので、本年度末でございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　先ほど答弁では、今、教育委員ではないので委嘱することはないと。ところが、令和６年度末にはその時期は来るわけです。それまでには何か対応を図ると言っているのか、そのときはまた法律上問題ないから問題ないということで押し通すんですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

本年度末までということになりますので、今般の人事の動員について同意を受けて教育委員になられた場合については、学校運営協議会の委員と教育委員を兼ねるということになりますので、そうした場合に年度末になったときに、じゃ、自分が自らが自らをというところについてどうなんだというところについては、議員の御指摘もございましたので、それを踏まえてまた検討していく必要があるのかなと思っております。

ただ、もし例えば、同様の人事案件等を教育委員会で諮る場合については、御本人に関係する、利害関係があるとかそういった関係するものについて、採決の場にいない形で退席してもらって、また入ってくるというやり方もあるものですから、そういったものも踏まえながら、今後そういったところの透明性が図られるようにというところも踏まえて考えていければなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　先ほどの答弁の中で、兼務することは法律上問題ないとおっしゃっていたわけですが、法律上問題ないという、どういう記載で学校教育課は問題ないというふうにお考えなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

どういう記載があって問題ないということについては、先ほどの地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中に、教育委員の兼職の禁止という項目がございまして、教育委員は以下に掲げる職と兼ねることが禁止されておりますという中に何があるかというと、地方公共団体の議会の議員、地方公共団体の長、地方公共団体に執行機関として置かれる委員会の委員、これはいわゆる、農業委員会とか監査委員会、選挙管理委員会とかそういったものになります。それから、地方公共団体の常勤の職員、また、国会議員というふうに書かれてございますので、こちらに書かれていないものになりますので、抵触しないというか、明確な規定がないということになりますので、禁止する規定の中に入っていないものですから、こちらとしては大丈夫だという判断をしたものでございます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　任命とかそういうこともありますけれども、私は、教育委員会というのは基本的に中立であるべきだと思っています。

ところが、そこへある学校の運営協議会の委員さんが入ることによって、教育委員会の中

でそこの学校への利益誘導を図るような可能性がゼロとは言えない。可能性があるとすればそれは回避すべきだと私は思っていますが、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

議員がおっしゃるとおり、確かに完全な独立性とか透明性が担保されるということを考えるのであれば、そういった関係者ではない人から選ぶというのは、もちろんそちらが一番ベストではあるかなとは思うんですが、今回、保護者枠というところを捉えていった中で、これまで保護者枠と捉えるのは、必ず今までＰＴＡの本部役員をやられた方という方が基本的にはなっているということになりますので、過去の教育委員さんも必ずＰＴＡ会長とかＰＴＡの本部役員をやられた方がなっているということは、その学校のＰＴＡをやられていた方ということになります。

その方が教育委員になるということは、それで全ての方がその学校に対して直接利益誘導を図るようなことになるんじゃないかというようなおそれがあるかもしれないということかと思いますが、今回、教育委員にもし任命された場合についての条件等についても事前に私のほうから直接お話もしていますし、当然、学校運営協議会の委員であっても、委員のときは委員としての役割として当然役割を果たしていただく、教育委員になれば教育委員の立場として町全体の教育行政をよくするために、子供たちをどうすればいい教育になっていくのかというのを考えてもらうためにやっていただく立場でやっていただきますので、より今までに学校に少しでも携わったとか、保護者の立場とか、いろんな意味で有識的な観点が高い方を推薦しているということを考えれば、逆にその独立性が担保されるというところを優先して教育に全く分からない人が来ても、それで教育委員として教育行政がよくなるかといったら、そちらのほうが吉田町の教育のこれからの在り方を考える上では、やっぱり今まで携わっていただいた方が真剣に考えていただいた教育委員さんのほうが価値があると思っておりますので、独立性とかそういったところもありながらも、今まで関与されていたというところの有益性を重視して、今回、人事案件として上げさせていただいたという考え方になりますので、御理解いただければと思います。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今までＰＴＡ関係の方に教育委員になっていただいた、それは何の問題もないですよね。ここにある学校運営協議会規則というのは、そこにＰＴＡの会長を教育委員会が委嘱するとか任命するとかいう記載は全くないわけだから、その人たちになってもらうということは全然問題ないと思います。

また、今回の候補の人がそういう利害関係でいろいろやる人だとは、私は思っていないけれども、そういう可能性があるような人事はまずくないですかと私は言っているわけです。可能性は残るわけですよね。悪いことするやつにあんた悪いことしませんよね、しますとは誰も言いませんよね。

そしたら、そういう可能性が残っているとすれば、それは排除すべきであって、任命のときまでに考えます、そのときになってもまだ考えますというんじゃなくて、やはりしっかりと本当に我々が同意して教育委員に任命するその期間の間において、しっかりとお話をされて、学校運営協議会のほうは降りていただくというようなことをお話しすることはできない

ものなんでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

今回の教育委員の人選に当たっては、もうかなりの前からこちらとしてはいろいろと人選について探していた中で、いろんな方とお話ししてやってきたものになります。ですので、今回の大石さんについてもしっかりと話をさせてもらって、そういったおそれがある人ではない人ということになりますので、こちらとしては問題ないということで考えておりますので、一旦辞めてもらうとかそういったこともなく、このまま続けていただいた中でやっていただこうかなというふうに考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　これで最後にしますが。私が言っているのは、人の話ではなくて人事です。そういう利益誘導、利益相反を起こすような人事というものはいかがなものかという話ですから、そういう疑惑が残るような人事は避けるべきであると私は言っているので、そこに対して、この人は大丈夫だから大丈夫だと思いますという返事では答えになっていないんですが。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

議員がおっしゃっているのが、吉田町学校運営協議会規則の第８条のところに、とにかく、教育委員会が委嘱し任命するというふうになっている部分について、自分が自分をということになるから利益誘導等が発生するおそれがあるというところでそこは排除すべきだということだと思うんですが、ここについては現時点ではもう既に自らが自らをということではないものですから、問題ないというところになります。

それからさらに言うと、教育委員会が任命するというふうになっていますが、実は地方教育行政の組織及び運営に関する法律の第25条に事務の委任等という項目がありまして、教育委員会は規則で定めることにより教育長に事務を委任することができるという項目がございまして、事務委任規則が吉田町にもございまして、教育委員会でやる業務は全て教育委員会で決めるもの、教育委員会に諮って例えば決めるものではなくて、教育長に権限を委譲できるという項目がございます。

学校運営協議会の委員を決める規則についても、この教育長の事務委任規則に当てはまりますので、実際は教育委員会が任命するとなっていますが、教育委員さんが入って審議をするという時間ではなくて、学校長の推薦をもって、最終的には教育長に事務委任されたものとして事務を決裁しているというものになりますので、そこら辺からも透明性というか独立性は担保されているのかなというふうに考えておりますので、問題ないかなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　最後にするつもりでしたけれども。今の答弁だと、要するにこの規則、変えますよとおっしゃっていますか。教育委員会というのを教育長に変えますとおっしゃっているのか、少なくとも今は教育委員会です、今後こういうことを避けるために教育委員長

に変えますということをおっしゃっているのか。要するに何が言いたいのかよく分からないんですけれども。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

教育委員会を教育長に変えますよと言っているわけではなくて、法律の先ほどの事務委任規則の中に、教育長が執行することができるというふうにもともとなっているというものになりますので、特に変えるものではないということになります。

ですので、あくまでも法律において、法律とあと規則において、教育委員会は教育に関する事務で教育長に事務委任することができるというものの中に、今回の学校運営協議会の委員の委嘱についても教育長の事務委任に当てはまるということを申し上げているということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。

○７番（平野　積君）　はい、了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

７番、平野　積君。

〔７番　平野　積君登壇〕

○７番（平野　積君）　私は、第55号議案　吉田町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについて、反対の立場で討論します。

私は、推薦されている方は教育委員として適切な方だと判断しています。しかし、その方が現役の学校運営協議会会長であることから反対します。

吉田町学校運営協議会規則第２条には、協議会は学校運営及び当該運営の必要な支援に関する機関として吉田町教育委員会及び校長の権限と責任の下、地域住民及び保護者の学校運営への参画や地域住民による学校運営への支援及び協力を促進することにより、学校と地域住民との間の信頼関係を深め、学校運営の改善や児童・生徒の健全育成に取り組むことを目的とすると記載されており、目的に対して違和感はありませんが、協議会は教育委員会の権限と責任下で活動するとすれば、本議案に同意した場合、自らを自らの権限及び責任下に置くことになります。また、第９条の２項に委員は校長のほか次にあげる者のうちから校長の推薦により教育委員会が委嘱しまた任命すると記載されています。

よって、本議案に同意すれば自らが自らを委嘱任命することになります。

私は、職務の独立性の観点及び利益相反、つまり教育委員会は中立であるべきで、一つの学校に利益誘導する行為を防ぐためにも、私は、この件を認めません。李下に冠を正さず、疑念を残す本議案に、私は同意しかねます。これに同意すれば議会の見識が疑われると私は思っております。

以上で、私の反対討論とします。

○議長（大石　巌君）　反対討論が終わりました。

賛成討論はありませんか。

８番、山内　均君。

〔８番　山内　均君登壇〕

○８番（山内　均君）　８番、山内　均です。

今、平野議員から出された意見に対して、私として思うことは、確かにいろんな制約はあるでしょう。その制約はその人自体が何かをするんではなくて、いろんな能力のある人、多様性のある人が入っておることによって、非常に組織自体が柔軟に変わっていくと思う。

そういう意味で私がずっと思ってきたのは、前回の、前々回ですかな、女性の委員がいたでしょう。そういういろんな世界の人が入ることによって、その多様性、その代表するものがね。確かに、法律の中で逸脱してはまずいですけれども、そういうものをちゃんとした、今までないような独特な形を出すのであれば、それはそれで一つの形としていいんじゃないかなと思っています。

それともう一つは、吉田中央小学校ですか、その関係者によって、例えば、その中にあるものの、中で起きているものの、そういうものが見える、見えやすいんじゃないかと、私としてはそう思うんですよね。それと本人をよく知っていますので、多分そういう心配はないと思います。

それとあとは、先ほど言いましたいろんな人が入ることによって、女性も入ることによって、確かに変わってくる。そういうものを今、多分、世の中って求めていると思うんですけれども、今、法律の翼やっていますよね。やっぱりその中で、ああいうものを見ていくと、そういうものが変わっていく前提の中にいろんなスタイルがあっていいじゃないかと思うんですよね。

私は、平野議員の訴えに対して、何が悪いとかではなくて、法律で縛ることもいいですけれども、その中に法律を逸脱しない範囲での多様な人種の人を集めてくることによって、そういう教育委員会自体が変わっていけると思っていますので、私としては、本人をよく知っていますので、実際に信頼できる人だと思っていますので、私としては賛成の立場で賛成の討論をいたします。

○議長（大石　巌君）　賛成討論が終わりました。

反対討論はありませんか。

９番、増田剛士君。

〔９番　増田剛士君登壇〕

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

私は、今回の人事案に関して、反対の立場を表明いたします。

まず、この人物に対する賛成反対ではない。この人事案に関しまして、先ほど来、同僚議員もるる説明をした中で、法的には間違っていない。そうした中で、今回の方は吉田町学校運営協議会の会長をされております。会長の職というものは、規則のほう、11条を見ますと、会長は会務を総理し協議会を代表するというものが３項に示されております。

協議会の代表者が、今度、教育委員になります。これを認めることによって、任期がダブってきます。そのダブった中で、協議会をもし開催するようなことがあると、片方はもう代表者であり教育委員である。ここにはやっぱり二重のものがあるのかなと思いますので、や

はり本来ならばそうした役職のトップにいる方を人事として持ってくるというのが非常に今回のポイントであるかなと思います。

よって、この人事案には反対いたします。

以上です。

○議長（大石　巌君）　反対討論が終わりました。

次に、賛成討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　それではこれをもって討論を終結します。

採決に入ります。

この採決は起立によって行います。

起立しない方は反対とみなします。

採決します。

本案について、同意することに賛成の方は起立願います。

〔賛成者起立〕

○議長（大石　巌君）　起立多数です。

したがって、本案については同意することに決定をいたします。

◎議案第５６号の質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第17、第56号議案　吉田町教育委員会の委員の任命につき同意を求めることについてを議題とします。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　今回の候補者を推薦するに至った経緯を説明願います。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

こちらの経緯ということでございますが、先ほどの第55号議案と同様、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第４条第２項、あと第５項、こちらに当てはまるかどうか、それからの町の先ほど言った基準に照らし合わせた中で進めていって、適任者を見つけたという中で今回人事案件に上げるに至ったということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　この方は、学校のコミュニティ・スクールディレクターを今現在やられていると思います。聞くまでもなくそれは分かった上で推薦されているというふうに思いますけれども、吉田町コミュニティ・スクールディレクター運用要領には、同じようなことを言うわけですが、委嘱に関してＣＳディレクターは対象学校の校長の推奨により教育委員

会が委嘱する。ただ、職務についてはＣＳディレクターは教育委員会及び対象学校の校長の監督の下、次に掲げる職務を行う。そして、６項目が掲げられています。

つまり、委嘱については自らが自らを委嘱し、職務については自らが自らを監督するということになるわけです。この議論は先ほどでも答えは分かっていますので。

今回の教育委員、私は、なっていただくことに対しては何の問題もない。やっぱりこういう、それを兼務するという制度がやっぱりおかしいと感じているわけです。それでやはり教育委員として任命される前に、ＣＳディレクターというものを降りていただければというふうに考えております。

今回の場合、この候補者の場合は、12月の十何日まで任期があると思うんです。それまでにしっかり御本人とお話をしていただいて、どうするのかということを話し合っていただきたいと思うんですが、そこはどうでしょう。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

コミュニティ・スクールディレクター運用要領によりますと、委嘱は先ほど言ったように校長の推薦により教育委員会が委嘱するということで、任期についてもその委嘱の日から属する年度の末日ということで、今年度いっぱいまでということになります。

今般の人事案件の任期期間が令和６年12月15日からということになりまして、先ほどまだ日があるのでということでございます。今般の議会でそういった御指摘等受けまして、教育委員会としてもそういった疑問を持たれるような状況になっているということはこちらとしても承知いたしましたので、その中でどうすべきかというふうに考えていければなと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　最後のほう、よく聞き取れなかったんですが、要するに考えますと言っているのか、もう関係なく続けますと言っているのか、そこはどうだったんですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

コミュニティ・スクールディレクターの遠藤さんにつきましては、非常に中央小学校でよくやっていただいておりまして、簡単にすぐ辞めてもらうというような状況というのができるかといったら難しいのかなと思っておりますので、現時点では続けていただいた中で教育委員会もやると。さらに、教育委員会になった暁には、教育委員としての立場は教育委員としての立場で、コミュニティ・スクールディレクターの立場であればその立場として、しっかりと業務をこなしていただくということで進めていければなと考えております。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　つまり、今まで教育に両方、兼務でやっていただくと。

御本人を私も知っていますし、どちらかというとＣＳディレクターのほうが彼女に合っているんじゃないかという思いもあるわけなんですけれども、そうしてここで教育委員として同意すると、先ほど言ったようにどちらか辞めていただかなければならないと私は思っている中で、御本人の気持ちというのはどうなんですかね。

今、前提は、推薦するに当たって兼務はできるものという前提の下でお話をされていると。

ところが、こういう意見があって、結果でどうなるか分かりませんけれども、どちらか一つだというような選択を本人に迫るというのは、何かこう、話が違うじゃないという話になりかねないので、町としてはそれを今までどおり優先しますというお話だと思うんだけれども、やっぱり今後、やっぱりそういう本人の思いというのも大切。何年もかけて探してきてやっと見つけた人を辞めろと言うのかと。それはもう酷な話だけれども、町の意思というかそれを優先するんでなく、やはり御本人のお考えを主に、というのを優先するよう、また今後はこういう兼務というようなことにはしっかり配慮して人選していただくというお約束をできるのであれば反対はしませんが、どうでしょう。こんなこと言っていいんですかね。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

一番は御本人の意思というところになりますので、今般の教育委員についてお話を遠藤さんとしたときも、当然、コミュニティ・スクールディレクターについては、本当に一生懸命頑張っていただいているもので、そちらについてもやりながら教育委員としてもやれるよということについては、先ほど申し上げましたとおり、禁止する明確な法的規定はないというところになりますので、両方できますよという中でやっていただくものとして本人は同意していただいたということになりますので、あくまでも御本人さんの意思というところになります。

今回、こういった形で議員さんからそういったご指摘があった中で、そこについてどう、今後検討していかなければいけないのかなとは思うんですけれども、法的に明確な禁止規定がない中で、できる、であればやっていただきたいなというのもありますし、実際に教育委員をやり始めてまずいなという部分が出てくれば、それはまたそこで検討材料として上げていくのかなというふうになりますので、あくまでも御本人の意思というのが第一な中でやっていくべきであると、こちらも考えております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　最後にしますけれども。前の議案の方も今回の議案の方も、同じ小学校の関係者です。学校運営にその方に関わるようなことに関しては、退出願いますという話ですけれども、そこの学校の学校運営について、吉田町全体の学校運営、その学校も含まれた上での学校全体の運営を語るとき、それは参加するんでしょうか。人事案件、そこだけ出ていく、それを残せばやはり、先ほど言った利益誘導というのは可能性は残るわけです。やっぱり自分のところをよくしてほしいという思いはどこかにあるはずです。

だからそういう面で、人事案件だけ排除するということしか仕方がないと思うんだけれども、そこはしっかりと教育長なり、課長なりがしっかり見届けていただいて、そういうことがないようにやっていただくということで、よろしいでしょうか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

議員がおっしゃるとおりだと思います。そのほかの委員さんにつきましては、住吉地区の委員さんがいて、神戸地区、北区の委員さんがいてということで、小学校区については全ての委員さんが網羅されている中で、過去それぞれＰＴＡ会長をやられたりとか学校の先生とかということになっていますが、利益誘導にならないような形で、当然、教育委員の立場と

して吉田町全体を考えていただく、その中で当然、中央小学校のお二方であれば、中央小学校という管轄になりますので、中央的な感覚も意見を出していただきながら、吉田町全体として、じゃ、どうなんだというところで考えていきますので、そこはしっかりと対等に、吉田町全体としての観点として教育をよくするために、子供たちの教育をよくするために、やっていくようにしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　一つ聞かせてほしいのは、先ほどから言っているその法律としては、どうなんですか。当然そこには、法律を決定するには、正論と反論が出ているはずなんですけれども、それを決めるに当たってね。それに対する学校教育課長の立場がその法律の法だと思うんですけれども、それで駄目だったら法律を変えればいい話だから、その辺の抵触するものというのはあるんですか。

実を言うと、あんまり人事に関してやっちゃうと、なかなか難しい問題が出てくるんですよね。その辺の法として片づけていく、法として割り切っていくというのも大事なことだと思いますけれども。その辺の見解というのはどうなりますか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

先ほどの前議案のときにもご説明申し上げましたけれども、地方教育行政の組織及び運営に関する法律の中に教育委員の兼職の禁止というものがございます。これは法律上で禁止されているものがありまして、先ほども申し上げましたが、地方公共団体の議会の議員とか、地方公共団体の長とか、地方公共団体の執行機関として置かれる委員会の委員、それから地方公共団体の常勤の職員、国会議員、これは完全に兼職として禁止されているものになりますので、法律上、この業務については原則駄目だよと、それ以外については規定がないということになるものですから、学校運営協議会の委員とかコミュニティ・スクールディレクターについては、禁止する明確な法的規定はないということが言えるという考え方になります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　確かに、いろんな社会の中に多様性を求めるのは必要だと思うんですけれども、そういうその法的な、今、駄目だという、ノーが出ましたよね、例が。そういう例というのは、どういう形でどういうような結果をもって、ノーに出しているんですか。ノーが出ているかというのは御存じですか。任命できない者、国会議員とか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

法律に明確に規定されているものが先ほどのものでございますので、兼職の禁止ということで書かれていますので、もう確実に、今の申し上げた内容のものについては、兼職ができないということになります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　聞きたかったことは、今、その境、いいと悪いの決められているその

手前と向こう側の境というのは、どういう議論かというのはなされたんですか。そういうのって記録としてはあるんですか。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

境ということでございますが、あくまでも地方教育行政の組織及び運営に関する法律、法律でございますので、国のほうで作成している法律になりますので、経緯まではいろんなところで見れば逐条解説等ございますので、何かしらで書いてあるところがあるかもしれませんが、その条文条文一つ一つに対しての経緯というところは、ちょっとここでは分かりかねます。

以上です。

○議長（大石　巌君）　よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　最後にちょっと確認しておきます。

ものをちょっと調べると、教育委員とＣＳディレクターを兼務しているというのは自治体の中で少数派だというふうに出ているんですが、今回同意すれば兼務することになる。そういう地方自治体は全体の２割ぐらいありますと、10％ぐらいあります、それとも探すのに苦労するぐらいですというレベルでいくと、どういうレベルの自治体がこれを兼務させているんでしょう。

○議長（大石　巌君）　学校教育課長、粂田真男君。

○教育委員会事務局長兼学校教育課長（粂田真男君）　学校教育課でございます。

全て全国調べているわけではございませんので、はっきりしたものは分かりませんが、幾つかの自治体で兼務しているといわれているというのは聞いております。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

９番、増田剛士君。

○９番（増田剛士君）　９番、増田です。

法律に明らかに触れているわけではないし、任命できない理由の中にＣＳディレクターが入っているわけでもないということでございます。そうした中で、吉田町コミュニティ・スクールディレクター運用要綱がございます。その中の12条かな、委任ということで、この要綱に定める者のほかＣＳディレクターに関し必要な事項は、別に教育長が定めるというものがございます。こういった教育長が定めることができるということに関して、じゃ、今回の議論に関して教育長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（大石　巌君）　教育長、山田泰巳君。

○教育長（山田泰巳君）　ここに書かれている別に定めるというのは、いろいろなここに書かれていないことに関して何かを決めなくてはいけないものに関しては、別に定めるというようなことです。今までの議論の中で、確かに法的な部分では問題はないであろうと。いわゆる、委嘱する側と委嘱される側が同じであるということに関してどうなんだと。そこに利益相反のことであるとか優先的なことが生じる可能性があるのかないのかというところが、先ほどから話題になっているのかなというふうに思います。

そうした意味では、今回の人物については校長が推薦をしてきたというところで、いろいろなこれまでの役職の経験等を見たときに、確かにある学校の委員ではありますけれども、町全体のことを考えた教育の充実に向けて発言をしてくれる方であるというようなところを鑑みて、今回、委員としてお願いをしたいというようなことでございます。

○９番（増田剛士君）　はい、了解。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで質疑を終結します。

これから討論を行います。

発言は、許可の後、登壇して行うようお願いします。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案について、同意することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案については同意することに決定をいたしました。

それでは、ここで暫時休憩といたします。

再開を10時33分といたします。

休憩　午前１０時２２分

再開　午前１０時３３分

○議長（大石　巌君）　それでは休憩を閉じ、休憩前に引き続き会議を再開をいたします。

出席議員数は12名であります。

◎発議案第４号の上程、説明、質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第18、発議案第４号　地震財特法の延長に関する意見書についてを議題とします。

本案については、提出者、増田剛士君の趣旨説明を求めます。

議会運営委員会委員長、増田剛士君。

９番、増田剛士君。

〔議会運営委員会委員長　増田剛士君登壇〕

○９番（増田剛士君）　議会運営委員会委員長、増田剛士でございます。

発議案第４号　地震財特法の延長に関する意見書について、上記の議案を別紙のとおり、

地方自治法第109条第６項及び第７項並びに吉田町議会会議規則第14条第３項の規定により提出いたします。

令和６年９月24日提出。

吉田町議会議長、大石　巖様。

令和６年７月24日付、請議第51号　静岡県町村議会議長会の会長名で、地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律の延長に関する意見書の提出について、依頼がございました。

なお、本依頼は令和６年７月18日付、静岡県危機管理監から静岡県町村議会議長会会長宛てに発信された意見書採択の依頼を受けてのものでございます。また、当町議会では前回、令和２年の延長時においても同様の意見書の提出について可決をしております。

それでは、意見書案を読み上げます。

地震財特法の延長に関する意見書。

東海地震に備えて、地震防災対策強化地域である本町は、静岡県が作成した地震対策緊急整備事業計画に基づき、各般にわたる地震対策を鋭意講じているところである。

この計画は令和６年度末で期限切れを迎えるが、依然として必要な事業が数多く残されている。

また、東日本大震災や能登半島地震をはじめとする近年の国内外における大地震により得られた教訓を踏まえ、県及び市町が一体となって緊急輸送道路、津波防災施設や山・崖崩れ防止施設の整備、公共施設の耐震化、避難地・避難路の整備等をより一層推進する必要が生じている。

したがって、東海地震による災害から地域住民の生命と財産の安全を確保するためには、地震対策緊急整備事業計画の期間の延長を図り、これらの事業を迅速かつ的確に実施することにより、地震対策の一層の充実に努めていかなければならない。

よって、国においては、地震対策緊急整備事業計画の根拠となっている「地震防災対策強化地域における地震対策緊急整備事業計画に係る国の財政上の特別措置に関する法律」を延長するよう強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出いたします。

私からの説明は以上でございます。

○議長（大石　巖君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　質疑なしと認めます。

増田委員長、御苦労さまでした。

これから討論を行います。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巖君）　討論なしと認めます。

採決に入ります。

お諮りします。

本案は、原案のとおり決定することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎発議案第５号の上程、説明、質疑、討論、表決

○議長（大石　巌君）　日程第19、発議案第５号　ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品の表示を求める意見書についてを議題とします。

本案について、提出者、楠元由美子君の趣旨説明を求めます。

４番、楠元由美子君。

〔４番　楠元由美子君登壇〕

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

発議案第５号としまして、ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品の表示を求める意見書についてです。上記議案を別紙のとおり吉田町議会会議規則第14条第１項及び第２項の規定により提出します。

令和６年９月24日提出。

吉田町議会議長、大石　巌様。

提出者、吉田町議会議員、楠元由美子であります。

今回、こちらのゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品の表示を求めるという消費者のご意見というものを、私が議員活動の中でそういった活動があるということをまず聞きました。そういった消費者の知る権利、選ぶ権利を守るために、近隣の議会のほうでもいろいろと議論されて、こちらの意見書のほうが考えさせられているところであります。そういった中で今回こちらの発議案を提案させていただきました。

意見書のほう読み上げます。

ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品の表示を求める意見書。

特定遺伝子を狙って操作する新しい「ゲノム編集技術」を応用した種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品が将来的な安全性の検証や、環境影響評価もないまま実用化され、現在、表示の義務もなく流通できるようになっています。

このまま流通が広がれば、ゲノム編集技術を使っているかどうかの判別が困難になり、普通の作物を育てたい農家も、普通の食品を食べたい消費者も選ぶことができなくなってしまいます。

「消費者基本法」の「基本理念(第二条)」に定められている消費者の自主的かつ合理的な選択の機会の確保及び「国の責務(第三条)」に定められている消費者の権利を尊重した消費者政策を推進する責務として、ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品について、表示を義務づけるよう強く要望し、地方自治法第99条に基づき、意見書を提出します。

要望事項です。

１、ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品について、消費者の「知る権利」と「選ぶ権利」を守るため表示を義務づけることを要望するということであります。

以上で、私の説明を終わります。

○議長（大石　巌君）　説明が終わりました。

これから質疑を行います。

質疑はありませんか。

８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　先日、説明いただきました。その中でちょっと、え、と思ったのは、今、トマトというと、オランダの世界中に流通する得意なところですよね。例えば、そのオランダとか、そういうところでのこういう意識というのは、どういう意識を持っているんですか。

ゲノム編集によって表示しなさいとか、逆を言うとそれによって、することによって、当然、制約がかかる可能性があるわけですよね。トウモロコシも多分そうでしょうけど。トマトに関してある方の関係で興味を持っていますので、オランダであるとかその辺はどういうような規定というか、そういうあれを持っているんですか。

○議長（大石　巌君）　答弁お願いします。

○４番（楠元由美子君）　実際、今、ＥＵのほうでは、こちらの技術を使った食品のそういった流通販売というのは認められていないので、山内さんが心配されるオランダからのトマトに関して規制が入るとか、この意見書が国のほうで認められて表示がされるようになったとしても、そこは今までどおりの流通の流れになると考えます。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　一つ、ここのところに最後に書いてある商標、表示を義務づけることを要望する、表示を義務づける、要するに法制化するわけでしょう。法律化して、という話ですよね。

○４番（楠元由美子君）　はい。

○８番（山内　均君）　そういう問題は、ほかに与える影響はないんですかね。

○議長（大石　巌君）　答弁お願いします。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。ありがとうございます。

表示を義務づけることの法律のほうは既に、消費者の知る権利、選ぶ権利ということを消費者基本法の中ではまず、うたっております。なので、何というんですかね、ゲノム編集技術を使った食品、原料として使った食品かどうかということを表示を求めるものだけなので、法律自体は既に、何というんですかね、消費者の基本法の中で知る権利と選ぶ権利というものはまずあるというふうに私は認識しておりますけれども。

○議長（大石　巌君）　８番、山内　均君。

○８番（山内　均君）　山内です。

こういうものの見方というのは、安全であるかどうかがまず第一であって、そこが一番主題であると私は思っていますけれども、その安全性と、もう現在も世界中でやっていますので、安全性と表示という意味での義務づけるということがちょっと難しいというか、分からないんですけれども。安全性を求めることは第一だろうと。それによって、義務づけること

によって、安全性がそれでしか確保できませんよということではないと思うんですけれども、その辺の見解って出ているんですか。

○議長（大石　巌君）　答弁を求めます。

○４番（楠元由美子君）　４番、楠元です。

その、ごめんなさい、安全性を認められたことの表示とかではなくて、あくまでもこの技術を使った形の食品であるという表示を求めているこの意見書になるわけなんですね。実際は、このゲノム編集技術は、国のほうの農林水産省のほうで届け出がされている下、こういった技術が研究されているものですから、安全性に関して、この表示を求めることによってその安全性が確保されるかどうかというところは、ちょっと私のほうは分かりかねます。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

７番、平野　積君。

○７番（平野　積君）　あの、基本的な、あまり知らない、今、ブドウがおいしい季節になってきました。最近もブドウは、ほとんど種なしブドウになっている。これは品種改良でやってきたわけですね。ゲノム編集も基本的にはユーザーにとってメリットのあるものを作っていこうとしているものだと理解していますけれども、品種改良は別に表示することはなくて、ゲノム編集だけ表示しなさいと。その違いは何なんですか。

○議長（大石　巌君）　答弁を求めます。

○４番（楠元由美子君）　品種改良の食品、食材、いろいろと今、流通されているわけなんですけれども、実際、遺伝子組み換えの食品で作られているものに関して、安全性の審査のほうが必要とされたものが流通されているわけなんですけれども、こちらのゲノム編集技術の応用食品のものに関しては、その組み換えＤＮＡ技術に該当しないものに関して、安全性の審査のほうが不要となりながらも、消費者庁に届け出をしたものは食品表示基準に基づく遺伝子組み換え食品表示の対象外ではあるんですが、そちらのほうは研究のほうが進められているというところであります。

すみません、ちょっと私も具体的な詳しいことが分からないところもあるんですけれども、少しまだこのゲノム編集技術の応用食品に関して、海外のほうではあまりよろしいようなお話をされていない中で、いろいろ心配するところもありまして、今回こちらのような意見書を提出するに至ったものであります。

以上です。

○議長（大石　巌君）　ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　それではこれで質疑を終結します。

楠元議員、御苦労さまでした。

これから討論を行います。

反対討論はありませんか。

７番、平野　積君。

〔７番　平野　積君登壇〕

○７番（平野　積君）　私は、今の発言に反対で意見を述べます。

本来賛成するつもりでしたけれども、今の説明があまりにも理解されていないと。全員協議会だったかで、なぜこの発議をするのかということに対するその説明に、私の知っている

先生か誰かがそういう意見をお持ちなので、ほかの市町でも発議として出しているということで、私は今回出しますというような意見がある。

この発議を許すと、発議者が何の理解もないにもかかわらずここで発議として出すということに対して、私は反対したいと思います。発議する以上はしっかりとした理解をし、その質疑に耐えられるような状態で発議をしていただきたいというふうに考えておりますので、反対いたします。

○議長（大石　巌君）　反対討論が終わりました。

賛成討論はありますか。

12番、蒔田昌代君。

〔１２番　蒔田昌代君登壇〕

○１２番（蒔田昌代君）　12番、蒔田です。

私は、発議案第５号　ゲノム編集技術で作られた種苗・農林水産物及びこれを原料とする食品の表示を求める意見書について、賛成の立場で意見を述べさせていただきます。

特定遺伝子を人為的に操作することにより生物の性質を変化させるゲノム編集技術を活用して品種改良した作物や水産物などの生産・加工及び市場流通は始まっています。

2017年にトランプ前大統領がゲノム編集生物の規制のない流通を目指す方針を打ち出しています。2018年には企業がこの技術を利用し大豆の栽培を始めております。2019年、トランプ前大統領は、このゲノム編集生物の規制のない流通を加速するよう各国へ求めております。

ゲノム編集とは、生物が持つゲノム上の特定部位を切断してその後突然変異させ生物の性質を変化させる技術であり、健康維持を目指した食品の開発や効率的な農作物の栽培などを目的とした品種改良に活用されつつあり、多様なニーズへの対応の可能性が期待されているといわれております。

ゲノム編集技術は新しい技術であるため、ＥＵをはじめとする世界各国で規制する法令等の見直しは進んでおらず、国によって対応は様々であります。我が国においては、ゲノム編集技術応用食品のうち、遺伝子組み換え食品に該当しないものは食品安全委員会における安全審査を不要とし、食品表示基準についても表示対象外としています。現在、遺伝子組み換え食品に該当しないゲノム編集技術応用食品は流通等に先立って国への事前相談を行うとされ、届け出をした上で公表されていますが、届け出には法的規則がありません。消費者が自ら選択することはできません。

ゲノム編集は品種改良ではありません。遺伝子工学であります。また、安全性が問題があるとおっしゃいますが、安全性は予期しないリスクというのも発生すると考えられています。今後、ゲノム編集技術応用食品及びそれを原材料とする加工食品や種苗・農林水産物の増加が予想されます。

この意見書はゲノム編集技術を問うものではなく、消費者の立場から知る権利、選ぶ権利、普通の作物を育てたい農家も普通の食品を食べたい消費者も、どちらの立場からも同じように表示をしてもらいたいということを述べております。遺伝子組み換え食品が現在、表示をされております。それと同様に表示をしていただきたいということを強く求める意見書でございます。

遺伝子とは子々孫々と続くものであります。今、この意見書を提出することで、今後の、人は食べ物でつくられているという概念に沿った意見書だと私は思います。

改めて国にゲノム編集技術を問うものではなく、消費者の立場から表示をしていただきたいという意見書になっていることを重ねてお話しし、私の賛成意見とさせていただきます。

○議長（大石　巌君）　賛成討論が終わりました。

反対討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　これで討論を終結します。

採決に入ります。

この採決は起立によって行います。

表決において、起立しない方については反対とみなします。

それでは採決します。

本案は、原案のとおり決定することに賛成の方の起立を求めます。

〔賛成者起立〕

○議長（大石　巌君）　賛成多数です。

したがって、本案は原案のとおり可決されました。

◎議員派遣について

○議長（大石　巌君）　日程第20、議員派遣についてを議題とします。

吉田町議会会議規則第123条第１項の規定により、議員派遣については、お手元に配付した「議員派遣の件」のとおり、現時点で期日等が確定している行事について派遣をしたいと思います。

お諮りします。

議員派遣については、お手元に配付してあります「議員派遣の件」のとおり派遣することに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認め、議員派遣については、お手元に配付してあります「議員派遣の件」のとおり派遣することに決定をいたします。

◎議会閉会中の継続調査について

○議長（大石　巌君）　日程第21、議会閉会中の継続調査についてを議題とします。

総務文教常任委員会委員長から所管事務調査について、産業建設常任委員会委員長から所管事務調査について、議会運営委員会委員長から所掌事務調査について、それぞれ会議規則第71条の規定によりまして、お手元に配付しましたとおり、議会閉会中の継続調査の申出があります。

お諮りします。

各委員長からの申出のとおり、議会閉会中の継続調査とすることに御異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（大石　巌君）　異議なしと認めます。

したがって、各委員長から申出のとおり、議会閉会中の継続調査とすることに決定をいたします。

◎町長挨拶

○議長（大石　巌君）　以上で、令和６年第３回吉田町議会定例会の全ての日程が終了しました。

閉会に当たりまして、町長から御挨拶をいただきます。

町長、田村典彦君。

〔町長　田村典彦君登壇〕

○町長（田村典彦君）　私は、季節の移ろいというものは穏やかに流れていくものとそんなふうに思っておりました。とりわけ、夏から秋にかけては、赤トンボが舞うとか、マンジュシャカが咲くとか、視覚的に捉えて季節が移ろっていくとそんなふうに思っていたんですけれども、今朝外へ出ましたら、風が、うっとこう、身震いするような感じで吹いておりました。こういう感覚というのは久しぶりだなと。あんまり感じたことがないんですけれども、あっ、こういうふうな季節の移ろいというものもあるんだなとそんなふうに思いました。

６月の末から７月、８月、９月の昨日までですか、３か月に及ぶ本当の異常気象で、本当に今年の夏は非常に暑い日が続きました。恐らく、この異常気象の夏の暑さというものは、時間の中で体にこれから現れてくるとこんなふうに思っております。

議員の皆様におかれましても、お体を大事にして、これからの日々をお過ごしくださるようお願い申し上げたいと思います。

長い間、御苦労さまでございました。

◎議長挨拶

○議長（大石　巌君）　ありがとうございました。

本日ここに令和６年第３回吉田町議会定例会を閉じるに当たり、一言御挨拶を申し上げます。

本定例会は９月２日以来、23日間にわたりまして諸議案の審議をいただきました。本日ここに全ての議事が終了し、おかげをもちまして閉会の運びとなりました。これも議員各位の終始極めて真剣な御審議によるものと、心から厚くお礼を申し上げます。

議員各位におかれましては、閉会中の各委員会活動をはじめ、何かと御多忙のことと存じますが、町政発展のため、より一層御尽力賜りますようお願い申し上げ、誠に意を尽くしませんが、閉会の御挨拶とさせていただきます。

御苦労さまでした。

◎閉会の宣告

○議長（大石　巌君）　以上をもちまして、令和６年第３回吉田町議会定例会を閉会といたします。

閉会　午前１１時０４分